気仙沼市文化財調査報告書第 13 集

気仙沼市内発掘調査報告書 2

－国庫補助対象事業に伴う発掘調査－

（平成 26 ～ 28 年度）

2018

気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第13集
気仙沼市内発掘調査報告書2
二〇一八　気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 13 集

気仙沼市内発掘調査報告書 2

－国庫補助対象事業に伴う発掘調査－

（平成 26 ～ 28 年度）

2018

気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第13集
気仙沼市内発掘調査報告書2
二〇一八　気仙沼市教育委員会

気仙沼市内発掘調査報告書２

－国庫補助対象事業に伴う発掘調査－

（平成 26 ～ 28 年度）

２０１８

気仙沼市教育委員会

刊行にあたって

気仙沼市には 181 か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が知られております。

平成23年３月11日に発生した東日本大震災によって、高台への防災集団移転、災害公営住宅や個人住宅の再建等復興事業が必要となりました。それに伴い、埋蔵文化財の調査件数も急増しております。

本市では、東日本大震災以後急増した発掘調査を円滑かつ迅速に進めるため、宮城県教育委員会や全国の自治体からの職員の派遣などの協力をいただき、また、任期付職員を新たに採用するなど、専門職員の充実を図ってまいりました。

市内では、震災後、復興事業のほか、高台における個人住宅の建築や公共事業なども増え、埋蔵文化財と事業のかかわりが増加しています。このことは、事業者が事業地選定にあたり、被災する可能性のある低地を避け、安全な高台に土地を求めた結果であると思われます。

本書は、平成 26 年度から 28 年度に気仙沼市が国庫補助金対象事業として実施しました確認調査の成果をまとめたものです。平成 26 年度は 12 件(12 遺跡)、27 年度は８件（８遺跡)、28 年度は 10 件（６遺跡）の確認調査を実施しました。その結果、２件（２遺跡）で遺物が発見されました。

この報告書が市民の皆様はじめ多くの方々に活用され、地域の歴史を明らかにする一助となるとともに、埋蔵文化財に対する御理解がいっそう深まりますよう願ってやみません。

最後になりますが、遺跡の保存に御理解いただき、また、発掘調査に際して、御協力をいただきました関係者の皆さまに厚く御礼申し上げる次第であります。

平成３０年３月

気仙沼市教育委員会

教育長　　齋藤　益男

例　言

1．本書は、気仙沼市が国庫補助金を得て、平成 26・27・28 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、気仙沼市教育委員会生涯学習課が主体となり、宮城県教育委員会の協力のもと実施した。
3．整理作業は、各遺跡発掘調査終了後から平成 29 年度にかけて行った。
4．本書の編集・執筆は、石川 郁が行った。
5．遺物の実測及びトレースは、主に森千可子が行ったが、一部の土器の実測および石器の実測・トレースは、株式会社ノガミに委託して行った。
6．遺物の観察は、熊谷 満・石川が行った。
7．写真撮影は、遺構については各調査担当者が、遺物については熊谷が行った。
6．本調査において記録した諸資料及び検出された遺物は、気仙沼市教育委員会で保管している。
7．発掘調査から報告書の作成に至るまで、次の方々や諸機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝する次第である。（五十音順　敬省略）

伊東　美子　　及川　由美　　菊田　健也　　菊田　節男　　熊谷　昭治　　小松　勝
西城　栄信　　齋藤　訓和　　齋藤　信吾　　齋藤　雅恵　　鈴木　　章　　鈴木　厚
鈴木　沙也香　芳賀　康夫　　畠山　幸一　　畠山　宏　　村上　智広　　吉田　孝志
渡部　華子
株式会社 NTT ドコモ東北支社　　株式会社キクタ総合企画　　株式会社小松工業
株式会社忠栄　　株式会社やまじゅう　　気仙沼市　　公益社団法人気仙沼市シルバー人材センター　　宮城県気仙沼土木事務所

凡　例

1．遺跡名略号　　本書掲載の遺跡について、遺物の注記等に用いた略号は、以下のとおりである。

内松川遺跡：UMK　　平館遺跡：TAI　　平館跡：TRT　　洞館跡：HRA　　大日遺跡：DNI
高谷貝塚：TAK　　忍館城跡：SIN　　長崎城跡：NAJ　　卯名沢貝塚：UNK　　卯名沢古墳群：UKO　　月立台遺跡：TDD　　石兜貝塚：ISI　　南最知貝塚：MSK　　古館貝塚：KOD
高谷遺跡：TKY　　前浜貝塚：MAE　　松岩貝塚：MIK　　塚館跡：TSU　　小屋館城跡：KOY

2．調査次数　　調査次数は、各年度ごとに第 1 次から順に付した。特に断りのない場合は、当該年度の第 1 次調査である。また、調査地点位置図および一部のキャプションでは、「年度－ローマ数字」と記載している。ローマ数字は、当該年度の次数を示している。

3．図　　版　　方位は、原則として図版左上に方位円によって示した。この方位は、真北を指す。
縮尺は、各図版に示したが、遺物については、原則として以下のとおりである。
土器：1/3　　土製品：1/2　　石器（石鏃を除く）1/3 または 1/2　石鏃：2/3
土製円板（第 37 図）の→は、研磨箇所を示した。
トレンチ位置図の Tr は、トレンチをさす。

4．本文、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真の番号は一致する。
5．遺物観察表の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修）を使用した。

目　次

刊行にあたって
例　言
凡　例
目　次

第１章　調査概要 …… 1
第１節　概要 …… 1
１．目的（１）／２．調査実績（１）
第２節　調査体制 …… 2
第３節　立地 …… 3
第２章　平成 26 年度の調査 …… 7
第１節　内松川遺跡 …… 7
１．調査に至る経緯（７）／２．遺跡の概要（７）／３．調査の概要と成果（８）／４．まとめ（９）
第２節　平館遺跡・平館跡 …… 9
１．調査に至る経緯（９）／２．遺跡の概要（10）／３．調査の概要と成果（11）／４．まとめ（13）
第３節　洞館跡 …… 13
１．調査に至る経緯（13）／２．遺跡の概要（13）／３．調査の概要と成果（14）／４．まとめ（15）
第４節　大日遺跡 …… 16
１．調査に至る経緯（16）／２．遺跡の概要（17）／３．調査の概要と成果（17）／４．まとめ（18）
第５節　高谷貝塚 …… 18
１．調査に至る経緯（18）／２．遺跡の概要（19）／３．調査の概要と成果（19）／４．まとめ（21）
第６節　忍館城跡 …… 21
１．調査に至る経緯（21）／２．遺跡の概要（22）／３．調査の概要と成果（23）／４．まとめ（24）
第７節　長崎城跡 …… 24
１．調査に至る経緯（24）／２．遺跡の概要（25）／３．調査の概要と成果（25）／４．まとめ（27）
第８節　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群 …… 27
１．調査に至る経緯（27）／２．遺跡の概要（28）／３．調査の概要と成果（29）／４．まとめ（30）
第９節　月立台遺跡 …… 30
１．調査に至る経緯（30）／２．遺跡の概要（30）／３．調査の概要と成果（31）／４．まとめ（31）
第 10 節　石兜貝塚 …… 33
１．調査に至る経緯（33）／２．遺跡の概要（34）／３．調査の概要と成果（34）／４．まとめ（35）

第３章　平成 27 年度の調査 …… 37
第１節　南最知貝塚 …… 37
１．調査に至る経緯（37）／２．遺跡の概要（38）／３．調査の概要と成果（39）／４．まとめ（39）
第２節　古館貝塚 …… 40
１．調査に至る経緯（40）／２．遺跡の概要（41）／３．調査の概要と成果（41）／４．まとめ（59）
第３節　高谷遺跡 …… 60
１．調査に至る経緯（60）／２．遺跡の概要（60）／３．調査の概要と成果（61）／４．まとめ（63）
第４節　前浜貝塚 …… 63
１．調査に至る経緯（63）／２．遺跡の概要（64）／３．調査の概要と成果（65）／４．まとめ（67）
第５節　忍館城跡 …… 67
１．調査に至る経緯（67）／２．遺跡の概要（68）／３．調査の概要と成果（68）／４．まとめ（69）
第６節　石兜貝塚 …… 70
１．調査に至る経緯（70）／２．遺跡の概要（71）／３．調査の概要と成果（71）／４．まとめ（71）
第４章　平成 28 年度の調査 …… 73
第１節　石兜貝塚 …… 73
１．調査に至る経緯（73）／２．遺跡の概要（75）／３．調査の概要と成果（75）／４．まとめ（81）
第２節　松岩貝塚 …… 81
１．調査に至る経緯（81）／２．遺跡の概要（82）／３．調査の概要と成果（82）／４．まとめ（83）
第３節　塚館跡 …… 83
１．調査に至る経緯（83）／２．遺跡の概要（84）／３．調査の概要と成果（85）／４．まとめ（86）
第４節　小屋館城跡 …… 87
１．調査に至る経緯（87）／２．遺跡の概要（88）／３．調査の概要と成果（89）／４．まとめ（89）
第５章　総括 …… 91

報告書抄録

挿図目次

第 1図　調査遺跡位置図 …… 4
第 2図　内松川遺跡 調査地点位置図 …… 7
第 3図　内松川遺跡 トレンチ設定図 …… 8
第 4図　平館遺跡・平館跡 調査地点位置図 …… 10
第 5図　平館遺跡・平館跡 第1次調査
　　トレンチ設定図 …… 11
第 6図　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　トレンチ設定図 …… 12
第 7図　洞館跡 調査地点位置図 …… 14
第 8図　洞館跡 トレンチ設定図 …… 15
第 9図　大日遺跡 調査地点位置図 …… 16
第 10図　大日遺跡 トレンチ設定図 …… 17
第 11図　高谷貝塚 調査地点位置図 …… 19
第 12図　高谷貝塚 トレンチ設定図 …… 20
第 13図　忍館城跡 調査地点位置図 …… 22
第 14図　忍館城跡 トレンチ設定図 …… 23
第 15図　忍館城跡 出土遺物（銭貨） …… 24
第 16図　長崎城跡 調査地点位置図 …… 25
第 17図　長崎城跡 トレンチ設定図 …… 26
第 18図　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
　　調査地点位置図 …… 28
第 19図　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
　　トレンチ設定図 …… 29
第 20図　月立台遺跡 調査地点位置図 …… 31
第 21図　月立台遺跡 トレンチ設定図 …… 32
第 22図　石兜貝塚 調査地点位置図 …… 33
第 23図　石兜貝塚 トレンチ設定図 …… 34
第 24図　南最知貝塚 調査地点位置図 …… 37
第 25図　南最知貝塚 トレンチ設定図 …… 38
第 26図　古館貝塚 調査地点位置図 …… 40
第 27図　古館貝塚 トレンチ設定図 …… 41
第 28図　古館貝塚 土層堆積柱状図 …… 42
第 29図　古館貝塚 出土遺物1(土器 1) …… 44
第 30図　古館貝塚 出土遺物2(土器 2) …… 45
第 31図　古館貝塚 出土遺物3(土器 3) …… 46
第 32図　古館貝塚 出土遺物4(土器 4) …… 47
第 33図　古館貝塚 出土遺物5(土器 5) …… 48
第 34図　古館貝塚 出土遺物6(土器 6) …… 49
第 35図　古館貝塚 出土遺物7(土器 7) …… 50
第 36図　古館貝塚 出土遺物8(土器 8・土製品 1)… 51
第 37図　古館貝塚 出土遺物9(土製品 2・石器 1)… 52
第 38図　古館貝塚 出土遺物 10(石器 2) …… 53
第 39図　古館貝塚 出土遺物 11(石器 3) …… 54
第 40図　高谷遺跡 調査地点位置図 …… 60
第 41図　高谷遺跡 トレンチ設定図 …… 61
第 42図　前浜貝塚 調査地点位置図 …… 63
第 43図　前浜貝塚 トレンチ設定図 (1)〔西側〕…… 64
第 44図　前浜貝塚 トレンチ設定図 (2)〔東側〕…… 65
第 45図　忍館城跡 調査地点位置図 …… 67
第 46図　忍館城跡 トレンチ設定図 …… 68
第 47図　石兜貝塚 調査地点位置図 …… 70
第 48図　石兜貝塚 トレンチ設定図 …… 71
第 49図　石兜貝塚 調査地点位置図 …… 74
第 50図　石兜貝塚 (28年度第1・2次調査)
　　トレンチ設定図 …… 76
第 51図　石兜貝塚 (28年度第4次調査)
　　トレンチ設定図 …… 77
第 52図　石兜貝塚 (28年度第5次調査)
　　トレンチ設定図 …… 78
第 53図　石兜貝塚 (28年度第6次調査)
　　トレンチ設定図 …… 80
第 54図　松岩貝塚 調査地点位置図 …… 82
第 55図　松岩貝塚 トレンチ設定図 …… 83
第 56図　塚館跡 調査地点位置図 …… 84
第 57図　塚館跡 トレンチ設定図 …… 85
第 58図　小屋館城跡 調査地点位置図 …… 87
第 59図　小屋館城跡 トレンチ設定図 …… 88

表目次

第 1表　平成26年度国庫補助対象事業
　　発掘調査一覧 …… 1
第 2表　平成27年度国庫補助対象事業
　　発掘調査一覧 …… 2
第 3表　平成28年度国庫補助対象事業
　　発掘調査一覧 …… 2
第 4表　平成26～28年度確認調査
　　実施遺跡一覧 …… 5
第 5表　忍館城跡 出土遺物観察表1(銭貨) …… 24
第 6表　忍館城跡 出土遺物観察表2(陶磁器類)… 24
第 7表　古館貝塚 出土遺物観察表1(土器 1) …… 45
第 8表　古館貝塚 出土遺物観察表2(土器 2) …… 47
第 9表　古館貝塚 出土遺物観察表3(土器 3) …… 49
第 10表　古館貝塚 出土遺物観察表4
　　(土器 4・土製品 1) …… 51
第 11表　古館貝塚 出土遺物観察表5(土製品 2)… 53
第 12表　古館貝塚 出土遺物観察表6(石器 1) …… 53
第 13表　古館貝塚 出土遺物観察表7(石器 2) …… 54

写真目次

写真 1　内松川遺跡 1トレンチ全景 (南から) …… 8
写真 2　内松川遺跡 2トレンチ全景 (北から) …… 8
写真 3　平館遺跡・平館跡 第1次調査
　　トレンチ土層堆積状況 (東から) …… 11
写真 4　平館遺跡・平館跡 第1次調査
　　トレンチ全景 (南から) …… 11
写真 5　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　1トレンチ全景 (南から) …… 12
写真 6　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　2トレンチ全景 (西から) …… 12
写真 7　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　3トレンチ全景 (西から) …… 13
写真 8　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　4トレンチ全景 (西から) …… 13
写真 9　洞館跡 1トレンチ全景 (南から) …… 15
写真 10　洞館跡 2トレンチ全景 (南から) …… 15
写真 11　洞館跡 3トレンチ全景 (南から) …… 16
写真 12　洞館跡 4トレンチ全景 (南から) …… 16
写真 13　大日遺跡 1トレンチ土層堆積状況
　　(北から) …… 17
写真 14　大日遺跡 1トレンチ全景 (西から) …… 17
写真 15　大日遺跡 2トレンチ全景 (西から) …… 18
写真 16　大日遺跡 3トレンチ全景 (西から) …… 18
写真 17　高谷貝塚 1トレンチ土層堆積状況
　　(東から) …… 20
写真 18　高谷貝塚 1トレンチ全景 (西から) …… 20
写真 19　高谷貝塚 2トレンチ全景 (西から) …… 21
写真 20　高谷貝塚 3トレンチ全景 (南から) …… 21
写真 21　高谷貝塚 4トレンチ全景 (南から) …… 21
写真 22　高谷貝塚 5トレンチ全景 (南から) …… 21
写真 23　忍館城跡 1トレンチ全景 (東から) …… 23
写真 24　忍館城跡 2トレンチ全景 (東から) …… 23
写真 25　忍館城跡 出土遺物 …… 24
写真 26　長崎城跡 1トレンチ全景 (南から) …… 26
写真 27　長崎城跡 2トレンチ全景 (東から) …… 27
写真 28　長崎城跡 3トレンチ全景 (南から) …… 27
写真 29　長崎城跡 4トレンチ全景 (東から) …… 27
写真 30　長崎城跡 5トレンチ全景 (南から) …… 27
写真 31　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
　　1トレンチ全景 (東から) …… 29
写真 32　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
　　2トレンチ全景 (東から) …… 29
写真 33　月立台遺跡 1トレンチ土層堆積状況
　　(南から) …… 32
写真 34　月立台遺跡 1トレンチ全景 (南から) …… 32
写真 35　月立台遺跡 2トレンチ全景 (南から) …… 32
写真 36　月立台遺跡 3トレンチ全景 (西から) …… 32
写真 37　石兜貝塚 1トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 38　石兜貝塚 2トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 39　石兜貝塚 3トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 40　石兜貝塚 4トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 41　石兜貝塚 5トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 42　石兜貝塚 6トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 43　石兜貝塚 7トレンチ全景 (南から) …… 36
写真 44　石兜貝塚 8トレンチ全景 (南から) …… 36
写真 45　石兜貝塚 9トレンチ全景 (南から) …… 36
写真 46　石兜貝塚 10トレンチ全景 (南から) …… 36
写真 47　南最知貝塚 1トレンチ全景 (南から) …… 39
写真 48　南最知貝塚 2トレンチ全景 (南から) …… 39
写真 49　南最知貝塚 2トレンチ小穴断面
　　(南から) …… 39
写真 50　南最知貝塚 3トレンチ全景 (南から) …… 39
写真 51　古館貝塚 1トレンチ全景 (東から) …… 42
写真 52　古館貝塚 2トレンチ土層堆積状況
　　(北から) …… 42
写真 53　古館貝塚 2トレンチ全景 (東から) …… 42
写真 54　古館貝塚 3トレンチ全景 (北から) …… 42
写真 55　古館貝塚 4トレンチ土層堆積状況
　　(東から) …… 43
写真 56　古館貝塚 4トレンチ全景 (南から) …… 43
写真 57　古館貝塚 5トレンチ全景 (南から) …… 43
写真 58　古館貝塚 6トレンチ全景 (南から) …… 43
写真 59　古館貝塚 出土遺物1 (土器 1) …… 55
写真 60　古館貝塚 出土遺物2 (土器 2) …… 56
写真 61　古館貝塚 出土遺物3 (土器 3) …… 57
写真 62　古館貝塚 出土遺物 4
　　(土器 4・土製品 1) …… 58
写真 63　古館貝塚 出土遺物5 (土製品 2・石器) …… 59
写真 64　高谷遺跡 1トレンチ全景 (北から) …… 62
写真 65　高谷遺跡 2トレンチ全景 (南から) …… 62
写真 66　高谷遺跡 3トレンチ土層堆積状況
　　(西から) …… 62
写真 67　高谷遺跡 3トレンチ全景 (南から) …… 62
写真 68　高谷遺跡 4トレンチ全景 (南から) …… 62
写真 69　高谷遺跡 5トレンチ全景 (東から) …… 62
写真 70　前浜貝塚 1トレンチ全景 (東から) …… 66
写真 71　前浜貝塚 2トレンチ全景 (北から) …… 66
写真 72　前浜貝塚 3トレンチ全景 (南から) …… 66
写真 73　前浜貝塚 4トレンチ全景 (南から) …… 66
写真 74　前浜貝塚 5トレンチ全景 (西から) …… 66
写真 75　前浜貝塚 6トレンチ全景 (西から) …… 66
写真 76　前浜貝塚 7トレンチ全景 (西から) …… 66
写真 77　前浜貝塚 8トレンチ全景 (北東から) …… 66
写真 78　忍館城跡 3トレンチ土層堆積状況
　　(南から) …… 69
写真 79　忍館城跡 3トレンチ全景 (東から) …… 69
写真 80　忍館城跡 4トレンチ全景 (北から) …… 69
写真 81　忍館城跡 5トレンチ全景 (北から) …… 69

写真 82　石兜貝塚 (28- Ⅰ) 1 トレンチ全景
(南から) …… 76
写真 83　石兜貝塚 (28- Ⅰ) 2 トレンチ全景
(南から) …… 76
写真 84　石兜貝塚 (28- Ⅱ) 1 トレンチ全景
(南から) …… 76
写真 85　石兜貝塚 (28- Ⅱ) 2 トレンチ全景
(南から) …… 76
写真 86　石兜貝塚 (28- Ⅳ) 1 トレンチ全景
(南から) …… 77
写真 87　石兜貝塚 (28- Ⅳ) 2 トレンチ全景
(北西から) …… 77
写真 88　石兜貝塚 (28- Ⅳ) 3 トレンチ
土層堆積状況 (南から) …… 78
写真 89　石兜貝塚 (28- Ⅳ) 3 トレンチ全景
(南東から) …… 78
写真 90　石兜貝塚 (28- Ⅴ) 1 トレンチ全景
(東から) …… 79
写真 91　石兜貝塚 (28- Ⅴ) 2 トレンチ全景
(南から) …… 79
写真 92　石兜貝塚 (28- Ⅴ) 3 トレンチ
土層堆積状況 (西から) …… 79
写真 93　石兜貝塚 (28- Ⅴ) 3 トレンチ全景
(南から) …… 79
写真 94　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 1 トレンチ全景
(北から) …… 80
写真 95　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 2 トレンチ全景
(南から) …… 80
写真 96　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 3 トレンチ全景
(南から) …… 80
写真 97　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 4 トレンチ全景
(南から) …… 80
写真 98　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 5 トレンチ全景
(南から) …… 81
写真 99　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 6 トレンチ全景
(西から) …… 81
写真 100　松岩貝塚 1 トレンチ全景 (東から) …… 83
写真 101　松岩貝塚 2 トレンチ全景 (東から) …… 83
写真 102　塚館跡 1 トレンチ全景 (南から) …… 86
写真 103　塚館跡 2 トレンチ全景 (南から) …… 86
写真 104　塚館跡 3 トレンチ全景 (西から) …… 86
写真 105　塚館跡 4 トレンチ全景 (西から) …… 86
写真 106　塚館跡 5 トレンチ全景 (西から) …… 86
写真 107　塚館跡 6 トレンチ全景 (西から) …… 86
写真 108　小屋館城跡 1 トレンチ全景 (北から) …… 89
写真 109　小屋館城跡 2 トレンチ全景 (北から) …… 89
写真 110　小屋館城跡 3 トレンチ全景 (北から) …… 89
写真 111　小屋館城跡 4 トレンチ全景 (西から) …… 89

第１章　調査概要

第１節　概要

１．目的

市内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地における開発事業等に伴う遺跡の確認調査や、個人の専用住宅（費用負担を求めることが困難な事業者）に係る遺跡の本発掘調査を実施するにあたって、開発事業に対する埋蔵文化財の円滑な推進に資することが必要である。そのため、気仙沼市では、平成 24 年度より、国宝重要文化財等保存整備費補助事業（埋蔵文化財緊急調査事業国庫補助金）（以下、「国庫補助金」という。）の交付を受けて調査を行ってきた。

本書は、平成 26 年度から平成 28 年度に国庫補助金の交付を受けて実施した確認調査及び本発掘調査（本発掘調査件数は０件）について、成果を報告するものである。

２．調査実績

平成 26 年度の調査

気仙沼市における平成 26 年度の埋蔵文化財発掘調査は 30 件（27 遺跡）であり、そのうち、12 件（12 遺跡）が国庫補助対象事業であった（第１表）。国庫補助対象事業のうち、遺構・遺物が確認された案件は忍館城跡でわずかに近世遺物が検出されたのみであった（第２章第６節参照）。

平成 27 年度の調査

気仙沼市における平成27年度の埋蔵文化財発掘調査は24件（18遺跡）であり、そのうち、8件（8遺跡）が国庫補助対象事業であった（第２表）。国庫補助対象事業のうち、遺構・遺物が検出された案件は古館貝塚と高谷遺跡で遺物包含層および縄文土器などが検出されたのみであった（第３章第２・３節参照）。

平成 28 年度の調査

気仙沼市における平成 28 年度の埋蔵文化財発掘調査は 20 件（15 遺跡）であり、そのうち、

第１表　平成 26 年度国庫補助対象事業発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査次	調査原因	所在地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	調査期間	調査種別	概要	報告	備考
1	内松川遺跡	1	個人住宅建築	内松川	317.0	8.0	5 月 30 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第１節	
2	平館遺跡 平館跡	1 1	消防屯所建設	切通	413.0	18.0	10 月 28 日～29 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第２節	
3	洞館跡	1	個人住宅新築	本吉町洞沢	1,110.0	111.0	11 月 10 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第３節	
4	平館遺跡 平館跡	2 2	資材置場及び仮設事務所設置	松川前	2,452.7	57.0	12 月 8 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第２節	
5	大日遺跡	1	個人住宅新築	唐桑町松圃	373.0	21.0	12 月 9 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第４節	
6	高谷貝塚	1	宅地造成	松崎高谷	1,194.0	74.0	12 月 17 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第５節	
7	忍館城跡	1	土砂採取	浪板ほか	9,954.0	17.0	1 月 19 日	確認調査	遺構なし，遺物３点（近世）	第２章　第６節	
8	長崎城跡	2	急傾斜地崩壊・防止施設設置	舘山	1,620.0	32.0	2 月 3 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第７節	
9	卯名沢貝塚 卯名沢古墳群	1 1	宅地造成	本吉町卯名沢	751.0	20.0	2 月 9 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第８節	
10	月立台遺跡	1	個人住宅建築	新台	418.8	27.1	2 月 24 日～25 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第９節	
11	石兜貝塚	1	宅地造成およびアパート新築	赤岩石兜	2,781.0	41.0	3 月 2 日～３日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第 10 節	
12	忍館城跡	2	送電線鉄塔移設	大峠山	166.2	37.0	3 月 10 ～ 11 日	確認調査	遺構・遺物なし		

第２表　平成 27 年度国庫補助対象事業発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査次	調査原因	所在地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	調査期間	調査種別	概要	報告	備考
1	南最知貝塚	1	個人住宅建築	最知南最知	123.0	32.0	8 月 6 日	確認調査	遺構・遺物なし	第３章　第１節	
2	古館貝塚	2	整地造成	唐桑町鮪立	1,141.0	58.0	8 月 7 日～12 日	確認調査	遺構（包含層）・遺物あり	第３章　第２節	本調査実施せず
3	高谷遺跡	2	農地整備	松崎高谷	1,495.0	46.0	9 月 3 日～4 日	確認調査	遺構（包含層）・遺物あり	第３章　第３節	本調査実施せず
4	前浜貝塚	1	市道改良事業	本吉町前浜	6,051.8	12.2	10 月 13 日～14 日	確認調査	遺構・遺物なし	第３章　第４節	
5	高谷館跡	1	個人住宅新築	大向	312.0	14.0	1 月 12 日	確認調査	遺構・遺物なし		
6	忍館城跡	1	土砂採取	浪板	9,954.0	20.3	1 月 27 日～28 日	確認調査	遺構・遺物なし	第３章　第５節	
7	石兜貝塚	1	携帯基地局設備工事	赤岩石兜	322.4	18.0	2 月 17 日	確認調査	遺構・遺物なし	第３章　第６節	
8	旭ヶ丘遺跡	1	個人住宅新築	舘山	283.0	10.0	2 月 28 日	確認調査	遺構・遺物なし		

第３表　平成 28 年度国庫補助対象事業発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査次	調査原因	所在地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	調査期間	調査種別	概要	報告	備考
1	石兜貝塚	1	共同住宅新築	赤岩杉ノ沢	985.0	41.0	4 月 20 日～22 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	
2	石兜貝塚	2	共同住宅新築	赤岩杉ノ沢	1,008.0	11.0	4 月 20 日～22 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	
3	松岩貝塚	1	アパート新築	赤岩老松	316.0	10.0	8 月 8 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第２節	
4	長崎城跡	1	個人住宅新築	舘山	2.0	2.0	9 月 21 日	確認調査	遺構・遺物なし		（浄化槽のみ）
5	塚館跡	1	個人住宅新築	最知南最知	549.6	87.0	10 月 18 日～20 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第３節	
6	忍館城跡	1	土砂採取	浪板	9,954.0	12.0	11 月 11 日	確認調査	遺構・遺物なし		
7	石兜貝塚	4	個人住宅建築	赤岩杉ノ沢	810.3	29.0	11 月 15 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	
8	石兜貝塚	5	長屋新築	赤岩石兜	846.0	38.0	11 月 16 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	
9	小屋館城跡	1	個人住宅建築	松崎中瀬	502.1	31.6	12 月 19 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第４節	
10	石兜貝塚	6	駐車場建設	赤岩杉ノ沢	2,567.0	62.9	1 月 16 日～17 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	

10 件（６遺跡）が国庫補助対象事業であった（第３表）。国庫補助対象事業で実施した調査においては、いずれの調査においても、遺構・遺物は確認されなかった。

平成 26 年度から３年間の調査件数をみると、わずかに減少しているが、国庫補助対象事業は年間 10 件前後でほぼ横ばいである。このことは、総件数に占める復興調査の割合が減少し、緊急調査の割合が増加していることを示している。

第２節　調査体制

平成 26 年度から平成 28 年度における埋蔵文化財調査体制は、以下のとおりである。（ゴシック体表示は、埋蔵文化財担当者）

調査担当：気仙沼市教育委員会生涯学習課文化振興係

（１）平成 26 年度

教　育　長　　白幡 勝美

教 育 次 長　　小松 三喜夫

生涯学習課長　　菅原 京子

課 長 補 佐　　**鈴木 實夫**（再任用）

主幹兼文化振興係長　　**昆野 賢一**

主　　幹　　**幡野 寛治**　　**原田 享二**（市任期付職員）　　**野﨑 進**（山梨県笛吹市派遣）

主　　査　　千葉 絢子　　森 幸一郎（鹿児島県派遣）　　石川 郁（市任期付職員 1月から）

（2）平成 27 年度

教　育　長　　白幡 勝美

教 育 次 長　　小松 三喜夫

生涯学習課長　　菅原 京子

課 長 補 佐　　鈴木 實夫（再任用）

主幹兼文化振興係長　　幡野 寛治

主　　幹　　原田 享二（市任期付職員）　　永濵 功治（鹿児島県派遣）

主　　査　　千葉 絢子　　石川 郁（市任期付職員）　　山本 克美（横浜市派遣）

（3）平成 28 年度

教　育　長　　白幡 勝美（５月 24 日まで）

齋藤 益男（５月 25 日から）

教 育 次 長　　金野 政義

生涯学習課長　　畠山 美雪

課 長 補 佐　　鈴木 實夫（再任用　８月まで）

（９月から　技術補佐（市任期付職員））

主幹兼文化振興係長　　幡野 寛治

主　　幹　　原田 享二（市任期付職員）　　平木場 秀男（鹿児島県派遣）　　新谷 倫章（兵庫県派遣）

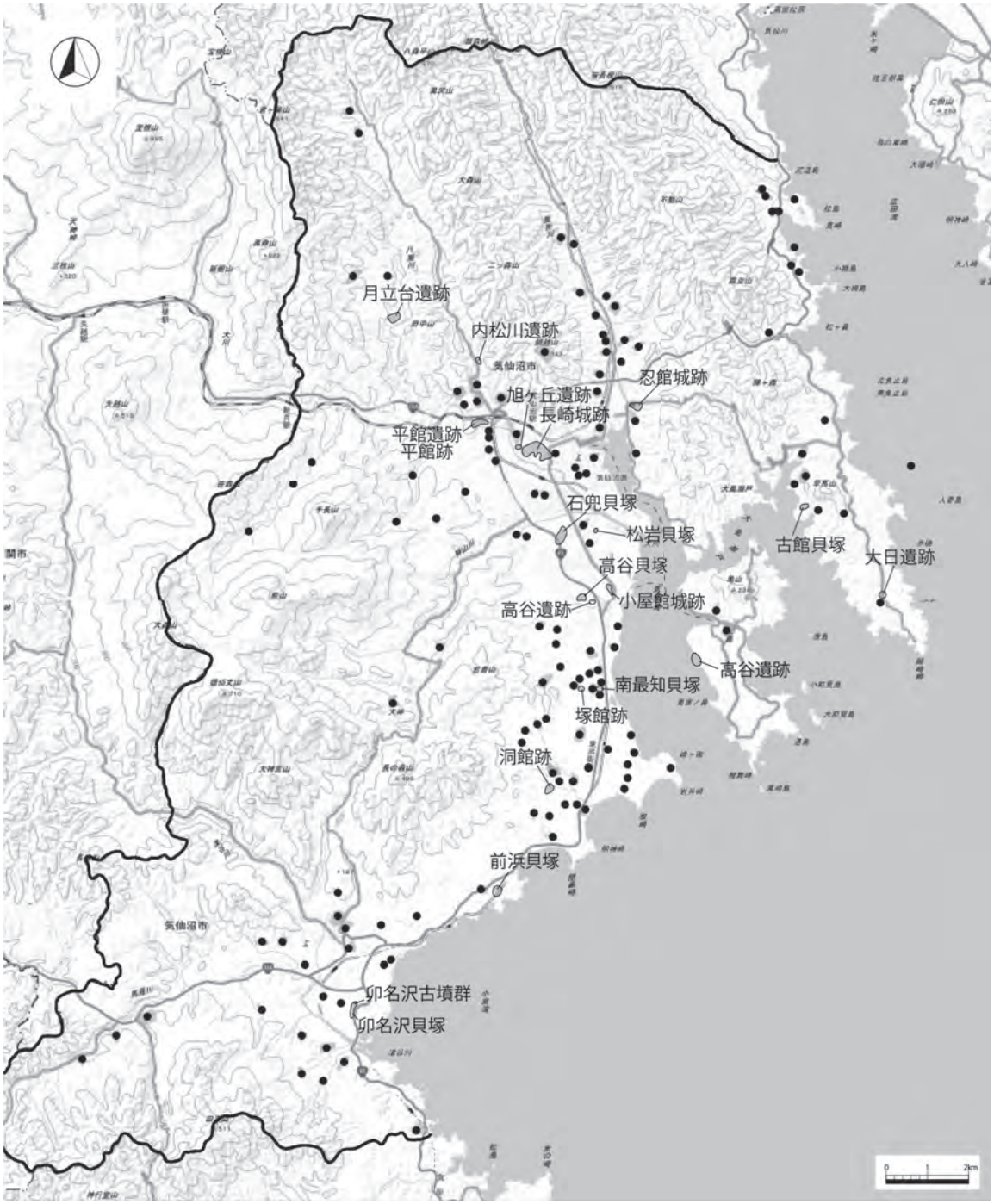
主　　査　　石川 郁（市任期付職員）　　山本 克美（横浜市派遣）

技　　師　　森 千可子

第３節　立地

気仙沼市は、宮城県北東端の太平洋岸に位置している。市域は、北上山系の支脈に囲まれ、そこから流れる河川は西から東に向って流れ、太平洋に注いでいる。海岸部は、入江と岬が鋸歯状に出入りする複雑に入り組んだ地形で、三陸リアス式海岸とよばれている。三陸リアス式海岸は、青森県八戸市から宮城県石巻市の金華山まで、総延長 600km に達する。また、北部は隆起海岸のため直線的であるが、岩手県宮古市以南は沈降地形のため、湾と岬が交互に連続する海岸となっている。特に、大船渡湾以南は沈降と隆起を繰り返したため、海岸線に沿って平らな丘陵が並ぶ海岸段丘を形成している。気仙沼市では、この海岸段丘上に多くの遺跡が点在している。

市内には、181 の遺跡が登録されている（平成 29 年 12 月現在）。本市の遺跡の特徴のひとつとして、中世の城館跡と縄文時代の貝塚が多いことがあげられる。城館跡は 82 遺跡、縄文時代の貝塚は 19 遺跡が知られている。


月立台遺跡
内松川遺跡
気仙沼市
旭ヶ丘遺跡
忍館城跡
長崎城跡
平館遺跡
平館跡
石兜貝塚
松岩貝塚
古館貝塚
大日遺跡
高谷貝塚
小屋館城跡
高谷遺跡
高谷遺跡
南最知貝塚
塚館跡
洞館跡
前浜貝塚
気仙沼市
卯名沢古墳群
卯名沢貝塚
0
1
2km

第 1 図　調査遺跡位置図

第４表　平成 26 ～ 28 年度確認調査実施遺跡一覧

遺跡名	遺跡番号	所在地	立地	種別	地目	時代	これまでの出土品等	調査年度
松岩貝塚	59002	赤岩老松	丘陵斜面	貝塚	畑	縄文（後・晩）	縄文土器，石斧，石棒	28 年度
旭ヶ丘遺跡	59006	舘山二丁目	丘陵麓	散布地	宅地	縄文（前）	縄文土器，石器	27 年度
月立台遺跡	59008	台	丘陵麓	散布地	畑	縄文（晩），古代	縄文土器，須恵器	26 年度
内松川遺跡	59011	内松川	丘陵斜面	散布地	畑	縄文	縄文土器	26 年度
平館遺跡	59027	松川前，切通	丘陵	散布地	畑，山林	縄文（前～晩），古代	縄文土器，土偶，石器等，土師器	26 年度
南最知貝塚	59035	最知南最知	丘陵斜面	貝塚，集落	畑，宅地	縄文（前・中），古墳（後）	縄文土器，石器，骨角器，自然遺物，土師器	27 年度
塚館跡	59042	最知南最知	丘陵	城館	畑	中世		28 年度
小屋館城跡	59049	松崎中瀬	丘陵麓	城館	畑，山林	中世		28 年度
平館跡	59055	松川前，切通	丘陵	城館	畑，宅地	中世		26 年度
長崎城跡	59064	舘山一丁目	丘陵	集落，城館	畑，宅地	古代，中世	土師器	26・28 年度
忍館城跡	59082	浪板	丘陵麓	城館	山林	中世		26・27・28 年度
高谷館跡	59086	大向	丘陵	城館	山林，畑	中世		27 年度
石兜貝塚	59091	赤岩石兜	段丘	貝塚	畑，宅地	古代，中世	土師器，須恵器，陶磁器	26・27・28 年度
高谷貝塚	59094	松崎高谷	丘陵	貝塚	畑，宅地	縄文	縄文土器，鹿角	26 年度
高谷遺跡	59109	松崎高谷	丘陵斜面	散布地	畑	縄文	縄文土器	27 年度
卯名沢貝塚	62015	本吉町卯名沢	丘陵斜面	貝塚	畑	縄文（前～後），弥生	縄文土器，石器，弥生土器	26 年度
洞館跡	62035	本吉町洞沢	丘陵	屋敷	宅地	中世		26 年度
前浜貝塚	62040	本吉町前浜	丘陵	貝塚	畑	縄文（後・晩）	縄文土器，石器，人骨，犬骨	27 年度
卯名沢古墳群	62041	本吉町卯名沢	丘陵	古墳	畑，墓	古墳		26 年度
古館貝塚	63017	唐桑町鮪立	丘陵麓	貝塚	畑	縄文（前～後）	縄文土器，石器	27 年度
大日遺跡	63020	唐桑町松圃	丘陵尾根	散布地	畑	縄文	石鏃，剝片	26 年度

第２章　平成 26 年度の調査

第１節　内松川遺跡

１．調査に至る経緯

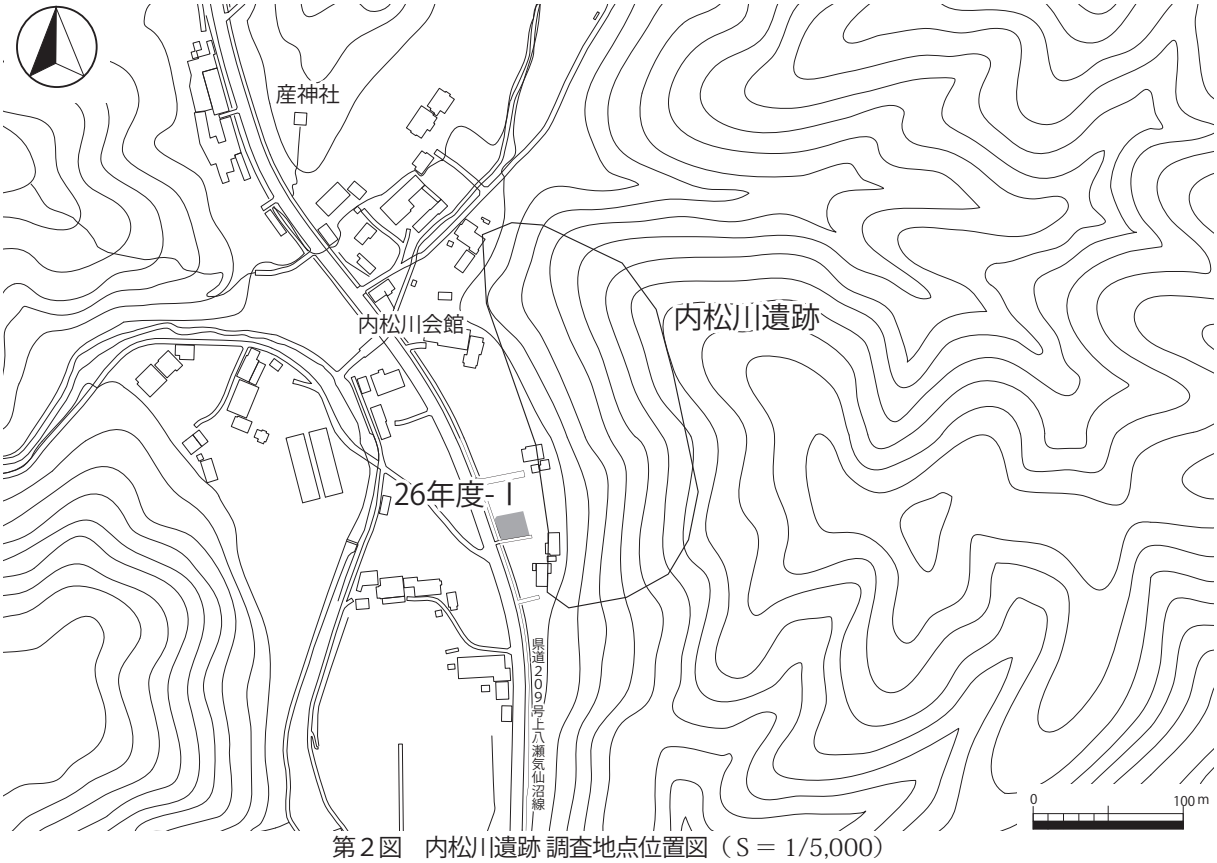
平成 26 年４月１日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、内松川地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である内松川遺跡（遺跡番号 59011）に隣接している（第２図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 11 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 110 号）。

同年４月 21 日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、５月 21 日付けで県教委から通知が出された（文第 482 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年５月 30 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

内松川遺跡は、市内内松川地内に所在し、県道 209 号上八瀬気仙沼線に沿って拡がる縄文時代の散布地である。周辺には、おおよそ 400 m南には月館城跡、中館跡、府中館跡などの中世城館



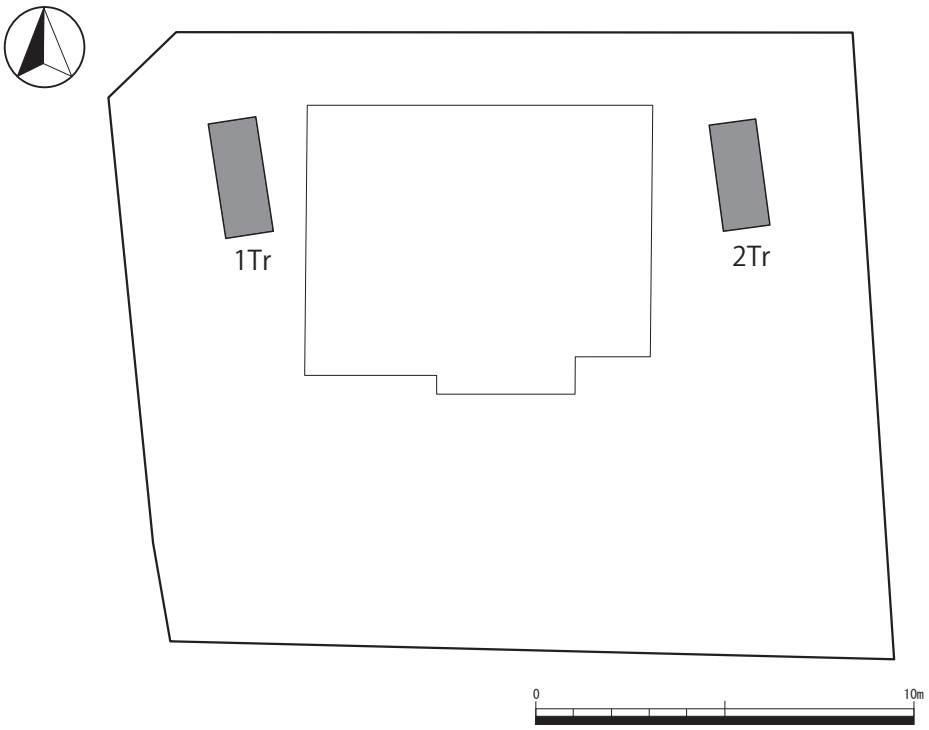
第２図　内松川遺跡 調査地点位置図（S = 1/5,000）

跡が点在しているが、縄文時代の遺跡は確認されていない。また、本遺跡においても、これまでほとんど調査を行っていない。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、県道 209 号沿いに位置し、対象面積は 317.0㎡を測る。調査は、東西２か所にトレンチを設定し（第３図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は 8.0㎡を測る。

１トレンチは約 1.6 m、２トレンチは約 0.6 mまで掘削を行ったが、堆積土はすべて盛土であった。盛土は、明褐色、褐灰色、暗褐色を基調とする３層に分けられる。それぞれの盛土は、整地し



第３図　内松川遺跡 トレンチ設定図（S = 1/200）

写真１　内松川遺跡 １トレンチ全景（南から）

写真２　内松川遺跡 ２トレンチ全景（北から）

た痕跡が認められ、異なる時期に施されたことが窺われる。遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の調査地点は、遺跡推定範囲の西側にあたる。かつて県道西側の畑で縄文土器２点が表採されたというが（宮城県鼎が浦高等学校）、その周辺は、過去に１ｍの天地返しを行っており、遺跡の確認も難しい状況である。遺跡範囲の再検討も今後の課題である。

第２節　平館遺跡・平館跡

１．調査に至る経緯

（１）第１次調査

平成 26 年７月 14 日、気仙沼市（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、切通地内における「気仙沼市消防団第５分団松川前消防屯所建設計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である平館遺跡（遺跡番号 59027）および平館跡（遺跡番号 59055）に該当しており、また、平成 10 年度調査で遺構・遺物が検出されている新月中学校と隣接している（第４図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、８月６日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1211 号）。

同年８月 27 日、事業者から埋蔵文化財発掘の通知が提出され、10 月８日付けで県教委から通知が出された（文第 1737 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 10 月 28 日および 29 日に確認調査を実施することとなった。しかし、浄化槽設置箇所が未確定であったため、後日、位置確定後に浄化槽設置箇所の調査を行うこととした（平成 27 年９月８日確認調査実施）。

（２）第２次調査

平成 26 年 10 月 16 日、株式会社忠栄（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、松川前地内における「資材置場造成及び仮設工場・仮設事務所設置計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である平館遺跡（遺跡番号 59027）および平館跡（遺跡番号 59055）に該当している（第４図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 11 月 21 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2185 号）。

同日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 26 日付けで県教委から通知が出され

第４図　平館遺跡・平館跡 調査地点位置図（S = 1/5,000）

た（文第 2233 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 12 月８日に確認調査を実施することとなった。

なお、今回の調査地点は、平成 26 年２月５日付けで別法人によって資材置場敷地造成を目的として埋蔵文化財発掘の届出が提出された箇所を含む範囲である。その際に確認調査を実施しており、土坑、小穴などが確認されている。その後、事業中止となり、本調査を実施していないため、今回の確認調査によって再検討することとした。

２．遺跡の概要

平館遺跡・平館跡は、市内松川前から切通地内に所在する。大川左岸の丘陵上に立地する縄文時代（前～晩期）・古代の散布地および中世の城館跡である。平成 26 年度は、２地点で確認調査を行ったが、いずれの地点においても本調査に至らなかった。しかしながら、平成 10 年度に本調査を実施した新月中学校地点においては、縄文時代（前期末、中期後葉、晩期）、奈良・平安時代の遺構・遺物、近世墓群等が検出されている。

本遺跡の周辺には、北西約 300 mに表松川遺跡、南東約 250 mに川原崎遺跡といった縄文時代の散布地とされている遺跡がみられるが、調査実績は少ない。また、北に中館跡や赤岩城跡、東に新庄館跡、南に八幡館跡など、中世城館跡に囲まれた地域である。

３．調査の概要と成果

（１）第１次調査

今回の調査地点は、遺跡の南側斜面にあたり、対象面積は約 413.0㎡を測る。調査は、建設予定地に１か所、南北方向にトレンチを設定し（第５図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は 18.0㎡を測る。

調査の結果、約 0.8 ｍまで掘削を行ったが、堆積土はすべて盛土であった。盛土は、明黄褐色粘質土を基調とする。遺構・遺物は検出されなかった。

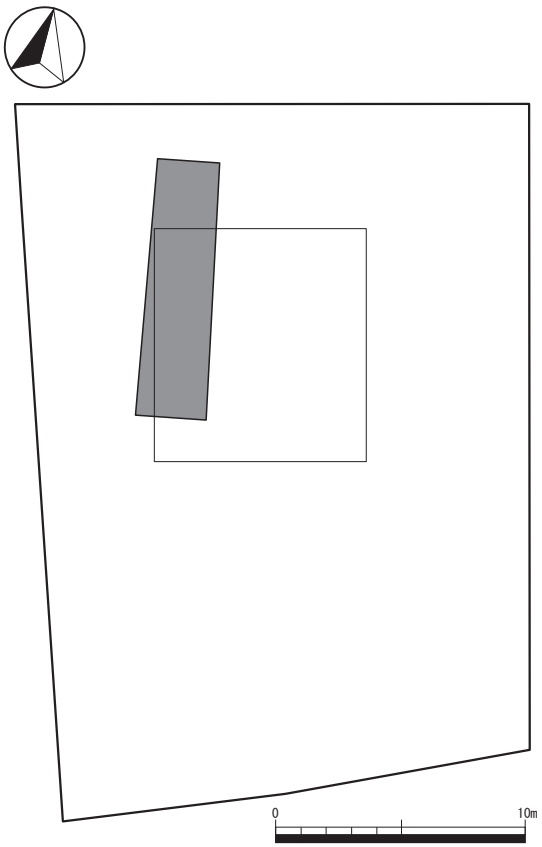
トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

（２）第２次調査

今回の調査地点は、遺跡の東端に位置しており、対象面積は約 2,452.7㎡を測る。調査は、資材置場予定地に東西方向トレンチを１本、仮設工場予定地に南北方向に３本設定し（第６図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は 57.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても 30 ～ 60cm 堆積した表土直下が黄褐色シルトを呈する地山であった。遺構・遺物は検出されなかった。



第５図　平館遺跡・平館跡 弟１次調査トレンチ設定図
（S ＝ 1/300）

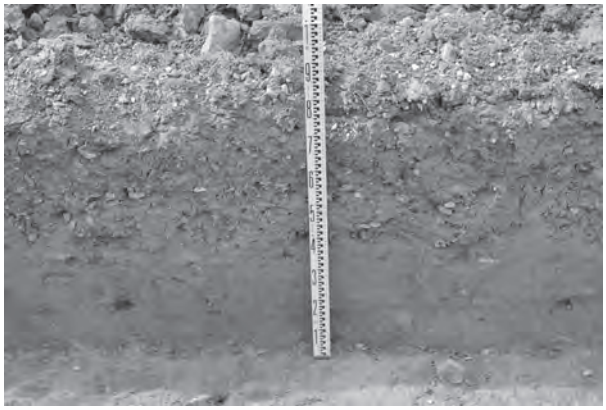


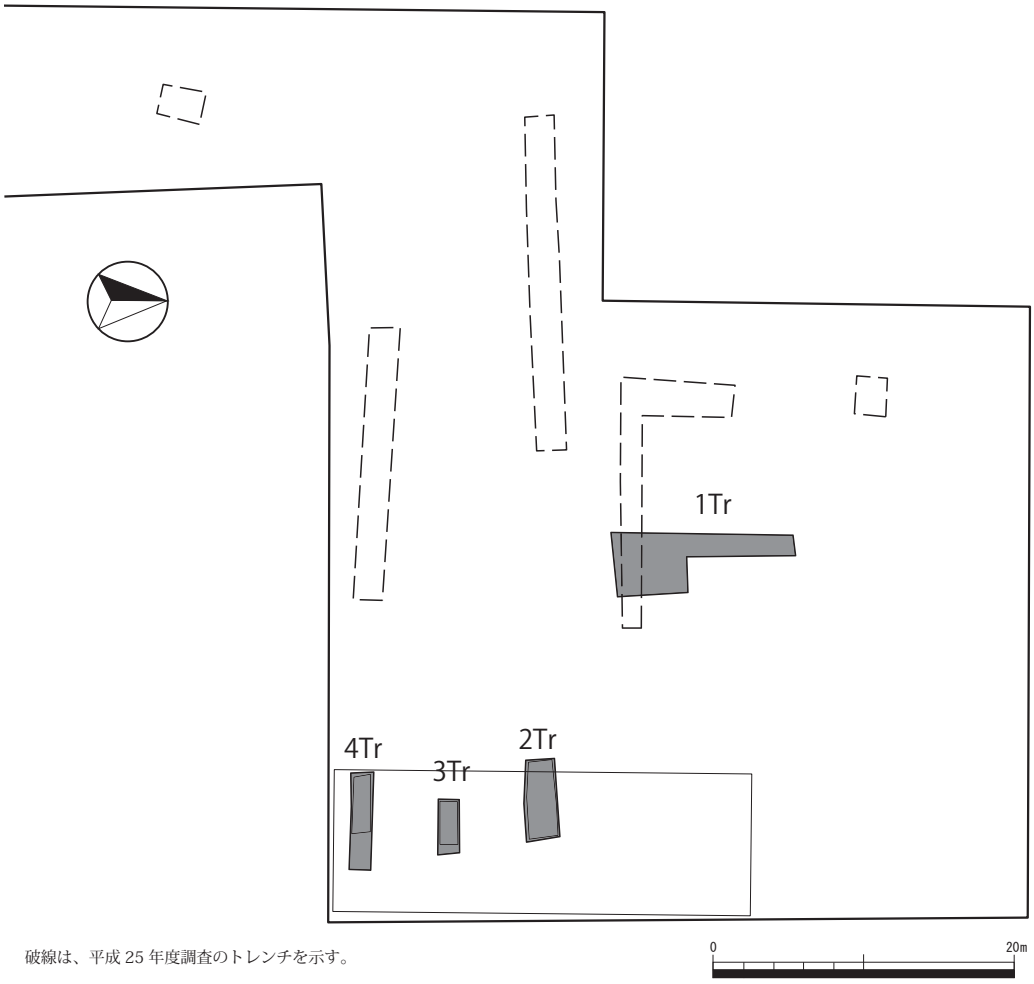
写真３　平館遺跡・平館跡 第１次調査
トレンチ土層堆積状況（東から）

写真４　平館遺跡・平館跡 第１次調査
トレンチ全景（南から）

トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

また、平成 25 年に確認調査を行った際に確認した土坑などは、いずれも後世の撹乱であることが確認された。



破線は、平成 25 年度調査のトレンチを示す。

第６図　平館遺跡・平館跡 第２次調査トレンチ設定図（S = 1/500）

写真５　平館遺跡・平館跡 第２次調査
１トレンチ全景（南から）

写真６　平館遺跡・平館跡 第２次調査
２トレンチ全景（西から）

写真７　平館遺跡・平館跡 第２次調査
３トレンチ全景（西から）

写真８　平館遺跡・平館跡 第２次調査
４トレンチ全景（西から）

４．まとめ

第１次調査地点は、平成 10 年度に本調査を実施した地点の隣接地であったが、遺構・遺物は検出されなかった。また、第２次調査地点は、平成 25 年度に確認調査を行い、土坑や小穴が検出された報告があった地点である。しかし、調査の結果、堆積土は表土のみで、平成 25 年度調査で検出された遺構は、後世の撹乱であったことが確認された。現在包蔵地とされている範囲の東端にあたることから、遺跡の範囲についても再検討することも必要かも知れない。

第３節　洞館跡

１．調査に至る経緯

平成 26 年９月 29 日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、本吉町洞沢地内における「個人住宅新築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である洞館跡（遺跡番号 62035）に隣接しており、また、平成 25 年度調査で縄文土器を伴う土坑が検出された地点とも近接している（第７図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、10 月８日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1752 号）。

つづいて、同年 10 月 27 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、10 月 31 日付けで県教委から通知が出された（文第 2053 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 11 月 10 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

洞館跡は、市内本吉町洞沢地内に所在する。気仙沼と大谷を内陸部で結ぶ基幹農道東側に接する台地上に立地する中世の屋敷跡である。

第７図　洞館跡 調査地点位置図（S = 1/5,000）

本遺跡の周辺には、塚館跡、峰平館跡、堀合館跡、嚮館跡などの城館あるいは屋敷跡などが点在している。

平成 26 年度に調査を実施した地点は当該地のみであるが、平成 26 年２月に当該地の北西約 30 mの地点において、太陽光発電システム設置計画に伴う確認調査を実施している。平成 25 年度調査では館跡に伴う遺構は検出されなかったものの、土坑１基および縄文土器片 27 点が検出されている。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、洞館跡の南側斜面に位置しており、対象面積は約 1,110.0㎡を測る。調査は、等高線に直行するようにトレンチを４本設定し（第８図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 111.0㎡を測る。

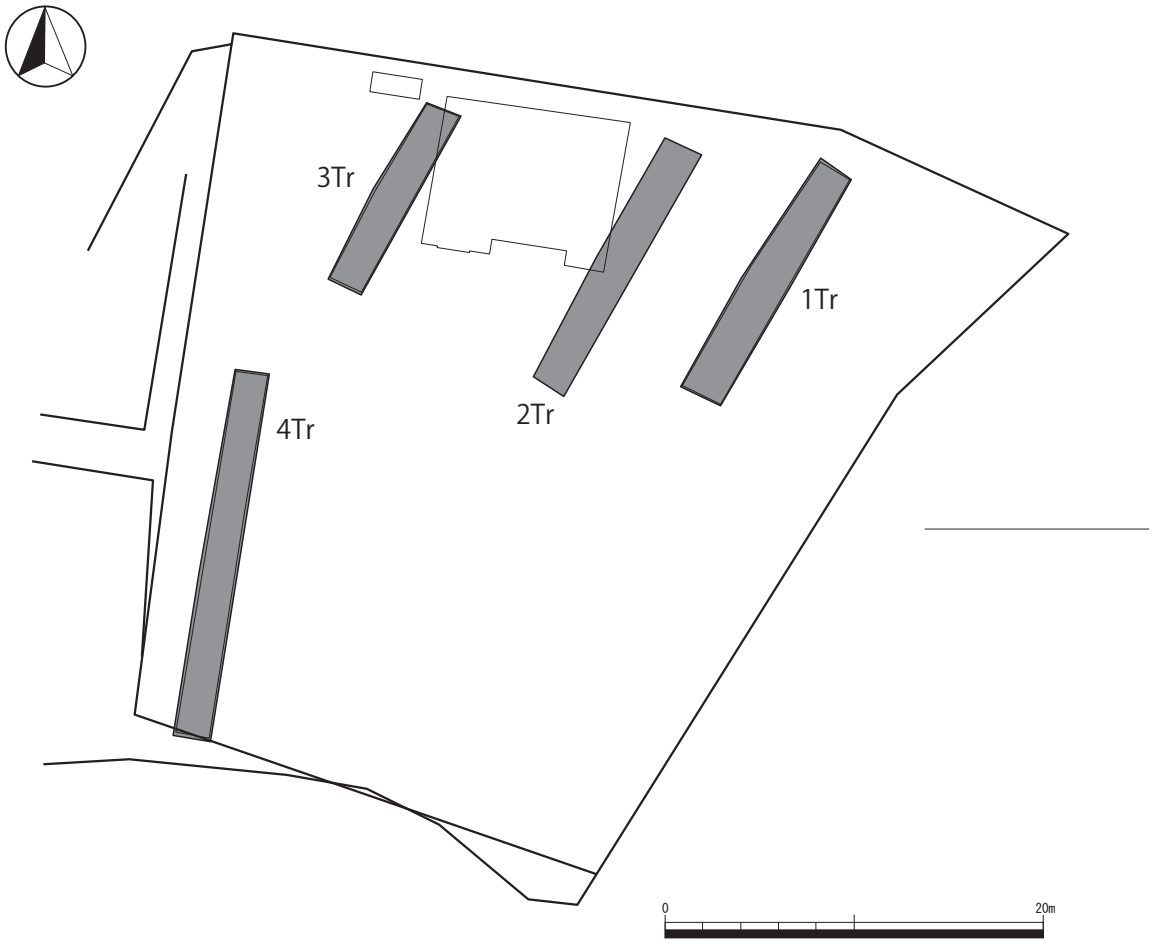
調査の結果、いずれのトレンチにおいても、耕作土直下が粘質シルトの地山であった。４トレンチ南側で一部、盛土による造成、旧表土が確認されたものの、遺構、遺物は検出されなかった。

トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の調査においても、館の痕跡は確認できなかった。また、隣接地でわずかに検出された縄文時代の遺構、遺物も検出されなかった。本遺跡は、調査実績も少なく、発掘調査によって館跡の確認はできていない。しかしながら、当該地の近接地で縄文時代の遺構・遺物が検出されていることから、周辺に縄文時代の遺跡が存在する可能性も考えられる。今後の課題としたい。



第８図　洞館跡 トレンチ設定図（S＝1/400）

写真９　洞館跡 １トレンチ全景（南から）

写真 10　洞館跡 ２トレンチ全景（南から）

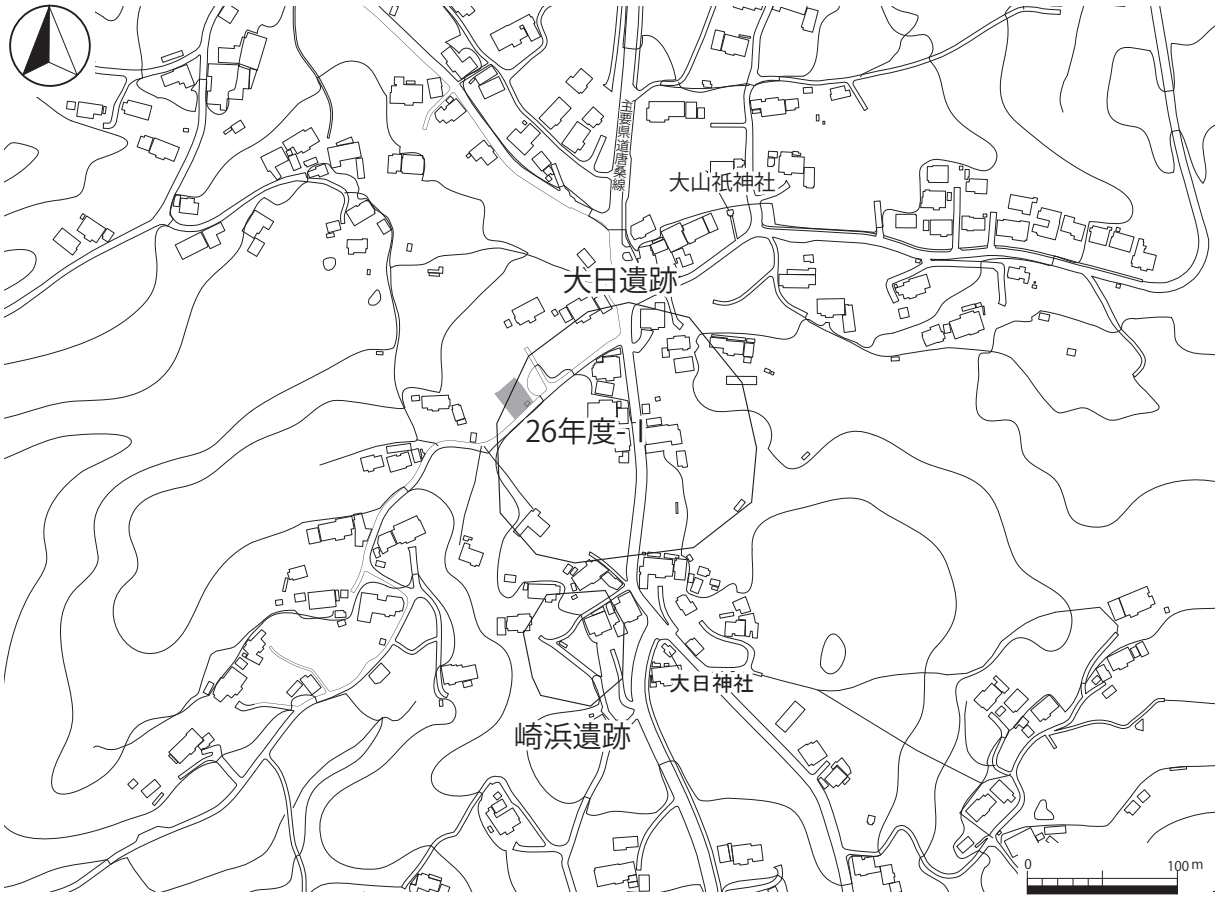
写真 11　洞館跡 3 トレンチ全景（南から）

写真 12　洞館跡 4 トレンチ全景（南から）

第４節　大日遺跡

１．調査に至る経緯

平成 26 年 10 月 29 日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、唐桑町松圃地内における「個人住宅新築計画と埋蔵文化財のかかわり



第９図　大日遺跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

について」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である大日遺跡（遺跡番号 63020）に該当している（第９図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 31 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった。

つづいて、同年 11 月 10 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 26 日付けで県教委から通知が出された（文第 2231 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 12 月９日に確認調査を実施することとなった。

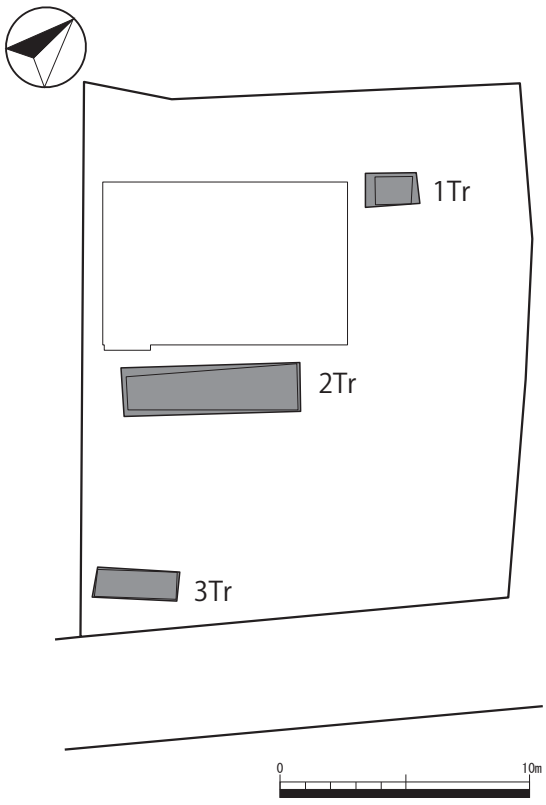
２．遺跡の概要

大日遺跡は、市内唐桑町神の倉から松圃地内に所在する。主要地方道唐桑線が南北に通り、その東西に広がる丘陵上に立地する縄文時代の散布地である。

本遺跡は、平成６年度に東北歴史資料館が実施した踏査により発見された遺跡であるが、周辺にはすぐ南側に、中世の塚とされている崎浜遺跡が知られているほかは、遺跡が希薄な地域である。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、大日遺跡の南側斜面に位置しており、対象面積は約 373.0㎡を測る。調査は、主として住宅建築部周辺にトレンチを３本設定し（第 10 図）、重機で掘削したのち、人力により



第 10 図　大日遺跡 トレンチ設定図（S = 1/300）

写真 13　大日遺跡 １トレンチ土層堆積状況（北から）

写真 14　大日遺跡 １トレンチ全景（西から）

写真 15　大日遺跡 ２トレンチ全景（西から）

写真 16　大日遺跡 ３トレンチ全景（西から）

精査を行った。調査面積は約 21.0㎡を測る。

調査の結果、１・２トレンチで、表土直下におおよそ１mの盛土が確認された。１トレンチでは、盛土の下で約 20cm の厚さで旧表土が確認されたが、その直下が地山であり、遺構・遺物は検出されなかった。２トレンチは、工事の掘削深度が盛土内で収まるため、それ以上の掘削は行わなかった。敷地南側に設定した３トレンチは、現地表から 15 ～ 30cm で地山が確認された。

トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

先述したとおり、大日遺跡は、平成６年に東北歴史資料館で行った踏査で発見された遺跡である。その際に、石器が報告されているが（註1）、その後、大日遺跡での調査実績はほとんどない。そのため、遺跡の実態は明らかでないが、今後の資料の蓄積に期待したい。

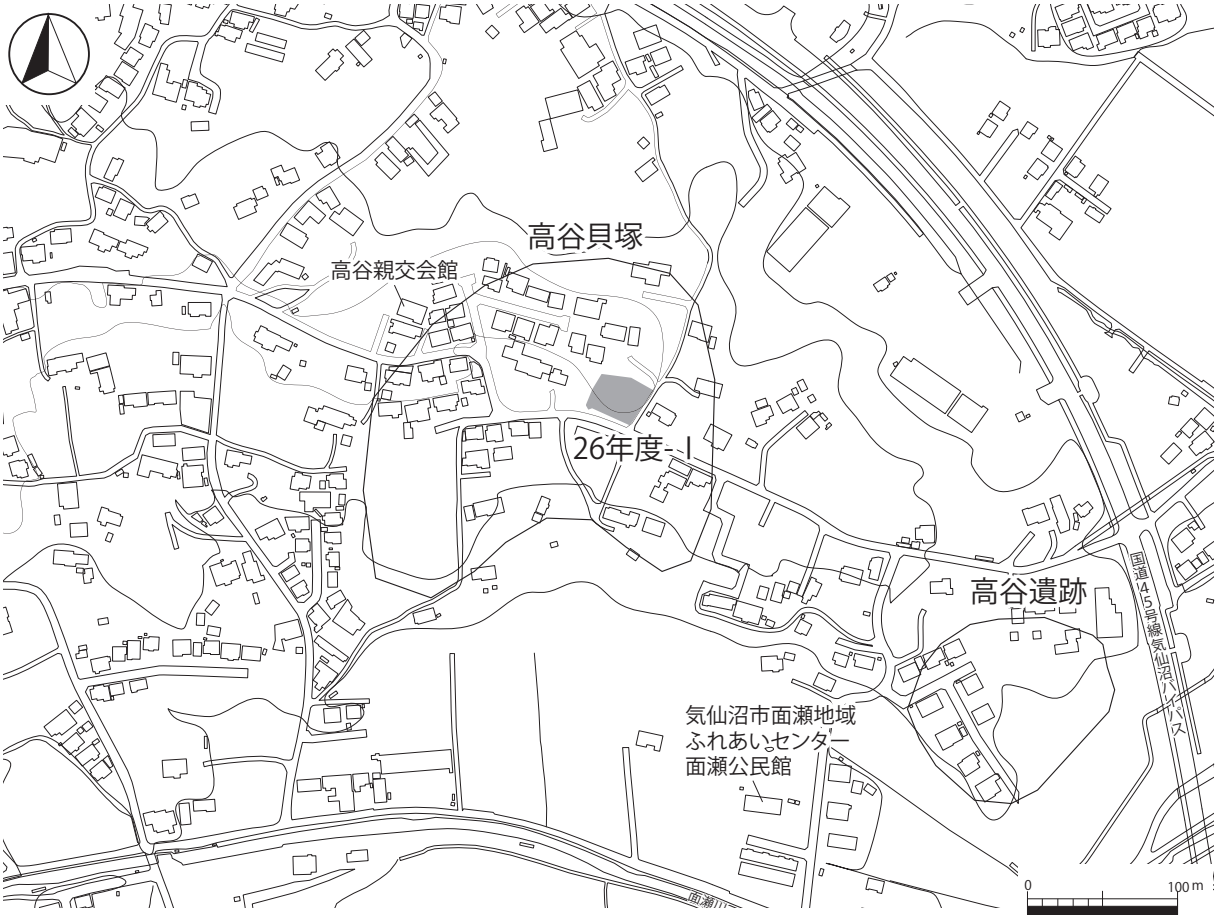
（註１）『東北歴史資料館研究紀要』「北上川下流域における旧石器時代遺跡の分布調査」（平成９年３月）

第５節　高谷貝塚

１．調査に至る経緯

平成26年７月25日、宅地造成工事実施予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、松崎高谷地内における「宅地造成工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である高谷貝塚（遺跡番号 59094）に該当している（第11図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年８月20日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第1350号）。

つづいて、同年 11 月 13 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 26 日付けで県



第 11 図　高谷貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

教委から通知が出された（文第 2232 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 12 月 17 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

高谷貝塚は、市内松崎高谷地内に所在する。面瀬川左岸の標高 30 mほどの丘陵の南斜面に立地する縄文時代の貝塚である。

本遺跡周辺には、おおよそ 400 m南東に、本遺跡と同じ縄文時代の遺跡である高谷遺跡が知られている。

高谷貝塚における調査は、当該地に隣接する個人住宅建設等に伴って平成 24 年度に３件の確認調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。

３．調査の概要と成果

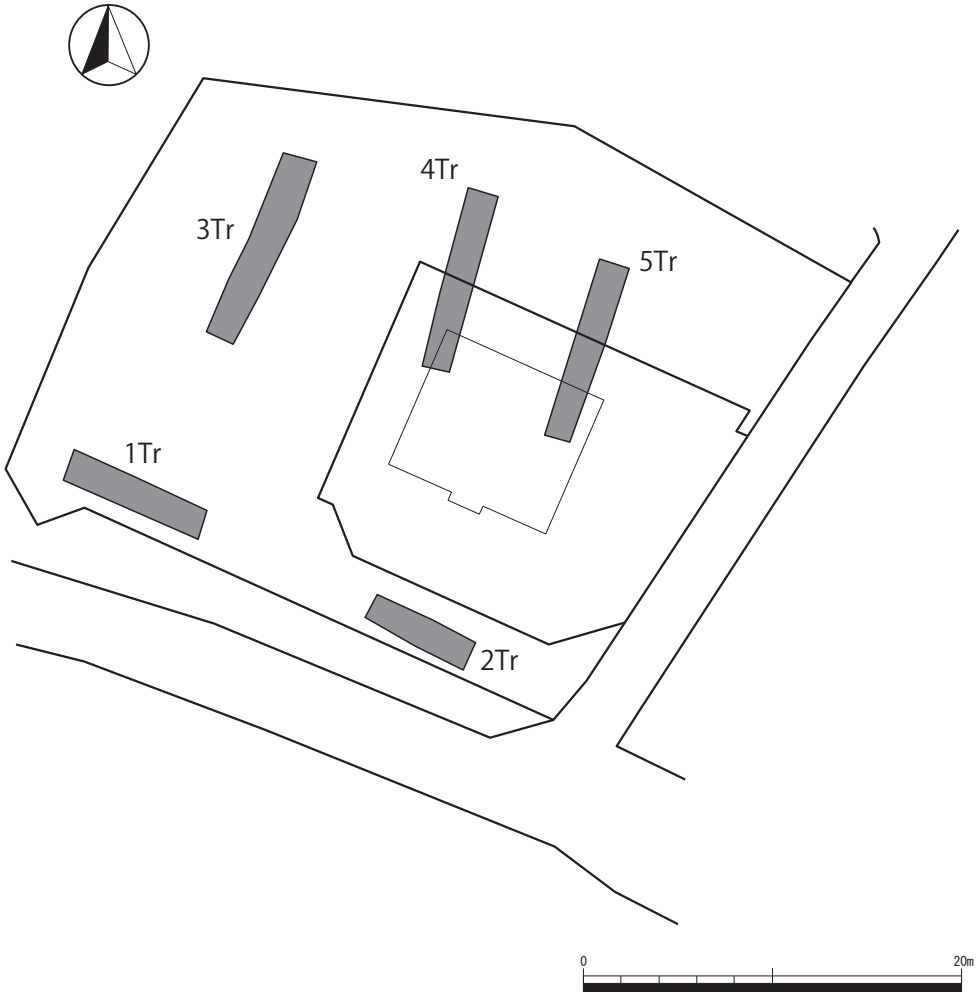
今回の調査地点は、高谷貝塚の東側の丘陵上に立地しており、対象面積は約 1,194.0㎡を測る。調査は、主として地形に沿って、下の畑に東西方向で２本、上の畑に南北方向で３本、計５本のトレンチを設定し（第 12 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 74.0

㎡を測る。

調査の結果、１・２トレンチで、表土の下約 40cm で地山、３～５トレンチは表土の下約 10 ～ 35cm で地山を確認した。旧表土も遺存しておらず、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用し



第 12 図　高谷貝塚 トレンチ設定図（S = 1/400）

写真 17　高谷貝塚 1 トレンチ土層堆積状況（東から）

写真 18　高谷貝塚 1 トレンチ全景（西から）

写真 19　高谷貝塚 2 トレンチ全景（西から）

写真 20　高谷貝塚 3 トレンチ全景（南から）

写真 21　高谷貝塚 4 トレンチ全景（南から）

写真 22　高谷貝塚 5 トレンチ全景（南から）

てトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

本遺跡周辺は比較的開発が多く、平成 24 年度に３件、26 年度に１件の確認調査を実施した。しかし、いずれの地点においても遺構・遺物は検出されなかった。高谷貝塚の貝層は、南斜面に分布するとされている（註 1）が、現在のところ、詳細は不明である。今後の調査成果に期待したい。

（註１）東北歴史資料館　（1989）『東北歴史資料館資料集 25　宮城県の貝塚』

第６節　忍館城跡

１．調査に至る経緯

平成26年８月11日、有限会社やまじゅう（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、浪板地内ほかにおける「土砂採取計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。

忍館城跡は、平成 13 年および平成 19 年に土砂採取計画について協議を行った。その際、事業区域が過去の掘削で削平されており、遺跡に対する影響はないと判断し、慎重工事とした。さらに、

残存している南側法面は保安区域として残し、東側丘陵の主郭部分は保存することとした。今回の計画は、これまで土砂採取を行ってきた当該地が、三陸沿岸道路事業および大島架橋にかかる県道大島線改良工事に伴い、土砂採取が困難になることによって実施する土砂採取計画で、保安区域および主郭部もほとんど掘削する計画である。そのため、市教委は、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年９月 12 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1550 号）。

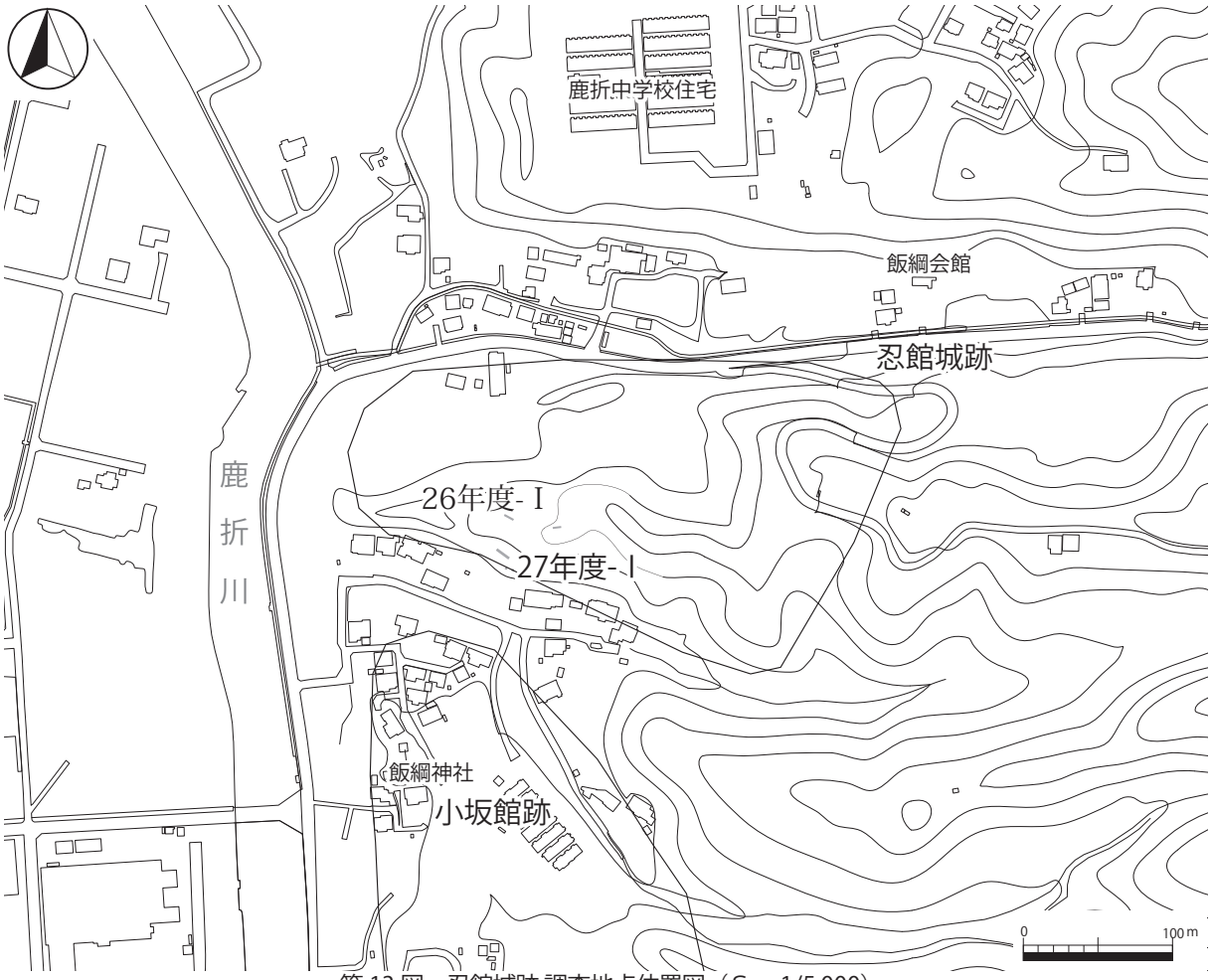
つづいて、９月 29 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、10 月８日付けで県教委から通知が出された（文第 1769 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年１月 19 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

忍館城跡は、市内浪板地内に所在する。鹿折川河口近くの左岸、気仙沼湾の基部の丘陵上に立地する中世の城館跡である。

本遺跡周辺には、おおよそ 200 m南に小坂館跡、鹿折川を挟んだ対岸に刈米館跡、陣山館跡などの城館跡が知られている。



第 13 図　忍館城跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

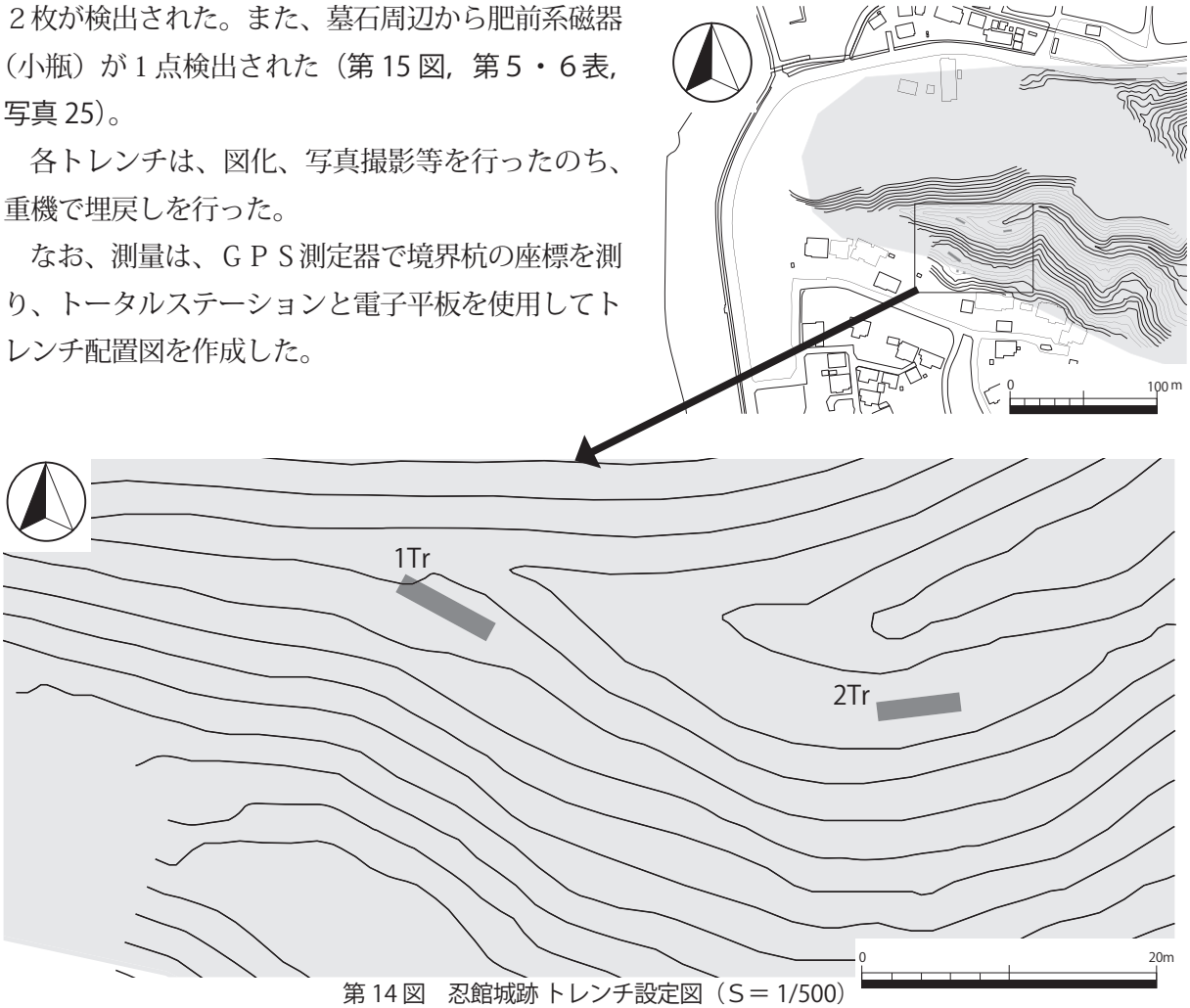
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、忍館城跡の南斜面である。周辺には近世の墓石が数基確認できる。墓石には安永、天明、天保などの年号がみられる。南斜面には２か所の平場が認められ、調査は、その上段の平場にトレンチを２本設定し（第 14 図）、重機で掘削したのち、人力による精査を行った。対象面積 9,954.0㎡のうち、調査面積は約 17.0㎡を測る。

調査の結果、忍館城跡に伴う遺構・遺物は検出されなかったものの、２トレンチで、新寛永通寶２枚が検出された。また、墓石周辺から肥前系磁器（小瓶）が１点検出された（第 15 図，第５・６表，写真 25）。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。



第 14 図　忍館城跡 トレンチ設定図（Ｓ＝ 1/500）

写真 23　忍館城跡 １トレンチ全景（東から）

写真 24　忍館城跡 ２トレンチ全景（東から）

第 15 図　忍館城跡 出土遺物（銭貨）

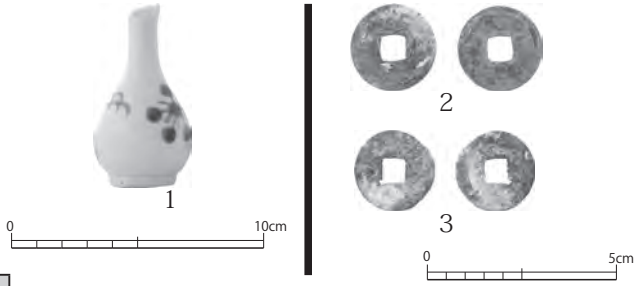


写真 25　忍館城跡 出土遺物

第５表　忍館城跡 出土遺物観察表１（銭貨）

No.	検出地点	名　称	材質	法量（mm）			重量	備考
				外径	穿径	厚さ	(g)	
15 － 2	2 トレンチ	寛永通寶	銅	22.9	6.8	1.1	3	新寛永
15 － 3	2 トレンチ	寛永通寶？	銅	21.3	5.2	0.9	2	

第６表　忍館城跡 出土遺物観察表２（陶磁器類）

No.	材質	器種	器形・形状特徴	法　量（mm）				重量	成形・調整	絵付／釉薬	文　様	装飾特徴	胎土色・特徴等	製　作		備　考
				口径	最大径	底径	器高	(g)						製作地	年　代	
写真 25 － 1	磁器	小瓶	端反竦韮形・輪高台	欠損	38.7	25.4	71.1	39	轆轤	染付／透明釉	梅花文	筆書	灰色	肥前系	1780 ～ 1860 年代	

４．まとめ

忍館城は、現在土砂採取場となっており、城跡の痕跡はほとんどみられない。「仙台領古城書上」には、「山　忍館城　東西三十間　南北十間　右城主　熊谷伯耆ト申者ニ御座候」と記載されている。また、「風土記」には、「高二十五丈　東西七十三間　南北五間　御城主　千葉信濃ト申ト伝エ年代相不知申」と記載がみられる。築城年代など、不詳なところも多いが、これらの文献より、東西 350 m、南北 100 m、高さ 50 mほどの山城であったと推定できる。今回の調査において、忍館城に伴う遺構・遺物は検出されなかったが、今後の調査に期待したい。

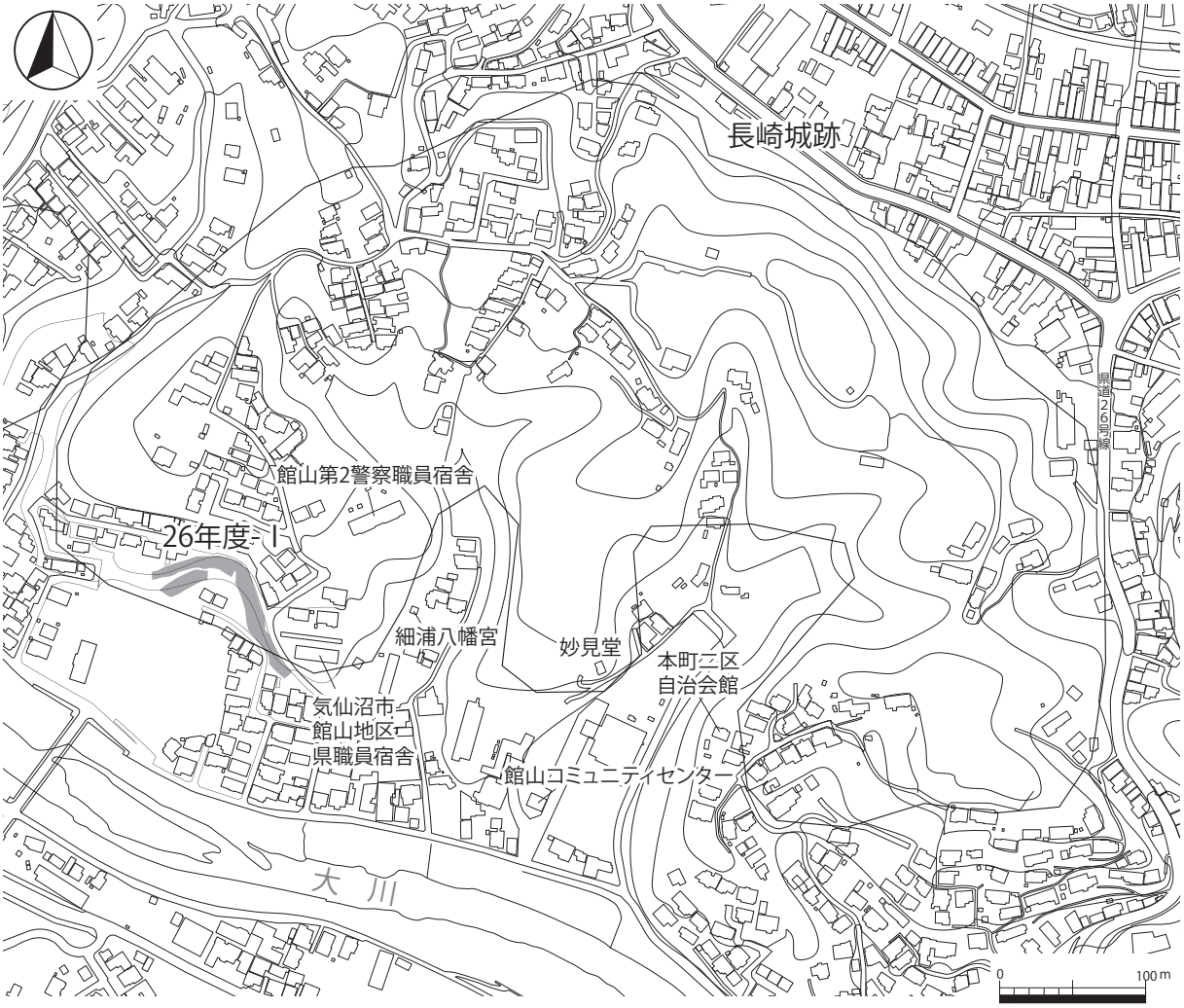
第７節　長崎城跡

１．調査に至る経緯

平成 26 年７月 24 日、宮城県気仙沼土木事務所（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、舘山一丁目地内における「舘山一丁目急傾斜地崩落防止施設設置事業計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。当該事業計画は、平成 24 年度の豪雨により斜面の一部が崩落したため、今後の降雨などにより法面崩壊が進行し、人家等への被害が生じる危険性が高いことから、被害を防止し、人家の安全を図るために、急傾斜施設の整備を実施する目的で計画された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である長崎城跡（遺跡番号 59064）に該当している（第 16 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年８月６日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1227 号）。

つづいて、平成 27 年１月 26 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、２月６日付けで県教委から通知が出された（文第 2806 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年２月３日に確認調査を実施することとなった。



第 16 図　長崎城跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

長崎城跡は、市内舘山および古町地内に所在する。大川の左岸に拡がる半島状の河岸段丘上に立地する中世の城館跡である。

本遺跡周辺には、東側に気仙沼古館跡、北西に新庄館跡が所在しているほか、本遺跡と新庄館跡の間に縄文時代の散布地である旭ヶ丘遺跡が知られている。

長崎城は、東西 600 m、南北 120 mほどの山城で、山頂には３つの台地が東西に連なっている。この３つの台地に、それぞれ館が建てられていたといわれている。

長崎城跡では、平成 24 年度に個人住宅１件、平成 26 年度に災害公営住宅１件で確認調査を実施している。しかしながら、遺構・遺物が検出された地点はない。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、長崎城跡の西端の崖線に立地しており、現状は、斜面並びに２段の平場が確認できる。対象面積は約 1,620.0㎡を測る。調査は斜面の平場にトレンチを５本設定し（第 17 図）、

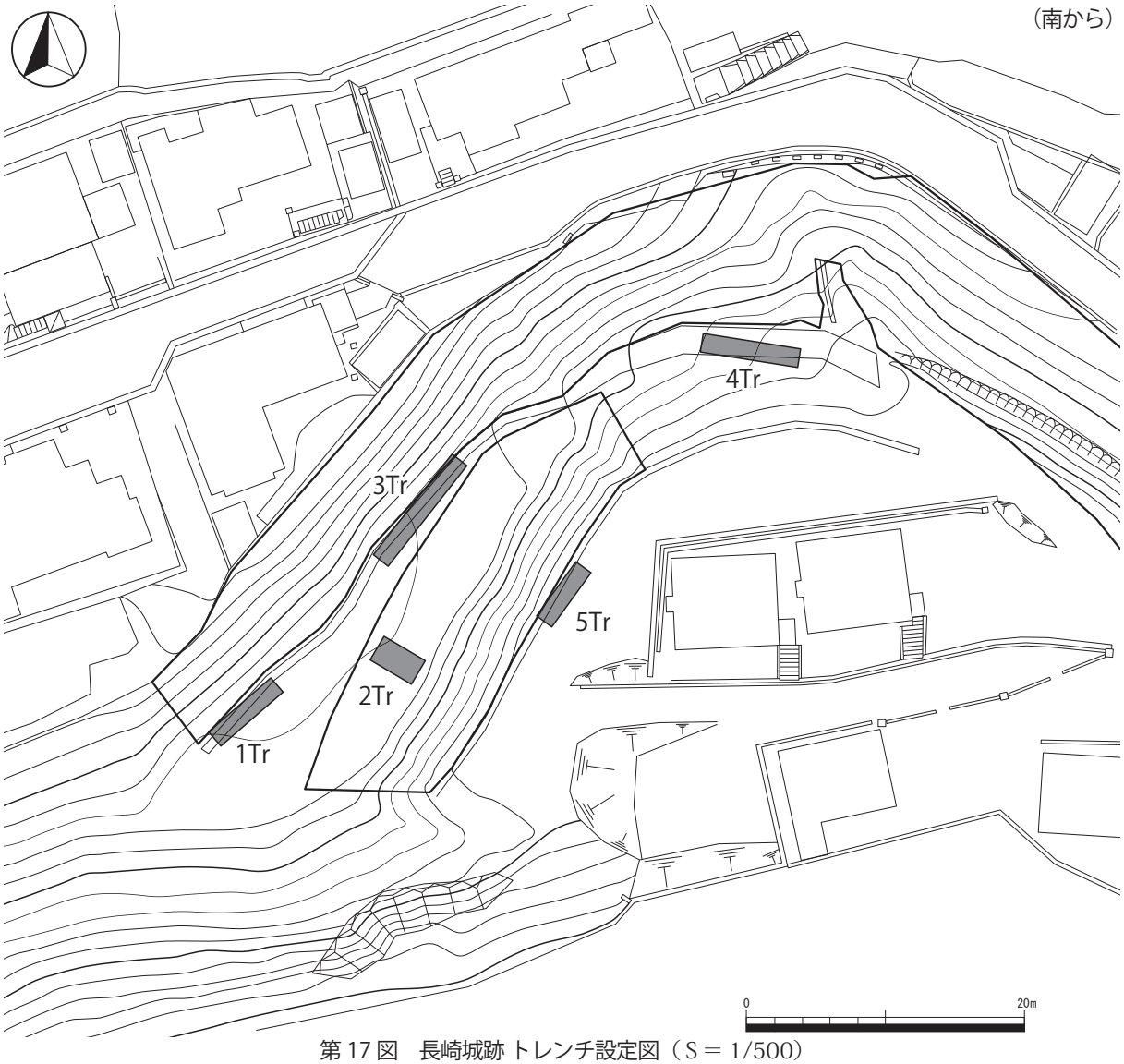
重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 32.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても、おおよそ 20 ～ 30cm の表土直下が地山であり、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

写真 26　長崎城跡 １トレンチ全景（南から）



第 17 図　長崎城跡 トレンチ設定図（S ＝ 1/500）

写真 27　長崎城跡 ２トレンチ全景（東から）

写真 28　長崎城跡 ３トレンチ全景（南から）

写真 29　長崎城跡 ４トレンチ全景（東から）

写真 30　長崎城跡 ５トレンチ全景（南から）

４．まとめ

今回の調査対象地の現況は、２段の平場を確認することができるが、今回の調査で、この平場は、長崎城に伴うものではなく、後世のものであると確認できた。

長崎城は、「仙台領古城書上」によると、「長崎城　山　城主熊谷備中　東西二十一間　南北三十三間」とある。城跡は、標高 65 mほどの丘陵頂部を中心に平場や曲輪、空堀などの遺構を確認することができるが、現状では住宅が密集しているため、詳細は不明である。今後の調査成果に期待したい。

第８節　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群

１．調査に至る経緯

平成 26 年 12 月 25 日、宅地造成工事実施予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、本吉町卯名沢地内における「一般住宅敷地造成計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である卯名沢貝塚（遺跡番号 62015）および卯名沢古墳群（遺跡番号 62041）に該当して

いる（第 18 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、平成 27 年１月９日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2539 号）。

つづいて、同年１月 20 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 28 日付けで県教委から通知が出された（文第 2732 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年２月９日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

卯名沢貝塚・卯名沢古墳群は、市内本吉町卯名沢地内に所在する。卯名沢貝塚は、国道 45 号の西側に拡がる縄文時代および弥生時代の貝塚である。卯名沢古墳群は、南北に並ぶ２基の古墳からなる。古墳の規模は、北側が径 6.3 ～ 7.5 m、南側が 6.7 mを測る。

本遺跡周辺には、おおよそ 250 m西に、10 基の塚からなる宇南田塚群が知られているが、時期は不明である。

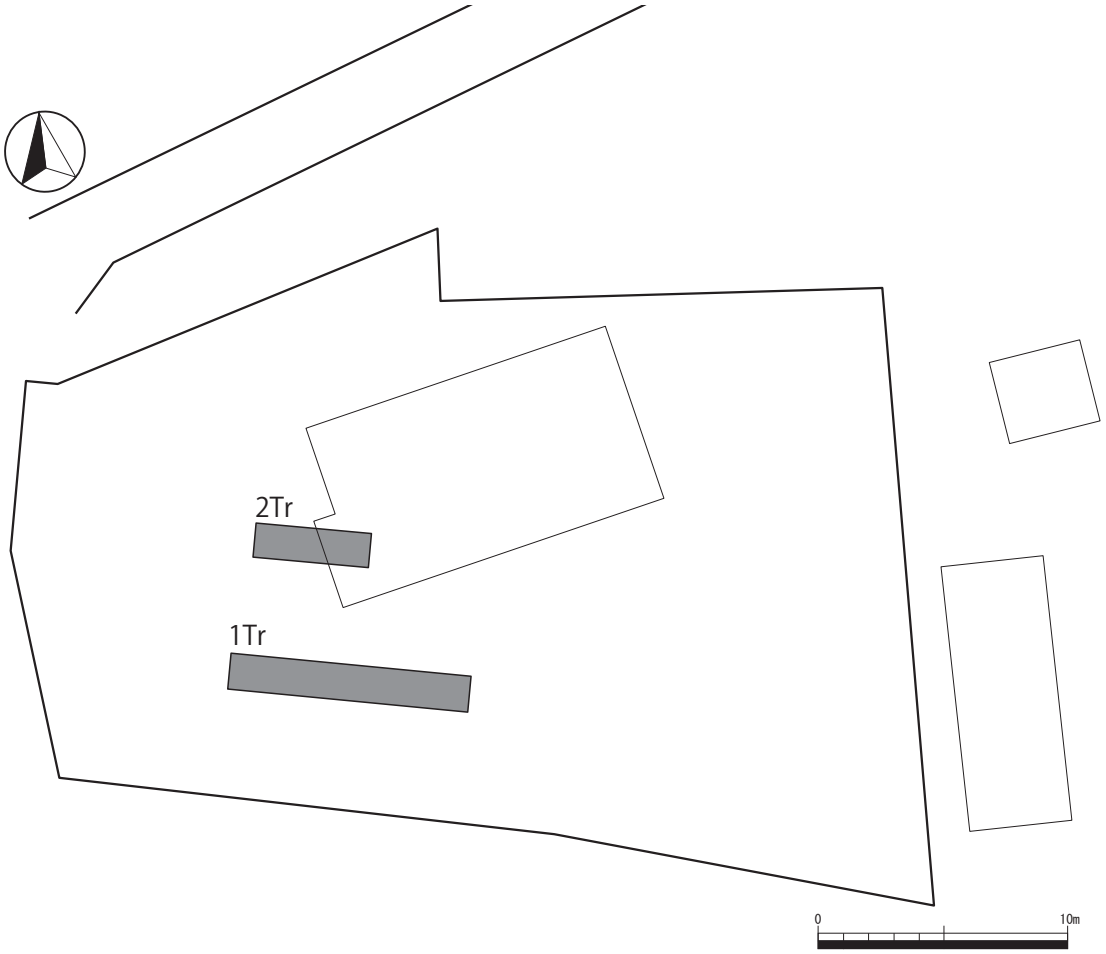
当該地のすぐ北側で三陸道建設に伴う発掘調査を宮城県教育委員会が実施しているが、遺構・遺物は検出されていない。

第 18 図　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、卯名沢貝塚の北端で、卯名沢古墳群北側古墳の東側にあたり、対象面積は約751.0㎡を測る。調査は、東西方向にトレンチを２本設定し（第 19 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 20.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても、厚さ 40cm ほどの表土直下で暗黄褐色粘質土を呈



第 19 図　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群 トレンチ設定図（S = 1/300）

写真 31　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
１トレンチ全景（東から）

写真 32　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
２トレンチ全景（東から）

する地山を確認した。旧表土も遺存しておらず、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

調査地点は、卯名沢古墳群の北側古墳からおおよそ１ｍ東側にあたる。古墳周辺は近世墓群であるが、今回の計画範囲外であるため、調査は行わなかった。古墳から近いため、周溝の検出も想定されたが、古墳にかかわる遺構・遺物は検出されなかった。また、当該地は、卯名沢貝塚の北端に位置しているが、遺構・遺物が検出されなかったため、貝塚は丘陵の南側に拡がる可能性も考えられる。今後の調査成果に期待したい。

第９節　月立台遺跡

１．調査に至る経緯

平成 26 年 12 月８日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、新台地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である月立台遺跡（遺跡番号 59008）に該当している（第 20 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 19 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2452 号）。

つづいて、平成 27 年１月６日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 16 日付けで県教委から通知が出された（文第 2626 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年２月 24 日および 25 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

月立台遺跡は、市内台地内に所在する。大川支流の八瀬川の西側河岸段丘上に立地する縄文時代晩期および古代の散布地である。

本遺跡周辺は、遺跡が希薄な地域で、八瀬川の 1km 上流域に近世の製鉄生産遺跡とされる関根東遺跡、北西 1.5km に縄文時代の散布地とされる関根遺跡が知られている程度である。

月立台遺跡における調査は、近年では、平成 24 年度に店舗建設、平成 25 年度に個人住宅建設に伴う確認調査を実施しているが、遺構・遺物は検出されていない。しかしながら、平成４年度に道路改良工事および個人住宅建築工事に伴う発掘調査を行っており、縄文時代晩期の遺物包含層から多量の縄文土器のほか、石器が検出されている。

第 20 図　月立台遺跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、月立台遺跡の中央やや北東に位置しており、対象面積は約 418.8㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを３本設定し（第 21 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 27.1㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても、表土の下は１m以上の盛土で造成されており、地山は一部で確認できたのみであった。旧表土も遺存しておらず、遺構・遺物は検出されなかった。

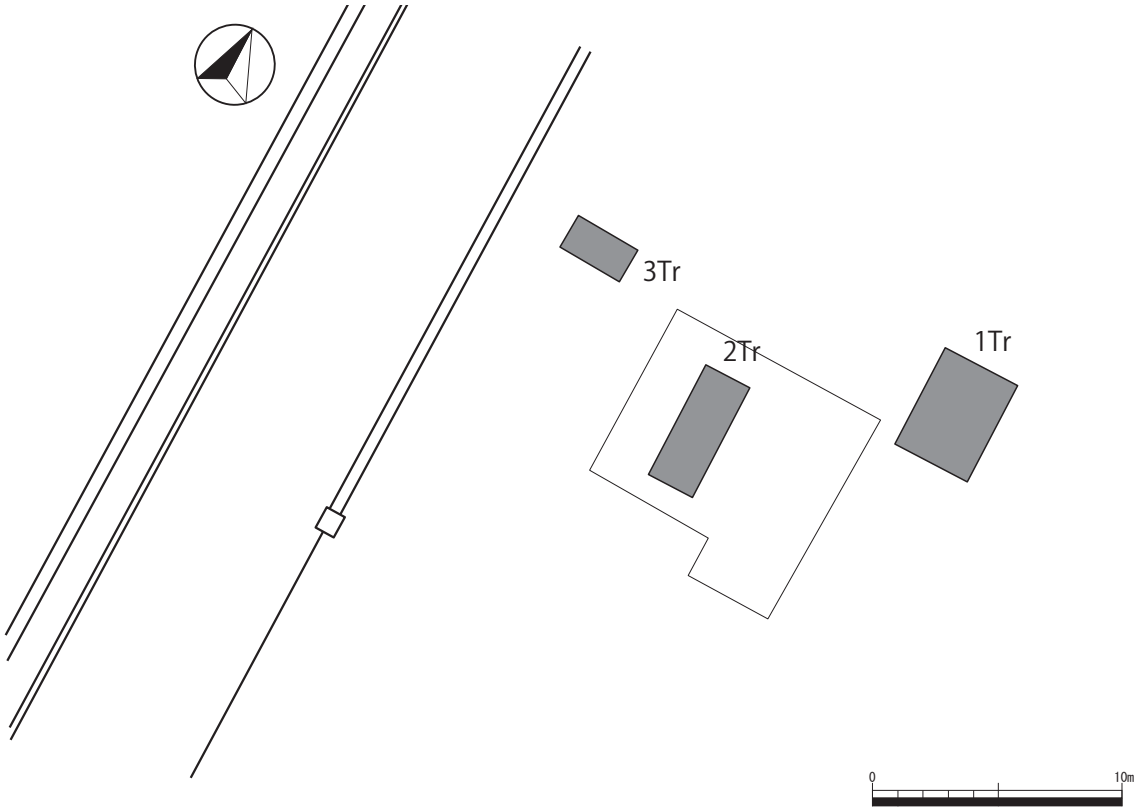
各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の調査地においては、厚く堆積した盛土により、地山まで確認できたトレンチは、１トレンチと３トレンチの一部のみであった。その堆積状況から判断して、すでに地山まで切土したのちに盛土で造成したものと推測できた。

月立台遺跡は、調査実績が少なく、また、周辺は遺跡が希薄な地域に立地している。しかし、先述したとおり、平成４年度には多量の縄文土器が検出されている。今後、調査事例の増加を待って、遺跡の範囲など、再検討することとしたい。



第 21 図　月立台遺跡 トレンチ設定図（S = 1/300）

写真 33　月立台遺跡 1 トレンチ土層堆積状況（南から）

写真 34　月立台遺跡 1 トレンチ全景（南から）

写真 35　月立台遺跡 2 トレンチ全景（南から）

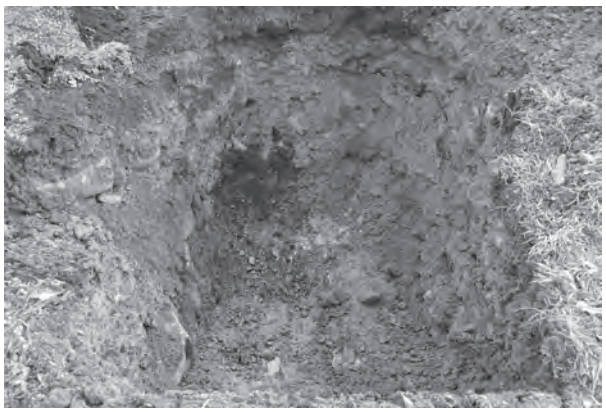


写真 36　月立台遺跡 3 トレンチ全景（西から）

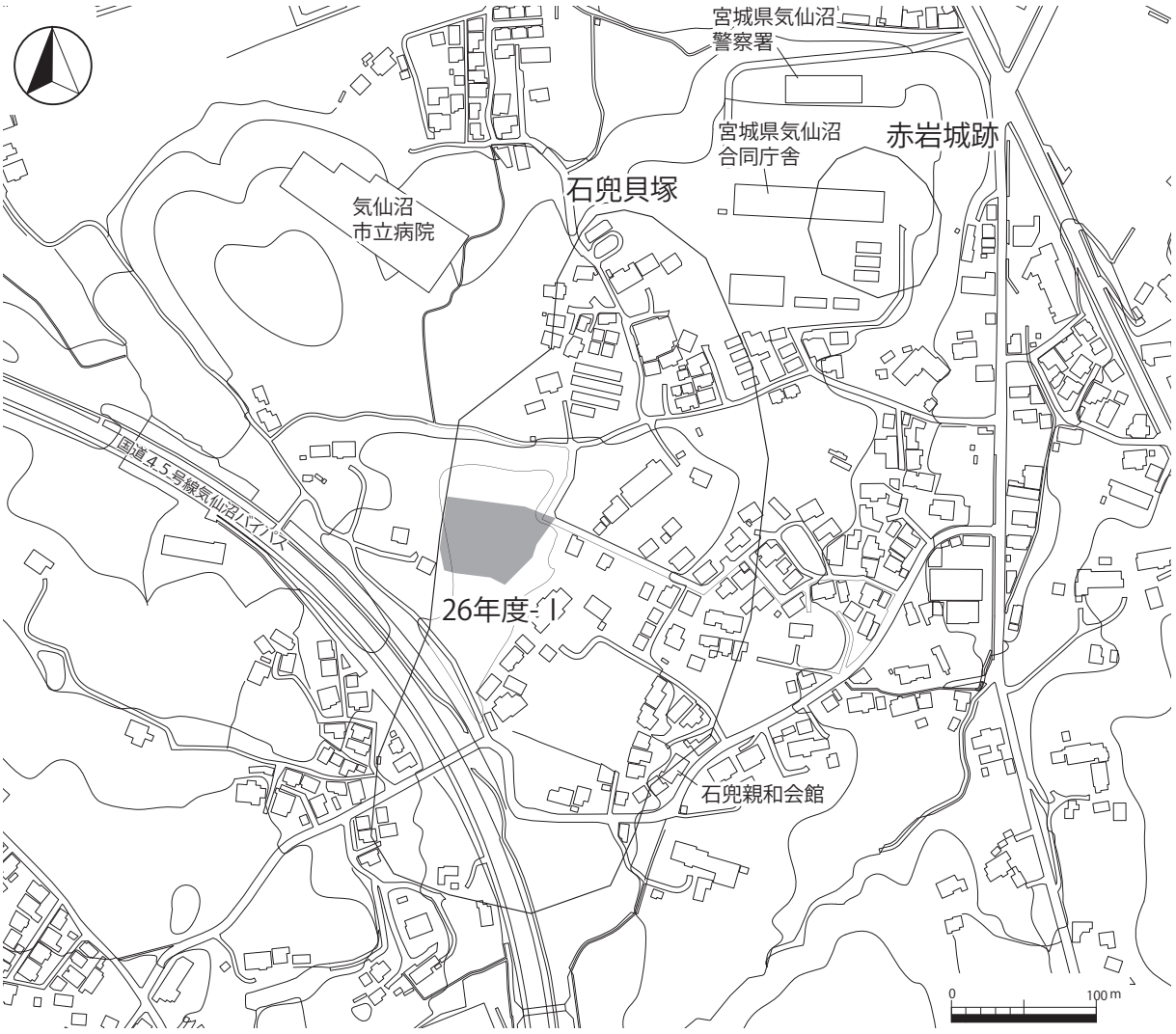
第 10 節　石兜貝塚

1．調査に至る経緯

平成 26 年 9 月 17 日、アパート新築工事実施予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩石兜地内における「宅地造成及びアパート新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 22 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 10 月 8 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1745 号）。

つづいて、10 月 20 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、11 月 7 日付けで県教委から通知が出された（文第 2073 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年 3 月 2 日および 3 日に確認調査を実施することとなった。



第 22 図　石兜貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

石兜貝塚は、市内赤岩石兜地内に所在する。国道 45 号気仙沼バイパス東側の丘陵に立地する古代・中世の貝塚である。

本遺跡周辺には、おおよそ 100 ｍ東に、縄文時代の散布地である赤岩遺跡が知られている。

石兜貝塚における調査は、気仙沼バイパス工事に伴う調査で江戸時代の遺構・遺物が検出されている（註1）。

（註１）宮城県教育委員会（1985）『宮城県文化財調査報告書第 106 集　石兜遺跡』宮城県教育委員会ほか

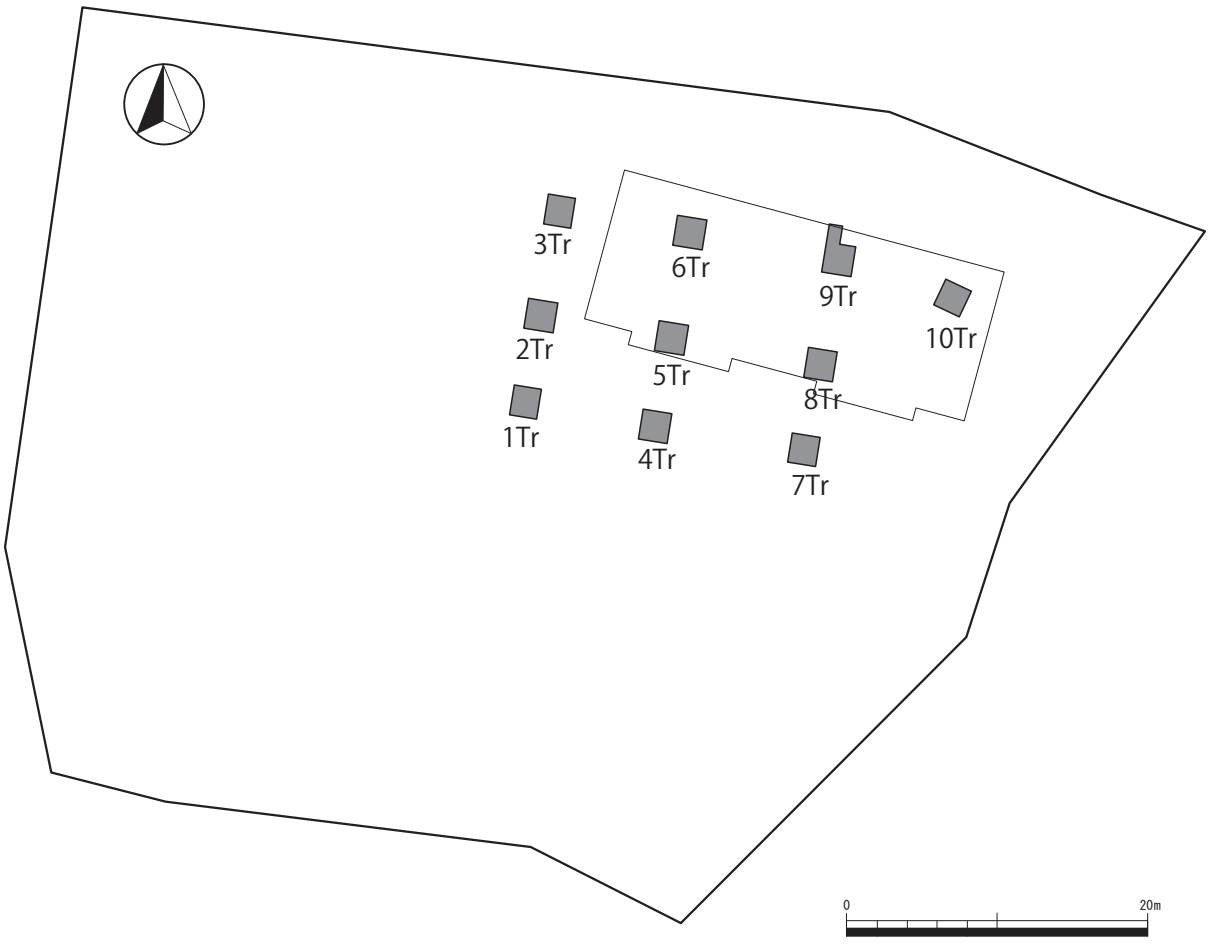
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、石兜貝塚の中央やや北側に位置し、対象面積は約 2,781.0㎡を測る。調査は、２ｍ四方の試掘坑を 10 か所設定し（第 23 図）、重機が進入し得ないという制約があったため、人力により掘削および精査を行った。調査面積は約 41.0㎡を測る。

調査の結果、いずれの試掘坑においても 20 ～ 30cm の表土直下で明黄褐色粘質シルトの地山を確認した。旧表土も遺存しておらず、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、人力で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用し



第 23 図　石兜貝塚 トレンチ設定図（Ｓ＝ 1/500）

てトレンチ配置図を作成した。

4．まとめ

石兜貝塚は、古代から中世にかけての貝塚とされている。先述したとおり、気仙沼パイパス工事に伴う発掘調査で江戸時代の遺構・遺物が検出されているが、貝塚の実態は不明である。今後の調査成果に期待したい。

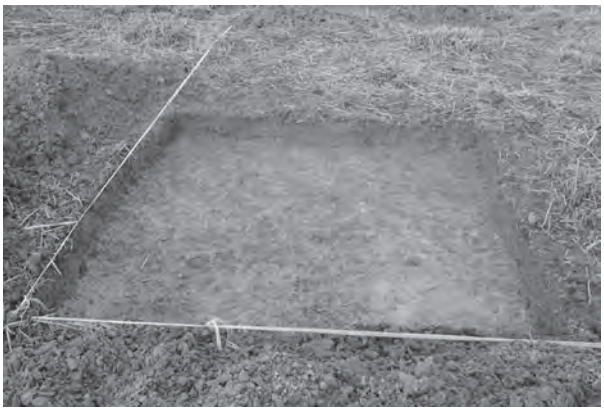


写真 37　石兜貝塚 1 トレンチ全景（南から）

写真 38　石兜貝塚 2 トレンチ全景（南から）

写真 39　石兜貝塚 3 トレンチ全景（南から）

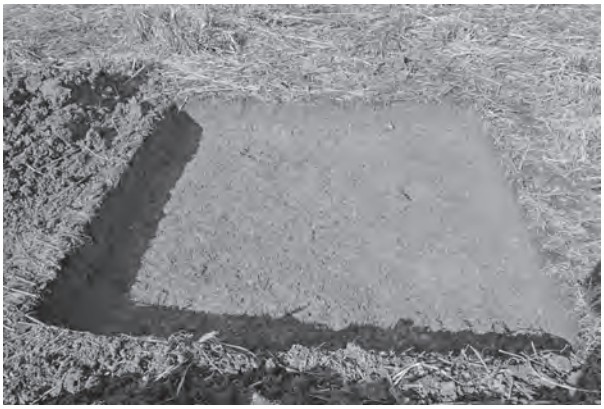


写真 40　石兜貝塚 4 トレンチ全景（南から）

写真 41　石兜貝塚 5 トレンチ全景（南から）

写真 42　石兜貝塚 6 トレンチ全景（南から）

写真 43　石兜貝塚 7 トレンチ全景（南から）

写真 44　石兜貝塚 8 トレンチ全景（南から）

写真 45　石兜貝塚 9 トレンチ全景（南から）

写真 46　石兜貝塚 10 トレンチ全景（南から）

第３章　平成 27 年度の調査

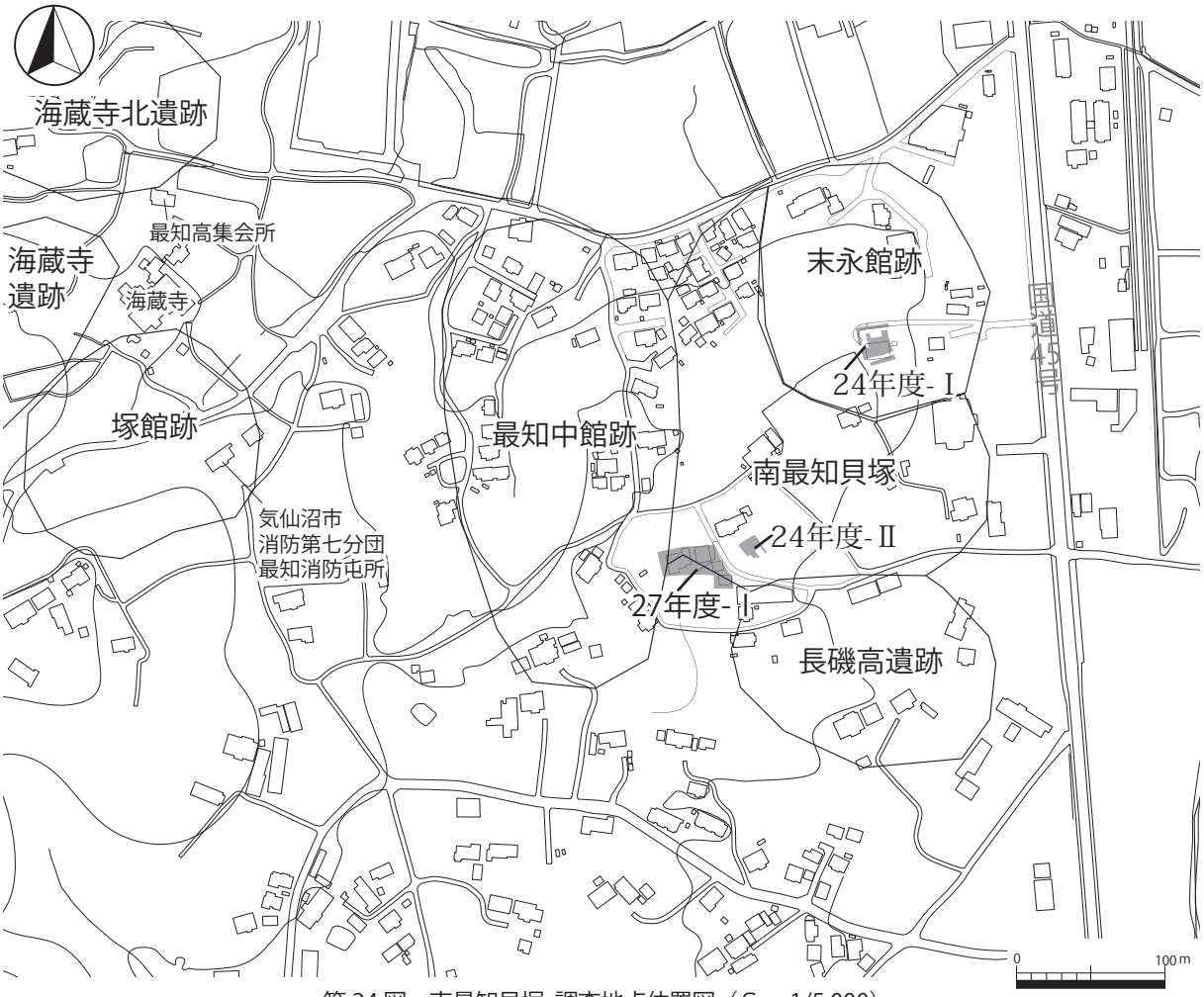
第１節　南最知貝塚

１．調査に至る経緯

平成 27 年６月 22 日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、最知南最知地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である南最知貝塚（遺跡番号 59035）に該当している（第 24 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、７月８日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 979 号）。

つづいて、同年７月 13 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、８月５日付けで県教委から通知が出された（文第 1239 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年８月６日に確認調査を実施することとなった。



第 24 図　南最知貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

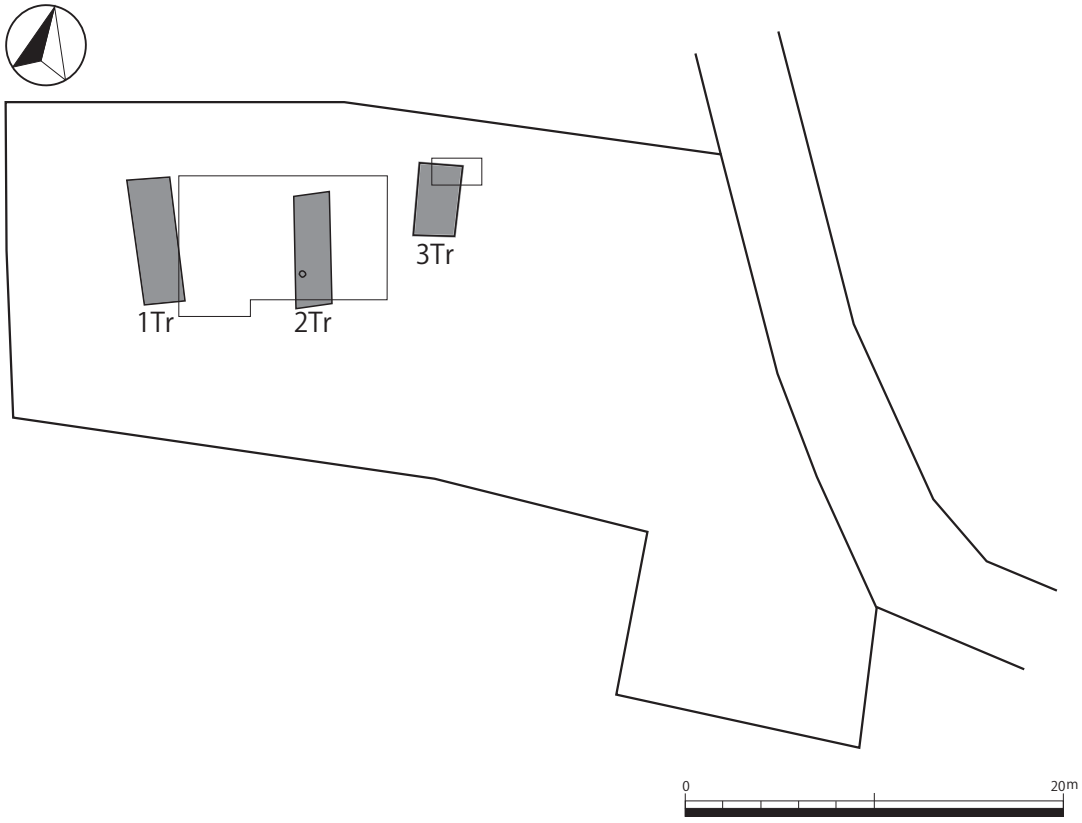
南最知貝塚は、市内最知南最知地内に所在する。気仙沼湾に向かって延びる標高 15 mほどの台地の先端部付近に立地する、縄文時代前・中・後期の貝塚および古墳時代後期の集落跡である。

本遺跡周辺には、末永館跡、最知中館跡、塚館跡、森館跡などの中世城館跡や古代の遺跡とされている海蔵寺北遺跡、海蔵寺遺跡、長磯高遺跡など、遺跡が密集している。本遺跡の北西 500 m の辺りは縄文時代中期の散布地とされる緑館遺跡が所在するが、近年の調査により古代の集落跡が確認され、周囲に本遺跡との関連を想定できる遺跡はみられない。

南最知貝塚は、北斜面に小規模な貝層２か所、南斜面に大規模な貝層が知られており、昭和 43 年に市史跡として指定されている。

本遺跡における調査は、昭和 45 年度に鼎ヶ浦高等学校が南斜面の貝層部分について行っており、自然遺物や縄文時代前期末から中期中葉の遺物が多量検出されている。また、近年では、平成 24 年度に個人住宅新築工事に伴う確認調査を２地点で実施している。その結果、いずれの調査地点においても竪穴建物跡や土坑などが検出されており、この２地点においては本調査を実施している（註１）。

（註１）気仙沼市教育委員会（2017）『気仙沼市文化財調査報告書 10　気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書１』気仙沼市教育委員会



第 25 図　南最知貝塚 トレンチ設定図（S = 1/400）

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、南最知貝塚の南西端近くに位置しており（第 24 図）、対象面積は約 123.0㎡を測る。調査は、南北方向に３本のトレンチを設定し（第 25 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 32.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても約 20cm 掘削したところで礫混じりの地山が確認された。また、２トレンチにおいて直径約 35cm の円形を呈する小穴が 1 基検出された。半截して確認したところ、確認面からの深さは 40cm ほどであったが、遺物は検出されず、時期など詳細は明らかにし得なかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の調査地点は、平成 24 年度に調査を実施した２次調査地点と通りを挟んで隣接する。平成 24 年度の調査においては、１次調査で奈良時代の竪穴建物跡が２軒、２次調査で奈良時代から平安時代の竪穴建物跡が 1 軒検出されている。先述したとおり、本遺跡の周辺に古代の集落としては海蔵寺遺跡、海蔵寺北遺跡、緑館遺跡が知られている。周辺の古代遺跡との関連性について、今後の課題としたい。また、今回の調査において検出された遺構は小穴 1 基のみで、遺物は検出されなかったが、今後資料の増加を待って遺跡の範囲についても再検討する必要があろう。

写真 47　南最知貝塚 １トレンチ全景（南から）

写真 48　南最知貝塚 ２トレンチ全景（南から）

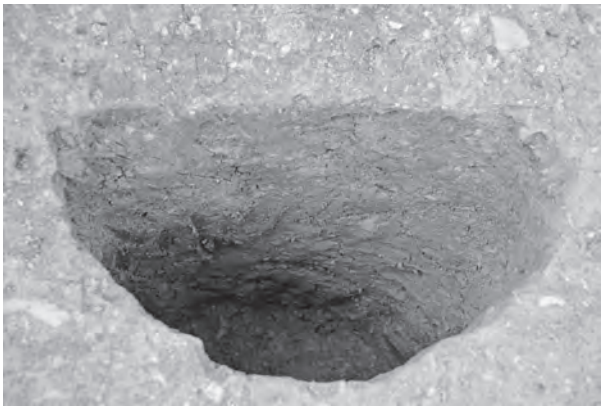


写真 49　南最知貝塚 ２トレンチ 小穴断面（南から）

写真 50　南最知貝塚 ３トレンチ全景（南から）

第２節　古館貝塚

１．調査に至る経緯

平成 27 年６月 22 日、整地造成工事実施予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、唐桑町鮪立地内における「整地造成計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である古館貝塚（遺跡番号 63017）に該当している（第 26 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、７月３日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 954 号）。

つづいて、同年７月８日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 17 日付けで県教委から通知が出された（文第 1096 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年８月７日～ 12 日に確認調査を実施することとなった。

第 26 図　古館貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

古館貝塚は、市内唐桑町鮪立地内に所在する。唐桑半島の付け根付近、内湾に突き出た半島状の鞍部に立地する、縄文時代前期～後期の貝塚である。

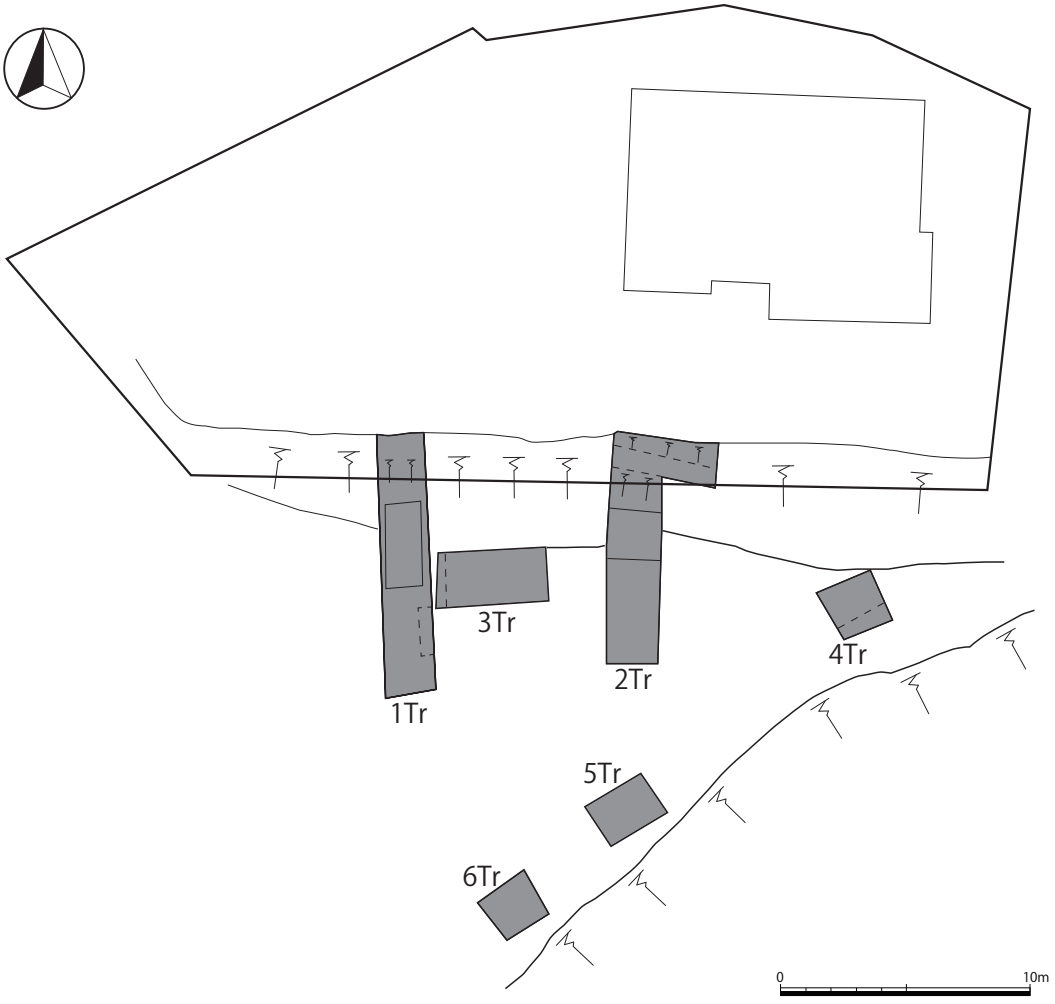
本遺跡周辺には、北西 500 m付近に藤ヶ浜貝塚、南東 250 m付近に長浜貝塚といった、縄文時代の貝塚が知られている。

本遺跡における調査は、平成 23 年度～ 27 年度にかけて、５地点で確認調査を実施している。そのうち、当該地の南西おおよそ 70 mの地点で、平成 24 年度に実施した個人住宅新築工事に伴う確認調査において、土坑が検出されたため、一部箇所について本調査を実施した。その結果、縄文土器や石器等を伴う土坑が４基検出されている。

３．調査の概要と成果

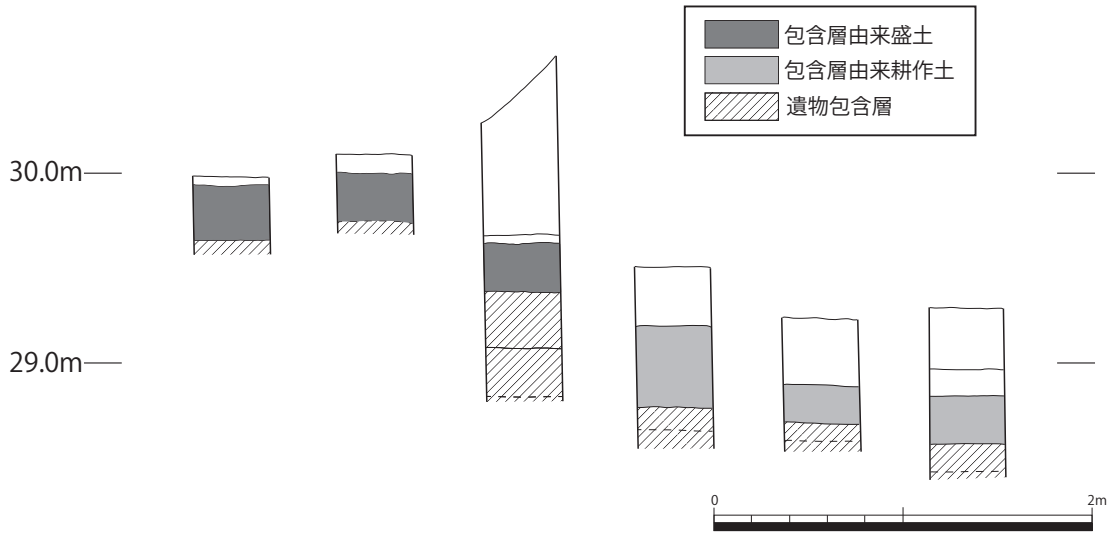
今回の調査地点は、古館貝塚の東方に位置しており（第 26 図）、対象面積は約 1,141.0㎡を測る。調査は、６本のトレンチを設定し（第 27 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 58.0㎡を測る。

調査の結果、北側に設定した１～３トレンチは、表土が５～ 10cm と薄く、その直下 15 ～



第 27 図　古館貝塚 トレンチ設定図（S＝ 1/300）

30cm 程の暗褐色粘質シルトを基調とし、遺物を多量含む堆積層、黒褐色粘質シルトを基調とし、遺物を含む層が確認された。南側の４～６トレンチでは、表土が 30 ～ 45cm と厚く、その下層が 20 ～ 45cm ほどの暗褐色粘質シルトを基調とする耕作土、さらにその下層が黒褐色粘質シルトを基調とする堆積層が確認された。



第 28 図　古館貝塚 土層堆積柱状図（S = 1/40）

写真 51　古館貝塚 １トレンチ全景（東から）

写真 52　古館貝塚 ２トレンチ土層堆積状況（北から）

写真 53　古館貝塚 ２トレンチ全景（東から）

写真 54　古館貝塚 ３トレンチ全景（北から）

土層の観察を行った結果、１～３トレンチでみられた暗褐色粘質シルトを基調とする堆積層は、地山粒の混入も多く、遺物を多量含んでいるものの、純粋な遺物包含層ではなく、遺物包含層に由来する二次堆積によるものであると推察できた。

今回の調査において、遺構は検出されなかったものの、ほぼ全面に遺物包含層が拡がり、その堆積状況は、北側で 30cm 以上と厚く、南側は 15cm ほどと薄いことが確認された。遺物は、縄文土器類が 2,059 点、石器類が 138 点検出された。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

調査終了後、事業者と市教委で取り扱いについて協議を行った。その結果、今回の事業で遺物包含層の確認面まで掘削を行わないため、本調査は行わないこととした。しかし、擁壁箇所については、工事の際に立会いを行い、遺物の出土状況の確認および採取を行うこととした。

擁壁箇所の立会いは平成 27 年 12 月 28 日および平成 28 年 1 月 4 日に実施し、１トレンチ設定箇所周辺を中心として縄文土器類 459 点及び石器類 63 点が検出された。

遺物は、すべてのトレンチで検出されたが、４トレンチは剥片が４点検出されたのみであった。特に北西部の１トレンチ及び３トレンチ付近で集中しており、工事立会いで採取した遺物（すべて、１トレンチ付近）を含めると、９割以上がこの２本のトレンチ（含周辺）で検出されている。また、時期は、おおよそ中期から後期に帰属するものであった。層的にまとまりがみられず、このこ

写真 55　古館貝塚 ４トレンチ土層堆積状況（東から）

写真 56　古館貝塚 ４トレンチ全景（南から）

写真 57　古館貝塚 ５トレンチ全景（南から）

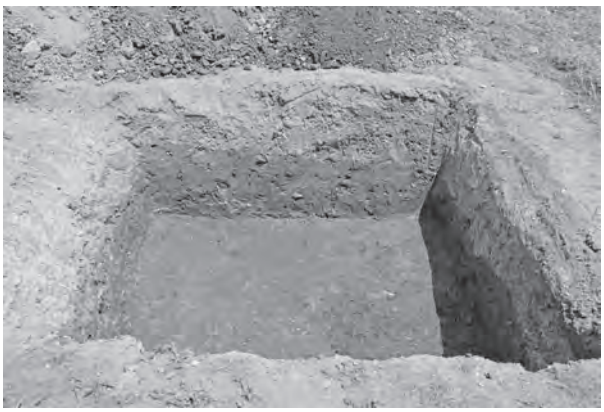
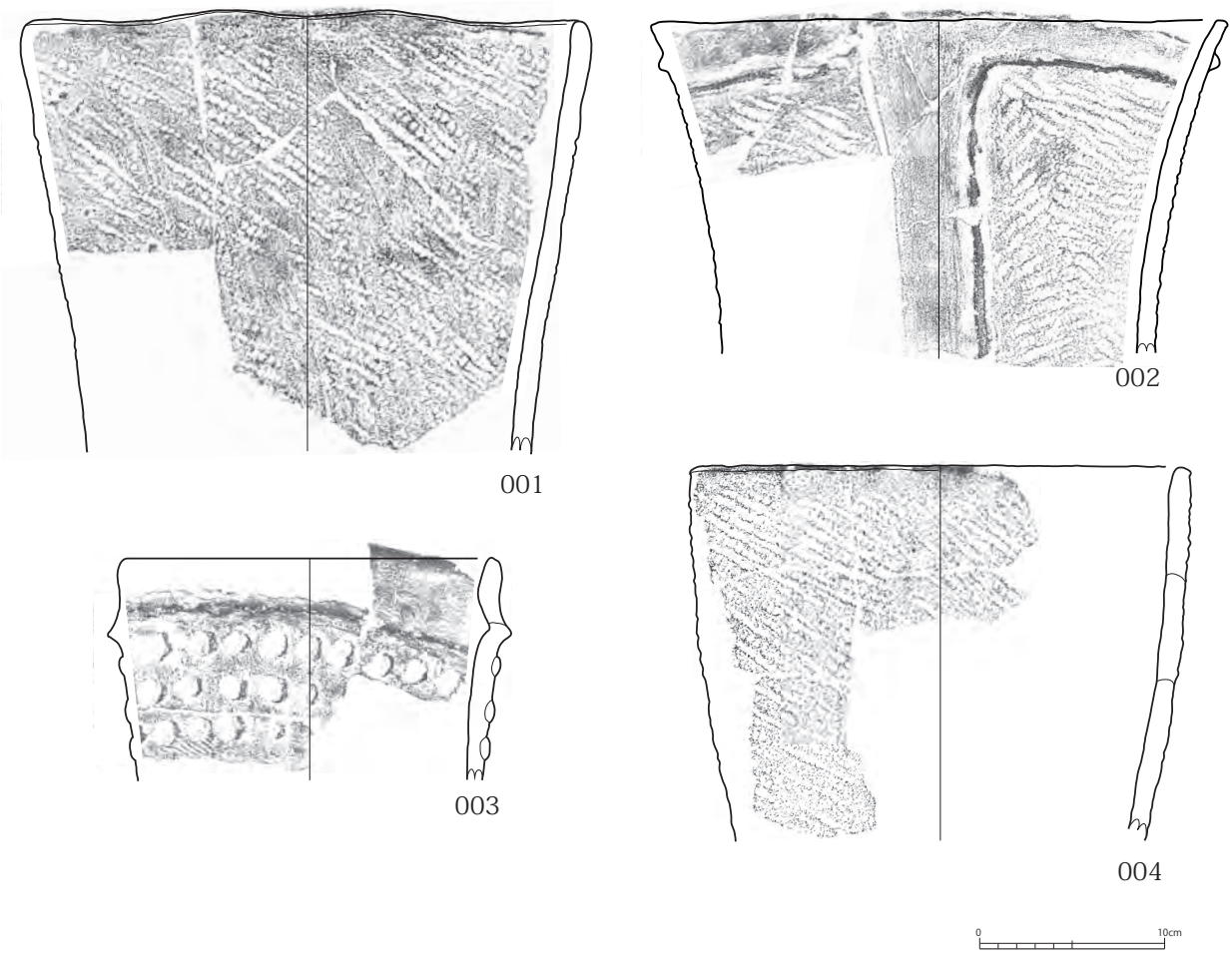


写真 58　古館貝塚 ６トレンチ全景（南から）

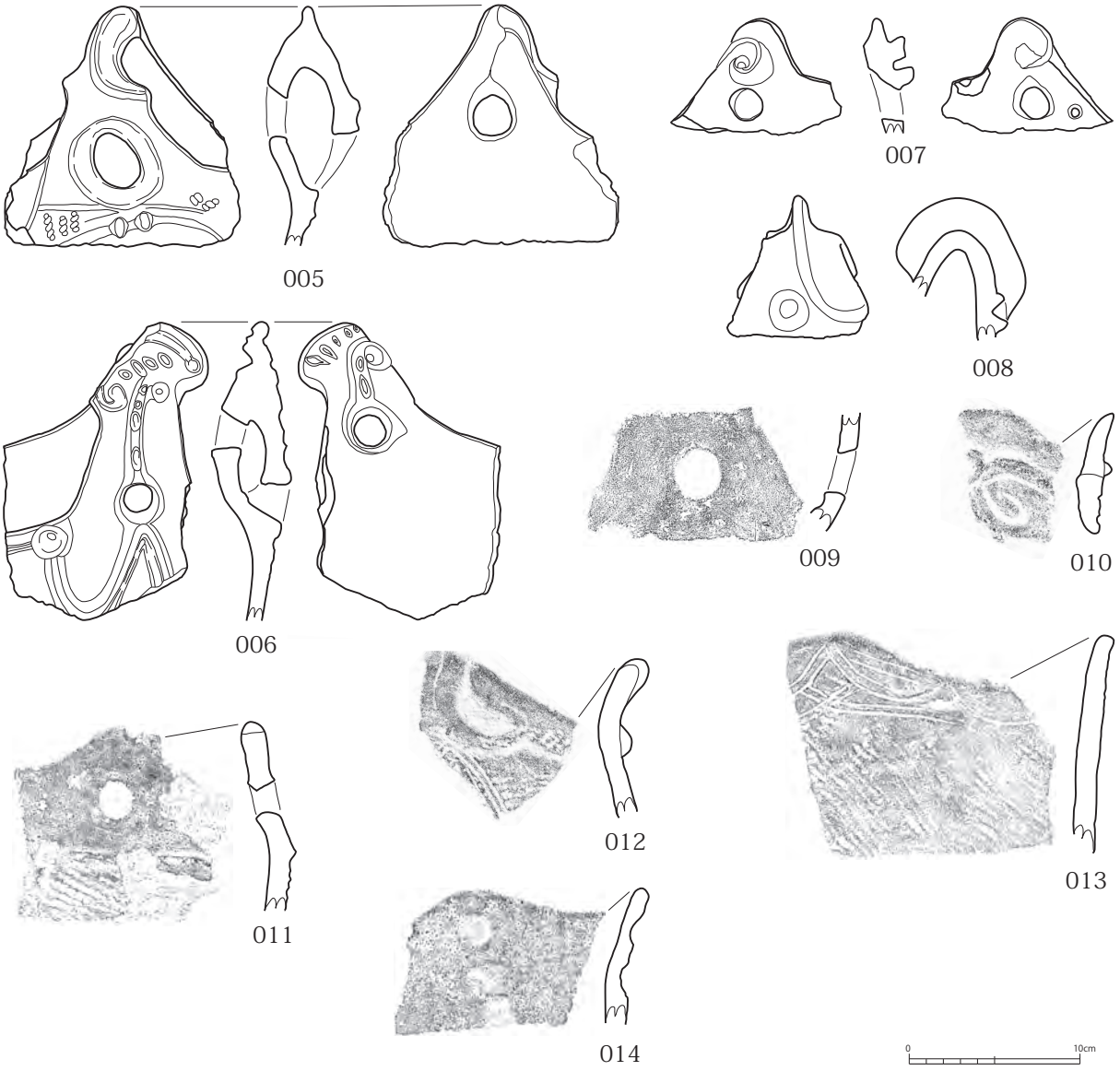
とからも、遺物包含層の二次堆積であることが推察できる。石器類は、製品は少なく、図示した石鏃（103）、石匙（104）、磨製石斧（105）、砥石（106）、石刀（107）くらいであり、ほかは磨石、敲石、剝片などであった。

確認調査及び立会い調査で検出された縄文土器類 2,518 点及び石器類 201 点のうち、縄文土器類 102 点、石器類 11 点を図示した。

001 ～ 095 は縄文土器で、054 ～ 056 が浅鉢であるほかは、いずれも深鉢と思われる。096 ～ 102 は土製品で、096 は土版、097 ～ 102 は土製円板である。また、103 ～ 113 は石器類である。



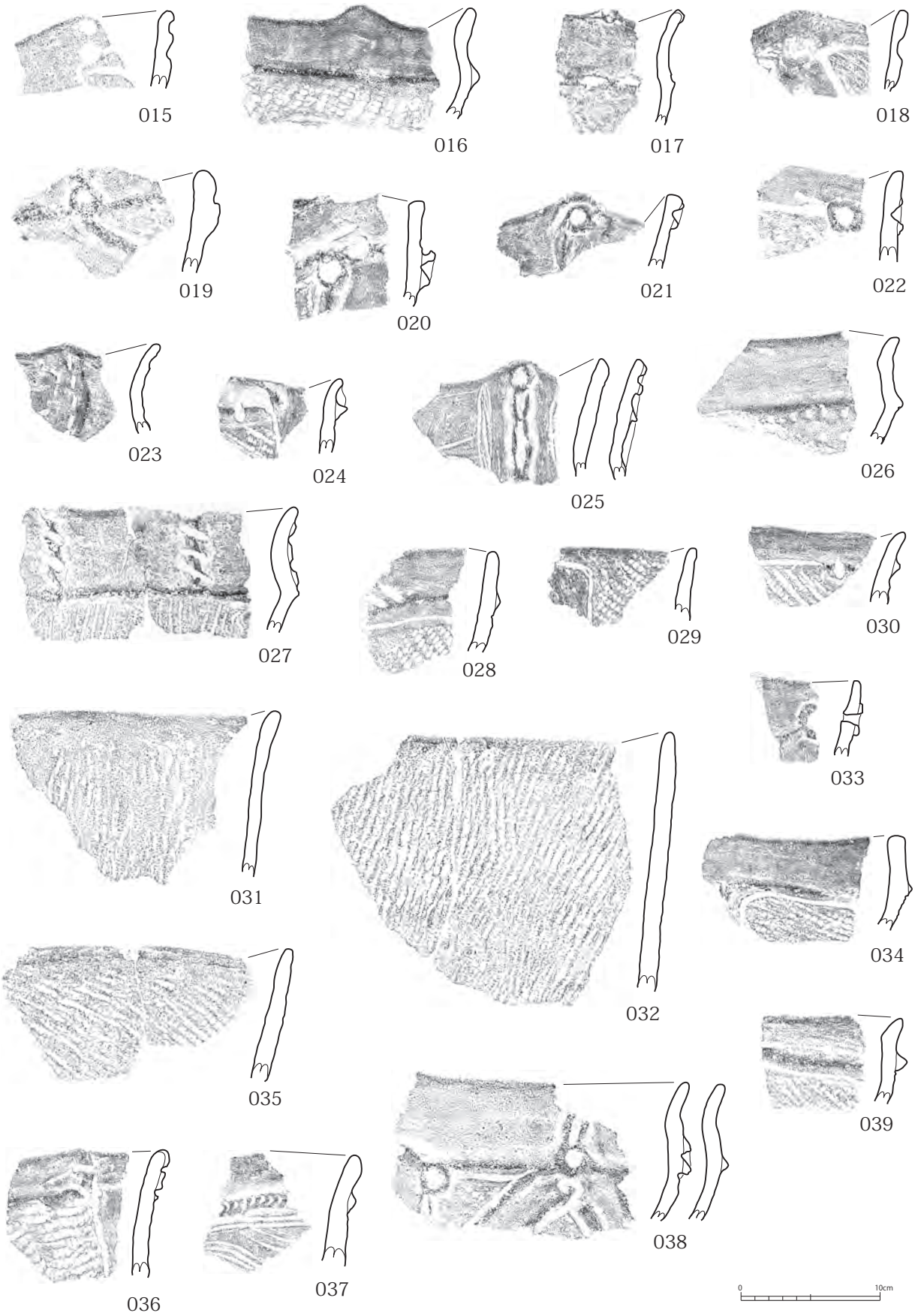
第 29 図　古館貝塚 出土遺物 1(土器 1)



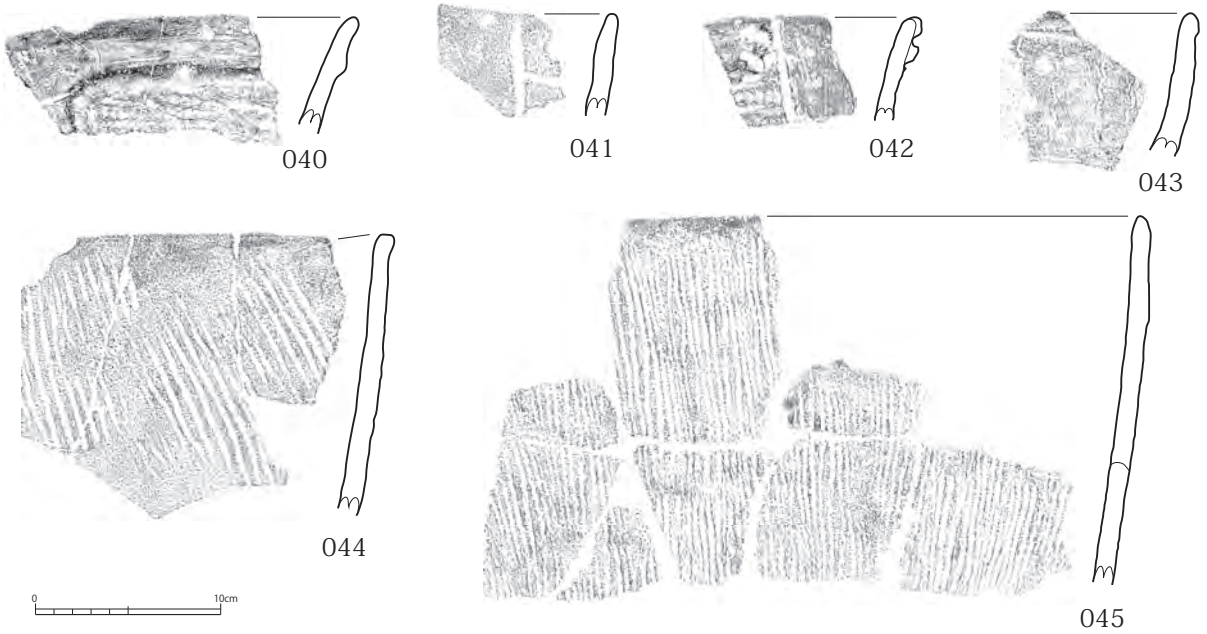
第 30 図　古館貝塚 出土遺物 2(土器 2)

第 7 表　古館貝塚 出土遺物観察表 1(土器 1)

No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
001	1 トレンチ	深鉢	口縁～胴部	口径（推定）22.6	波状口縁，撚糸文（LR）	にぶい黄橙色	石英		29	59
002	1 トレンチ	深鉢	口縁～胴部	口径（推定）23.0	平口縁，縄文（ＬＲ）→隆帯・沈線区画＋刺突文→磨消	黒褐色	石英	大木 10 式	29	59
003	1 トレンチ	深鉢	口縁～胴部	口径（推定）16.2	平口縁，胴部上位連続爪形刺突文，胴部下位縄文（LR）	暗赤褐色	石英		29	59
004	1 トレンチ	深鉢	口縁～胴部	口径（推定）21.0	平口縁，縄文（LR）	黒褐色	石英		29	59
005	1 トレンチ	深鉢	把手		山形中空把手，頂部弧状隆帯，下部輪形隆帯＋穿孔，頸部貼付隆帯＋刺突文，縄文（RL）	にぶい黄橙色	石英	門前式	30	59
006	1 トレンチ付近	深鉢	把手		橋状突起，穿孔，内外面に刺突文・盲孔	黄橙色	石英，雲母	門前式	30	59
007	1 トレンチ	深鉢	把手		山形突起，渦巻状隆帯＋盲孔，穿孔	浅い黄橙色	石英，雲母		30	59
008	1 トレンチ	深鉢	把手		台形中空把手，縦位隆帯，ボタン状貼付文	にぶい黄橙色	石英，白色粒	門前式	30	59
009	1 トレンチ	深鉢	把手		山形突起？穿孔	にぶい黄橙色	石英，小石	門前式	30	59
010	3 トレンチ	深鉢	把手		把手の一部，穿孔	にぶい黄橙色	石英，雲母		30	59
011	1 トレンチ	深鉢	口縁		山形突起，頂部に盲孔，穿孔，縄文（LR）→隆帯区画	にぶい黄橙色	雲母	大木 10 式	30	59
012	1 トレンチ	深鉢	口縁		山形突起，口唇部貼付隆帯＋縄文（RL），胴部縄文（RL）→沈線	にぶい黄橙色	石英，小石		30	59
013	2 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，口縁部沈線文，胴部縄文（LR）	橙色	石英，小石		30	59
014	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，波頂部から垂下する円形連続刺突文	にぶい黄橙色	石英，小石	門前式	30	59



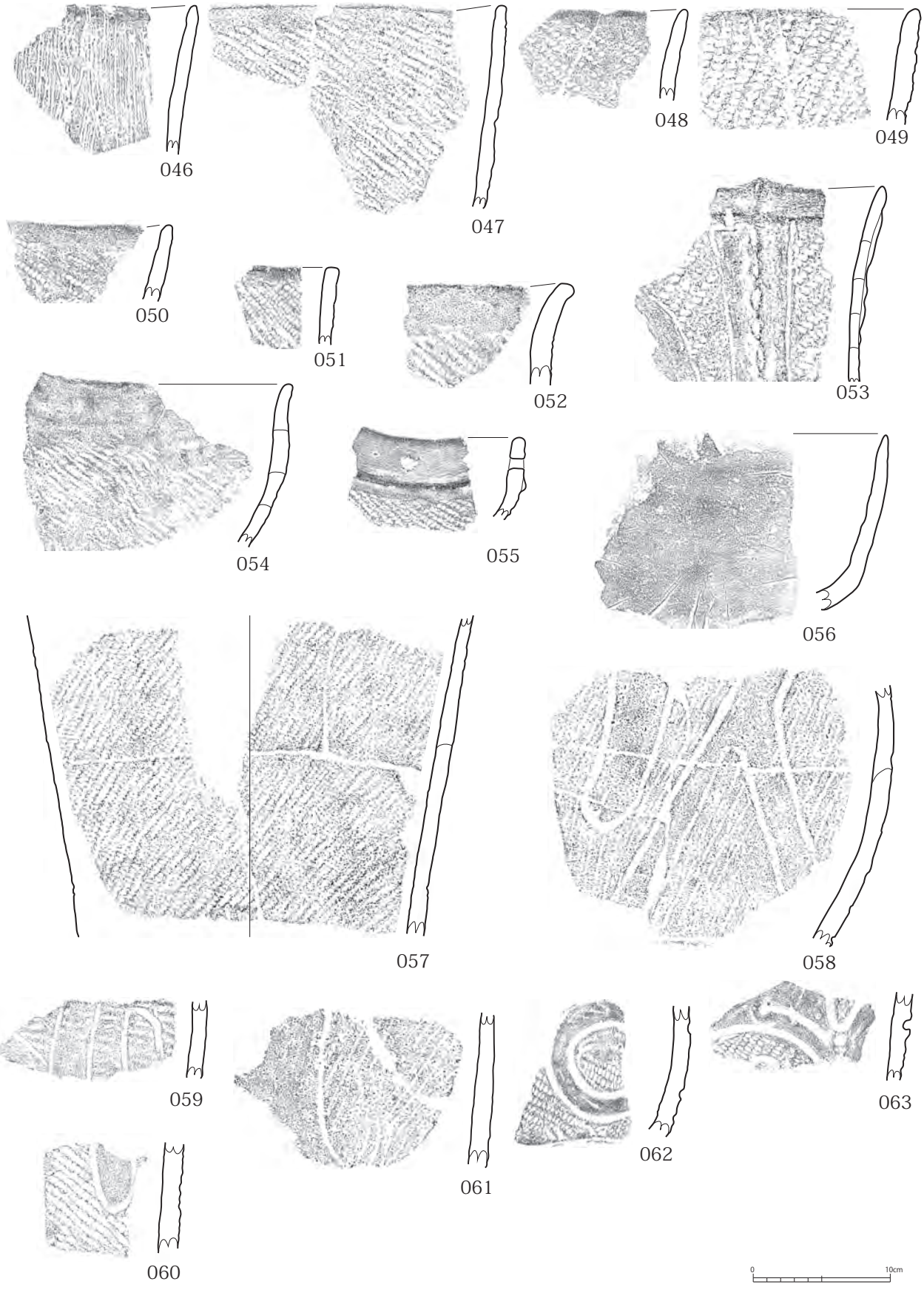
第 31 図　古館貝塚 出土遺物 3(土器 3)



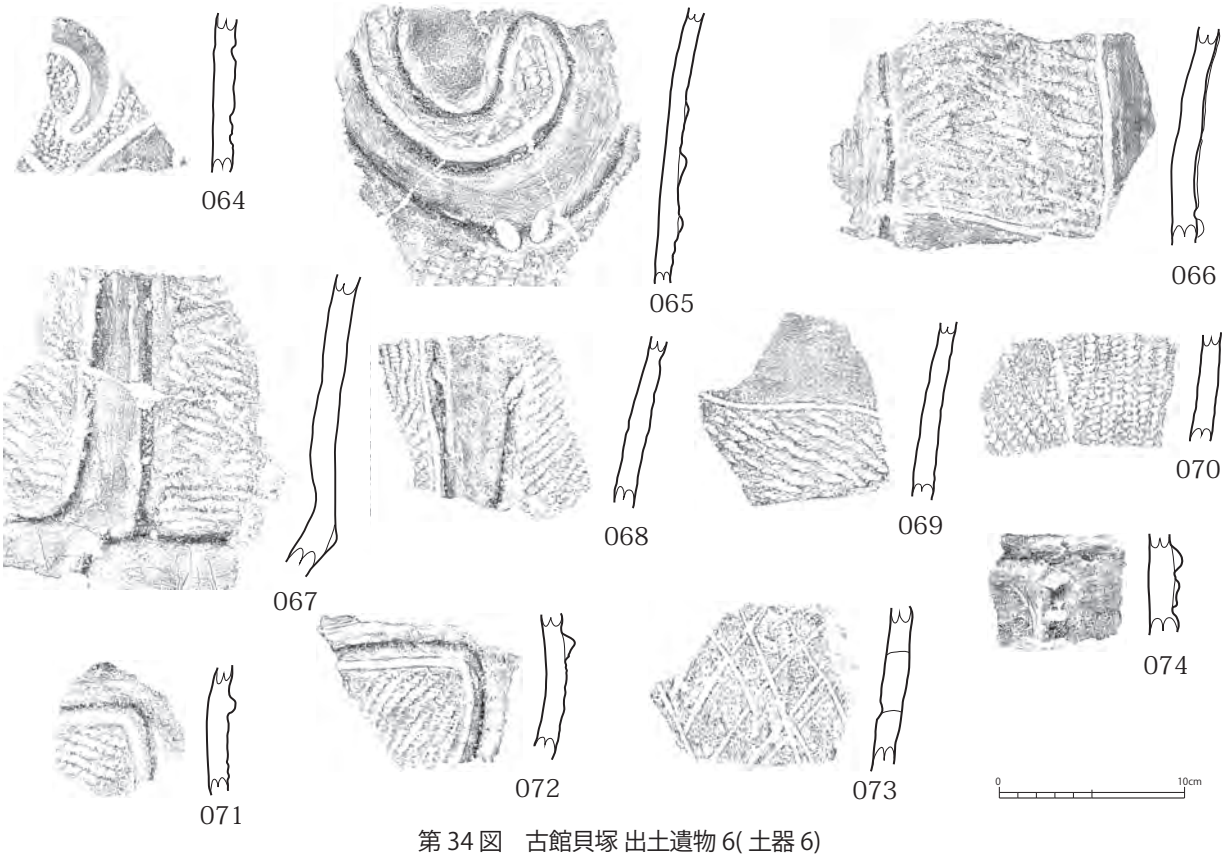
第 32 図　古館貝塚 出土遺物 4(土器 4)

第 8 表　古館貝塚 出土遺物観察表 2(土器 2)

No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
015	3 トレンチ	深鉢	口縁		沈線文，盲孔	橙色	石英，小石	門前式	31	59
016	1 トレンチ	深鉢	口縁		平口縁＋山形突起，縄文（LR）→頸部貼付隆帯	にぶい橙色	石英，小石		31	59
017	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，口唇部貼付隆帯，波頂部に半円形の抉り，頸部鎖状隆帯	赤灰色	石英，雲母	門前式	31	59
018	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，縄文（LR）→沈線区画→磨消→波頂部に円形の刺突文	明赤褐色	雲母，小石	門前式	31	59
019	3 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）→隆帯区画・ボタン状貼付文→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	雲母，小石	門前式	31	60
020	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）→貼付隆帯→沈線文→ボタン状貼付文	にぶい黄橙色	雲母，小石	門前式	31	60
021	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，口唇部肥厚，波頂部から垂下する貼付隆帯→波頂部にボタン状貼付文＋盲孔	橙色	雲母，小石	門前式	31	60
022	3 トレンチ	深鉢	口縁		頸部沈線文→ボタン状貼付文＋盲孔，胴部縄文（LR）	にぶい黄橙色	雲母，小石	門前式	31	60
023	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，口唇部肥厚，波頂部から垂下する貼付隆帯→連続刺突文	黒褐色	雲母，小石		31	60
024	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，縄文（LR）→隆帯区画＋刺突文	にぶい黄褐色	石英，小石	大木 10 式	31	60
025	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，波頂部に盲孔，波頂部から垂下する鎖状隆帯，沈線文	橙色	雲母，小石	門前式	31	60
026	1 トレンチ	深鉢	口縁		頸部隆帯，胴部鱗状連続刺突文	にぶい黄橙色	石英，小石		31	60
027	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，波頂部から垂下する鎖状隆帯＋刺突文，頸部隆帯，胴部撚糸文（R?）	橙色	長石，小石	大木 10 式？	31	60
028	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）→貼付隆帯＋刺突文→沈線文	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	31	60
029	1 トレンチ	深鉢	口縁		沈線区画内磨消縄文（LR）	暗褐色	雲母，小石	大木 10 式	31	60
030	1 トレンチ	深鉢	口縁		頸部貼付隆帯＋刺突文，沈線文，縄文（LR）	暗褐色	雲母，小石	大木 10 式	31	60
031	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		縄文（LR）	にぶい黄橙色	雲母，小石		31	60
032	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		平口縁，撚糸文（R）	褐色	石英		31	60
033	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，貼付隆帯，ボタン状貼付文＋穿孔	淡橙色	雲母，白色粒	門前式	31	60
034	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，縄文（LR）→隆帯区画→沈線文	にぶい黄橙色	雲母，小石		31	60
035	1 トレンチ	深鉢	口縁		口唇部肥厚，縄文（LR）	褐色	雲母，小石		31	60
036	1 トレンチ	深鉢	口縁		貼付隆帯＋刺突文，口唇部から垂下する沈線文，縄文（LR?）	にぶい黄橙色	雲母，小石		31	60
037	1 トレンチ	深鉢	口縁		貼付隆帯＋爪形連続刺突文→沈線文	淡橙色	雲母，小石		31	60
038	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		縄文（LR）→隆帯区画，ボタン状貼付文＋盲孔→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	雲母，小石	門前式	31	60
039	3 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）→隆帯→沈線文	にぶい黄橙色	石英，小石		31	60
040	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）→隆帯区画→磨消	にぶい褐色	雲母，白色粒	大木 10 式	32	60
041	3 トレンチ	深鉢	口縁		沈線文	にぶい黄橙色	雲母，小石		32	60
042	1 トレンチ	深鉢	口縁		貼付隆帯＋刺突文，口唇部から垂下する沈線文，縄文（LR）	にぶい黄橙色	雲母，小石	大木 10 式	32	60
043	3 トレンチ	深鉢	口縁		口唇部直下に沈線文，縄文（R）→垂下する爪形連続刺突文→磨消	褐灰色	雲母，白色粒		32	60
044	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		縄文（LR）	黄橙色	石英，小石		32	60
045	1 トレンチ	深鉢	口縁		平口縁，撚糸文（R）	褐色	石英		32	60



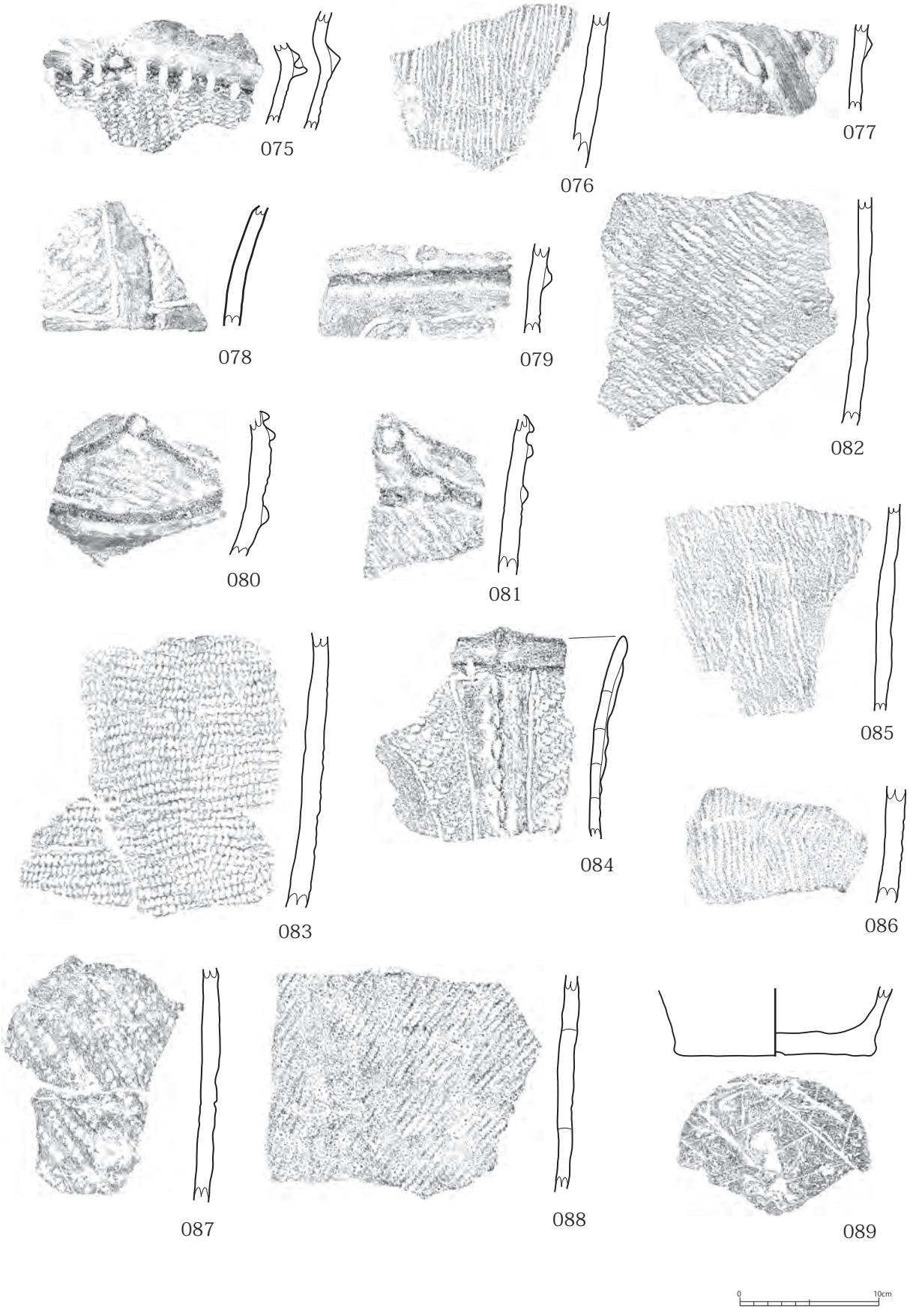
第 33 図　古館貝塚 出土遺物 5(土器 5)



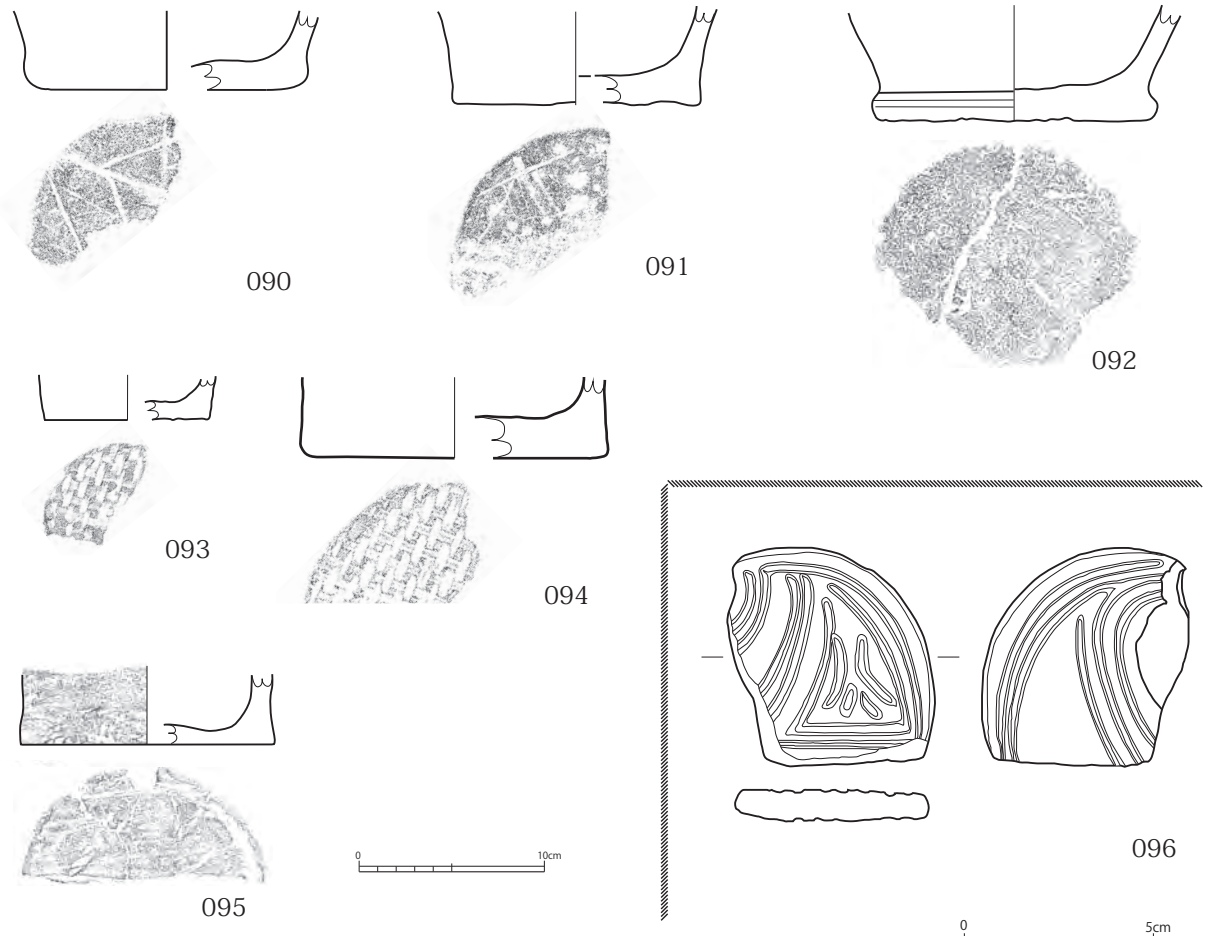
第 34 図　古館貝塚 出土遺物 6(土器 6)

第 9 表　古館貝塚 出土遺物観察表 3(土器 3)

No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
046	3 トレンチ	深鉢	口縁		撚糸文（R?）	褐灰色	石英，小石		33	60
047	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR?）	褐色	雲母，小石		33	60
048	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）	黒褐色	石英，小石		33	60
049	3 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）	橙色	石英，小石		33	60
050	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）	にぶい黄橙色	石英，白色粒		33	60
051	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）	にぶい黄橙色	石英，小石		33	60
052	3 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）	橙色	石英，小石 (多)		33	60
053	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		平口縁＋山形突起，縄文（RL）→頸部貼付隆帯＋刺突文，垂下する鎖状隆帯→沈線文→磨消	にぶい橙褐色	石英，小石	門前式	33	61
054	3 トレンチ	浅鉢	口縁		波状口縁，縄文（LR?）	にぶい黄橙色	石英 (少)，小石		33	61
055	1 トレンチ	浅鉢	口縁		口縁帯に穿孔，縄文（LR）→頸部貼付隆帯	褐色	雲母，小石		33	61
056	1 トレンチ付近	浅鉢	口縁		無文	灰白色	石英，小石		33	61
057	3 トレンチ	深鉢	胴部		横位縄文（LR）	にぶい黄橙色	石英		33	61
058	3 トレンチ	深鉢	胴部		撚糸文（R），沈線区画→磨消	橙色	石英，小石	大木 10 式	33	61
059	3 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（LR），刺突文	橙色	雲母，小石	大木 10 式	33	61
060	3 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL）	にぶい黄橙色	石英 (多)，小石	大木 9 ～ 10 式	33	61
061	3 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL）	橙色	石英，小石 (多)	大木 9 ～ 10 式	33	61
062	1 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL）	にぶい黄橙色	雲母，小石	大木 10 式	33	61
063	1 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL），盲孔	にぶい黄橙色	石英，小石	門前式	33	61
064	1 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL），盲孔	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
065	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）→隆帯区画＋刺突文→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
066	1 トレンチ	深鉢	胴部		羽状縄文（RL LR）→隆帯区画→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式？	34	61
067	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（LR）→隆帯区画→磨消	橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
068	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）→隆帯区画→沈線文→磨消	橙色	雲母，小石	大木 10 式	34	61
069	1 トレンチ	深鉢			沈線区画，縄文（LR）	橙色	雲母，小石	大木 10 式	34	61
070	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）	暗褐色	石英，小石		34	61
071	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（LR）隆帯区画→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
072	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）→隆帯区画→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
073	3 トレンチ	深鉢	胴部		不整格子状沈線文	にぶい黄橙色	石英，小石		34	61
074	1 トレンチ	深鉢	胴部		横位隆帯，縦位隆帯＋刺突文	にぶい橙色	雲母，小石		34	61



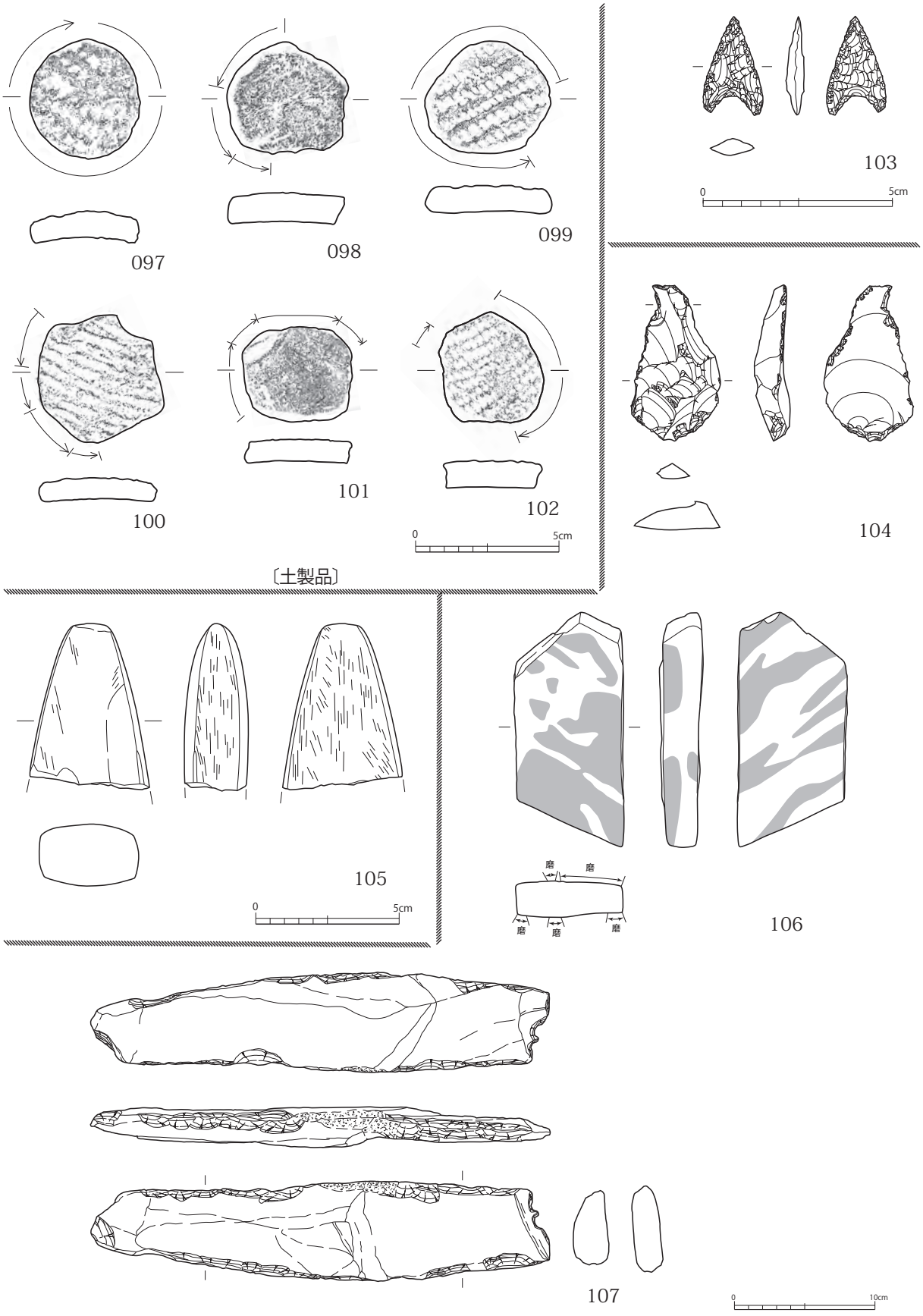
第 35 図　古館貝塚 出土遺物 7(土器 7)



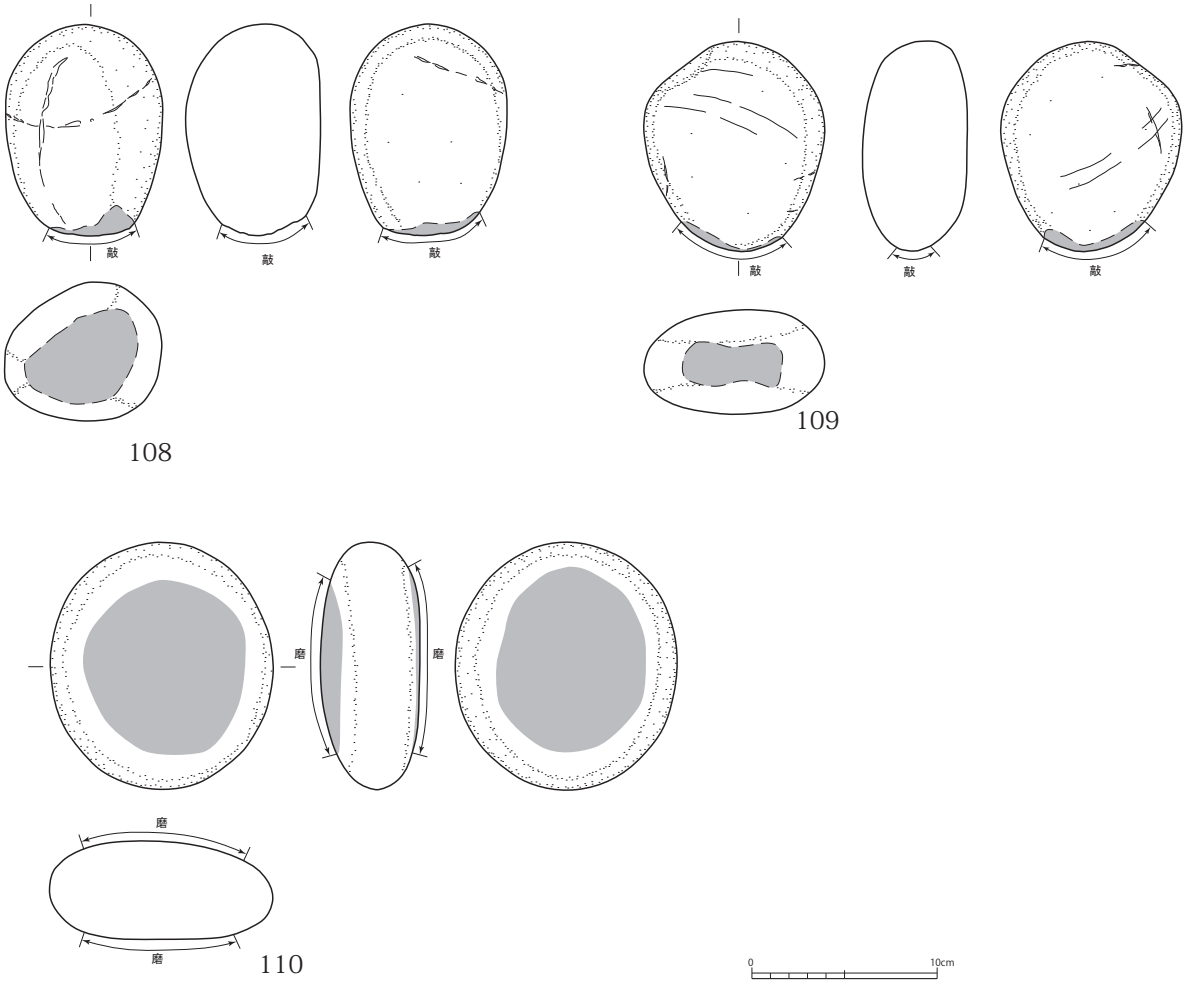
第 36 図　古館貝塚 出土遺物 8(土器８・土製品 1)

第 10 表　古館貝塚 出土遺物観察表 4(土器 4・土製品 1)

No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
075	1 トレンチ	深鉢	胴部		頸部貼付隆帯＋刺突文→ボタン状貼付文	橙色	雲母，小石	門前式	35	61
076	1 トレンチ	深鉢	胴部		撚糸文（R）	にぶい黄橙色	石英，小石		35	61
077	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）→隆帯区画＋刺突文→磨消	淡橙色	石英，小石	大木 10 式	35	61
078	1 トレンチ	深鉢	胴部		隆帯，沈線区画内磨消縄文（RL）	にぶい黄橙色	雲母，小石	大木 10 式	35	61
079	1 トレンチ	深鉢	胴部		貼付隆帯，沈線区画内磨消縄文（RL）	にぶい黄橙色	石英，小石		35	62
080	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（LR）→隆帯区画→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英・小石 (多)	門前式	35	62
081	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（LR）→隆帯区画→ボタン状貼付文＋盲孔→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	門前式	35	62
082	1 トレンチ付近	深鉢	胴部		縄文（LR）	橙色	石英，小石		35	62
083	1 トレンチ付近	深鉢	胴部		縄文（LR）	にぶい黄橙色	雲母，小石		35	62
084	1 トレンチ付近	深鉢	胴部		撚糸文 r	にぶい黄橙色	雲母，小石		35	62
085	1 トレンチ付近	深鉢	胴部		縄文（LR）	にぶい黄橙色	石英，小石		35	62
086	3 トレンチ	深鉢	胴部		櫛歯条痕文，磨耗顕著	橙色	石英，小石		35	62
087	2 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）	褐色	石英，小石		35	62
088	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）	にぶい黄橙色	雲母，小石 (多)		35	62
089	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）9.9	底面葉脈痕	暗褐色，(内) 橙色	雲母，小石		35	62
090	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）10.4	底面葉脈痕	にぶい黄橙色	石英，小石		36	62
091	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）9.1	（胴部）ミガキ，底面葉脈痕	にぶい黄橙色	石英，小石		36	62
092	3 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）10.5	底面葉脈痕	にぶい黄橙色	石英，小石		36	62
093	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）6.9	底面網代痕	灰黄褐色	石英，小石		36	62
094	3 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）10.7	（胴部）ミガキ，底面網代痕	にぶい橙色	石英，小石		36	62
095	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）9.9	（胴部）縄文	灰黄褐色	石英，小石		36	62
096	1 トレンチ付近	土版	—	長径（残存）5.8，短径（残存）5.5，厚さ 0.8	両面に沈線文	灰白色	石英		36	62



第 37 図　古館貝塚 出土遺物 9(土製品２・石器１)



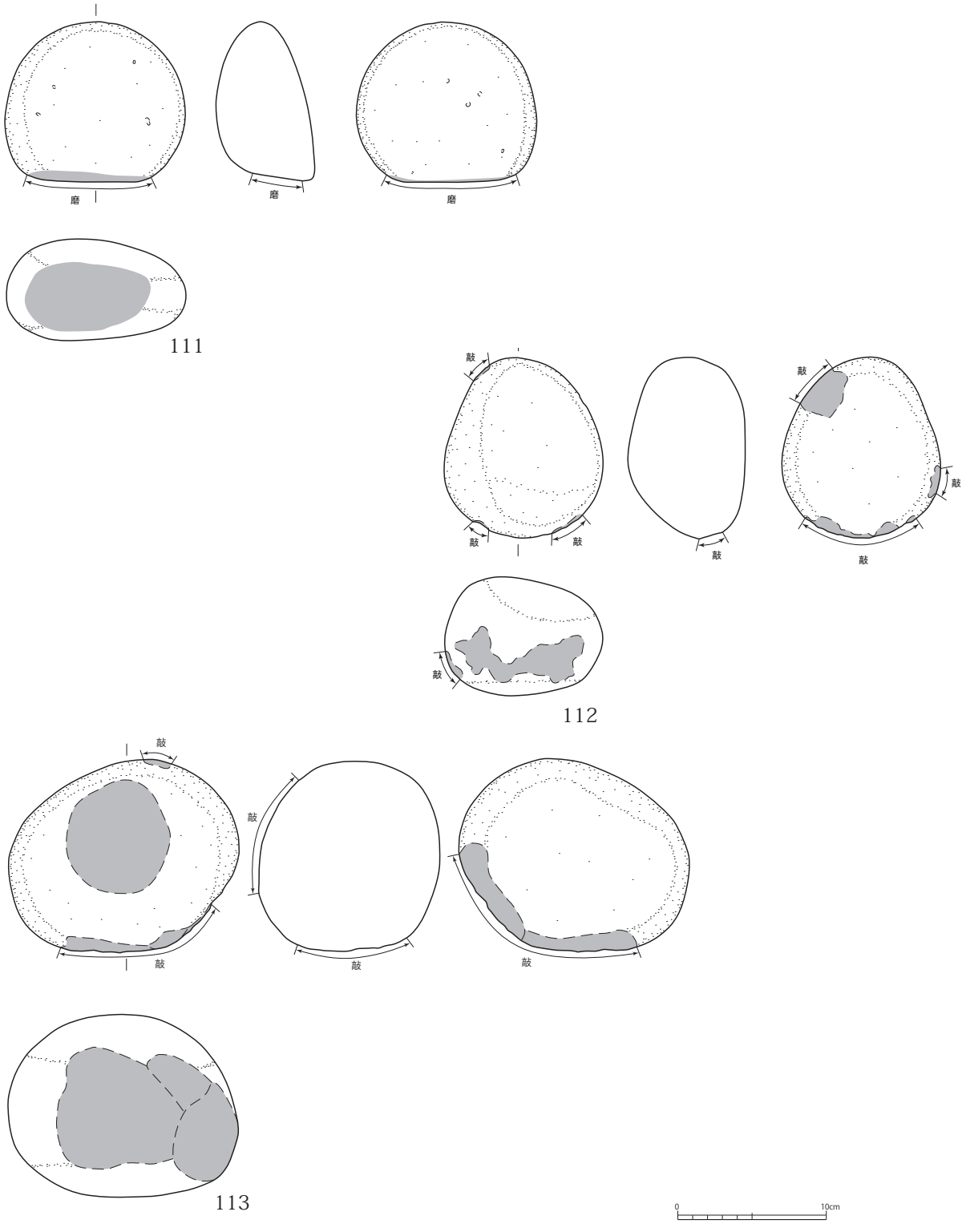
第 38 図　古館貝塚 出土遺物 10(石器 2)

第 11 表　古館貝塚 出土遺物観察表 5(土製品 2)

No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
097	1 トレンチ	土製円板		長径 4.2，短径 3.9，厚さ 1.1	縄文（LR）	にぶい橙色	石英，小石		37	62
098	1 トレンチ	土製円板			縄文，磨耗顕著	にぶい黄橙色	雲母，小石		37	62
099	1 トレンチ付近	土製円板		長径 4.4，短径 3.9，厚さ 1.0	縄文	にぶい黄橙色	石英，小石		37	62
100	1 トレンチ付近	土製円板		長径 4.5，短径 4.4，厚さ 0.9	縄文	灰白色	石英，小石		37	63
101	3 トレンチ付近	土製円板		長径 3.9，短径 3.3，厚さ 0.9	縄文	にぶい黄橙色	石英，小石		37	63
102	3 トレンチ付近	土製円板		長径 (残存)3.9, 短径 (残存 3.7，厚さ 1.0	縄文（RL）	にぶい黄橙色	石英，小石		37	63

第 12 表　古館貝塚 出土遺物観察表 6 (石器 1)

No.	検出地点	器種	法量（mm）			重量 (g)	石質	備考	図番号	写真番号
			長さ	幅	厚さ					
103	1 トレンチ付近	石鏃	26	16	5	1.3	珪質頁岩	凹基鏃	37	63
104	3 トレンチ	石匙	82	46	19	49.4	珪質頁岩		37	63
105	3 トレンチ	磨製石斧	58	42	23	80.4	砂岩	下部欠損	37	63
106	6 トレンチ	砥石	123	58	24	231.7	凝灰岩		37	63
107	6 トレンチ	石刀	246	53	22	320.4	千枚岩		37	63
108	1 トレンチ	磨石	85	63	56	452.2	安山岩		38	63
109	3 トレンチ	磨石	84	72	42	389.6	泥岩		38	63
110	1 トレンチ	磨石	100	80	40	576.7	デイサイト		38	63



第39図　古館貝塚 出土遺物11(石器3)

第13表　古館貝塚 出土遺物観察表7(石器2)

No.	検出地点	器種	法量（mm）			重量(g)	石質	備考	図番号	写真番号
			長さ	幅	厚さ					
111	3トレンチ	磨石	81	90	51	503.9	砂岩		39	63
112	1トレンチ	敲石	91	79	60	589.6	安山岩		39	63
113	1トレンチ付近	敲石	92	115	91	1,463.3	安山岩		39	63

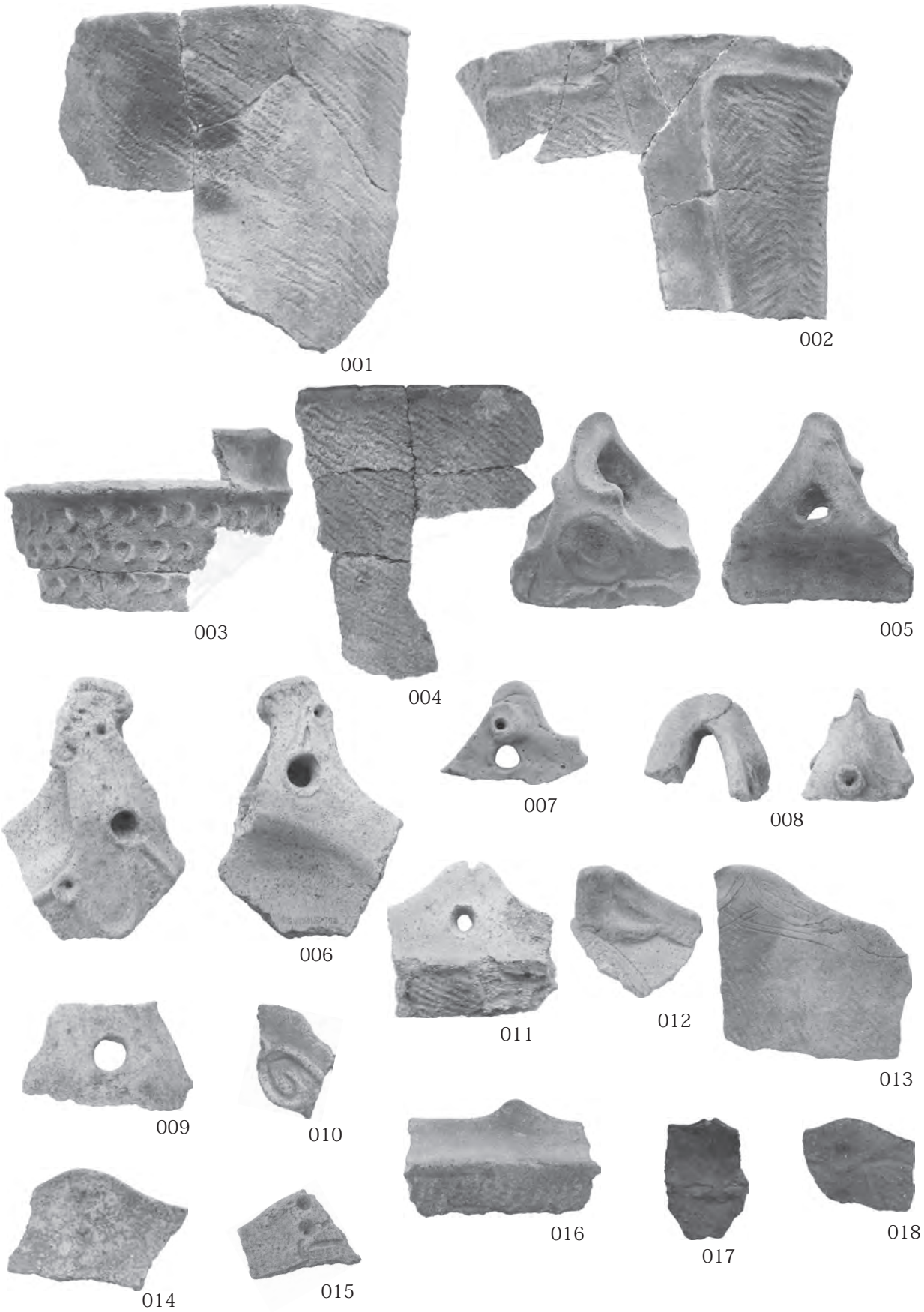


写真 59　古館貝塚 出土遺物 1（土器 1）

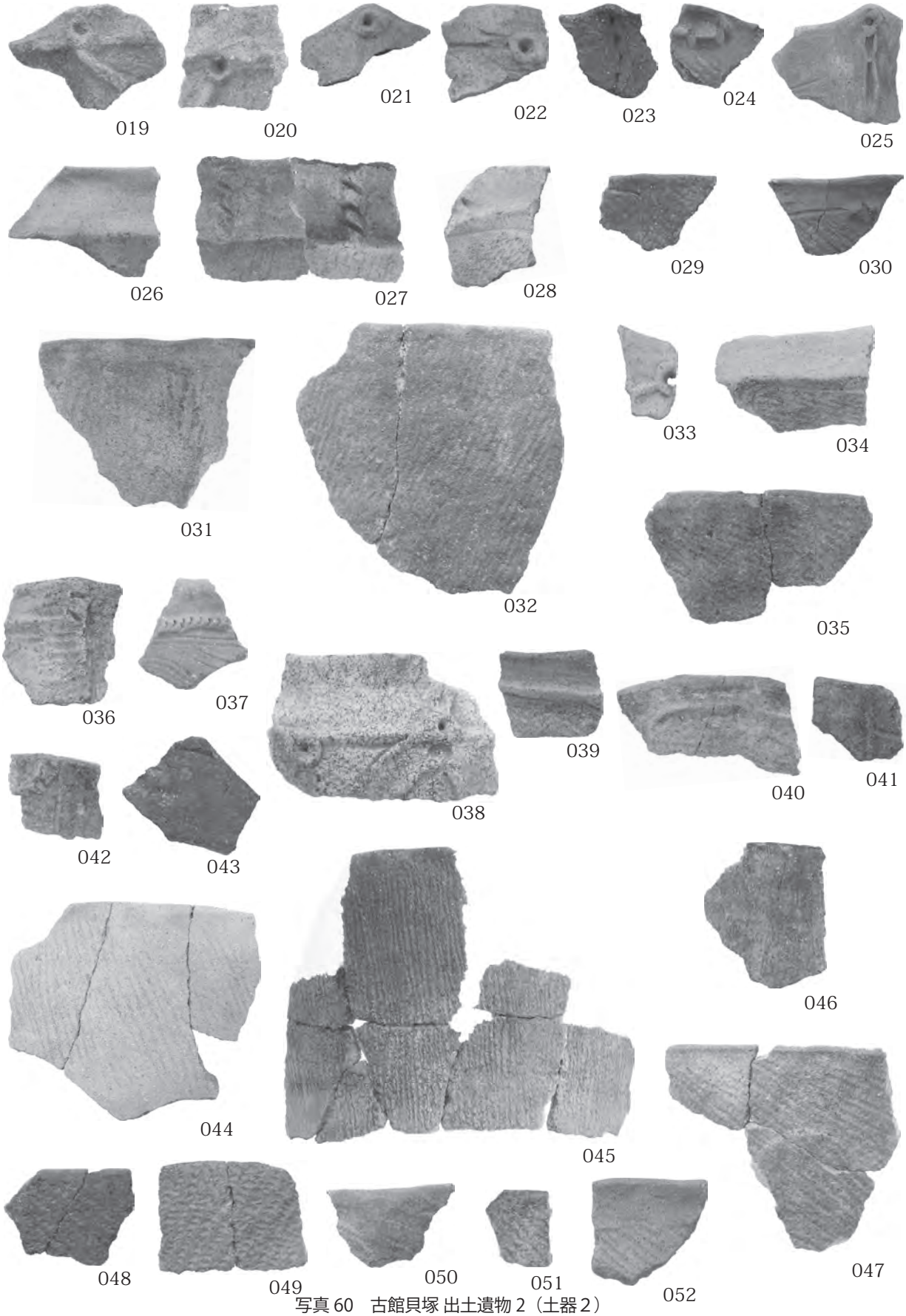


写真 60　古館貝塚 出土遺物 2（土器 2）

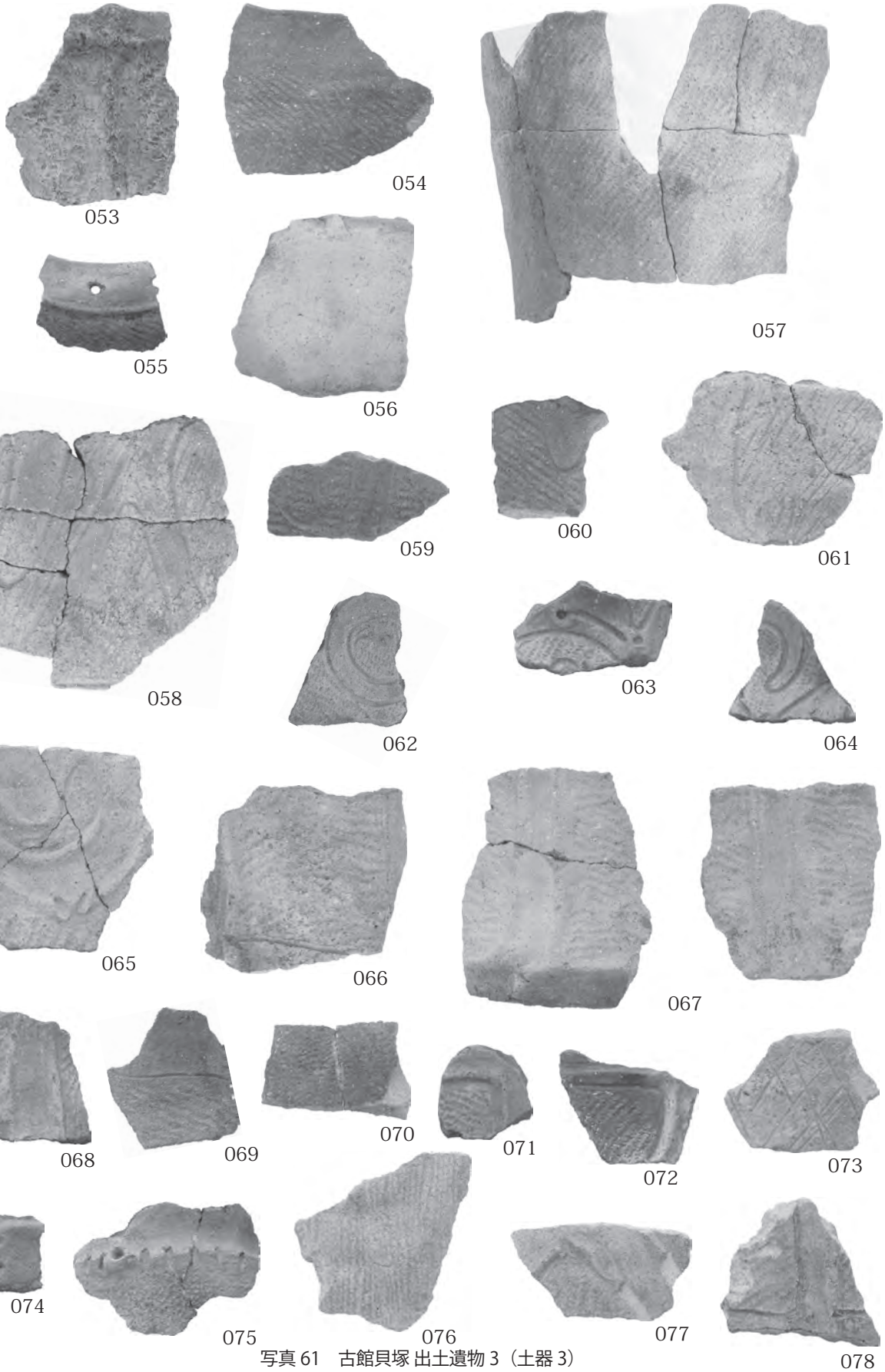
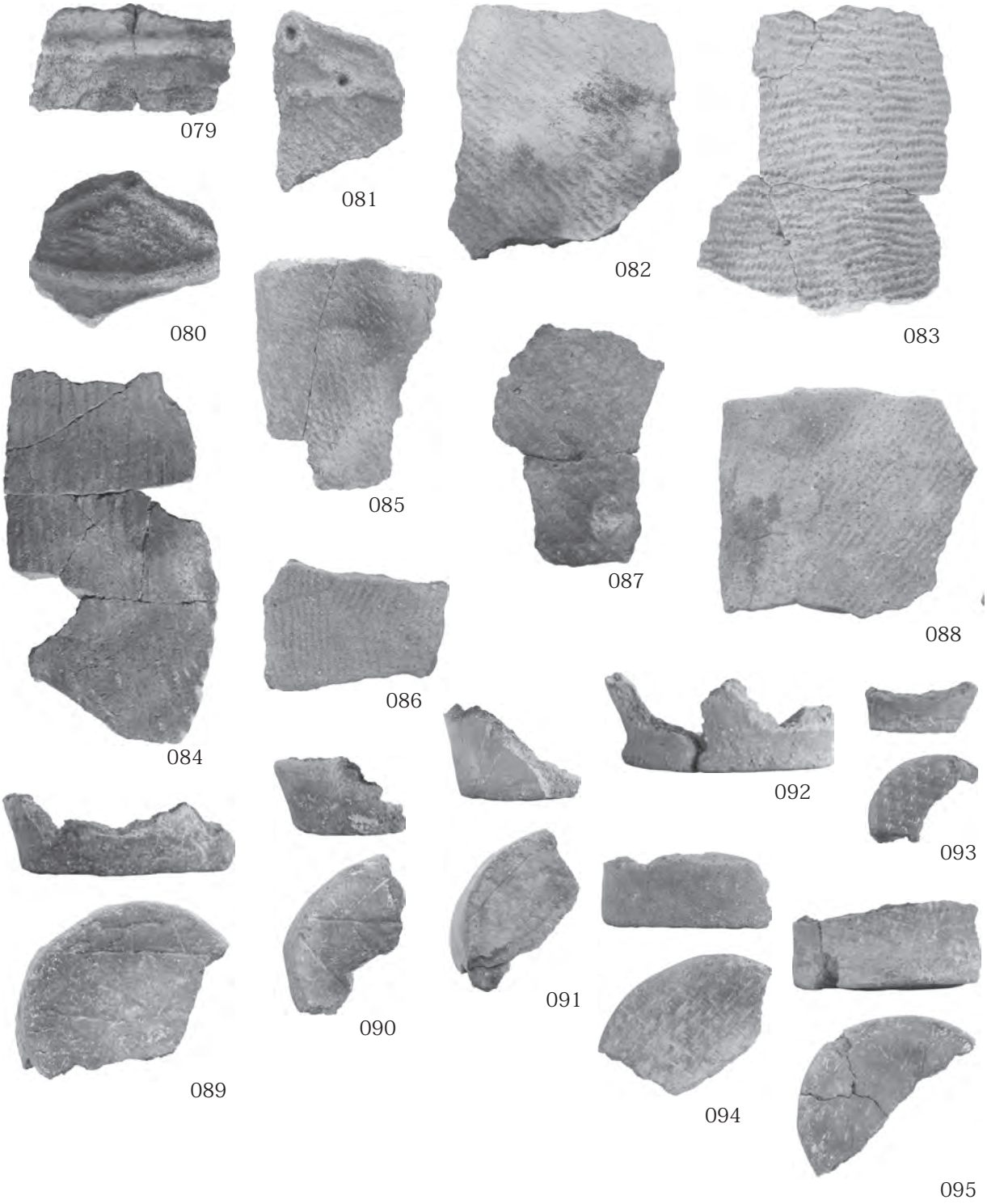


写真 61　古館貝塚 出土遺物 3（土器 3）



〔土製品〕

写真 62　古館貝塚 出土遺物 4（土器 4・土製品 1）

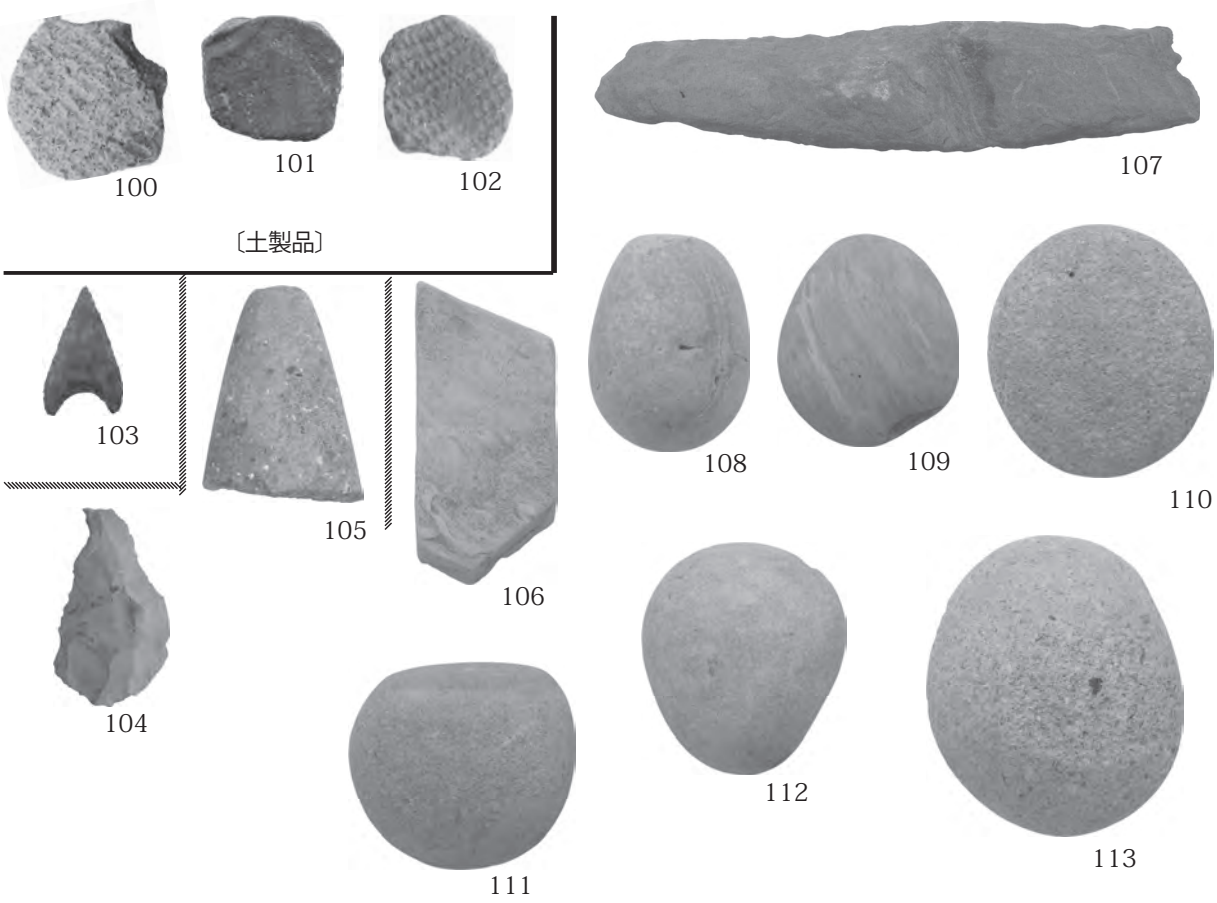


写真 63　古館貝塚 出土遺物 5（土製品２・石器）

４．まとめ

当該地は、平成 24 年度に調査を実施した地点とおおよそ 70 mほどの距離にあたる。平成 24 年度の調査においては、土坑４基が検出されている。遺物包含層は検出されていないが、土坑の堆積土から中期中葉～後期前葉（大木 8b 式～南境式）の土器が出土したことが報告されている（註 1）。今回の調査においては、遺構は検出されなかったが、ほぼ全面に遺物を多量含む堆積層が確認された。しかし、層ごとに時期のまとまりがみられず、包含層由来の二次堆積層であると判断した。また、遺物の帰属時期は、平成 24 年度調査とほぼ同様で、中期中葉～後期初頭（大木９式～門前式）の土器が中心であった。

（註１）気仙沼市教育委員会（2017）『気仙沼市文化財調査報告書 10　気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書１』気仙沼市教育委員会

第３節　高谷遺跡

１．調査に至る経緯

平成 27 年３月９日、農地整備事業予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、松崎高谷地内における「農地整備計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である高谷遺跡（遺跡番号 59109）に該当しており（第 40 図）、また、平成 25 年に隣接地で縄文時代の遺物包含層が検出されていることから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 13 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 3185 号）。

つづいて、同年３月 19 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 27 日付けで県教委から通知が出された（文第 3302 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年９月３日および４日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

高谷遺跡は、市内松崎高谷地内に所在する。国道 45 号気仙沼バイパス西側の丘陵先端部南斜面に立地する縄文時代中期から後期にかけての遺跡である。

第 40 図　高谷遺跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

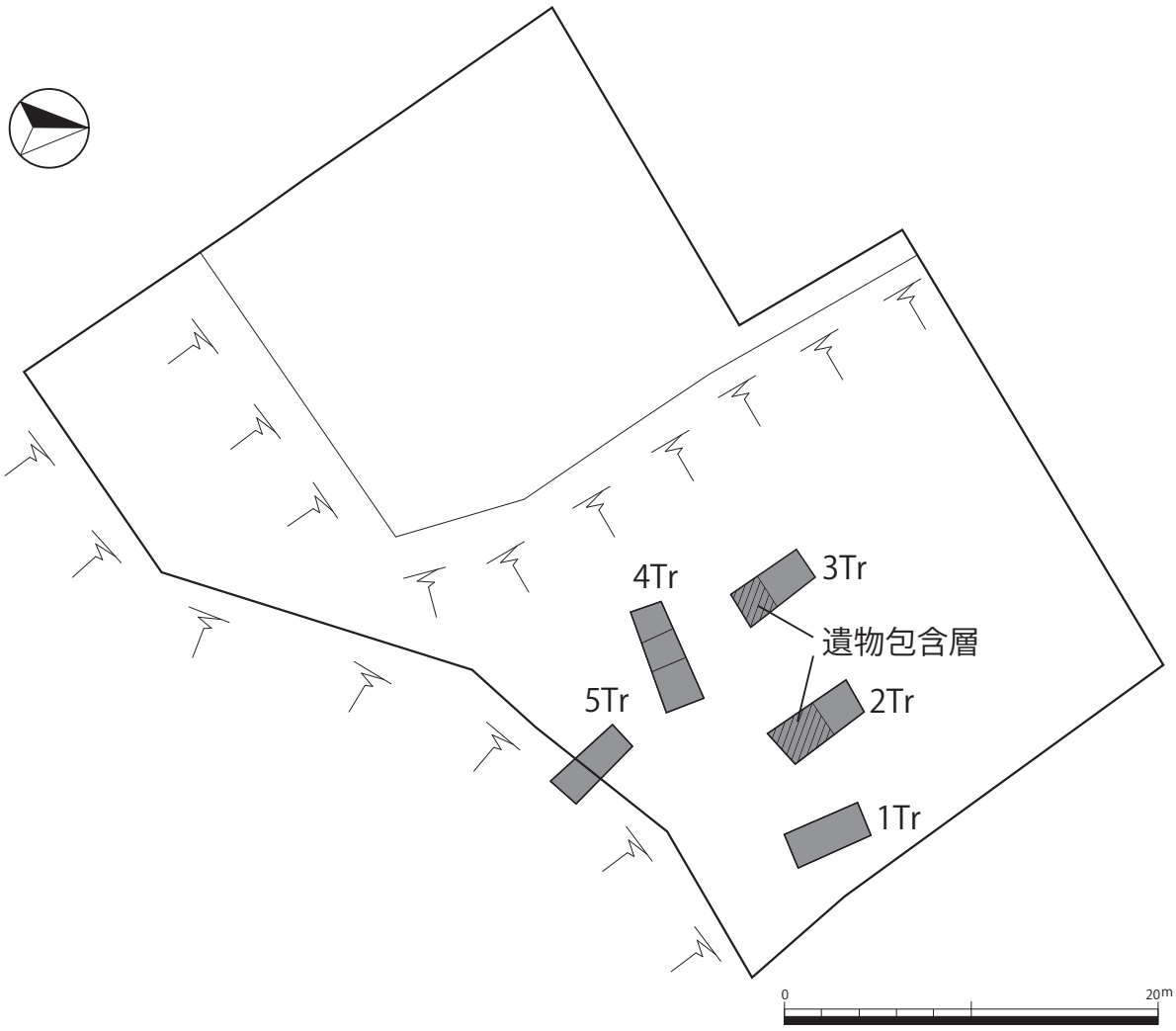
本遺跡周辺には、250 m北西の辺りに縄文時代の貝塚とされる高谷貝塚が知られているが、ほかは北東 600 mの辺りに中世の城館跡である小屋館城跡が知られている程度で、遺跡がやや希薄な地域である。

本遺跡における調査は、平成 20 年度、24 年度、25 年度に実施した個人住宅建築、宅地造成、取付道路工事などに伴い、10 地点で行った。その結果、フラスコ状土坑群や遺物が多量検出されている。今回の調査地点は、平成 25 年度に個人住宅の建設に伴って発掘調査を実施した地点の東側隣接地にあたり、東側の沢地に向かって傾斜がみられる。平成 25 年度調査地点においては、沢より西側の傾斜地などから、縄文土器を含む遺物包含層が確認された。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、高谷遺跡の南端近くに位置しており（第 40 図）、対象面積は約 1,495.0㎡を測る。調査は、対象地内に５本のトレンチを設定し（第 41 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 46.0㎡を測る。

調査の結果、最も東側に設定した 1 トレンチは約 20cm の表土直下が礫混じりの地山であった



第 41 図　高谷遺跡 トレンチ設定図（S＝ 1/400）

ほかは、いずれのトレンチにおいても厚い盛土が確認された。盛土は、５トレンチでは 120cm にもおよぶものであった。３トレンチ・５トレンチでは 30 ～ 40cm の旧表土が確認され、その直下で遺物包含層が検出された。工事による影響が検出面まで及ばないため、遺物包含層の掘削は行わなかった。遺物は、遺物包含層検出面において縄文土器片が数点検出されたが、細片であったため、図示し得なかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

写真 64　高谷遺跡 １トレンチ全景（北から）

写真 65　高谷遺跡 ２トレンチ全景（南から）

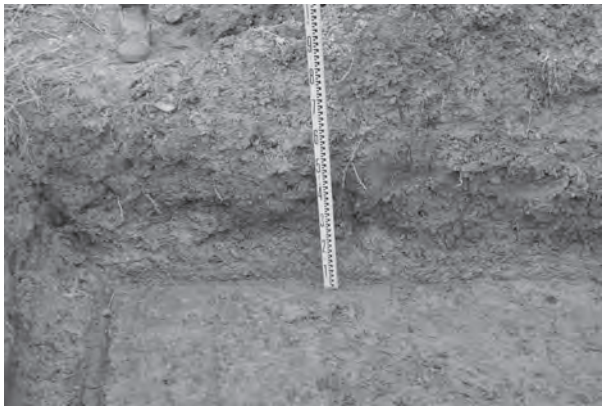


写真 66　高谷遺跡 ３トレンチ土層堆積状況（西から）

写真 67　高谷遺跡 ３トレンチ全景（南から）

写真 68　高谷遺跡 ４トレンチ全景（南から）

写真 69　高谷遺跡 ５トレンチ全景（東から）

４．まとめ

今回の調査地点は、平成 25 年度に調査を実施した地点の東側隣接地にあたる。平成 25 年度調査では、沢の西側斜面および沢底近くで遺物包含層が検出されている。当該調査では、２トレンチおよび３トレンチで隣接地から連続すると思われる遺物包含層が確認された。工事の掘削深度が遺跡に影響を及ぼさないため、遺物包含層の掘削は行わなかったが、遺物包含層上面でわずかに縄文土器が検出された。しかしながら、細片であったため、時期等詳細は不明である。

今後、周辺の調査成果を踏まえて、本遺跡の位置づけを検討する必要があろう。

第４節　前浜貝塚

１．調査に至る経緯

平成 22 年 10 月、気仙沼市（以下、「事業者」という。）から市道前浜中央線道路改良事業計画に伴う埋蔵文化財のかかわりについて、気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に照会があった。市教委は、計画予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である前浜貝塚（遺跡番号 62040）に該当している旨回答した。その回答を受け、10 月 28 日より事業者と市教委で協議を開始したが、平成 23 年３月 11 日に発生した東日本大震災により事業は中断された。

平成 26 年９月、計画変更に伴って再協議を開始し、９月５日、事業者から「市道前浜中央線道路改良事業計画に伴う埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予

第 42 図　前浜貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である前浜貝塚に該当している（第 42 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 10 月 17 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1876 号）。

つづいて、平成 27 年６月 17 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、７月３日付けで県教委から通知が出された（文第 968 号）。

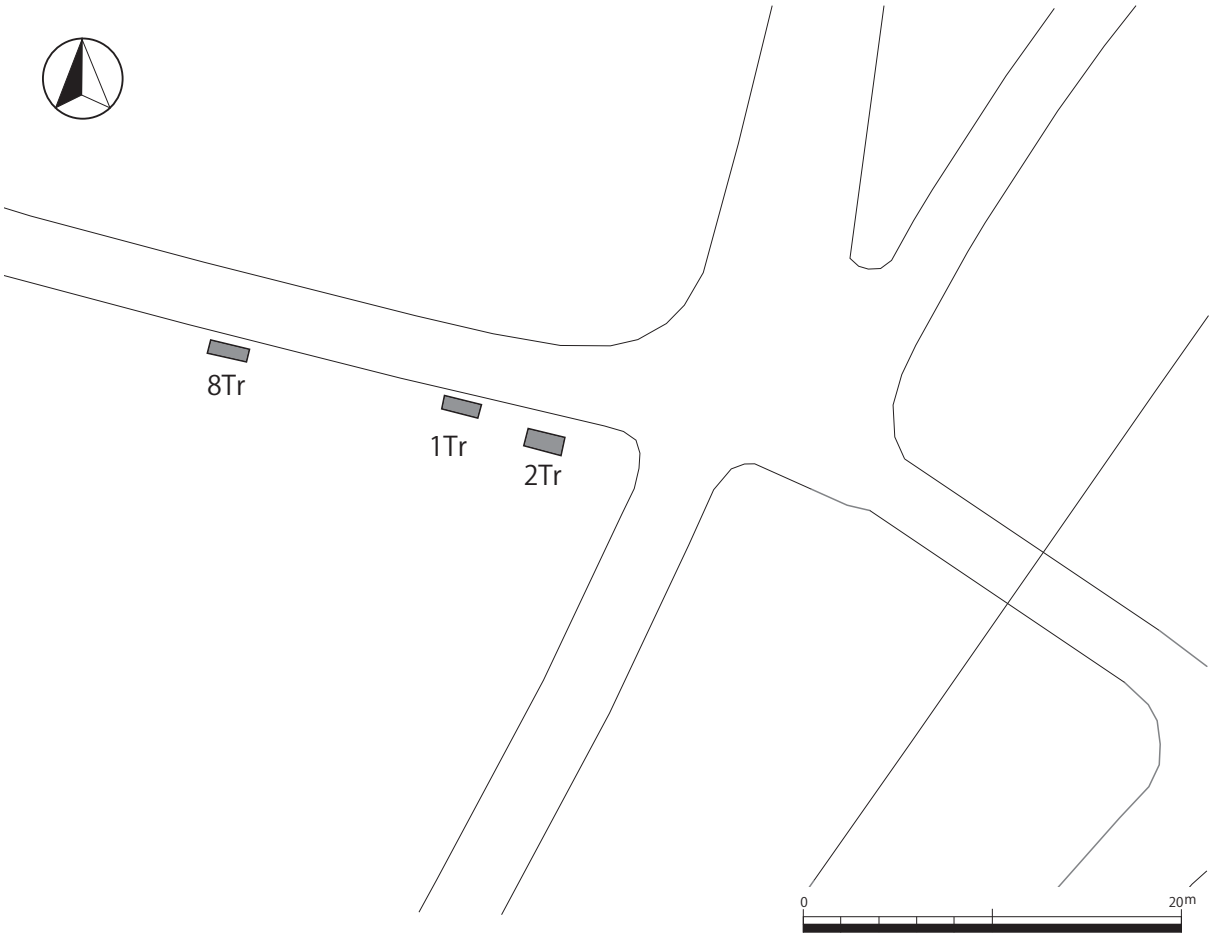
以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年 10 月 13 日および 14 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

前浜貝塚は、市内本吉町前浜地内に所在する。前浜漁港から北西 300 mほど、標高 22 ～ 26 m を測る低い台地の南側緩斜面に立地する縄文時代後・晩期の貝塚である。

本遺跡周辺には、400 mほど南に平磯古館跡、300 mほど西に府中館跡といった、中世城館跡が知られているほかは遺跡が希薄である。

前浜貝塚は、昭和 53 年 10 月に本吉町教育委員会で分布調査を行った際に貝層や人骨などが発見された。このことにより、試掘調査を行った結果、貝層、土壙墓、甕棺墓などの遺構や縄文土器



第 43 図　前浜貝塚 トレンチ設定図（１）〔西側〕（S ＝ 1/400）

片、獣骨片、魚骨片が検出された（註１）。

なお、前浜貝塚は、昭和 55 年５月に町史跡（現、市史跡）として指定されている。

近年では、平成 23 年度、24 年度、26 年度にそれぞれ個人住宅や公共施設等建設に伴う確認調査を実施したが、いずれも遺構・遺物は検出されていない。

（註１）宮城県本吉町教育委員会（1979）『宮城県本吉郡本吉町文化財調査報告書第２集　前浜貝塚』宮城県本吉町教育委員会

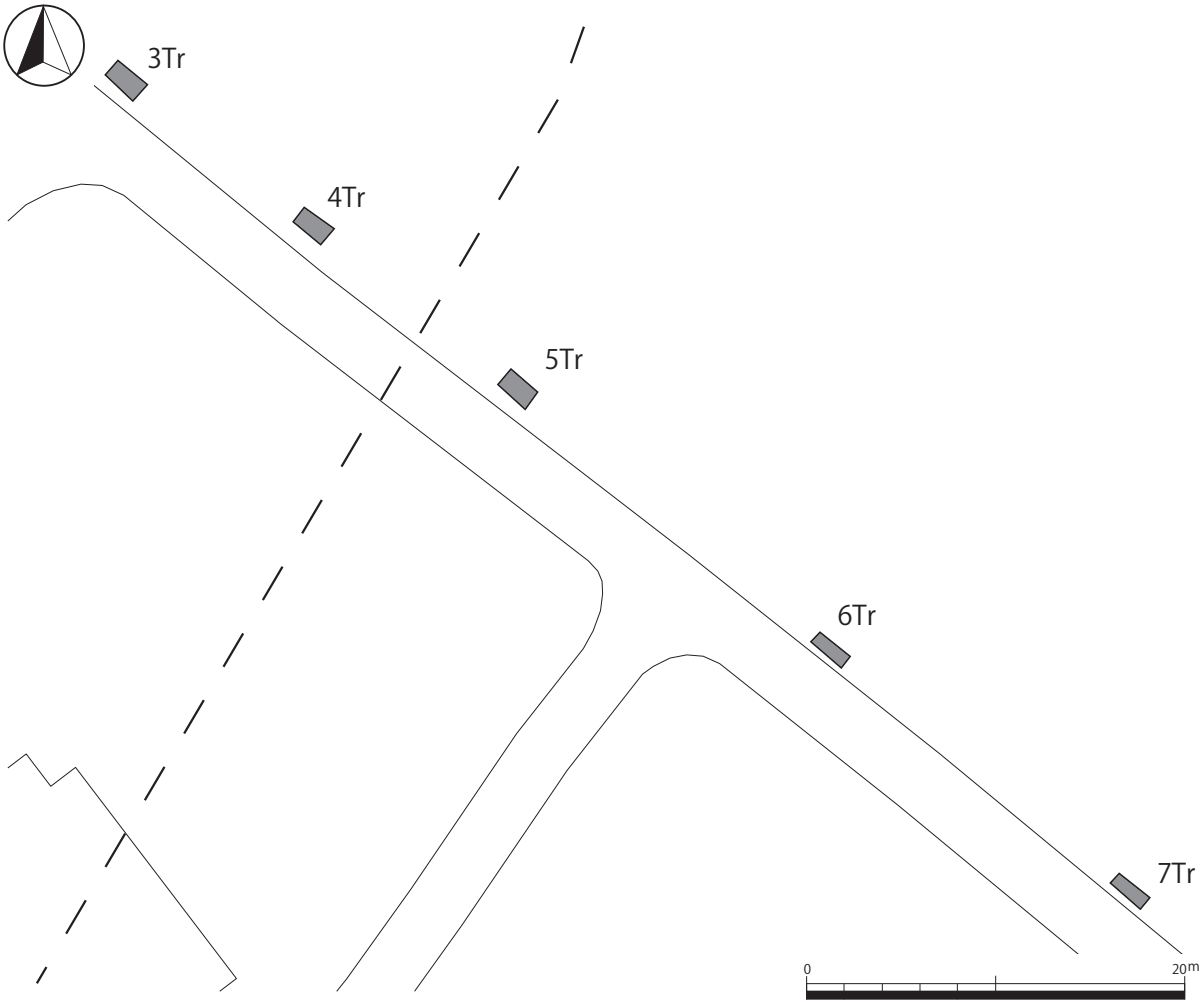
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、前浜貝塚のほぼ中央を東西に延びる市道で、対象面積は約 6,051.8㎡を測る。調査は、市道の南側に３本、北側に５本、計８本のトレンチを設定した（第 43・44 図）。市道を現道として使用しているため、掘削・精査はすべて人力で行った。調査面積は約 12.2㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても 10 ～ 40cm の表土および耕作土を掘削したところで地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。



第 44 図　前浜貝塚 トレンチ設定図（２）〔東側〕（S ＝ 1/400）

写真 70　前浜貝塚 1 トレンチ全景（東から）

写真 71　前浜貝塚 2 トレンチ全景（北から）

写真 72　前浜貝塚 3 トレンチ全景（南から）

写真 73　前浜貝塚 4 トレンチ全景（南から）

写真 74　前浜貝塚 5 トレンチ全景（西から）

写真 75　前浜貝塚 6 トレンチ全景（西から）

写真 76　前浜貝塚 7 トレンチ全景（西から）

写真 77　前浜貝塚 8 トレンチ全景（北東から）

4．まとめ

今回の調査地点は、前浜貝塚の中心近くの位置にあたるが、遺構・遺物は検出されなかった。今後、資料の増加を待って、前浜貝塚の範囲など、再検討が必要であろう。

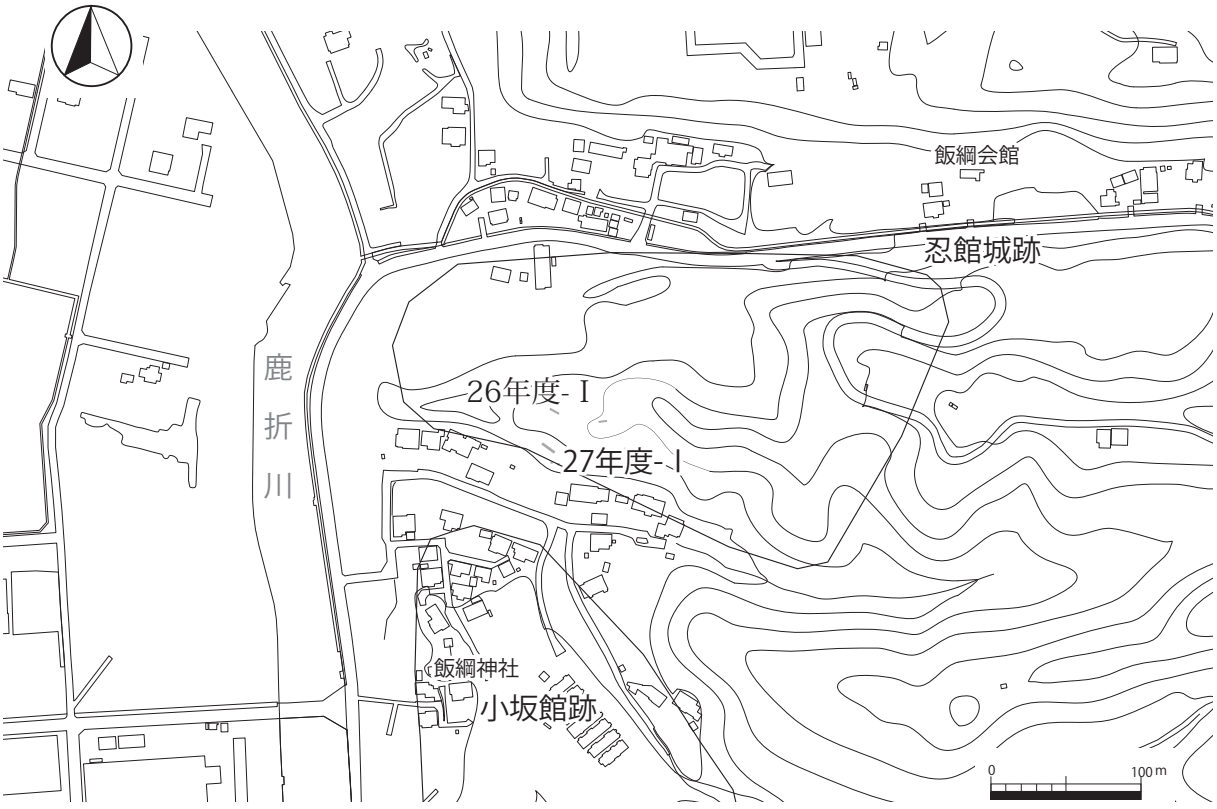
第 5 節　忍館城跡

1．調査に至る経緯

平成 27 年 10 月 23 日、株式会社ゆまじゅう（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、浪板地内ほかにおける「土砂採取計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。当該事業は、平成 26 年度からの継続事業であり、範囲拡張に伴うものである。今回拡張した事業範囲においても、周知の埋蔵文化財包蔵地である忍館城跡に該当していることから、市教委は、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 12 月 16 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2517 号）。

つづいて、同年 12 月 24 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、平成 28 年 1 月 8 日付けで県教委から通知が出された（文第 2704 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 1 月 27 日および 28 日に確認調査を実施することとなった。



第 45 図　忍館城跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

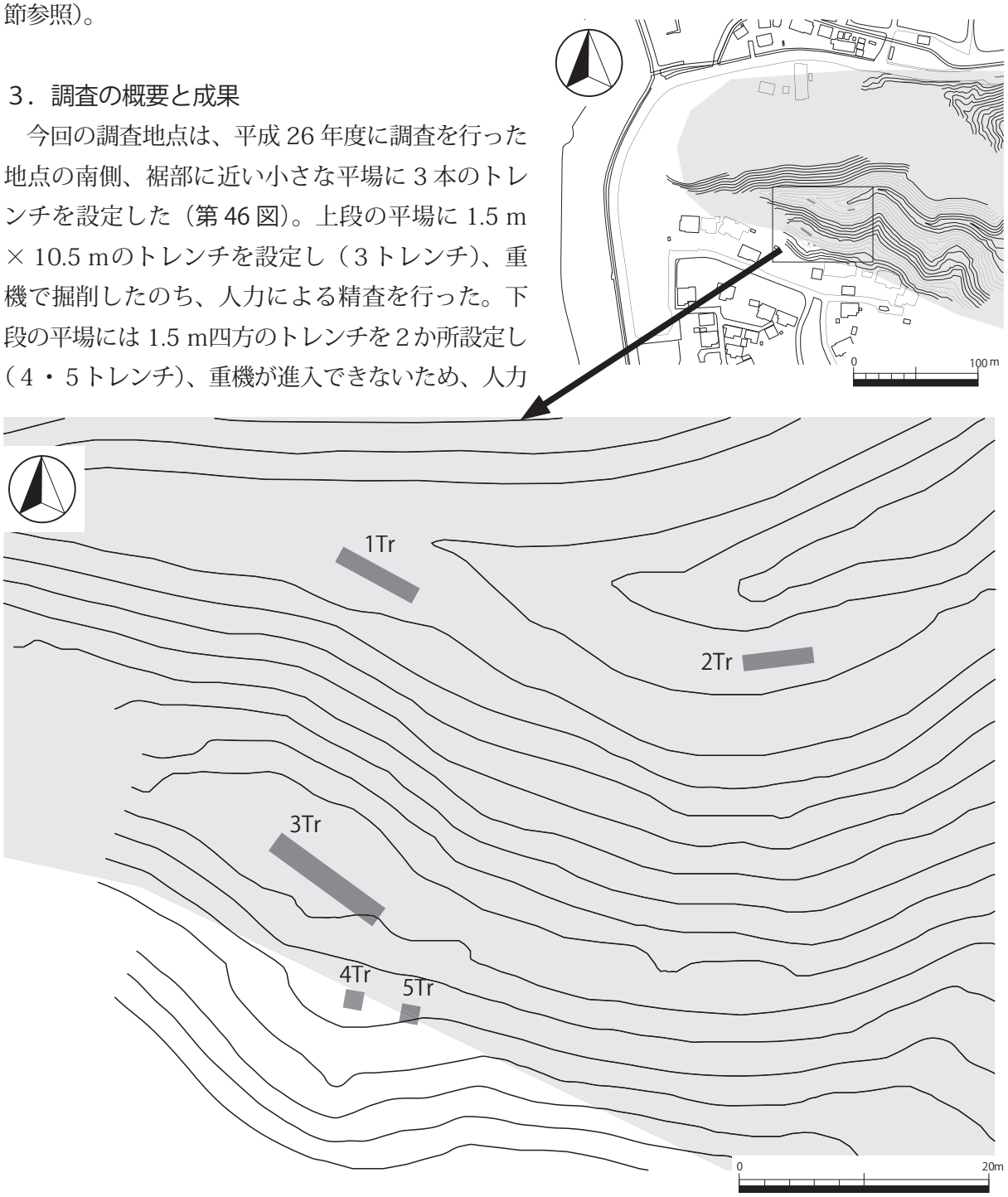
２．遺跡の概要

忍館城跡は、市内浪板地内に所在する。鹿折川河口近くの左岸、気仙沼湾の基部の丘陵上に立地する中世の城館跡である。

本遺跡周辺には、おおよそ 200 m南に小坂館跡、鹿折川を挟んだ対岸に刈米館跡、陣山館跡などの城館跡が知られている。平成 26 年度に確認調査を実施した結果、忍館城跡に伴う遺構・遺物は確認されなかったものの、江戸時代の遺物 (（磁器および銭貨）が検出されている（第２章第６節参照)。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、平成 26 年度に調査を行った地点の南側、裾部に近い小さな平場に３本のトレンチを設定した（第 46 図)。上段の平場に 1.5 m × 10.5 mのトレンチを設定し（３トレンチ)、重機で掘削したのち、人力による精査を行った。下段の平場には 1.5 m四方のトレンチを２か所設定し（４・５トレンチ)、重機が進入できないため、人力



第 46 図　忍館城跡 トレンチ設定図（S = 1/500）

写真 78　忍館城跡 ３トレンチ土層堆積状況（南から）

写真 79　忍館城跡 ３トレンチ全景（東から）

写真 80　忍館城跡 ４トレンチ全景（北から）

写真 81　忍館城跡 ５トレンチ全景（北から）

で掘削および精査を行った。

調査の結果、上段平場に設定した３トレンチは、約 80cm の表土および約 20cm の旧表土を掘削したところで礫混じりの地山を確認した。下段の４・５トレンチは、表土が 20 ～ 30cm、旧表土が 70 ～ 90cm で、礫混じりの地山を確認した。

いずれのトレンチにおいても遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。また、トレンチ番号は、平成 26 年度と同一事業であるため、平成 26 年度に続けて付し、３～５とした。

４．まとめ

忍館城は、現在土砂採取場となっており、城跡の痕跡はほとんどみられない。今回の調査においても、平成 26 年度の調査同様、忍館城跡に伴う遺構・遺物を確認することはできなかった。

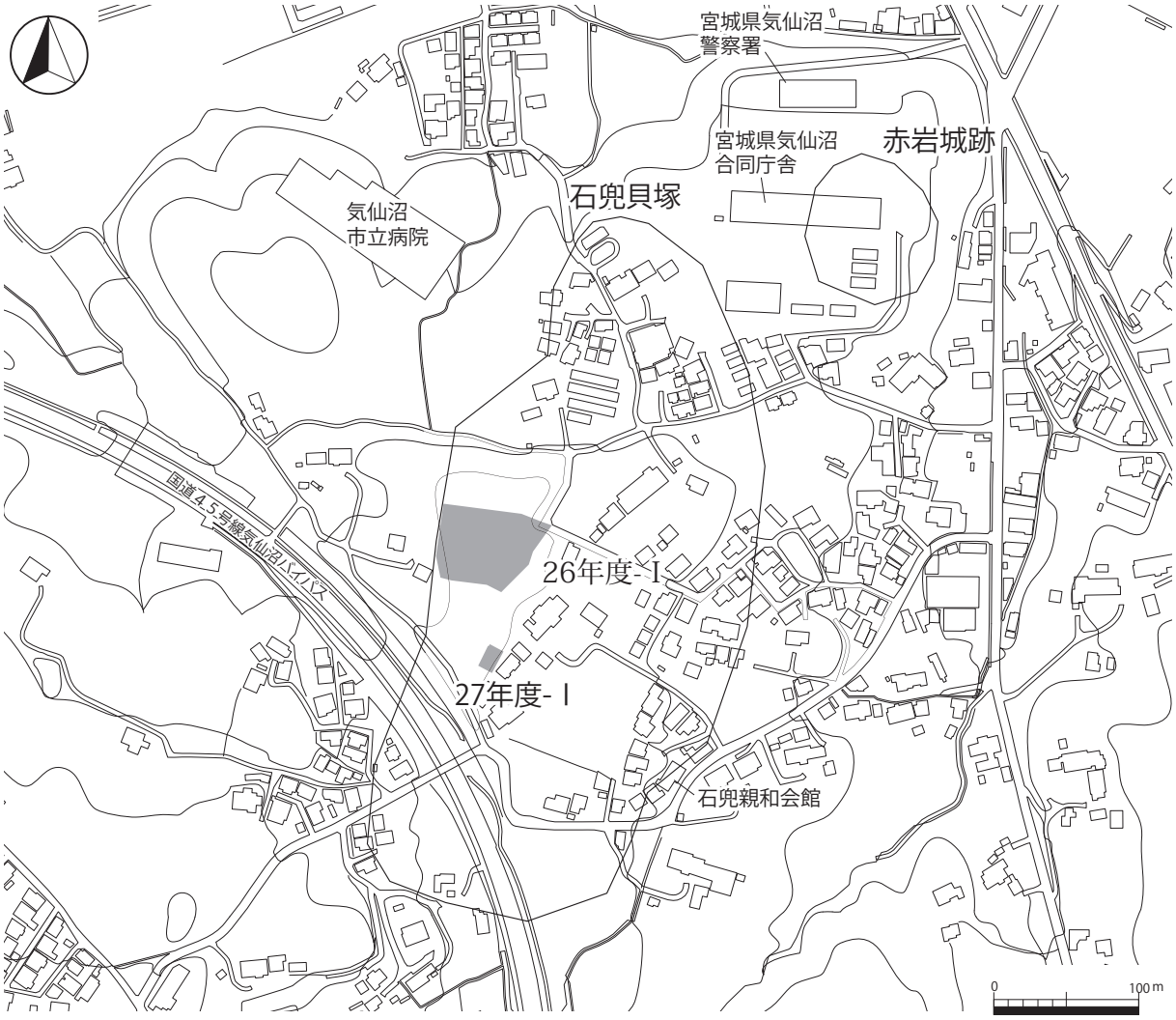
第６節　石兜貝塚

１．調査に至る経緯

平成 27 年 12 月 24 日、株式会社ＮＴＴドコモ（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩石兜地内における「携帯電話無線基地局計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 47 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、平成 28 年 1 月 20 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2749 号）。

つづいて、同年 1 月 22 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 29 日付けで県教委から通知が出された（文第 2894 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 2 月 17 日に確認調査を実施することとなった。



第 47 図　石兜貝塚 調査地点位置図（Ｓ＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

石兜貝塚は、市内赤岩石兜地内に所在する。国道 45 号気仙沼パイパス東側の丘陵に立地する古代・中世の貝塚である。

本遺跡周辺には、おおよそ 100 ｍ東に、縄文時代の散布地である赤岩遺跡が知られている。

石兜貝塚における調査は、気仙沼バイパス工事に伴う調査で江戸時代の遺構・遺物が検出されている（第２章第 10 節参照）。

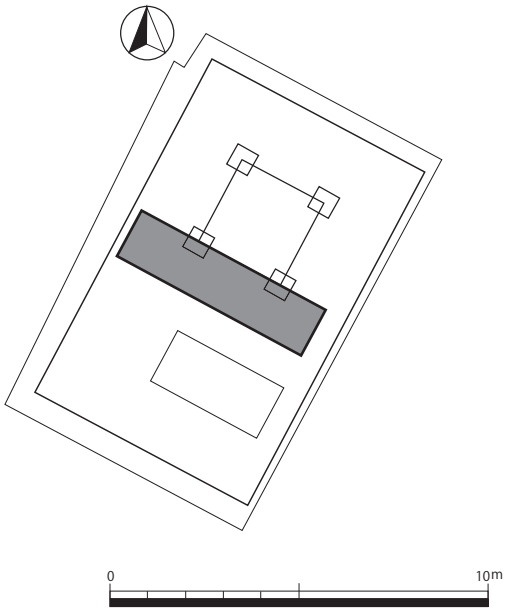
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、石兜貝塚の中央やや南西に位置し、対象面積は約 322.4㎡を測る。調査は、鉄塔基礎掘削部付近に幅２ｍ、長さ９ｍのトレンチを設定し（第 48 図）、重機で掘削したのち、人力で精査を行った。調査面積は約 18.0㎡を測る。

調査の結果、約 20cm の表土および約 10cm の旧表土直下は礫混じりの地山であり、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。



第 48 図　石兜貝塚 トレンチ設定図（Ｓ＝ 1/200）

４．まとめ

石兜貝塚は、古代から中世にかけての貝塚とされている。昭和 59 年に実施した気仙沼パイパス工事に伴う発掘調査で江戸時代の遺構・遺物のほか、須恵器が検出されているが、貝塚の実態は不明である。また、平成 24 年度に３地点、平成 26 年度に１地点の確認調査を実施しているが、これまでに明らかに該期のものといえる遺構・遺物は検出されていない。

第４章　平成 28 年度の調査

第１節　石兜貝塚

１．調査に至る経緯

（１）第１次調査

平成 27 年７月 16 日、共同住宅新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩杉ノ沢地内における「共同住宅新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、８月 14 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1327 号）。

つづいて，同年８月 14 日、事業者から埋蔵文化財発掘の通知が提出され、同 26 日付けで県教委から通知が出された（文第 1440 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年４月 20 日から 22 日に確認調査を実施することとなった。

（２）第２次調査

平成 28 年１月 21 日、共同住宅新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩杉ノ沢地内における「共同住宅新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 29 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2892 号）。

つづいて、同年２月３日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 10 日付けで県教委から通知が出された（文第 3000 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年４月 20 日から 22 日に確認調査を実施することとなった。

（３）第４次調査

平成 28 年６月８日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩杉ノ沢地内における「個人住宅建築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 24 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 864 号）。

つづいて、同年７月 19 日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 29 日付けで県教委から通知が出された（文第 1218 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 11 月 15 日に確認調査を

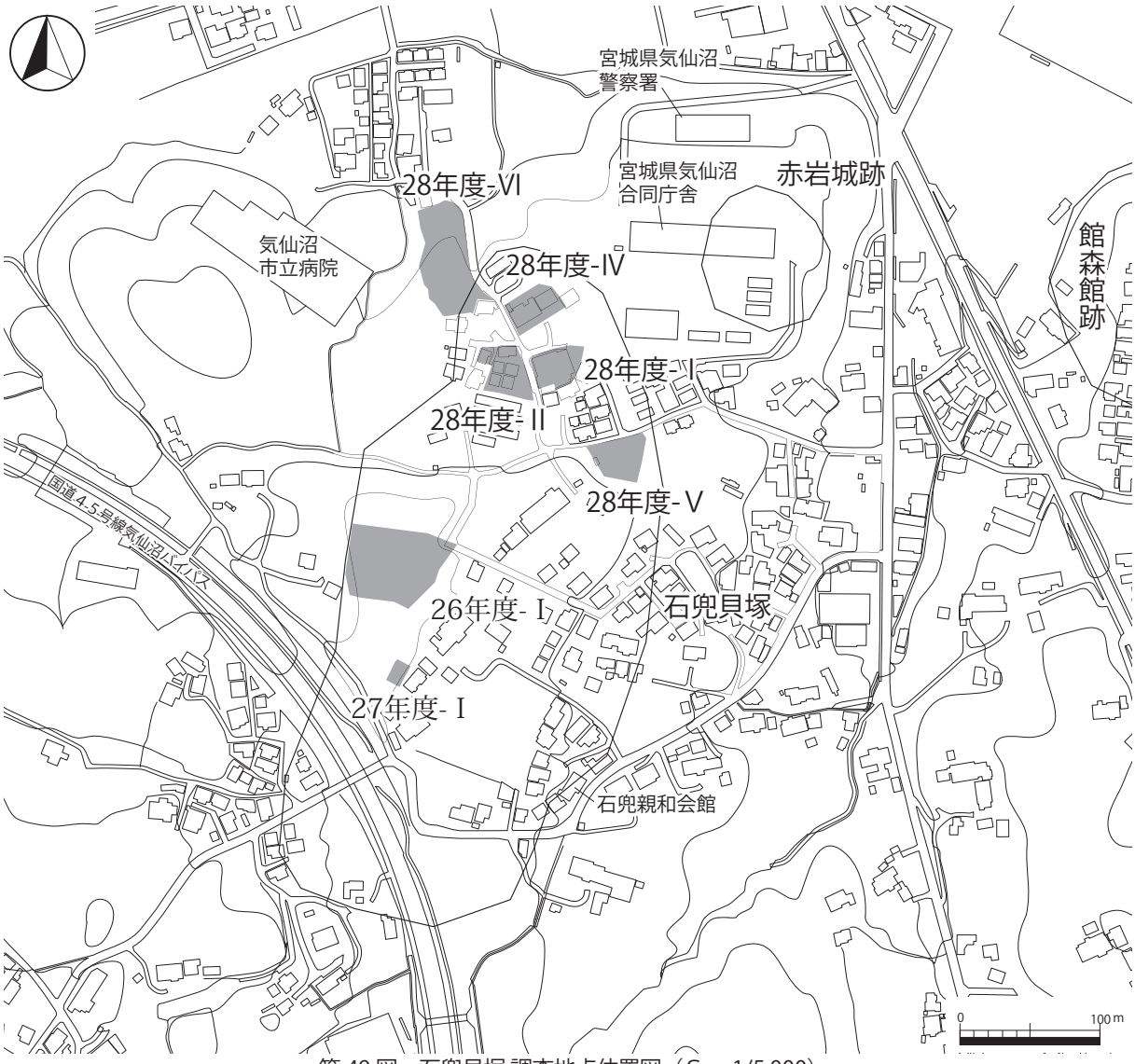
実施することとなった。

（4）第 5 次調査

平成 28 年 9 月 27 日、長屋新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩石兜地内における「長屋新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 10 月 5 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1823 号）。

つづいて、同年 10 月 18 日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、11 月 9 日付けで県教委から通知が出された（文第 2052 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 11 月 16 日に確認調査を実施することとなった。



第 49 図　石兜貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

（５）第６次調査

平成 28 年 12 月 27 日､駐車場建設予定者（以下､「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩杉ノ沢地内における「駐車場建設工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、平成 29 年１月６日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2563 号）。

つづいて，平成 29 年１月 10 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 13 日付けで県教委から通知が出された（文第 2583 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 29 年１月 16 日および 17 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

石兜貝塚は、市内赤岩杉ノ沢および赤岩石兜地内に所在する。国道 45 号バイパス東側の丘陵に立地する古代・中世の貝塚である。

昭和 59 年４月から９月にかけて、宮城県教育委員会により気仙沼バイパス工事に伴う発掘調査が行われた。その結果、２か所の貝層が確認されたが､いずれも範囲が狭く､層も薄いものであった。これらの貝層は、江戸時代末から明治時代の所産であると報告されている（第２章第 10 節参照）。

なお、時代が新しいと推察できる貝層は、平成 24 年に実施した、市立病院建設に伴う確認調査においても検出されている。

石兜貝塚が所在する赤岩杉ノ沢、赤岩石兜は、近年、宅地化が進んでいる地域である。それに伴って、調査件数も増加しており、平成 24 年度３地点、平成 26 年度１地点、平成 27 年度１地点、平成 28 年度６地点で確認調査を実施している。しかし、いずれの地点においても遺構・遺物は検出されていない。

３．調査の概要と成果

（１）第１・２次調査

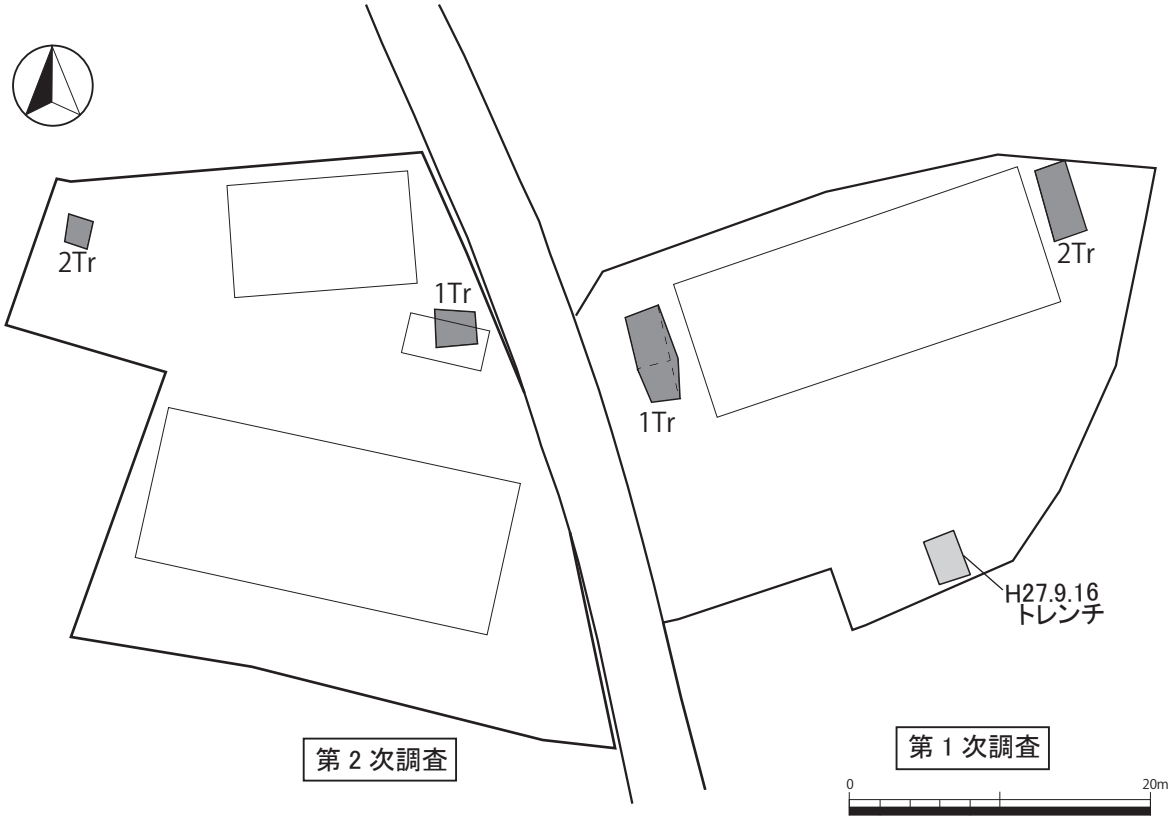
第１次および第２次調査地点は、遺跡の北側に位置する。両地点が市道を挟んで隣接していることから、同時期に調査を実施した。

第１次調査は、対象地内（面積約 985.0㎡）に２本のトレンチを設定し（第 50 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 41.0㎡を測る。

調査の結果、１トレンチで約 1.60 m、２トレンチで約 0.75 mの盛土の堆積がみられ、盛土直下で礫混じりの地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

第２次調査は、対象地内（面積約 1,008.0㎡）に２本のトレンチを設定し（第 50 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 11.0㎡を測る。

調査の結果、１トレンチで約 1.65 m、２トレンチで約 0.95 m掘削したが、全面盛土で、地山



第 50 図　石兜貝塚（28 年度第 1 ・ 2 次調査）トレンチ設定図（S = 1/500）

写真 82　石兜貝塚 28 － I　1 トレンチ全景（南から）

写真 83　石兜貝塚 28 － I　2 トレンチ全景（南から）

写真 84　石兜貝塚 28 － II　1 トレンチ全景（南から）

写真 85　石兜貝塚 28 － II　2 トレンチ全景（南から）

を確認できなかったが、涌水が著しく、建築設計深度を超えたため、掘削は終了とした。遺構・遺物は検出されなかった。

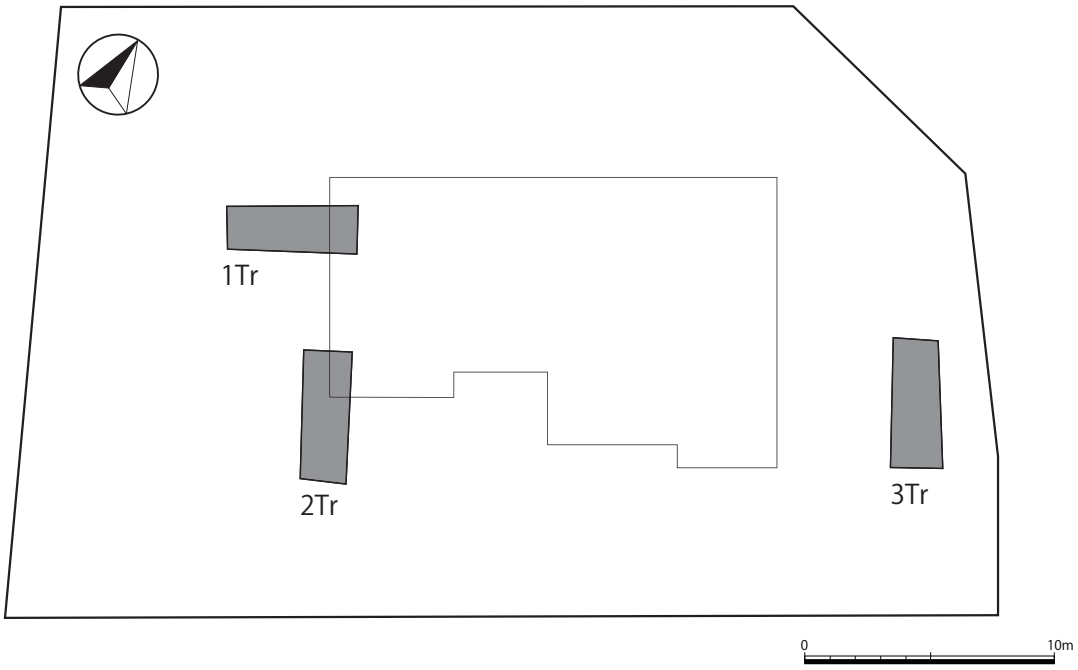
両調査地点とも、各トレンチの図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

（2）第４次調査

第４次調査地点は、遺跡の北端近くに位置し、対象面積は約 810.3㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを３本設定し（第 51 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 29.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても厚い盛土が堆積しており、１トレンチで約 1.8 m、２トレンチで約 0.9 m、３トレンチで約 0.7 mを測る。盛土直下で地山を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。



第 51 図　石兜貝塚（28 年度第４次調査）トレンチ設定図（S = 1/300）

写真 86　石兜貝塚 28 －Ⅳ 1 トレンチ全景（南から）

写真 87　石兜貝塚 28 －Ⅳ 2 トレンチ全景（北西から）

トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

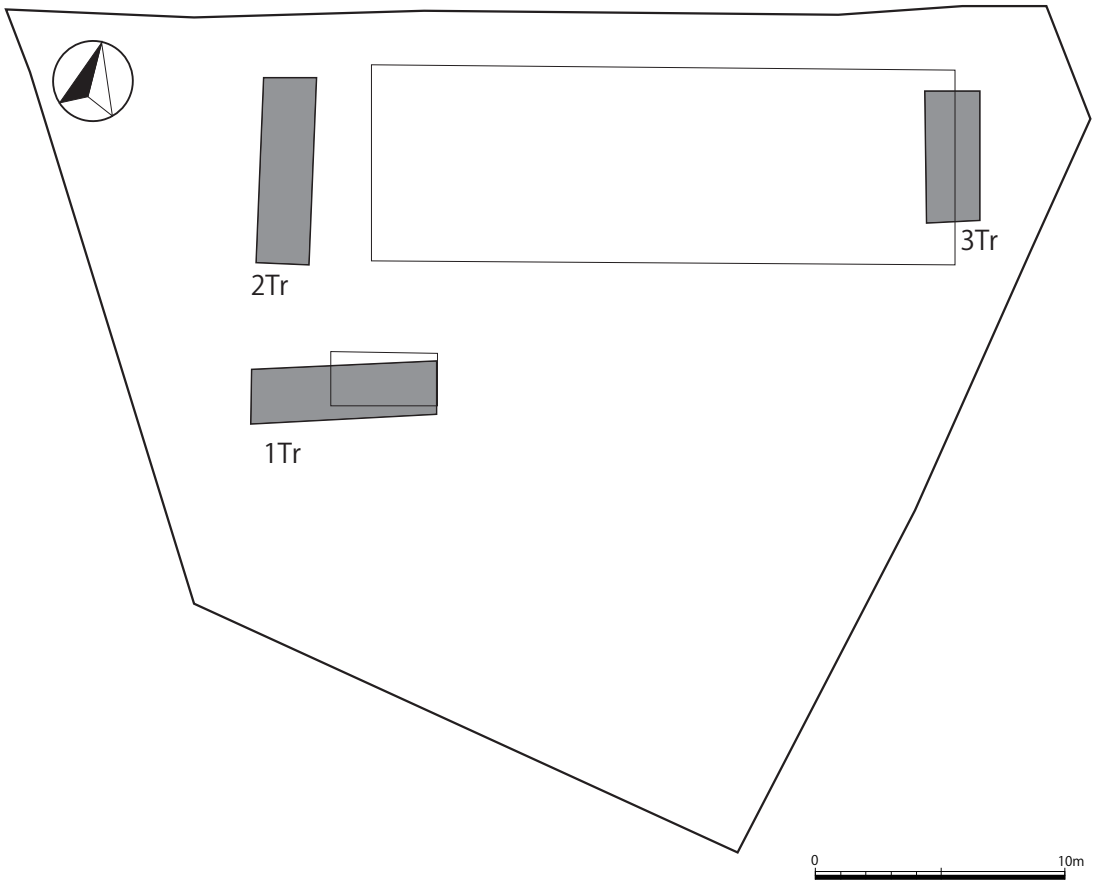
なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

（3）第 5 次調査

第 5 次調査地点は、遺跡の北東端近くに位置し、対象面積は約 846.0㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを 3 本設定し（第 52 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面

写真 88　石兜貝塚 28 －Ⅳ 3 トレンチ土層堆積状況（南から）

写真 89　石兜貝塚 28 －Ⅳ 3 トレンチ全景（南東から）



第 52 図　石兜貝塚（28 年度第 5 次調査）トレンチ設定図（S ＝ 1/300）

積は約 38.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても約 0.6 mほどの盛土が堆積しており、遺構・遺物は検出されなかった。なお、３トレンチにおいては涌水のため、地山を確認することができなかった。

トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

（４）第６次調査

第６次調査地点は、遺跡の北西端に位置し、対象面積は約 2,567.0㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを６本設定し（第 53 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 62.9㎡を測る。

調査の結果、各トレンチは、0.10 ～ 0.25 m掘削したところで地山が確認できた。１～５トレンチは表土直下が漸移層、６トレンチは表土直下で旧表土が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

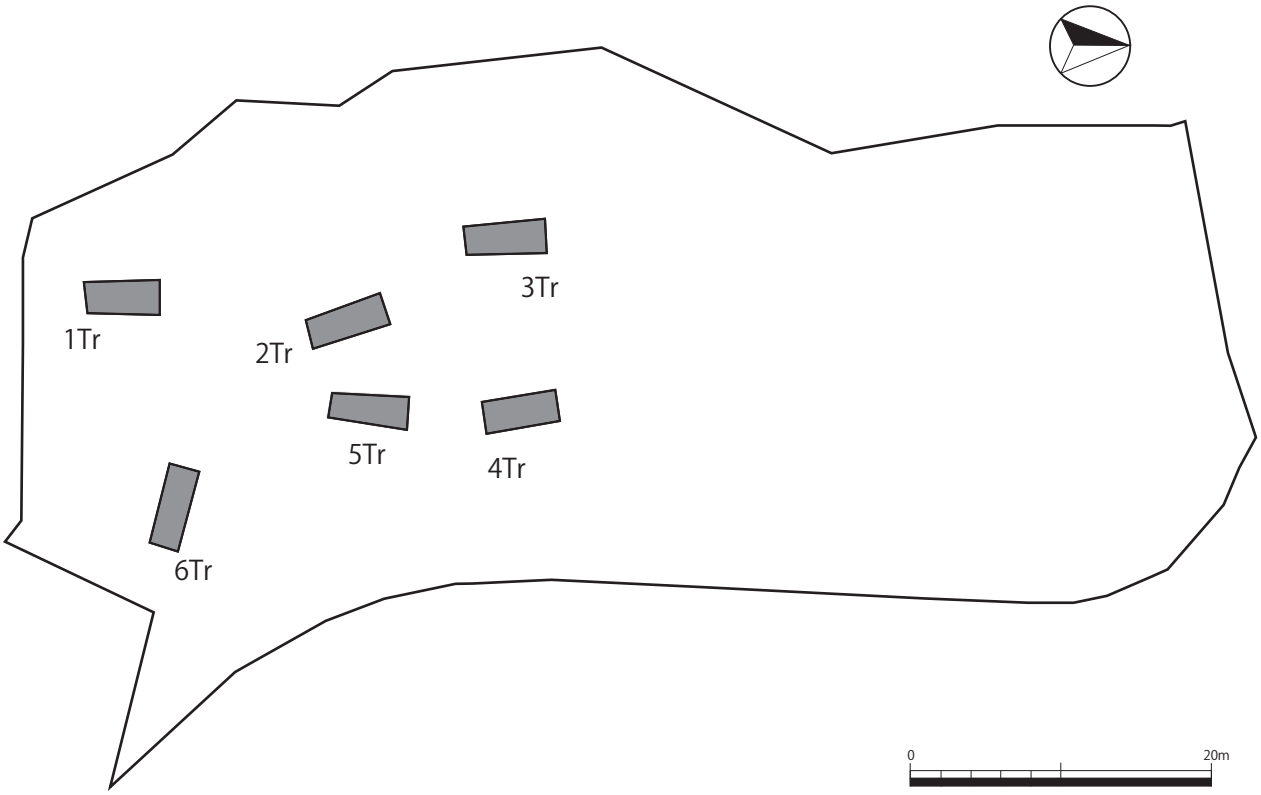
なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

写真 90　石兜貝塚 28 －Ⅴ １トレンチ全景（東から）

写真 91　石兜貝塚 28 －Ⅴ ２トレンチ全景（南から）

写真 92　石兜貝塚 28 －Ⅴ ３トレンチ土層堆積状況（西から）

写真 93　石兜貝塚 28 －Ⅴ ３トレンチ全景（南から）



第 53 図　石兜貝塚（28 年度第６次調査）トレンチ設定図（S ＝ 1/500）

写真 94　石兜貝塚 28 －Ⅵ 1 トレンチ全景（北から）

写真 95　石兜貝塚 28 －Ⅵ 2 トレンチ全景（南から）

写真 96　石兜貝塚 28 －Ⅵ 3 トレンチ全景（南から）

写真 97　石兜貝塚 28 －Ⅵ 4 トレンチ全景（南から）

写真 98　石兜貝塚 28 －Ⅵ 5 トレンチ全景（南から）

写真 99　石兜貝塚 28 －Ⅵ 6 トレンチ全景（西から）

４．まとめ

平成 28 年度は、6 地点で調査を実施した。そのうち、5 地点が国庫補助対象事業であったために、ここに報告する。

今年度調査を実施した地点は、すべて遺跡の北半に位置している。調査の結果、第 6 次調査地点を除いては、厚い盛土の堆積がみられたことから、包蔵地の北側は既に大規模な土地造成が行われていることがうかがわれる。また、いずれの地点においても遺構・遺物が検出されなかった。近年の調査においても遺構・遺物が検出された地点はなく、包蔵地の北側は既に遺跡が遺存していないか、あるいは遺存していた場合であっても、極めて狭い範囲であると推察できる。今後、これまでの調査地点の調査結果を考慮して、遺跡の範囲を含めた再検討が必要であろう。

第２節　松岩貝塚

１．調査に至る経緯

平成 28 年 6 月 24 日、アパート新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩老松地内における「アパート新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である松岩貝塚（遺跡番号 59002）に該当している（第 54 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、7 月 20 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1166 号）。

つづいて、同年 7 月 21 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 29 日付けで県教委から通知が出された（文第 1231 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 8 月 8 日に確認調査を実施することとなった。

2．遺跡の概要

松岩貝塚は、市内赤岩老の松地内に所在する。大川右岸の丘陵上に立地する縄文時代後・晩期の貝塚とされている。

本遺跡周辺には、おおよそ 300 m南に縄文時代後期の老の松遺跡、東 200 mに館森館跡が知られている。これまで、松岩貝塚の調査を行っていないため、貝塚の詳細も不明である。

3．調査の概要と成果

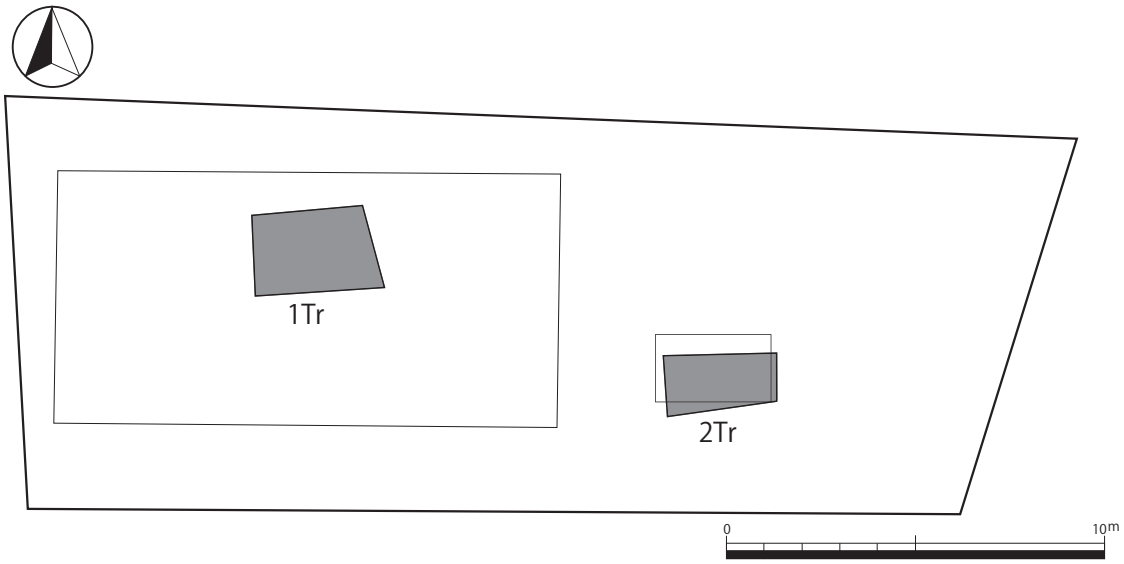
今回の調査地点は、松岩貝塚の北東端近くに位置し、対象面積は約 316.0㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを２本設定し（第 55 図）、重機で掘削したのち、人力で精査を行った。調査面積は約 10.0㎡を測る。

調査の結果、１トレンチでは 0.98 m、２トレンチでは 0.66 mの盛土の堆積が確認されたが、涌水が著しく、地山を確認することはできなかった。遺構・遺物は検出されなかった。

それぞれのトレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

第 54 図　松岩貝塚 調査地点位置図（Ｓ＝ 1/5,000）



第 55 図　松岩貝塚 トレンチ設定図（S = 1/200）

写真 100　松岩貝塚 1 トレンチ全景（東から）

写真 101　松岩貝塚 2 トレンチ全景（東から）

４．まとめ

松岩貝塚は、石器や縄文晩期の土器が発見されたと云われている（註1）が、これまで調査実績がなく、遺跡の詳細は不明である。周辺には、同じ縄文時代後期の遺跡とされている老の松遺跡も知られているが、老の松遺跡も調査実績がなく、不明である。今後、調査事例を待って、両者の関連も含めて検討することとしたい。

（註 1）鼎が浦高等学校社会班（1940）『気仙沼周辺遺跡の概要と大島磯草貝塚・大浦浦島貝塚調査報告』宮城県鼎が浦高等学校社会班

第３節　塚館跡

１．調査に至る経緯

平成 28 年 8 月 25 日、個人住宅新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以

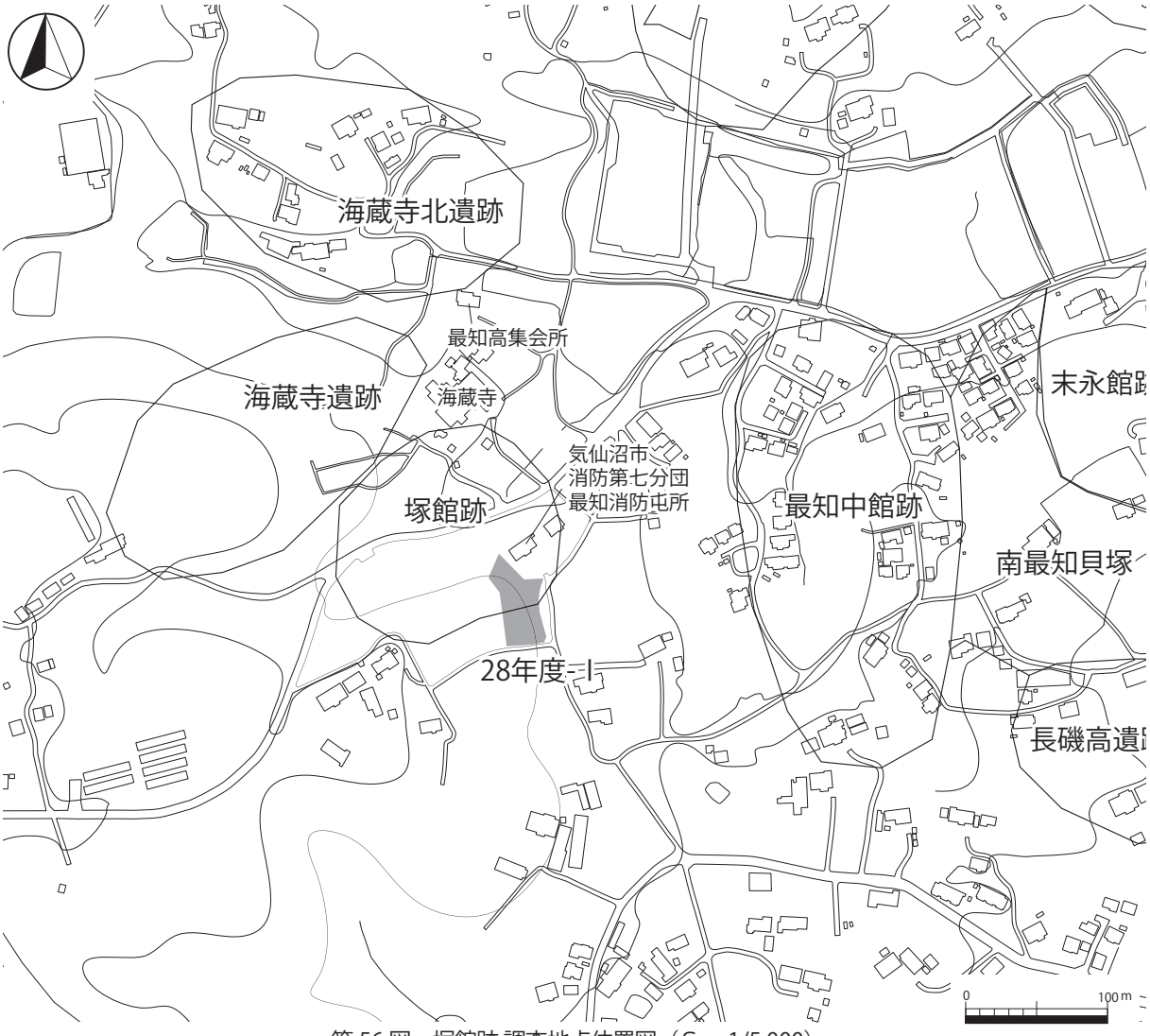
下、「市教委」という。）に、最知南最知地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である塚館跡（遺跡番号 59042）に該当している（第 56 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、9 月 7 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1564 号）。

つづいて、同年 9 月 20 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、10 月 12 日付けで県教委から通知が出された（文第 1862 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 10 月 18 日～ 20 日に確認調査を実施することとなった。

2．遺跡の概要

塚館跡は、市内最知南最知地内に所在する。国道 45 号から約 600 m西側の丘陵上に立地し、海蔵寺の南側に隣接する。



第 56 図　塚館跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

本遺跡の 300 m東には最知中館跡、さらに 300 m東には末永館跡と、城館跡がならぶ。また、北には猿喰東館跡、南東には森館跡が位置しており、最知南最知周辺は、城館跡が多くみられる地域である。さらに、周辺には、縄文時代の貝塚として市史跡に指定されている南最知貝塚をはじめ、長磯高遺跡、海蔵寺遺跡、海蔵寺北遺跡などの古代の遺跡が知られており、市内でも遺跡が集中する地域のひとつである。

塚館跡においては、平成 24 年度の防災集団移転や平成 27 年度の消防屯所建築に伴う確認調査を実施しているが、遺構・遺物は検出されていない。

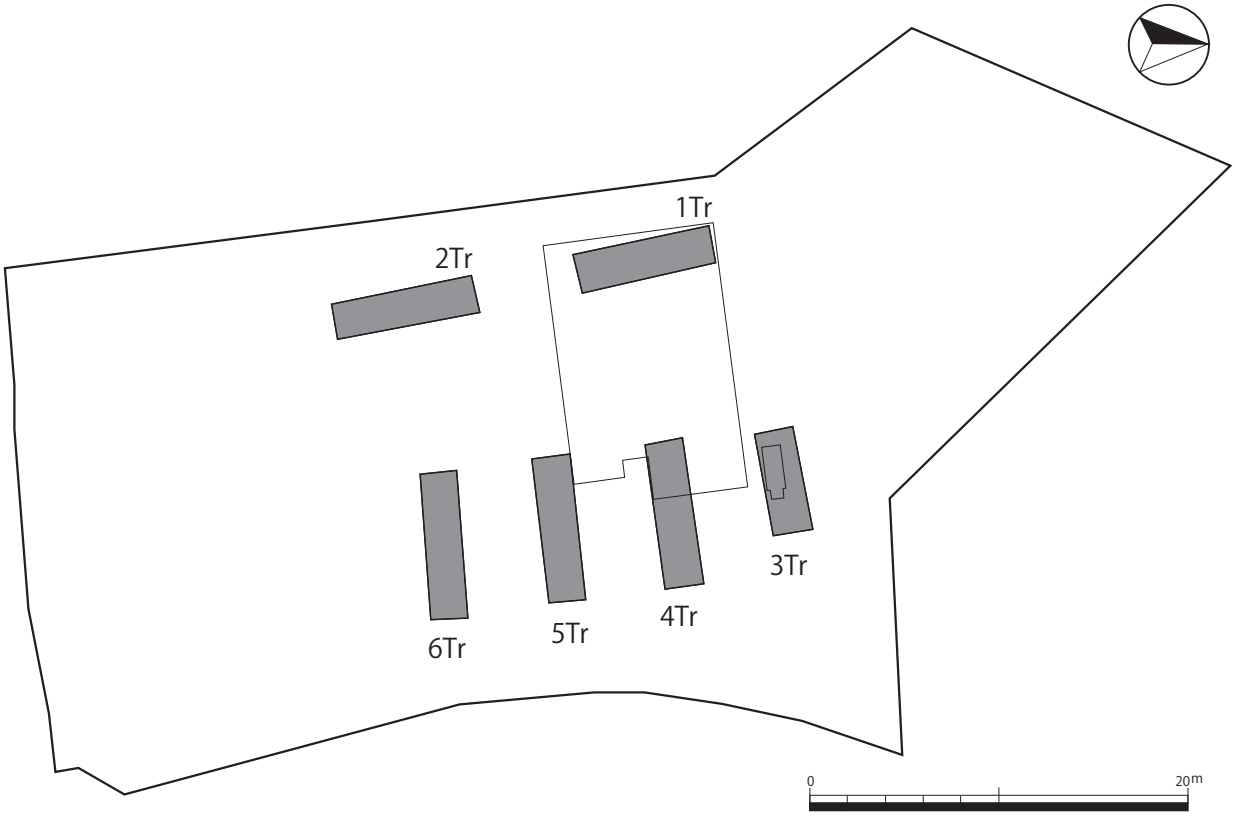
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、塚館跡の南東端に位置し、対象面積は約 549.6㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを６本設定し（第 57 図）、重機で掘削したのち、人力で精査を行った。調査面積は約 87.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても 0.6 ～ 0.8 mを測る盛土がみられ、その直下で地山を確認した。盛土は、北西から南東に向って厚く堆積が認められた。遺構･遺物は検出されなかった。

それぞれのトレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。



第 57 図　塚館跡 トレンチ設定図（S = 1/400）

4．まとめ

塚館跡の調査においては、先述したとおり、これまでの調査で館跡の痕跡は確認されていない。今回の調査地点は、包蔵地とされている範囲の南東端部、館が所在していた小山の裾部にあたり、既に造成が行われていると推察することができる。

写真 102　塚館跡 1 トレンチ全景（南から）

写真 103　塚館跡 2 トレンチ全景（南から）

写真 104　塚館跡 3 トレンチ全景（西から）

写真 105　塚館跡 4 トレンチ全景（西から）

写真 106　塚館跡 5 トレンチ全景（西から）

写真 107　塚館跡 6 トレンチ全景（西から）

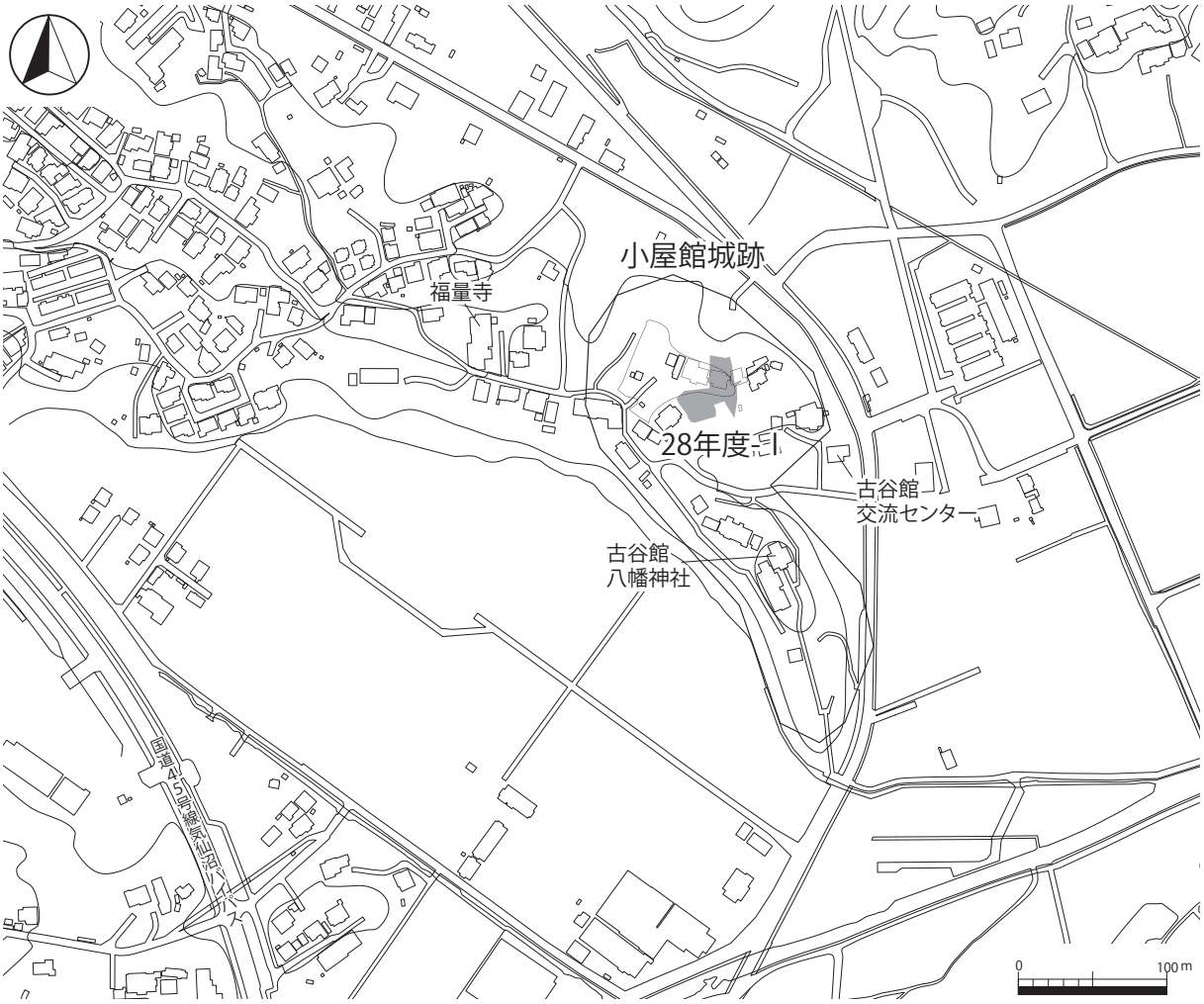
第４節　小屋館城跡

１．調査に至る経緯

平成 27 年 12 月７日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、松崎中瀬地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である小屋館城跡（遺跡番号 59049）に該当している（第 58 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、平成 28 年１月６日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2629 号）。

つづいて、平成 28 年１月 20 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、３月９日付けで県教委から通知が出された（文第 3253 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 12 月 19 日に確認調査を実施することとなった。



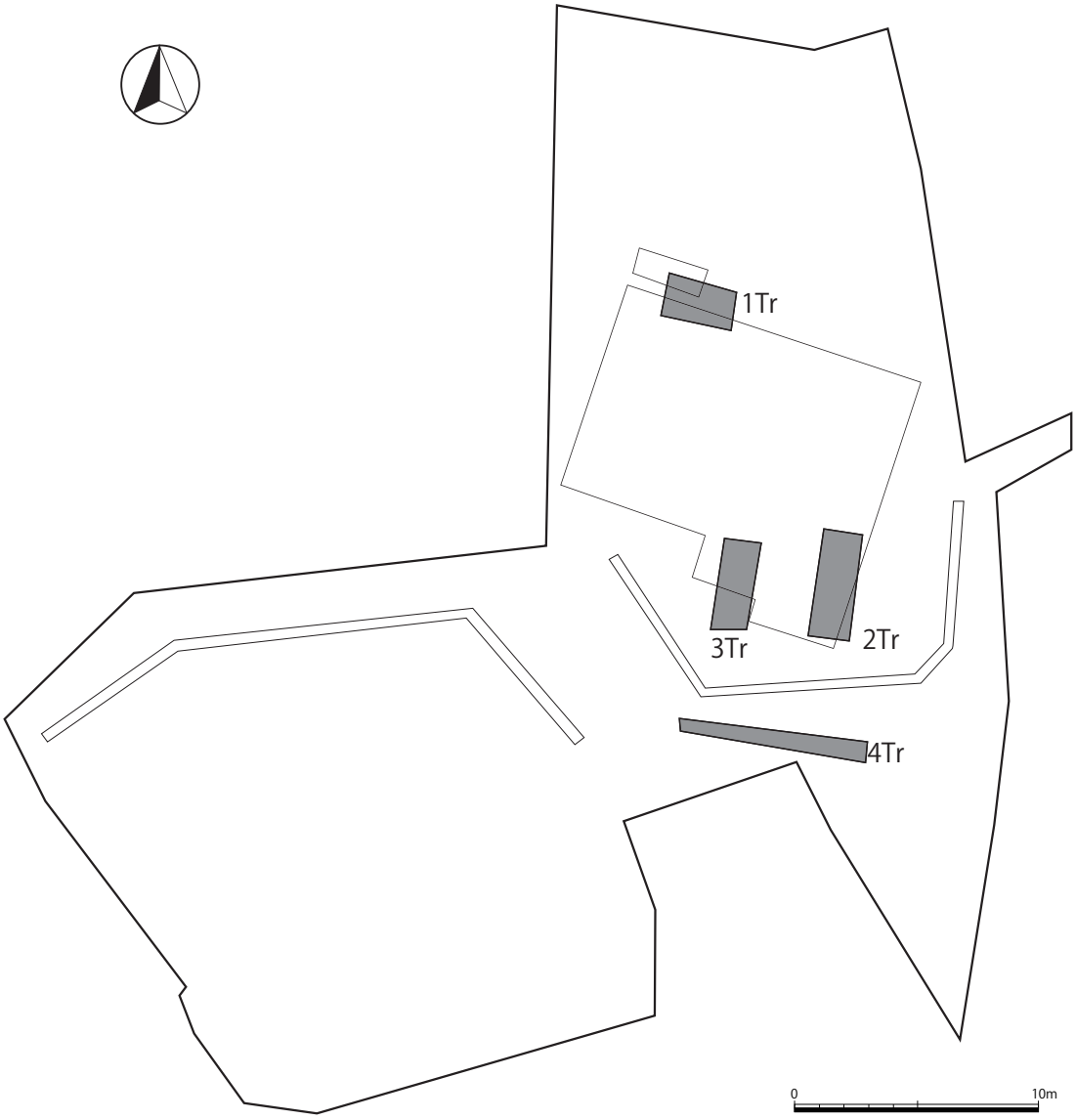
第 58 図　小屋館城跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

2．遺跡の概要

小屋館城跡は、市内松崎中瀬に所在する。気仙沼湾奥に面した小丘陵の突端部に立地する中世の城館跡である。『仙台領古城書上』によると、城主が「熊谷左京進」で、規模は「東西十七間　南北七十八間」であったと記されている。

本城跡周辺には、北東約 500 mに大館跡、南南東約 900 mに八幡館跡、南約 1500 mに相馬館跡が知られている。また、南南西から北西にかけても 1500 mから 1900 m圏内に猿喰東館跡、古館跡、館森館跡などの中世館跡が知られている。小屋館城跡は旧街道沿いの要所に位置しており、周囲の館跡が支城としての機能を果たしていた可能性も考えられるが、詳細は明らかでない。

小屋館城跡の調査は、平成８年に八幡神社移転に伴う確認調査を実施し、堀跡が確認されている。また、平成 28 年７月から 11 月にかけて、宮城県教育委員会が実施した三陸沿岸道路建設に伴う発掘調査（本調査）において、堀が３条検出されている。最大の堀は、幅５m、深さ 1.5 m前後を測るもので、調査により延長 54 mほど確認している。



第 59 図　小屋館城跡 トレンチ設定図（S = 1/300）

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、小屋館城跡の北部に位置し、対象面積は約 502.1㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを４本設定し（第 59 図）、重機で掘削したのち、人力で精査を行った。調査面積は約 31.6㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても 0.35 ～ 0.45 ｍで地山を確認した。堆積土は盛土で、遺構・遺物は検出されなかった。

それぞれのトレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の小屋館城跡の調査においては、城跡の痕跡は確認することができなかった。しかし、これまでの調査で貴重な成果を得ている。

小屋館城跡の中心にあたるといわれている箇所は、古谷館八幡神社周辺とされている。平成８年調査で、堀跡が検出されている。また、平成 28 年県教委実施の調査では、幅５ｍ及び３ｍを測る二重の堀跡が検出された。さらに、堀には改修の痕跡が認められ、ある程度長期間居城としての機能を果たしていたものと考えることができる。

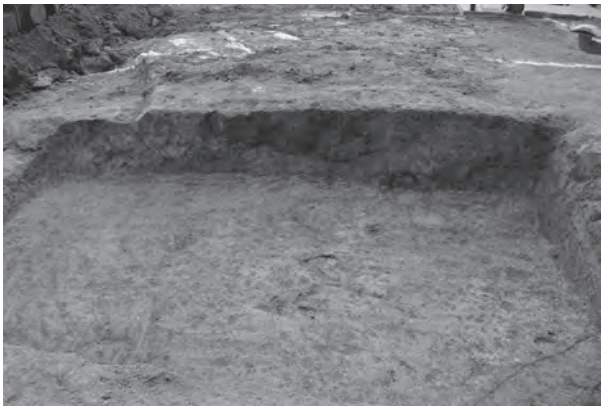


写真 108　小屋館城跡 １トレンチ全景（北から）

写真 109　小屋館城跡 ２トレンチ全景（北から）

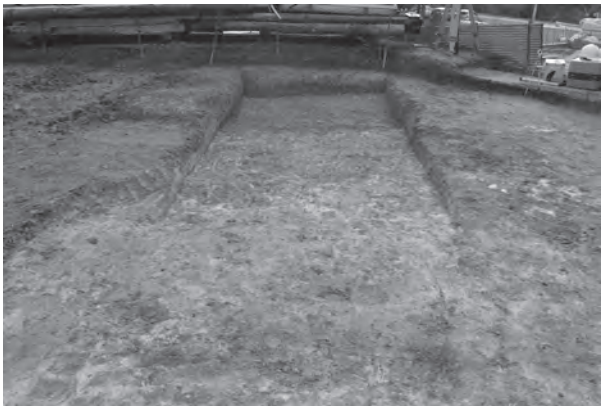


写真 110　小屋館城跡 ３トレンチ全景（北から）

写真 111　小屋館城跡 ４トレンチ全景（西から）

第５章　総括

本報告書は、平成 26・27・28 年度に調査を実施した国庫補助対象事業に伴う発掘調査の報告書である。平成 26 ～ 28 年度は、３年間で 74 件の発掘調査を実施している。そのうち、30 件が国庫補助対象事業である。

気仙沼市では、例年 20 ～ 30 件の確認調査を実施しているが、国庫補助事業の割合は、平成 26 年度が 40.0%、平成 27 年度が 33.3%、平成 28 年度が 50.0%と、増えつつある。

以下に、各年度の様相を総括する。

平成 26 年度

平成 26 年度は、国庫補助対象事業 12 件のうち、11 件で国庫補助を受けて確認調査を実施した。忍館城跡で近世遺物がわずかに検出されたほかは、いずれの調査においても遺構・遺物は検出されなかった。

平成 27 年度

平成 27 年度は、国庫補助対象事業８件のうち、６件で国庫補助を受けて確認調査を実施した。そのうち、古館貝塚および高谷遺跡で遺物包含層が検出された。古館貝塚は、縄文時代中期から後期初頭を主体とする遺物包含層が検出された。調査の結果、遺物包含層は、二次堆積であることが推測された。当該地は、平成 24 年度に土坑４基が検出された地点と 70 mほどの距離にあり、両調査地点とも検出された遺物の時期が類似している。高谷遺跡で検出された遺物包含層は、工事による影響が遺跡に及ばないため、掘削は行わなかったが、縄文土器片が数点検出された。細片であり、磨耗が著しいために時期等は不明であるが、周辺では平成 24 年度の個人住宅等建築に伴って実施した調査においても遺構・遺物が検出されており、これまでの調査結果を含めて遺跡の位置づけ等を検討する必要がある。

なお、南最知貝塚は、平成 24 年度第２次調査地点と通りを挟んで隣接しているが、今回の調査においては、時期不明の小穴が１基検出されたのみであった。

平成 28 年度

平成 28 年度は、国庫補助対象事業 10 件のうち、８件で国庫補助を受けて確認調査を実施した。そのうち、５件が石兜貝塚であった。平成 28 年度に調査を実施した案件で遺構・遺物は検出されなかった。

平成 26 年度から平成 28 年度に実施した国庫補助対象事業で本調査に至った案件はなかった。

【主要参考文献】

気仙沼市教育委員会（2017）『気仙沼市文化財調査報告書第９集　気仙沼市内発掘調査報告書１』気仙沼市教育委員会

気仙沼市教育委員会（2017）『気仙沼市文化財調査報告書第 10 集　気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書１』気仙沼市教育委員会

紫桃正隆（1973）『史料　仙台領内古城館・第二巻』宝文堂

戸沢充則 編（1994）『縄文時代研究事典』東京堂出版

宮城県教育委員会ほか（1986）『田柄貝塚Ⅰ（遺構・土器編）』宮城県教育委員会

報告書抄録

ふりがな	けせんぬましないはっくつちょうさほうこくしょ
書名	気仙沼市内発掘調査報告書
副書名	国庫補助対象事業に伴う発掘調査（平成 26 ～ 28 年度）
巻次	2
シリーズ名	気仙沼市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 13 集
編著者名	石川　郁
編集機関	気仙沼市教育委員会
所在地	〒 988-8502　宮城県気仙沼市魚市場前 1 番 1 号　TEL　0226-22-3442
発行年月日	2018 年 3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	(調査次数)	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
うちまつかわいせき 内松川遺跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 うちまつかわ 内松川	042056	59011	38° 92′ 44″	141° 54′ 35″	20140530	8.0㎡	試掘・確認調査
たいらだていせき・たいらだてあと 平館遺跡・平館跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 きりどおし 切通	042056	59027	38° 91′ 10″	141° 54′ 42″	20141028～20141029	18.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 26 年度第 2 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 まつかわまえ 松川前		59055	38° 91′ 10″	141° 54′ 69″	20141208	57.0㎡	試掘・確認調査
ほらだてあと 洞館跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 もとよしちょうほらさわ 本吉町洞沢	042056	62035	38° 82′ 58″	141° 56′ 47″	20141110	111.0㎡	試掘・確認調査
だいにちいせき 大日遺跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 かくくわちょうまつばたけ 唐桑町松圃	042056	63020	38° 87′ 25″	141° 66′ 03″	20141209	21.0㎡	試掘・確認調査
たかやかいづか 高谷貝塚	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 まつざきたかや 松崎高谷	042056	59094	38° 87′ 14″	141° 57′ 43″	20141217	74.0㎡	試掘・確認調査
しのぶだてじょうあと 忍館城跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 なみいた 浪板ほか	042056	59082	38° 91′ 51″	141° 58′ 77″	20150119	17.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 27 年度第 1 次)				38° 91′ 47″	141° 58′ 82″	20160127～20160128	20.3㎡	試掘・確認調査
ながさきじょうあと 長崎城跡	(平成 26 年度第 2 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 たてやま 舘山	042056	59064	38° 90′ 41″	141° 55′ 75″	20150203	32.0㎡	試掘・確認調査
うなざわかいづか・うなざわこふんぐん 卯名沢貝塚・卯名沢古墳群	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 もとよしちょううなざわ 本吉町卯名沢	042056	62015 62041	38° 77′ 88″	141° 50′ 86″	20150209	20.0㎡	試掘・確認調査
つきだてだいいせき 月立台遺跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 しんだい 新台	042056	59008	38° 93′ 56″	141° 51′ 99″	20150224～20150225	27.1㎡	試掘・確認調査
いしかぶとかいづか 石兜貝塚	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 あかいわいしかぶと 赤岩石兜	042056	59091	38° 88′ 57″	141° 56′ 72″	20150302～20150303	41.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 27 年度第 1 次)				38° 88′ 51″	141° 56′ 71″	20160217	18.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 すぎのさわ 杉ノ沢			38° 88′ 69″	141° 56′ 84″	20160420～20160422	41.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 2 次)				38° 88′ 69″	141° 56′ 81″	20160420～20160422	11.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 4 次)				38° 88′ 63″	141° 56′ 82″	20161115	29.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 5 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 あかいわいしかぶと 赤岩石兜			38° 88′ 63	141° 56′ 90″	20161116	38.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 6 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 あかいわすぎのさわ 赤岩杉ノ沢			38° 88′ 77″	141° 56′ 77″	20170116～20170117	62.9㎡	試掘・確認調査
みなみさいちかいづか 南最知貝塚	(平成 27 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 さいちみなみさいち 最知南最知	042056	59035	38° 84′ 90″	141° 57′ 89″	20150806	32.0㎡	試掘・確認調査
こだてかいづか 古館貝塚	(平成 27 年度第 2 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 かくくわちょうしびたち 唐桑町鮪立	042056	63017	38° 89′ 26	141° 63′ 97″	20150807～20150812	58.0㎡	試掘・確認調査
たかやいせき 高谷遺跡	(平成 27 年度第 2 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 まつざきたかや 松崎高谷	042056	59109	38° 86′ 96″	141° 57′ 70″	20150903～20150904	46.0㎡	試掘・確認調査
まえはまかいづか 前浜貝塚	(平成 27 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 もとよしちょうまえはま 本吉町前浜	042056	62040	38° 80′ 42″	141° 54′ 96″	20151013～20151014	12.2㎡	試掘・確認調査
まついわかいづか 松岩貝塚	(平成 28 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 あかいわおいのまつ 赤岩老松	042056	59002	38° 88′ 65″	141° 57′ 84″	20160808	10.0㎡	試掘・確認調査
つかだてあと 塚館跡	(平成 28 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 さいちみなみさいち 最知南最知	042056	59042	38° 84′ 90″	141° 57′ 46″	20161018～20161020	87.0㎡	試掘・確認調査
こやだてじょうあと 小屋館城跡	(平成 28 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 まつざきなかせ 松崎中瀬	042056	59049	38° 87′ 38″	141° 58′ 19″	20161219	31.6㎡	試掘・確認調査

所収遺跡名	（調査次数）	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内松川遺跡	（平成 26 年度第 1 次）	散布地	縄文	なし	なし	
平館遺跡・平館跡	（平成 26 年度第 1 次）	散布地・城館跡	縄文（前～晩期），古代・中世	なし	なし	
	（平成 26 年度第 2 次）			なし	なし	
洞館跡	（平成 26 年度第 1 次）	屋敷	中世	なし	なし	
大日遺跡	（平成 26 年度第 1 次）	散布地	縄文	なし	なし	
高谷貝塚	（平成 26 年度第 1 次）	貝塚	縄文	なし	なし	
忍館城跡	（平成 26 年度第 1 次）	城館跡	中世	なし	磁器・銭貨（近世）	
	（平成 27 年度第 1 次）			なし	なし	
長崎城跡	（平成 26 年度第 2 次）	城館跡，集落	中世，古代	なし	なし	
卯名沢貝塚・卯名沢古墳群	（平成 26 年度第 1 次）	貝塚・古墳	縄文（前～後期），弥生・古墳	なし	なし	
月立台遺跡	（平成 26 年度第 1 次）	散布地	縄文（晩期），古代	なし	なし	
石兜貝塚	（平成 26 年度第 1 次）	貝塚	古代，中世	なし	なし	
	（平成 27 年度第 1 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 1 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 2 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 4 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 5 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 6 次）			なし	なし	
南最知貝塚	（平成 27 年度第 1 次）	貝塚，集落	縄文（前・中期），古墳（後期）	小穴（時期不明）	なし	
古館貝塚	（平成 27 年度第 2 次）	貝塚	縄文（前～後期）	遺物包含層（縄文中～後期）	縄文土器，石器	遺物包含層は二次堆積
高谷遺跡	（平成 27 年度第 2 次）	散布地	縄文	遺物包含層（縄文）	縄文土器	遺物包含層は工事による影響なし
前浜貝塚	（平成 27 年度第 1 次）	貝塚	縄文（後・晩期）	なし	なし	
松岩貝塚	（平成 28 年度第 1 次）	貝塚	縄文（後・晩期）	なし	なし	
塚館跡	（平成 28 年度第 1 次）	城館跡	中世	なし	なし	
小屋館城跡	（平成 28 年度第 1 次）	城館跡	中世	なし	なし	

要　　約

平成 26 ～ 28 年度の国庫補助金対象事業のうち、国庫補助金を受けて行った発掘調査（19 遺跡 25 地点）について所収した。そのうち、遺構が検出された地点は、平成 27 年度に実施した南最知貝塚で小穴 1 基及び古館貝塚と高谷遺跡で遺物包含層が検出されたのみであった。遺物は、古館貝塚で縄文時代中期から後期初頭の遺物を中心として、多量検出された。そのうち、縄文土器（土製品含む）102 点及び石器 11 点を掲載した。高谷遺跡で検出された縄文土器は細片で掲載し得るものはなかった。なお、遺物は、平成 26 年度調査の忍館城跡においても検出されているが、江戸時代に帰属するものであり、忍館城跡に伴うものではなかった。平成 28 年度調査地点においては、遺構・遺物が検出された地点はなかった。

－気仙沼市文化財調査報告書一覧－

【本吉町】

『本吉町の文化財』（1978 年５月） 宮城県本吉町教育委員会

宮城県本吉郡本吉町文化財調査報告書第２集

『前浜貝塚』（1979 年７月） 宮城県本吉町教育委員会

本吉町文化財調査報告書第３集

『宮城県本吉町 平貝遺跡　平貝窯跡』（1999 年３月） 本吉町教育委員会

【気仙沼市】

宮城県気仙沼市文化財調査報告書

『塚沢横穴古墳群』（昭和 51 年３月） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第２集

『南最知遺跡発掘調査概報』 （昭和 55 年３月） 宮城県気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第３集

『塚沢横穴古墳群　Ｂ地区発掘調査報告書』（昭和 56 年） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第４集

『内の脇２号貝塚発掘調査概報』（昭和 57 年） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第５集

『一般県道大島線改良工事に伴う駒形遺跡発掘調査報告』（昭和 61 年） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第６集

『上八瀬地区化石調査報告書』（昭和 62 年９月） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第７集

『気仙沼市の洞穴　気仙沼市洞穴地域調査報告書』（1995 年３月） 気仙沼市教育委員会ほか

気仙沼市文化財調査報告書第８集

『嚮館跡　防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備事業（大谷地区）に伴う発掘調査報告書』（2016 年）
気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第９集

『気仙沼市内発掘調査報告書１　－国庫補助対象事業に伴う発掘調査－（平成 24・25 年度)』（2017 年）
気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 10 集

『気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書１　－平成 24 年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財
発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査－』（2017 年） 気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 11 集

『台の下遺跡－防災集団移転促進事業災害公営住宅整備事業（大沢Ａ地区）に伴う発掘調査報告書１－』
（2018）気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 12 集

『漁業集落防災機能強化事業集会所施設用地整備（気仙沼市唐桑町大沢地区）台の下遺跡９区』（2018 年）
気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 13 集

『気仙沼市内発掘調査報告書２　－国庫補助対象事業に伴う発掘調査－（平成 26 ～ 28 年度)』（2018 年）
気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 13 集

気仙沼市内発掘調査報告書 2

ー国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書ー

（平成 26 ～ 28 年度）

発　行　日　2018 年 3 月 30 日

編集・発行　宮城県気仙沼市魚市場前 1 － 1
気仙沼市教育委員会

印　　刷　宮城県気仙沼市内松川 41 － 1
双葉印刷株式会社

気仙沼市内発掘調査報告書２

－国庫補助対象事業に伴う発掘調査－

（平成 26 ～ 28 年度）

２０１８

気仙沼市教育委員会

刊行にあたって

気仙沼市には 181 か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が知られております。

平成23年３月11日に発生した東日本大震災によって、高台への防災集団移転、災害公営住宅や個人住宅の再建等復興事業が必要となりました。それに伴い、埋蔵文化財の調査件数も急増しております。

本市では、東日本大震災以後急増した発掘調査を円滑かつ迅速に進めるため、宮城県教育委員会や全国の自治体からの職員の派遣などの協力をいただき、また、任期付職員を新たに採用するなど、専門職員の充実を図ってまいりました。

市内では、震災後、復興事業のほか、高台における個人住宅の建築や公共事業なども増え、埋蔵文化財と事業のかかわりが増加しています。このことは、事業者が事業地選定にあたり、被災する可能性のある低地を避け、安全な高台に土地を求めた結果であると思われます。

本書は、平成 26 年度から 28 年度に気仙沼市が国庫補助金対象事業として実施しました確認調査の成果をまとめたものです。平成 26 年度は 12 件(12 遺跡)、27 年度は８件（８遺跡)、28 年度は 10 件（６遺跡）の確認調査を実施しました。その結果、２件（２遺跡）で遺物が発見されました。

この報告書が市民の皆様はじめ多くの方々に活用され、地域の歴史を明らかにする一助となるとともに、埋蔵文化財に対する御理解がいっそう深まりますよう願ってやみません。

最後になりますが、遺跡の保存に御理解いただき、また、発掘調査に際して、御協力をいただきました関係者の皆さまに厚く御礼申し上げる次第であります。

平成３０年３月

気仙沼市教育委員会

教育長　　齋藤　益男

例　言

1．本書は、気仙沼市が国庫補助金を得て、平成 26・27・28 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、気仙沼市教育委員会生涯学習課が主体となり、宮城県教育委員会の協力のもと実施した。
3．整理作業は、各遺跡発掘調査終了後から平成 29 年度にかけて行った。
4．本書の編集・執筆は、石川 郁が行った。
5．遺物の実測及びトレースは、主に森千可子が行ったが、一部の土器の実測および石器の実測・トレースは、株式会社ノガミに委託して行った。
6．遺物の観察は、熊谷 満・石川が行った。
7．写真撮影は、遺構については各調査担当者が、遺物については熊谷が行った。
6．本調査において記録した諸資料及び検出された遺物は、気仙沼市教育委員会で保管している。
7．発掘調査から報告書の作成に至るまで、次の方々や諸機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝する次第である。（五十音順　敬省略）

伊東　美子　　及川　由美　　菊田　健也　　菊田　節男　　熊谷　昭治　　小松　勝
西城　栄信　　齋藤　訓和　　齋藤　信吾　　齋藤　雅恵　　鈴木　　章　　鈴木　厚
鈴木　沙也香　芳賀　康夫　　畠山　幸一　　畠山　宏　　村上　智広　　吉田　孝志
渡部　華子
株式会社 NTT ドコモ東北支社　　株式会社キクタ総合企画　　株式会社小松工業
株式会社忠栄　　株式会社やまじゅう　　気仙沼市　　公益社団法人気仙沼市シルバー人材センター　　宮城県気仙沼土木事務所

凡　例

1．遺跡名略号　　本書掲載の遺跡について、遺物の注記等に用いた略号は、以下のとおりである。

内松川遺跡：UMK　　平館遺跡：TAI　　平館跡：TRT　　洞館跡：HRA　　大日遺跡：DNI
高谷貝塚：TAK　　忍館城跡：SIN　　長崎城跡：NAJ　　卯名沢貝塚：UNK　　卯名沢古墳群：UKO　　月立台遺跡：TDD　　石兜貝塚：ISI　　南最知貝塚：MSK　　古館貝塚：KOD
高谷遺跡：TKY　　前浜貝塚：MAE　　松岩貝塚：MIK　　塚館跡：TSU　　小屋館城跡：KOY

2．調査次数　　調査次数は、各年度ごとに第 1 次から順に付した。特に断りのない場合は、当該年度の第 1 次調査である。また、調査地点位置図および一部のキャプションでは、「年度－ローマ数字」と記載している。ローマ数字は、当該年度の次数を示している。

3．図　　版　　方位は、原則として図版左上に方位円によって示した。この方位は、真北を指す。
縮尺は、各図版に示したが、遺物については、原則として以下のとおりである。
土器：1/3　　土製品：1/2　　石器（石鏃を除く）1/3 または 1/2　石鏃：2/3
土製円板（第 37 図）の→は、研磨箇所を示した。
トレンチ位置図の Tr は、トレンチをさす。

4．本文、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真の番号は一致する。
5．遺物観察表の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局ほか監修）を使用した。

目　次

刊行にあたって
例　言
凡　例
目　次

第１章　調査概要 …… 1
第１節　概要 …… 1
１．目的（１）／２．調査実績（１）
第２節　調査体制 …… 2
第３節　立地 …… 3
第２章　平成 26 年度の調査 …… 7
第１節　内松川遺跡 …… 7
１．調査に至る経緯（７）／２．遺跡の概要（７）／３．調査の概要と成果（８）／４．まとめ（９）
第２節　平館遺跡・平館跡 …… 9
１．調査に至る経緯（９）／２．遺跡の概要（10）／３．調査の概要と成果（11）／４．まとめ（13）
第３節　洞館跡 …… 13
１．調査に至る経緯（13）／２．遺跡の概要（13）／３．調査の概要と成果（14）／４．まとめ（15）
第４節　大日遺跡 …… 16
１．調査に至る経緯（16）／２．遺跡の概要（17）／３．調査の概要と成果（17）／４．まとめ（18）
第５節　高谷貝塚 …… 18
１．調査に至る経緯（18）／２．遺跡の概要（19）／３．調査の概要と成果（19）／４．まとめ（21）
第６節　忍館城跡 …… 21
１．調査に至る経緯（21）／２．遺跡の概要（22）／３．調査の概要と成果（23）／４．まとめ（24）
第７節　長崎城跡 …… 24
１．調査に至る経緯（24）／２．遺跡の概要（25）／３．調査の概要と成果（25）／４．まとめ（27）
第８節　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群 …… 27
１．調査に至る経緯（27）／２．遺跡の概要（28）／３．調査の概要と成果（29）／４．まとめ（30）
第９節　月立台遺跡 …… 30
１．調査に至る経緯（30）／２．遺跡の概要（30）／３．調査の概要と成果（31）／４．まとめ（31）
第 10 節　石兜貝塚 …… 33
１．調査に至る経緯（33）／２．遺跡の概要（34）／３．調査の概要と成果（34）／４．まとめ（35）

第３章　平成 27 年度の調査 …… 37
第１節　南最知貝塚 …… 37
１．調査に至る経緯（37）／２．遺跡の概要（38）／３．調査の概要と成果（39）／４．まとめ（39）
第２節　古館貝塚 …… 40
１．調査に至る経緯（40）／２．遺跡の概要（41）／３．調査の概要と成果（41）／４．まとめ（59）
第３節　高谷遺跡 …… 60
１．調査に至る経緯（60）／２．遺跡の概要（60）／３．調査の概要と成果（61）／４．まとめ（63）
第４節　前浜貝塚 …… 63
１．調査に至る経緯（63）／２．遺跡の概要（64）／３．調査の概要と成果（65）／４．まとめ（67）
第５節　忍館城跡 …… 67
１．調査に至る経緯（67）／２．遺跡の概要（68）／３．調査の概要と成果（68）／４．まとめ（69）
第６節　石兜貝塚 …… 70
１．調査に至る経緯（70）／２．遺跡の概要（71）／３．調査の概要と成果（71）／４．まとめ（71）
第４章　平成 28 年度の調査 …… 73
第１節　石兜貝塚 …… 73
１．調査に至る経緯（73）／２．遺跡の概要（75）／３．調査の概要と成果（75）／４．まとめ（81）
第２節　松岩貝塚 …… 81
１．調査に至る経緯（81）／２．遺跡の概要（82）／３．調査の概要と成果（82）／４．まとめ（83）
第３節　塚館跡 …… 83
１．調査に至る経緯（83）／２．遺跡の概要（84）／３．調査の概要と成果（85）／４．まとめ（86）
第４節　小屋館城跡 …… 87
１．調査に至る経緯（87）／２．遺跡の概要（88）／３．調査の概要と成果（89）／４．まとめ（89）
第５章　総括 …… 91

報告書抄録

挿図目次

第 1図　調査遺跡位置図 …… 4
第 2図　内松川遺跡 調査地点位置図 …… 7
第 3図　内松川遺跡 トレンチ設定図 …… 8
第 4図　平館遺跡・平館跡 調査地点位置図 …… 10
第 5図　平館遺跡・平館跡 第1次調査
　　トレンチ設定図 …… 11
第 6図　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　トレンチ設定図 …… 12
第 7図　洞館跡 調査地点位置図 …… 14
第 8図　洞館跡 トレンチ設定図 …… 15
第 9図　大日遺跡 調査地点位置図 …… 16
第 10図　大日遺跡 トレンチ設定図 …… 17
第 11図　高谷貝塚 調査地点位置図 …… 19
第 12図　高谷貝塚 トレンチ設定図 …… 20
第 13図　忍館城跡 調査地点位置図 …… 22
第 14図　忍館城跡 トレンチ設定図 …… 23
第 15図　忍館城跡 出土遺物（銭貨） …… 24
第 16図　長崎城跡 調査地点位置図 …… 25
第 17図　長崎城跡 トレンチ設定図 …… 26
第 18図　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
　　調査地点位置図 …… 28
第 19図　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
　　トレンチ設定図 …… 29
第 20図　月立台遺跡 調査地点位置図 …… 31
第 21図　月立台遺跡 トレンチ設定図 …… 32
第 22図　石兜貝塚 調査地点位置図 …… 33
第 23図　石兜貝塚 トレンチ設定図 …… 34
第 24図　南最知貝塚 調査地点位置図 …… 37
第 25図　南最知貝塚 トレンチ設定図 …… 38
第 26図　古館貝塚 調査地点位置図 …… 40
第 27図　古館貝塚 トレンチ設定図 …… 41
第 28図　古館貝塚 土層堆積柱状図 …… 42
第 29図　古館貝塚 出土遺物1(土器 1) …… 44
第 30図　古館貝塚 出土遺物2(土器 2) …… 45
第 31図　古館貝塚 出土遺物3(土器 3) …… 46
第 32図　古館貝塚 出土遺物4(土器 4) …… 47
第 33図　古館貝塚 出土遺物5(土器 5) …… 48
第 34図　古館貝塚 出土遺物6(土器 6) …… 49
第 35図　古館貝塚 出土遺物7(土器 7) …… 50
第 36図　古館貝塚 出土遺物8(土器 8・土製品 1)… 51
第 37図　古館貝塚 出土遺物9(土製品 2・石器 1)… 52
第 38図　古館貝塚 出土遺物 10(石器 2) …… 53
第 39図　古館貝塚 出土遺物 11(石器 3) …… 54
第 40図　高谷遺跡 調査地点位置図 …… 60
第 41図　高谷遺跡 トレンチ設定図 …… 61
第 42図　前浜貝塚 調査地点位置図 …… 63
第 43図　前浜貝塚 トレンチ設定図 (1)〔西側〕…… 64
第 44図　前浜貝塚 トレンチ設定図 (2)〔東側〕…… 65
第 45図　忍館城跡 調査地点位置図 …… 67
第 46図　忍館城跡 トレンチ設定図 …… 68
第 47図　石兜貝塚 調査地点位置図 …… 70
第 48図　石兜貝塚 トレンチ設定図 …… 71
第 49図　石兜貝塚 調査地点位置図 …… 74
第 50図　石兜貝塚 (28年度第1・2次調査)
　　トレンチ設定図 …… 76
第 51図　石兜貝塚 (28年度第4次調査)
　　トレンチ設定図 …… 77
第 52図　石兜貝塚 (28年度第5次調査)
　　トレンチ設定図 …… 78
第 53図　石兜貝塚 (28年度第6次調査)
　　トレンチ設定図 …… 80
第 54図　松岩貝塚 調査地点位置図 …… 82
第 55図　松岩貝塚 トレンチ設定図 …… 83
第 56図　塚館跡 調査地点位置図 …… 84
第 57図　塚館跡 トレンチ設定図 …… 85
第 58図　小屋館城跡 調査地点位置図 …… 87
第 59図　小屋館城跡 トレンチ設定図 …… 88

表目次

第 1表　平成26年度国庫補助対象事業
　　発掘調査一覧 …… 1
第 2表　平成27年度国庫補助対象事業
　　発掘調査一覧 …… 2
第 3表　平成28年度国庫補助対象事業
　　発掘調査一覧 …… 2
第 4表　平成26～28年度確認調査
　　実施遺跡一覧 …… 5
第 5表　忍館城跡 出土遺物観察表1(銭貨) …… 24
第 6表　忍館城跡 出土遺物観察表2(陶磁器類)… 24
第 7表　古館貝塚 出土遺物観察表1(土器 1) …… 45
第 8表　古館貝塚 出土遺物観察表2(土器 2) …… 47
第 9表　古館貝塚 出土遺物観察表3(土器 3) …… 49
第 10表　古館貝塚 出土遺物観察表4
　　(土器 4・土製品 1) …… 51
第 11表　古館貝塚 出土遺物観察表5(土製品 2)… 53
第 12表　古館貝塚 出土遺物観察表6(石器 1) …… 53
第 13表　古館貝塚 出土遺物観察表7(石器 2) …… 54

写真目次

写真 1　内松川遺跡 1トレンチ全景 (南から) …… 8
写真 2　内松川遺跡 2トレンチ全景 (北から) …… 8
写真 3　平館遺跡・平館跡 第1次調査
　　トレンチ土層堆積状況 (東から) …… 11
写真 4　平館遺跡・平館跡 第1次調査
　　トレンチ全景 (南から) …… 11
写真 5　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　1トレンチ全景 (南から) …… 12
写真 6　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　2トレンチ全景 (西から) …… 12
写真 7　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　3トレンチ全景 (西から) …… 13
写真 8　平館遺跡・平館跡 第2次調査
　　4トレンチ全景 (西から) …… 13
写真 9　洞館跡 1トレンチ全景 (南から) …… 15
写真 10　洞館跡 2トレンチ全景 (南から) …… 15
写真 11　洞館跡 3トレンチ全景 (南から) …… 16
写真 12　洞館跡 4トレンチ全景 (南から) …… 16
写真 13　大日遺跡 1トレンチ土層堆積状況
　　(北から) …… 17
写真 14　大日遺跡 1トレンチ全景 (西から) …… 17
写真 15　大日遺跡 2トレンチ全景 (西から) …… 18
写真 16　大日遺跡 3トレンチ全景 (西から) …… 18
写真 17　高谷貝塚 1トレンチ土層堆積状況
　　(東から) …… 20
写真 18　高谷貝塚 1トレンチ全景 (西から) …… 20
写真 19　高谷貝塚 2トレンチ全景 (西から) …… 21
写真 20　高谷貝塚 3トレンチ全景 (南から) …… 21
写真 21　高谷貝塚 4トレンチ全景 (南から) …… 21
写真 22　高谷貝塚 5トレンチ全景 (南から) …… 21
写真 23　忍館城跡 1トレンチ全景 (東から) …… 23
写真 24　忍館城跡 2トレンチ全景 (東から) …… 23
写真 25　忍館城跡 出土遺物 …… 24
写真 26　長崎城跡 1トレンチ全景 (南から) …… 26
写真 27　長崎城跡 2トレンチ全景 (東から) …… 27
写真 28　長崎城跡 3トレンチ全景 (南から) …… 27
写真 29　長崎城跡 4トレンチ全景 (東から) …… 27
写真 30　長崎城跡 5トレンチ全景 (南から) …… 27
写真 31　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
　　1トレンチ全景 (東から) …… 29
写真 32　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
　　2トレンチ全景 (東から) …… 29
写真 33　月立台遺跡 1トレンチ土層堆積状況
　　(南から) …… 32
写真 34　月立台遺跡 1トレンチ全景 (南から) …… 32
写真 35　月立台遺跡 2トレンチ全景 (南から) …… 32
写真 36　月立台遺跡 3トレンチ全景 (西から) …… 32
写真 37　石兜貝塚 1トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 38　石兜貝塚 2トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 39　石兜貝塚 3トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 40　石兜貝塚 4トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 41　石兜貝塚 5トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 42　石兜貝塚 6トレンチ全景 (南から) …… 35
写真 43　石兜貝塚 7トレンチ全景 (南から) …… 36
写真 44　石兜貝塚 8トレンチ全景 (南から) …… 36
写真 45　石兜貝塚 9トレンチ全景 (南から) …… 36
写真 46　石兜貝塚 10トレンチ全景 (南から) …… 36
写真 47　南最知貝塚 1トレンチ全景 (南から) …… 39
写真 48　南最知貝塚 2トレンチ全景 (南から) …… 39
写真 49　南最知貝塚 2トレンチ小穴断面
　　(南から) …… 39
写真 50　南最知貝塚 3トレンチ全景 (南から) …… 39
写真 51　古館貝塚 1トレンチ全景 (東から) …… 42
写真 52　古館貝塚 2トレンチ土層堆積状況
　　(北から) …… 42
写真 53　古館貝塚 2トレンチ全景 (東から) …… 42
写真 54　古館貝塚 3トレンチ全景 (北から) …… 42
写真 55　古館貝塚 4トレンチ土層堆積状況
　　(東から) …… 43
写真 56　古館貝塚 4トレンチ全景 (南から) …… 43
写真 57　古館貝塚 5トレンチ全景 (南から) …… 43
写真 58　古館貝塚 6トレンチ全景 (南から) …… 43
写真 59　古館貝塚 出土遺物1 (土器 1) …… 55
写真 60　古館貝塚 出土遺物2 (土器 2) …… 56
写真 61　古館貝塚 出土遺物3 (土器 3) …… 57
写真 62　古館貝塚 出土遺物 4
　　(土器 4・土製品 1) …… 58
写真 63　古館貝塚 出土遺物5 (土製品 2・石器) …… 59
写真 64　高谷遺跡 1トレンチ全景 (北から) …… 62
写真 65　高谷遺跡 2トレンチ全景 (南から) …… 62
写真 66　高谷遺跡 3トレンチ土層堆積状況
　　(西から) …… 62
写真 67　高谷遺跡 3トレンチ全景 (南から) …… 62
写真 68　高谷遺跡 4トレンチ全景 (南から) …… 62
写真 69　高谷遺跡 5トレンチ全景 (東から) …… 62
写真 70　前浜貝塚 1トレンチ全景 (東から) …… 66
写真 71　前浜貝塚 2トレンチ全景 (北から) …… 66
写真 72　前浜貝塚 3トレンチ全景 (南から) …… 66
写真 73　前浜貝塚 4トレンチ全景 (南から) …… 66
写真 74　前浜貝塚 5トレンチ全景 (西から) …… 66
写真 75　前浜貝塚 6トレンチ全景 (西から) …… 66
写真 76　前浜貝塚 7トレンチ全景 (西から) …… 66
写真 77　前浜貝塚 8トレンチ全景 (北東から) …… 66
写真 78　忍館城跡 3トレンチ土層堆積状況
　　(南から) …… 69
写真 79　忍館城跡 3トレンチ全景 (東から) …… 69
写真 80　忍館城跡 4トレンチ全景 (北から) …… 69
写真 81　忍館城跡 5トレンチ全景 (北から) …… 69

写真 82　石兜貝塚 (28- Ⅰ) 1 トレンチ全景
(南から) …… 76
写真 83　石兜貝塚 (28- Ⅰ) 2 トレンチ全景
(南から) …… 76
写真 84　石兜貝塚 (28- Ⅱ) 1 トレンチ全景
(南から) …… 76
写真 85　石兜貝塚 (28- Ⅱ) 2 トレンチ全景
(南から) …… 76
写真 86　石兜貝塚 (28- Ⅳ) 1 トレンチ全景
(南から) …… 77
写真 87　石兜貝塚 (28- Ⅳ) 2 トレンチ全景
(北西から) …… 77
写真 88　石兜貝塚 (28- Ⅳ) 3 トレンチ
土層堆積状況 (南から) …… 78
写真 89　石兜貝塚 (28- Ⅳ) 3 トレンチ全景
(南東から) …… 78
写真 90　石兜貝塚 (28- Ⅴ) 1 トレンチ全景
(東から) …… 79
写真 91　石兜貝塚 (28- Ⅴ) 2 トレンチ全景
(南から) …… 79
写真 92　石兜貝塚 (28- Ⅴ) 3 トレンチ
土層堆積状況 (西から) …… 79
写真 93　石兜貝塚 (28- Ⅴ) 3 トレンチ全景
(南から) …… 79
写真 94　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 1 トレンチ全景
(北から) …… 80
写真 95　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 2 トレンチ全景
(南から) …… 80
写真 96　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 3 トレンチ全景
(南から) …… 80
写真 97　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 4 トレンチ全景
(南から) …… 80
写真 98　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 5 トレンチ全景
(南から) …… 81
写真 99　石兜貝塚 (28- Ⅵ) 6 トレンチ全景
(西から) …… 81
写真 100　松岩貝塚 1 トレンチ全景 (東から) …… 83
写真 101　松岩貝塚 2 トレンチ全景 (東から) …… 83
写真 102　塚館跡 1 トレンチ全景 (南から) …… 86
写真 103　塚館跡 2 トレンチ全景 (南から) …… 86
写真 104　塚館跡 3 トレンチ全景 (西から) …… 86
写真 105　塚館跡 4 トレンチ全景 (西から) …… 86
写真 106　塚館跡 5 トレンチ全景 (西から) …… 86
写真 107　塚館跡 6 トレンチ全景 (西から) …… 86
写真 108　小屋館城跡 1 トレンチ全景 (北から) …… 89
写真 109　小屋館城跡 2 トレンチ全景 (北から) …… 89
写真 110　小屋館城跡 3 トレンチ全景 (北から) …… 89
写真 111　小屋館城跡 4 トレンチ全景 (西から) …… 89

第１章　調査概要

第１節　概要

１．目的

市内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地における開発事業等に伴う遺跡の確認調査や、個人の専用住宅（費用負担を求めることが困難な事業者）に係る遺跡の本発掘調査を実施するにあたって、開発事業に対する埋蔵文化財の円滑な推進に資することが必要である。そのため、気仙沼市では、平成 24 年度より、国宝重要文化財等保存整備費補助事業（埋蔵文化財緊急調査事業国庫補助金）（以下、「国庫補助金」という。）の交付を受けて調査を行ってきた。

本書は、平成 26 年度から平成 28 年度に国庫補助金の交付を受けて実施した確認調査及び本発掘調査（本発掘調査件数は０件）について、成果を報告するものである。

２．調査実績

平成 26 年度の調査

気仙沼市における平成 26 年度の埋蔵文化財発掘調査は 30 件（27 遺跡）であり、そのうち、12 件（12 遺跡）が国庫補助対象事業であった（第１表）。国庫補助対象事業のうち、遺構・遺物が確認された案件は忍館城跡でわずかに近世遺物が検出されたのみであった（第２章第６節参照）。

平成 27 年度の調査

気仙沼市における平成 27 年度の埋蔵文化財発掘調査は 24 件（18 遺跡）であり、そのうち、８件（８遺跡）が国庫補助対象事業であった（第２表）。国庫補助対象事業のうち、遺構・遺物が検出された案件は古館貝塚と高谷遺跡で遺物包含層および縄文土器などが検出されたのみであった（第３章第２・３節参照）。

平成 28 年度の調査

気仙沼市における平成 28 年度の埋蔵文化財発掘調査は 20 件（15 遺跡）であり、そのうち、

第１表　平成 26 年度国庫補助対象事業発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査次	調査原因	所在地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	調査期間	調査種別	概要	報告	備考
1	内松川遺跡	1	個人住宅建築	内松川	317.0	8.0	5 月 30 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第１節	
2	平館遺跡 平館跡	1 1	消防屯所建設	切通	413.0	18.0	10 月 28 日～29 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第２節	
3	洞館跡	1	個人住宅新築	本吉町洞沢	1,110.0	111.0	11 月 10 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第３節	
4	平館遺跡 平館跡	2 2	資材置場及び仮設事務所設置	松川前	2,452.7	57.0	12 月 8 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第２節	
5	大日遺跡	1	個人住宅新築	唐桑町松圃	373.0	21.0	12 月 9 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第４節	
6	高谷貝塚	1	宅地造成	松崎高谷	1,194.0	74.0	12 月 17 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第５節	
7	忍館城跡	1	土砂採取	浪板ほか	9,954.0	17.0	1 月 19 日	確認調査	遺構なし，遺物３点（近世）	第２章　第６節	
8	長崎城跡	2	急傾斜地崩壊・防止施設設置	舘山	1,620.0	32.0	2 月 3 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第７節	
9	卯名沢貝塚 卯名沢古墳群	1 1	宅地造成	本吉町卯名沢	751.0	20.0	2 月 9 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第８節	
10	月立台遺跡	1	個人住宅建築	新台	418.8	27.1	2 月 24 日～25 日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第９節	
11	石兜貝塚	1	宅地造成およびアパート新築	赤岩石兜	2,781.0	41.0	3 月 2 日～３日	確認調査	遺構・遺物なし	第２章　第 10 節	
12	忍館城跡	2	送電線鉄塔移設	大峠山	166.2	37.0	3 月 10 ～ 11 日	確認調査	遺構・遺物なし		

第２表　平成 27 年度国庫補助対象事業発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査次	調査原因	所在地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	調査期間	調査種別	概要	報告	備考
1	南最知貝塚	1	個人住宅建築	最知南最知	123.0	32.0	8 月 6 日	確認調査	遺構・遺物なし	第３章　第１節	
2	古館貝塚	2	整地造成	唐桑町鮪立	1,141.0	58.0	8 月 7 日～12 日	確認調査	遺構（包含層）・遺物あり	第３章　第２節	本調査実施せず
3	高谷遺跡	2	農地整備	松崎高谷	1,495.0	46.0	9 月 3 日～4 日	確認調査	遺構（包含層）・遺物あり	第３章　第３節	本調査実施せず
4	前浜貝塚	1	市道改良事業	本吉町前浜	6,051.8	12.2	10 月 13 日～14 日	確認調査	遺構・遺物なし	第３章　第４節	
5	高谷館跡	1	個人住宅新築	大向	312.0	14.0	1 月 12 日	確認調査	遺構・遺物なし		
6	忍館城跡	1	土砂採取	浪板	9,954.0	20.3	1 月 27 日～28 日	確認調査	遺構・遺物なし	第３章　第５節	
7	石兜貝塚	1	携帯基地局設備工事	赤岩石兜	322.4	18.0	2 月 17 日	確認調査	遺構・遺物なし	第３章　第６節	
8	旭ヶ丘遺跡	1	個人住宅新築	舘山	283.0	10.0	2 月 28 日	確認調査	遺構・遺物なし		

第３表　平成 28 年度国庫補助対象事業発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査次	調査原因	所在地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	調査期間	調査種別	概要	報告	備考
1	石兜貝塚	1	共同住宅新築	赤岩杉ノ沢	985.0	41.0	4 月 20 日～22 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	
2	石兜貝塚	2	共同住宅新築	赤岩杉ノ沢	1,008.0	11.0	4 月 20 日～22 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	
3	松岩貝塚	1	アパート新築	赤岩老松	316.0	10.0	8 月 8 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第２節	
4	長崎城跡	1	個人住宅新築	舘山	2.0	2.0	9 月 21 日	確認調査	遺構・遺物なし		（浄化槽のみ）
5	塚館跡	1	個人住宅新築	最知南最知	549.6	87.0	10 月 18 日～20 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第３節	
6	忍館城跡	1	土砂採取	浪板	9,954.0	12.0	11 月 11 日	確認調査	遺構・遺物なし		
7	石兜貝塚	4	個人住宅建築	赤岩杉ノ沢	810.3	29.0	11 月 15 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	
8	石兜貝塚	5	長屋新築	赤岩石兜	846.0	38.0	11 月 16 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	
9	小屋館城跡	1	個人住宅建築	松崎中瀬	502.1	31.6	12 月 19 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第４節	
10	石兜貝塚	6	駐車場建設	赤岩杉ノ沢	2,567.0	62.9	1 月 16 日～17 日	確認調査	遺構・遺物なし	第４章　第１節	

10 件（６遺跡）が国庫補助対象事業であった（第３表）。国庫補助対象事業で実施した調査においては、いずれの調査においても、遺構・遺物は確認されなかった。

平成 26 年度から３年間の調査件数をみると、わずかに減少しているが、国庫補助対象事業は年間 10 件前後でほぼ横ばいである。このことは、総件数に占める復興調査の割合が減少し、緊急調査の割合が増加していることを示している。

第２節　調査体制

平成 26 年度から平成 28 年度における埋蔵文化財調査体制は、以下のとおりである。（ゴシック体表示は、埋蔵文化財担当者）

調査担当：気仙沼市教育委員会生涯学習課文化振興係

（１）平成 26 年度

教　育　長　　白幡 勝美

教 育 次 長　　小松 三喜夫

生涯学習課長　　菅原 京子

課 長 補 佐　　**鈴木 實夫**（再任用）

主幹兼文化振興係長　　**昆野 賢一**

主　　幹　　**幡野 寛治**　　**原田 享二**（市任期付職員）　　**野﨑 進**（山梨県笛吹市派遣）

主　　査　　千葉 絢子　　森 幸一郎（鹿児島県派遣）　　石川 郁（市任期付職員 1月から）

（2）平成 27 年度

教　育　長　　白幡 勝美

教 育 次 長　　小松 三喜夫

生涯学習課長　　菅原 京子

課 長 補 佐　　鈴木 實夫（再任用）

主幹兼文化振興係長　　幡野 寛治

主　　幹　　原田 享二（市任期付職員）　　永濵 功治（鹿児島県派遣）

主　　査　　千葉 絢子　　石川 郁（市任期付職員）　　山本 克美（横浜市派遣）

（3）平成 28 年度

教　育　長　　白幡 勝美（5月 24 日まで）

齋藤 益男（5月 25 日から）

教 育 次 長　　金野 政義

生涯学習課長　　畠山 美雪

課 長 補 佐　　鈴木 實夫（再任用　8月まで）

（9月から　技術補佐（市任期付職員））

主幹兼文化振興係長　　幡野 寛治

主　　幹　　原田 享二（市任期付職員）　　平木場 秀男（鹿児島県派遣）　　新谷 倫章（兵庫県派遣）

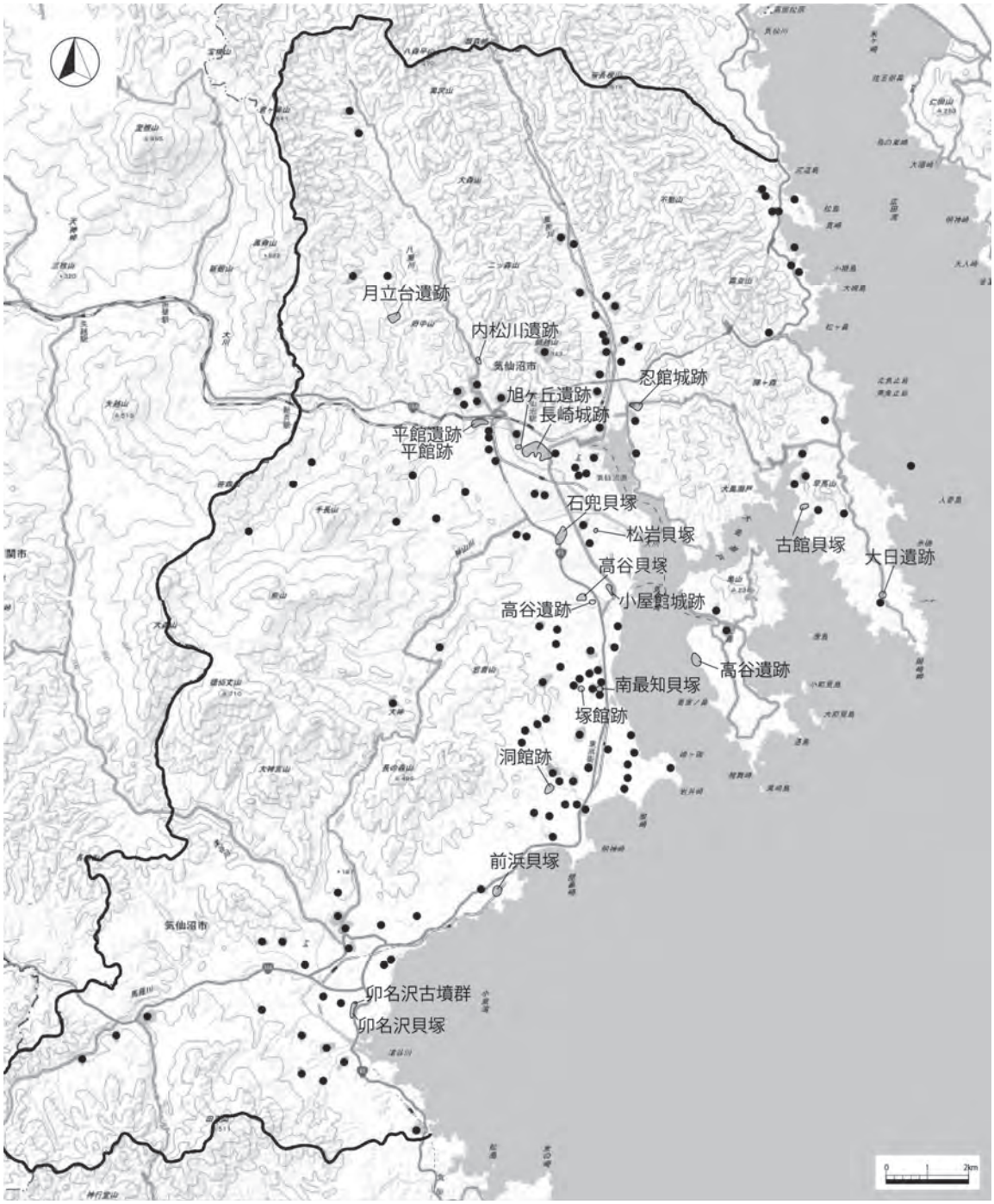
主　　査　　石川 郁（市任期付職員）　　山本 克美（横浜市派遣）

技　　師　　森 千可子

第３節　立地

気仙沼市は、宮城県北東端の太平洋岸に位置している。市域は、北上山系の支脈に囲まれ、そこから流れる河川は西から東に向って流れ、太平洋に注いでいる。海岸部は、入江と岬が鋸歯状に出入りする複雑に入り組んだ地形で、三陸リアス式海岸とよばれている。三陸リアス式海岸は、青森県八戸市から宮城県石巻市の金華山まで、総延長 600km に達する。また、北部は隆起海岸のため直線的であるが、岩手県宮古市以南は沈降地形のため、湾と岬が交互に連続する海岸となっている。特に、大船渡湾以南は沈降と隆起を繰り返したため、海岸線に沿って平らな丘陵が並ぶ海岸段丘を形成している。気仙沼市では、この海岸段丘上に多くの遺跡が点在している。

市内には、181 の遺跡が登録されている（平成 29 年 12 月現在）。本市の遺跡の特徴のひとつとして、中世の城館跡と縄文時代の貝塚が多いことがあげられる。城館跡は 82 遺跡、縄文時代の貝塚は 19 遺跡が知られている。


月立台遺跡
内松川遺跡
気仙沼市
旭ヶ丘遺跡
忍館城跡
長崎城跡
平館遺跡
平館跡
石兜貝塚
松岩貝塚
古館貝塚
大日遺跡
高谷貝塚
小屋館城跡
高谷遺跡
高谷遺跡
南最知貝塚
塚館跡
洞館跡
前浜貝塚
気仙沼市
卯名沢古墳群
卯名沢貝塚
0
1
2km

第 1 図　調査遺跡位置図

第４表　平成 26 ～ 28 年度確認調査実施遺跡一覧

遺跡名	遺跡番号	所在地	立地	種別	地目	時代	これまでの出土品等	調査年度
松岩貝塚	59002	赤岩老松	丘陵斜面	貝塚	畑	縄文（後・晩）	縄文土器，石斧，石棒	28 年度
旭ヶ丘遺跡	59006	舘山二丁目	丘陵麓	散布地	宅地	縄文（前）	縄文土器，石器	27 年度
月立台遺跡	59008	台	丘陵麓	散布地	畑	縄文（晩），古代	縄文土器，須恵器	26 年度
内松川遺跡	59011	内松川	丘陵斜面	散布地	畑	縄文	縄文土器	26 年度
平館遺跡	59027	松川前，切通	丘陵	散布地	畑，山林	縄文（前～晩），古代	縄文土器，土偶，石器等，土師器	26 年度
南最知貝塚	59035	最知南最知	丘陵斜面	貝塚，集落	畑，宅地	縄文（前・中），古墳（後）	縄文土器，石器，骨角器，自然遺物，土師器	27 年度
塚館跡	59042	最知南最知	丘陵	城館	畑	中世		28 年度
小屋館城跡	59049	松崎中瀬	丘陵麓	城館	畑，山林	中世		28 年度
平館跡	59055	松川前，切通	丘陵	城館	畑，宅地	中世		26 年度
長崎城跡	59064	舘山一丁目	丘陵	集落，城館	畑，宅地	古代，中世	土師器	26・28 年度
忍館城跡	59082	浪板	丘陵麓	城館	山林	中世		26・27・28 年度
高谷館跡	59086	大向	丘陵	城館	山林，畑	中世		27 年度
石兜貝塚	59091	赤岩石兜	段丘	貝塚	畑，宅地	古代，中世	土師器，須恵器，陶磁器	26・27・28 年度
高谷貝塚	59094	松崎高谷	丘陵	貝塚	畑，宅地	縄文	縄文土器，鹿角	26 年度
高谷遺跡	59109	松崎高谷	丘陵斜面	散布地	畑	縄文	縄文土器	27 年度
卯名沢貝塚	62015	本吉町卯名沢	丘陵斜面	貝塚	畑	縄文（前～後），弥生	縄文土器，石器，弥生土器	26 年度
洞館跡	62035	本吉町洞沢	丘陵	屋敷	宅地	中世		26 年度
前浜貝塚	62040	本吉町前浜	丘陵	貝塚	畑	縄文（後・晩）	縄文土器，石器，人骨，犬骨	27 年度
卯名沢古墳群	62041	本吉町卯名沢	丘陵	古墳	畑，墓	古墳		26 年度
古館貝塚	63017	唐桑町鮪立	丘陵麓	貝塚	畑	縄文（前～後）	縄文土器，石器	27 年度
大日遺跡	63020	唐桑町松圃	丘陵尾根	散布地	畑	縄文	石鏃，剝片	26 年度

第２章　平成 26 年度の調査

第１節　内松川遺跡

１．調査に至る経緯

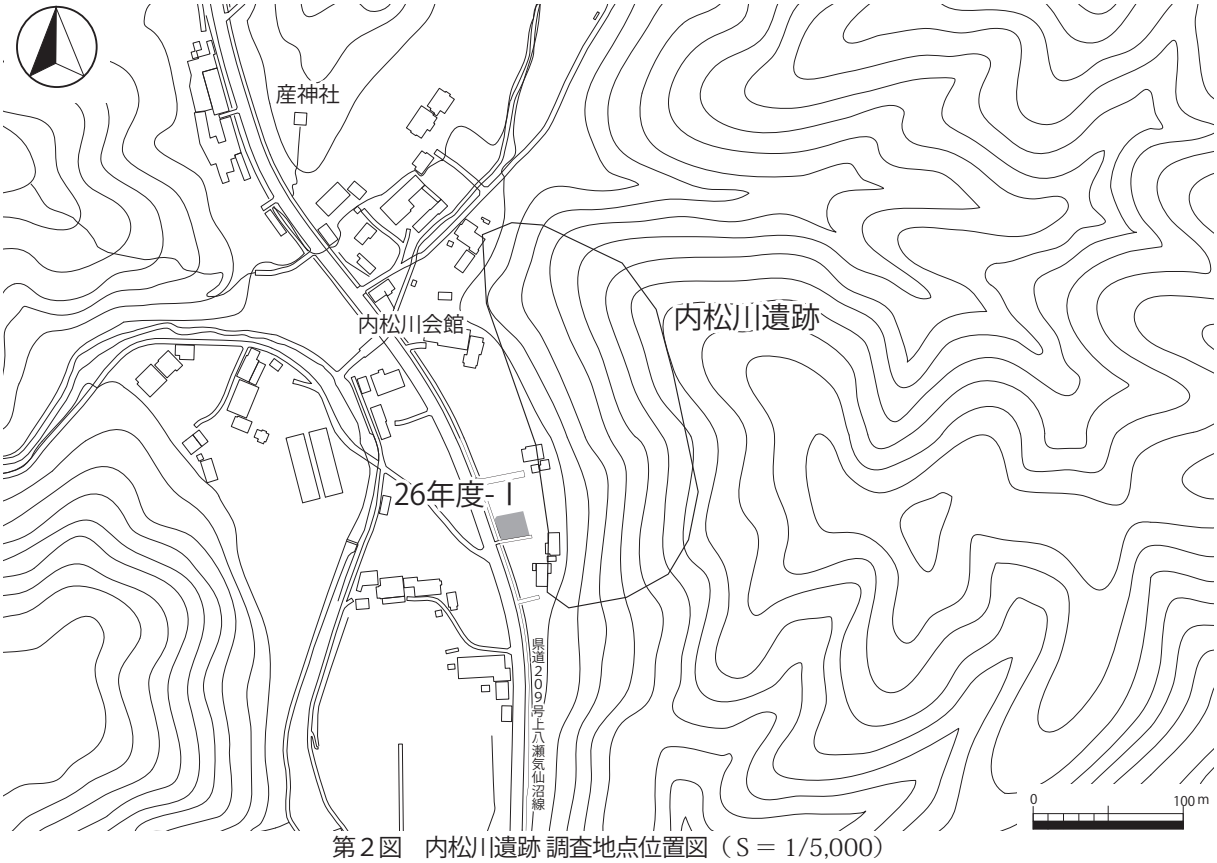
平成 26 年４月１日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、内松川地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である内松川遺跡（遺跡番号 59011）に隣接している（第２図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 11 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 110 号）。

同年４月 21 日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、５月 21 日付けで県教委から通知が出された（文第 482 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年５月 30 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

内松川遺跡は、市内内松川地内に所在し、県道 209 号上八瀬気仙沼線に沿って拡がる縄文時代の散布地である。周辺には、おおよそ 400 m南には月館城跡、中館跡、府中館跡などの中世城館



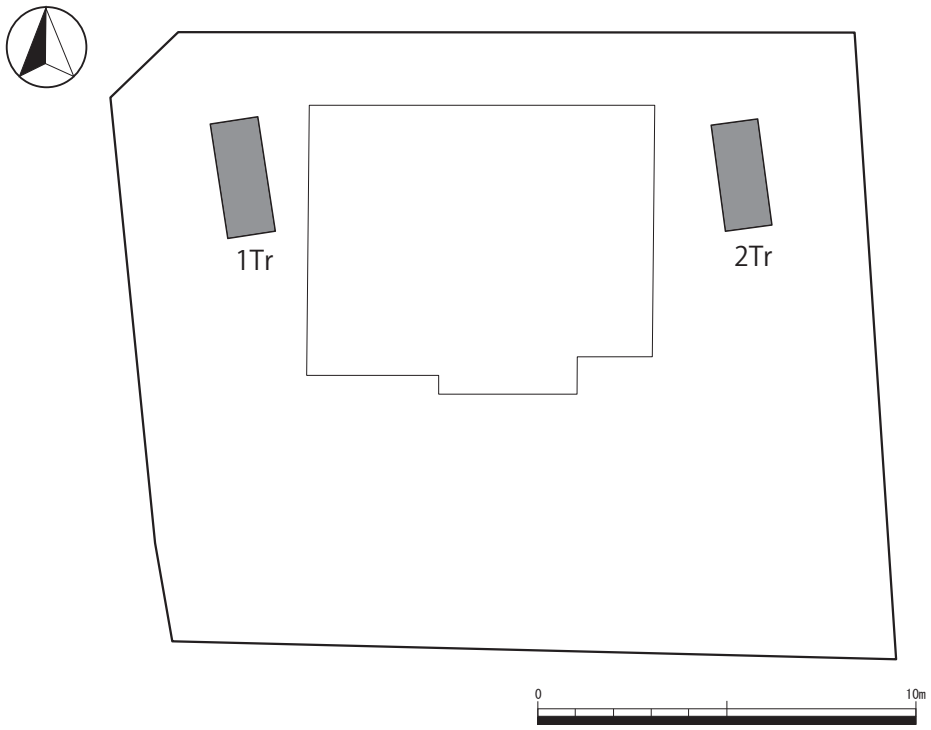
第２図　内松川遺跡 調査地点位置図（S = 1/5,000）

跡が点在しているが、縄文時代の遺跡は確認されていない。また、本遺跡においても、これまでほとんど調査を行っていない。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、県道 209 号沿いに位置し、対象面積は 317.0㎡を測る。調査は、東西２か所にトレンチを設定し（第３図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は 8.0㎡を測る。

１トレンチは約 1.6 m、２トレンチは約 0.6 mまで掘削を行ったが、堆積土はすべて盛土であった。盛土は、明褐色、褐灰色、暗褐色を基調とする３層に分けられる。それぞれの盛土は、整地し



第３図　内松川遺跡 トレンチ設定図（S = 1/200）

写真１　内松川遺跡 １トレンチ全景（南から）

写真２　内松川遺跡 ２トレンチ全景（北から）

た痕跡が認められ、異なる時期に施されたことが窺われる。遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の調査地点は、遺跡推定範囲の西側にあたる。かつて県道西側の畑で縄文土器２点が表採されたというが（宮城県鼎が浦高等学校）、その周辺は、過去に１ｍの天地返しを行っており、遺跡の確認も難しい状況である。遺跡範囲の再検討も今後の課題である。

第２節　平館遺跡・平館跡

１．調査に至る経緯

（１）第１次調査

平成 26 年７月 14 日、気仙沼市（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、切通地内における「気仙沼市消防団第５分団松川前消防屯所建設計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である平館遺跡（遺跡番号 59027）および平館跡（遺跡番号 59055）に該当しており、また、平成 10 年度調査で遺構・遺物が検出されている新月中学校と隣接している（第４図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、８月６日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1211 号）。

同年８月 27 日、事業者から埋蔵文化財発掘の通知が提出され、10 月８日付けで県教委から通知が出された（文第 1737 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 10 月 28 日および 29 日に確認調査を実施することとなった。しかし、浄化槽設置箇所が未確定であったため、後日、位置確定後に浄化槽設置箇所の調査を行うこととした（平成 27 年９月８日確認調査実施）。

（２）第２次調査

平成 26 年 10 月 16 日、株式会社忠栄（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、松川前地内における「資材置場造成及び仮設工場・仮設事務所設置計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である平館遺跡（遺跡番号 59027）および平館跡（遺跡番号 59055）に該当している（第４図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 11 月 21 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2185 号）。

同日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 26 日付けで県教委から通知が出され

第４図　平館遺跡・平館跡 調査地点位置図（S = 1/5,000）

た（文第 2233 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 12 月８日に確認調査を実施することとなった。

なお、今回の調査地点は、平成 26 年２月５日付けで別法人によって資材置場敷地造成を目的として埋蔵文化財発掘の届出が提出された箇所を含む範囲である。その際に確認調査を実施しており、土坑、小穴などが確認されている。その後、事業中止となり、本調査を実施していないため、今回の確認調査によって再検討することとした。

２．遺跡の概要

平館遺跡・平館跡は、市内松川前から切通地内に所在する。大川左岸の丘陵上に立地する縄文時代（前～晩期）・古代の散布地および中世の城館跡である。平成 26 年度は、２地点で確認調査を行ったが、いずれの地点においても本調査に至らなかった。しかしながら、平成 10 年度に本調査を実施した新月中学校地点においては、縄文時代（前期末、中期後葉、晩期）、奈良・平安時代の遺構・遺物、近世墓群等が検出されている。

本遺跡の周辺には、北西約 300 mに表松川遺跡、南東約 250 mに川原崎遺跡といった縄文時代の散布地とされている遺跡がみられるが、調査実績は少ない。また、北に中館跡や赤岩城跡、東に新庄館跡、南に八幡館跡など、中世城館跡に囲まれた地域である。

３．調査の概要と成果

（１）第１次調査

今回の調査地点は、遺跡の南側斜面にあたり、対象面積は約 413.0㎡を測る。調査は、建設予定地に１か所、南北方向にトレンチを設定し（第５図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は 18.0㎡を測る。

調査の結果、約 0.8 ｍまで掘削を行ったが、堆積土はすべて盛土であった。盛土は、明黄褐色粘質土を基調とする。遺構・遺物は検出されなかった。

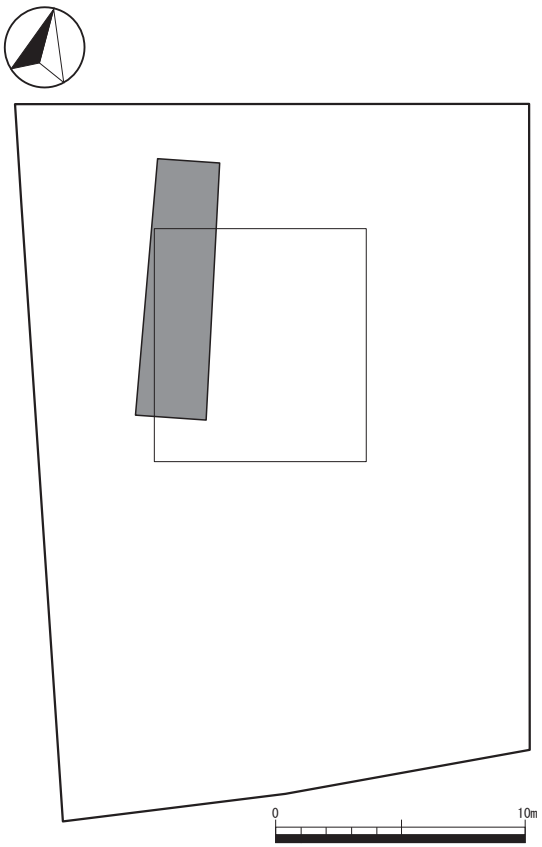
トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

（２）第２次調査

今回の調査地点は、遺跡の東端に位置しており、対象面積は約 2,452.7㎡を測る。調査は、資材置場予定地に東西方向トレンチを１本、仮設工場予定地に南北方向に３本設定し（第６図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は 57.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても 30 ～ 60cm 堆積した表土直下が黄褐色シルトを呈する地山であった。遺構・遺物は検出されなかった。



第５図　平館遺跡・平館跡 弟１次調査トレンチ設定図
（S ＝ 1/300）

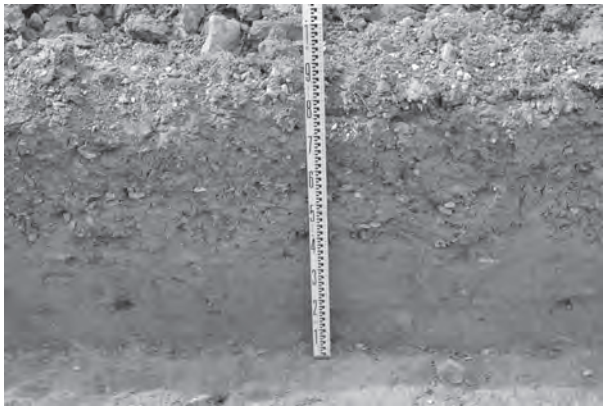


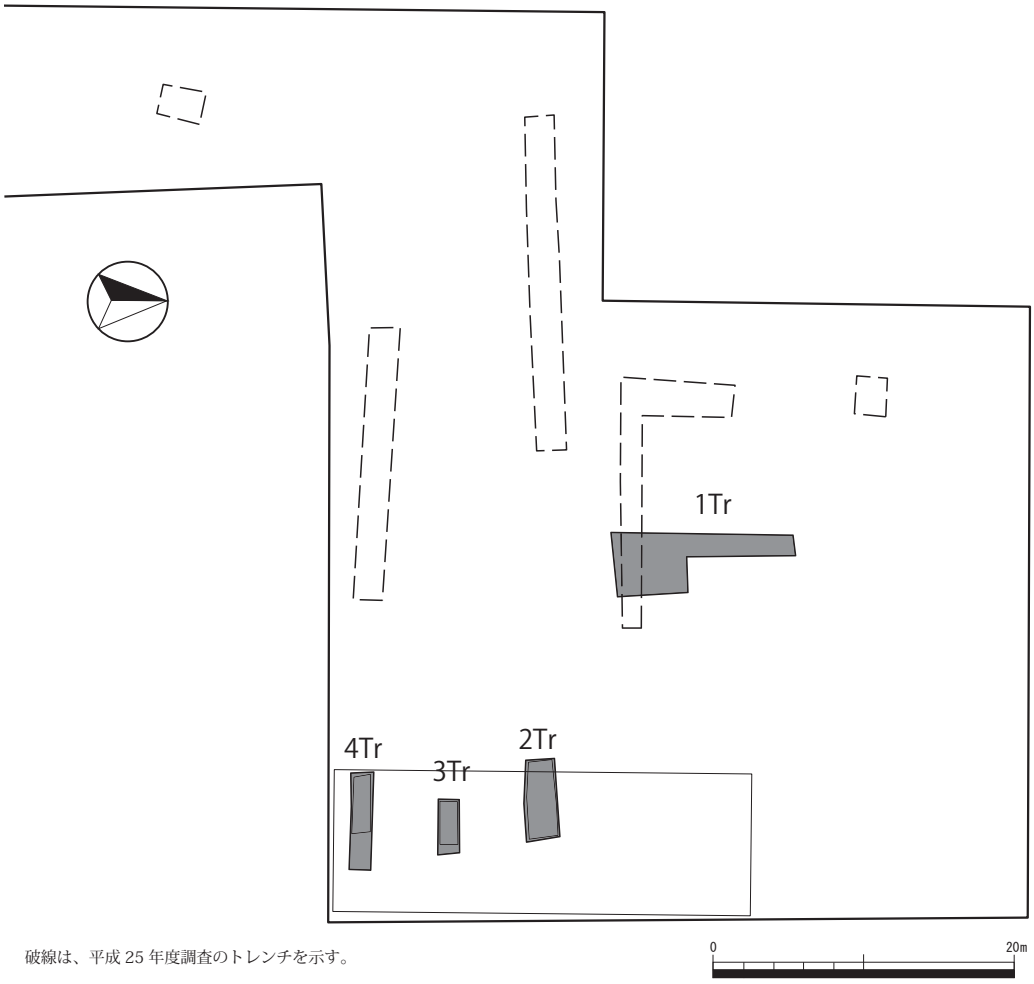
写真３　平館遺跡・平館跡 第１次調査
トレンチ土層堆積状況（東から）

写真４　平館遺跡・平館跡 第１次調査
トレンチ全景（南から）

トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

また、平成 25 年に確認調査を行った際に確認した土坑などは、いずれも後世の撹乱であることが確認された。



破線は、平成 25 年度調査のトレンチを示す。

第６図　平館遺跡・平館跡 第２次調査トレンチ設定図（S = 1/500）

写真５　平館遺跡・平館跡 第２次調査
１トレンチ全景（南から）

写真６　平館遺跡・平館跡 第２次調査
２トレンチ全景（西から）

写真７　平館遺跡・平館跡 第２次調査
３トレンチ全景（西から）

写真８　平館遺跡・平館跡 第２次調査
４トレンチ全景（西から）

４．まとめ

第１次調査地点は、平成 10 年度に本調査を実施した地点の隣接地であったが、遺構・遺物は検出されなかった。また、第２次調査地点は、平成 25 年度に確認調査を行い、土坑や小穴が検出された報告があった地点である。しかし、調査の結果、堆積土は表土のみで、平成 25 年度調査で検出された遺構は、後世の撹乱であったことが確認された。現在包蔵地とされている範囲の東端にあたることから、遺跡の範囲についても再検討することも必要かも知れない。

第３節　洞館跡

１．調査に至る経緯

平成 26 年９月 29 日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、本吉町洞沢地内における「個人住宅新築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である洞館跡（遺跡番号 62035）に隣接しており、また、平成 25 年度調査で縄文土器を伴う土坑が検出された地点とも近接している（第７図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、10 月８日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1752 号）。

つづいて、同年 10 月 27 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、10 月 31 日付けで県教委から通知が出された（文第 2053 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 11 月 10 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

洞館跡は、市内本吉町洞沢地内に所在する。気仙沼と大谷を内陸部で結ぶ基幹農道東側に接する台地上に立地する中世の屋敷跡である。

第７図　洞館跡 調査地点位置図（S = 1/5,000）

本遺跡の周辺には、塚館跡、峰平館跡、堀合館跡、嚮館跡などの城館あるいは屋敷跡などが点在している。

平成 26 年度に調査を実施した地点は当該地のみであるが、平成 26 年２月に当該地の北西約 30 mの地点において、太陽光発電システム設置計画に伴う確認調査を実施している。平成 25 年度調査では館跡に伴う遺構は検出されなかったものの、土坑１基および縄文土器片 27 点が検出されている。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、洞館跡の南側斜面に位置しており、対象面積は約 1,110.0㎡を測る。調査は、等高線に直行するようにトレンチを４本設定し（第８図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 111.0㎡を測る。

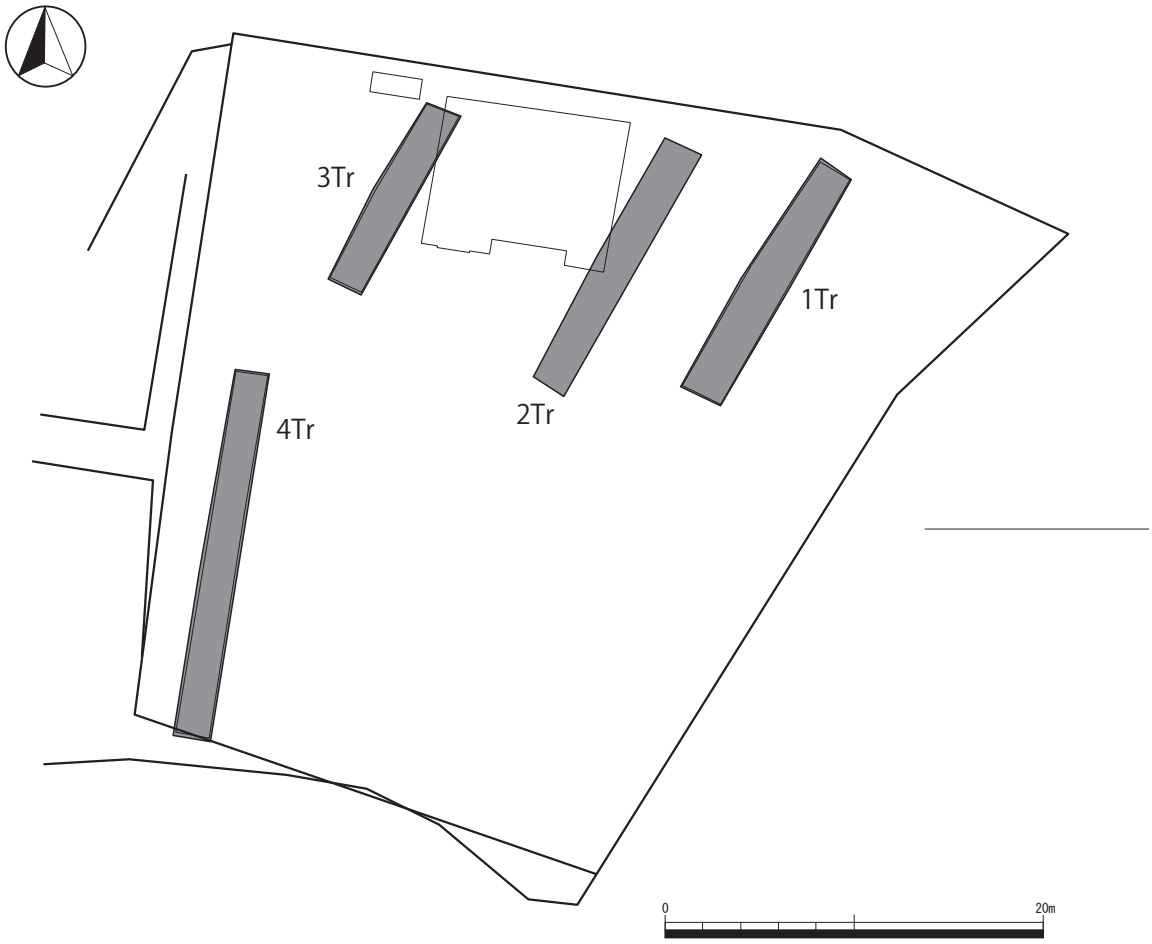
調査の結果、いずれのトレンチにおいても、耕作土直下が粘質シルトの地山であった。４トレンチ南側で一部、盛土による造成、旧表土が確認されたものの、遺構、遺物は検出されなかった。

トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の調査においても、館の痕跡は確認できなかった。また、隣接地でわずかに検出された縄文時代の遺構、遺物も検出されなかった。本遺跡は、調査実績も少なく、発掘調査によって館跡の確認はできていない。しかしながら、当該地の近接地で縄文時代の遺構・遺物が検出されていることから、周辺に縄文時代の遺跡が存在する可能性も考えられる。今後の課題としたい。



第８図　洞館跡 トレンチ設定図（S＝1/400）

写真９　洞館跡 １トレンチ全景（南から）

写真 10　洞館跡 ２トレンチ全景（南から）

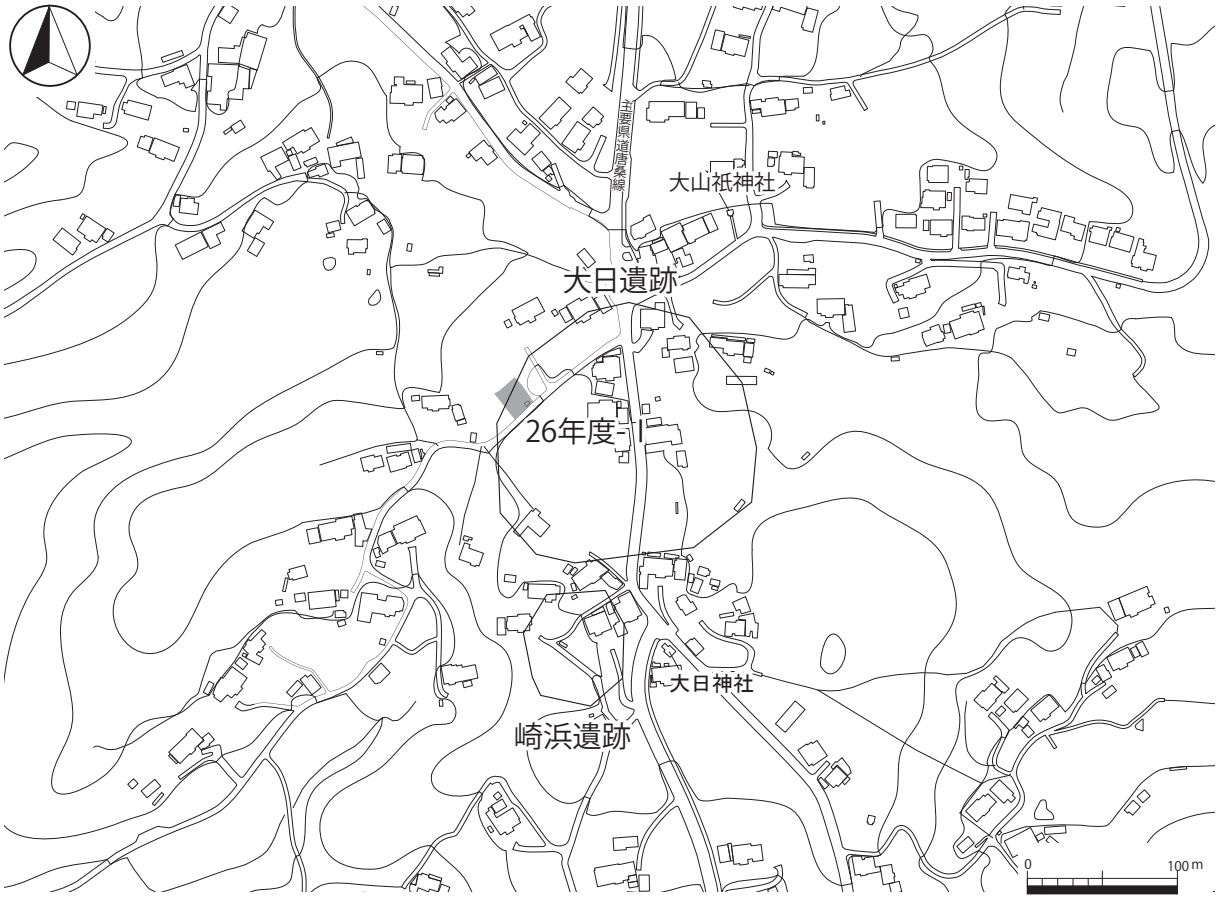
写真 11　洞館跡 3 トレンチ全景（南から）

写真 12　洞館跡 4 トレンチ全景（南から）

第４節　大日遺跡

１．調査に至る経緯

平成 26 年 10 月 29 日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、唐桑町松圃地内における「個人住宅新築計画と埋蔵文化財のかかわり



第９図　大日遺跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

について」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である大日遺跡（遺跡番号 63020）に該当している（第９図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 31 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった。

つづいて、同年 11 月 10 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 26 日付けで県教委から通知が出された（文第 2231 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 12 月９日に確認調査を実施することとなった。

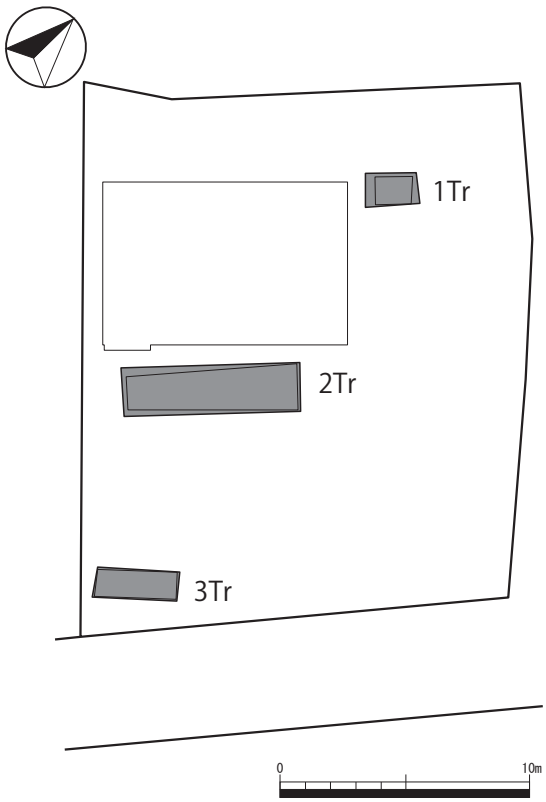
２．遺跡の概要

大日遺跡は、市内唐桑町神の倉から松圃地内に所在する。主要地方道唐桑線が南北に通り、その東西に広がる丘陵上に立地する縄文時代の散布地である。

本遺跡は、平成６年度に東北歴史資料館が実施した踏査により発見された遺跡であるが、周辺にはすぐ南側に、中世の塚とされている崎浜遺跡が知られているほかは、遺跡が希薄な地域である。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、大日遺跡の南側斜面に位置しており、対象面積は約 373.0㎡を測る。調査は、主として住宅建築部周辺にトレンチを３本設定し（第 10 図）、重機で掘削したのち、人力により



第 10 図　大日遺跡 トレンチ設定図（S = 1/300）

写真 13　大日遺跡 １トレンチ土層堆積状況（北から）

写真 14　大日遺跡 １トレンチ全景（西から）

写真 15　大日遺跡 ２トレンチ全景（西から）

写真 16　大日遺跡 ３トレンチ全景（西から）

精査を行った。調査面積は約 21.0㎡を測る。

調査の結果、１・２トレンチで、表土直下におおよそ１mの盛土が確認された。１トレンチでは、盛土の下で約 20cm の厚さで旧表土が確認されたが、その直下が地山であり、遺構・遺物は検出されなかった。２トレンチは、工事の掘削深度が盛土内で収まるため、それ以上の掘削は行わなかった。敷地南側に設定した３トレンチは、現地表から 15 ～ 30cm で地山が確認された。

トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

先述したとおり、大日遺跡は、平成６年に東北歴史資料館で行った踏査で発見された遺跡である。その際に、石器が報告されているが（註1）、その後、大日遺跡での調査実績はほとんどない。そのため、遺跡の実態は明らかでないが、今後の資料の蓄積に期待したい。

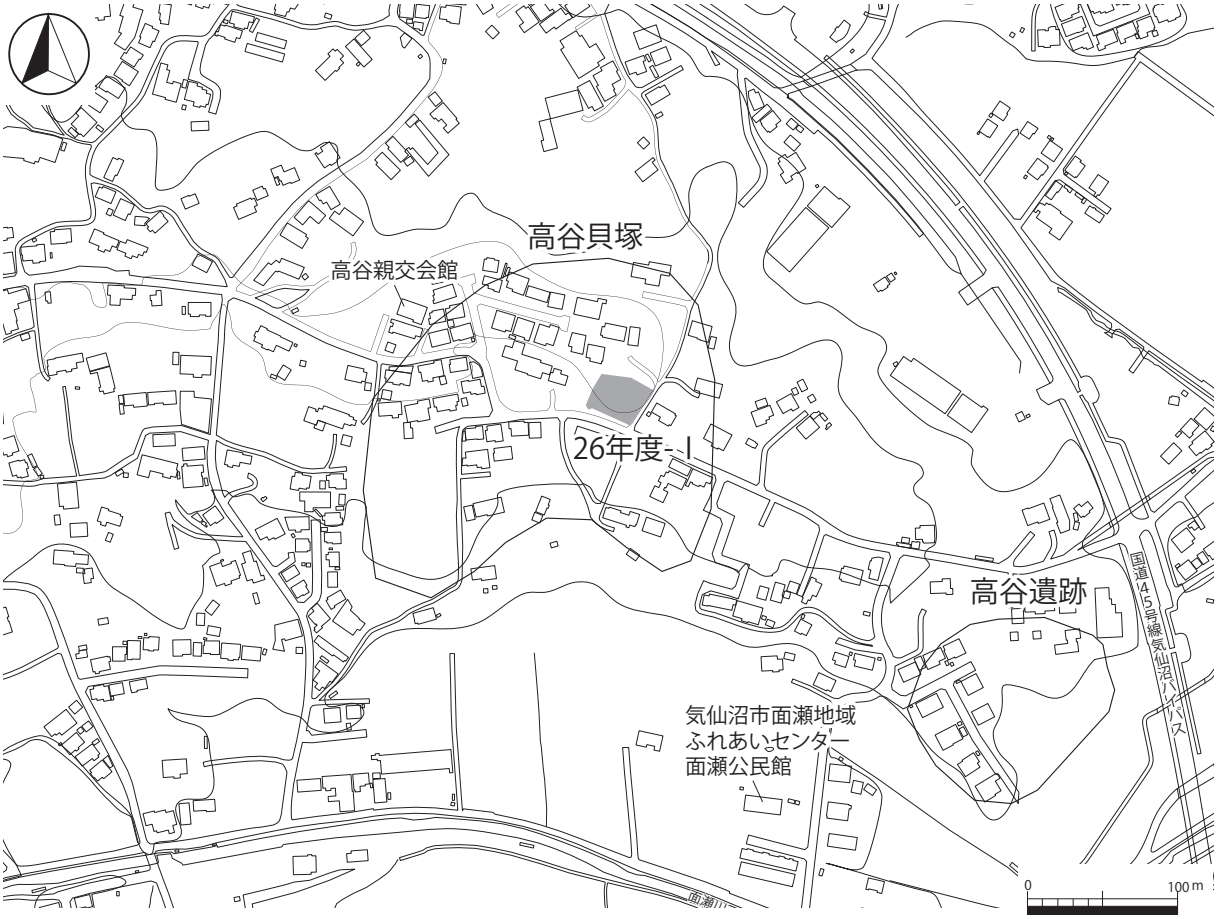
（註１）『東北歴史資料館研究紀要』「北上川下流域における旧石器時代遺跡の分布調査」（平成９年３月）

第５節　高谷貝塚

１．調査に至る経緯

平成26年７月25日、宅地造成工事実施予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、松崎高谷地内における「宅地造成工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である高谷貝塚（遺跡番号 59094）に該当している（第11図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年８月20日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第1350号）。

つづいて、同年 11 月 13 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 26 日付けで県



第 11 図　高谷貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

教委から通知が出された（文第 2232 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 26 年 12 月 17 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

高谷貝塚は、市内松崎高谷地内に所在する。面瀬川左岸の標高 30 mほどの丘陵の南斜面に立地する縄文時代の貝塚である。

本遺跡周辺には、おおよそ 400 m南東に、本遺跡と同じ縄文時代の遺跡である高谷遺跡が知られている。

高谷貝塚における調査は、当該地に隣接する個人住宅建設等に伴って平成 24 年度に３件の確認調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。

３．調査の概要と成果

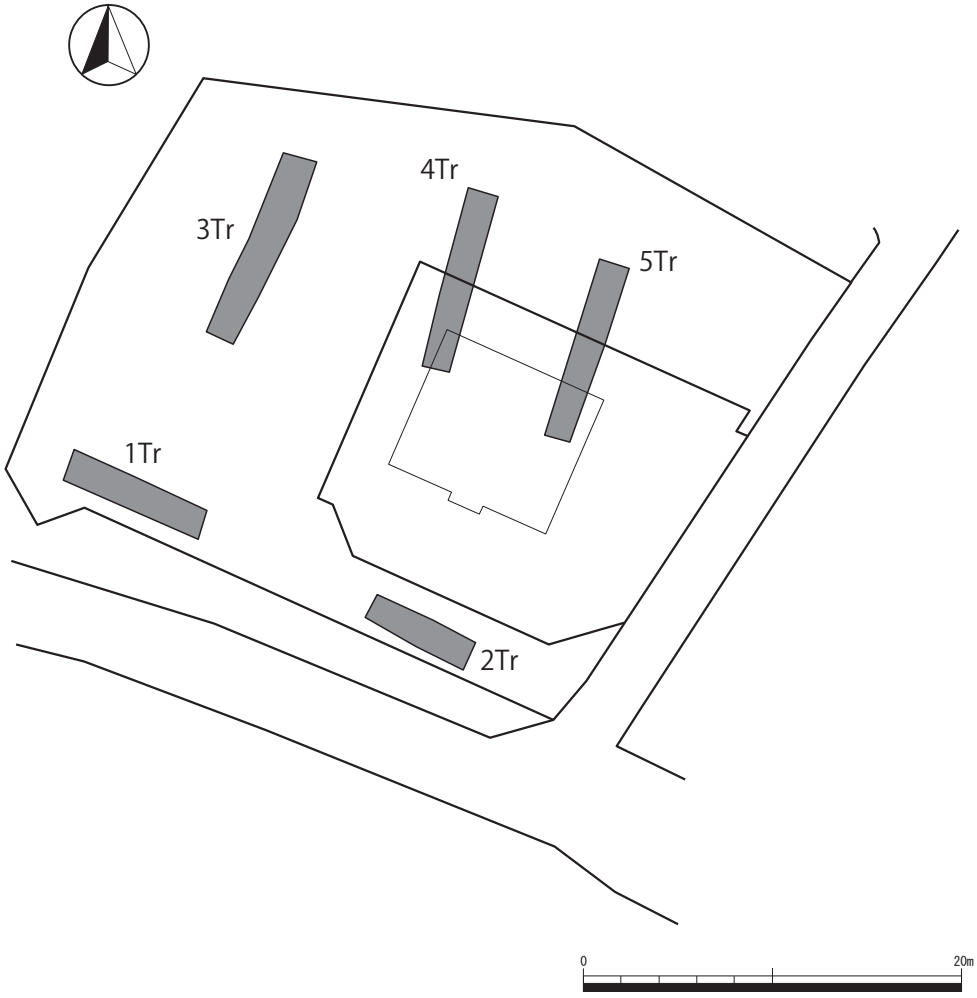
今回の調査地点は、高谷貝塚の東側の丘陵上に立地しており、対象面積は約 1,194.0㎡を測る。調査は、主として地形に沿って、下の畑に東西方向で２本、上の畑に南北方向で３本、計５本のトレンチを設定し（第 12 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 74.0

㎡を測る。

調査の結果、１・２トレンチで、表土の下約 40cm で地山、３～５トレンチは表土の下約 10 ～ 35cm で地山を確認した。旧表土も遺存しておらず、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用し



第 12 図　高谷貝塚 トレンチ設定図（S = 1/400）

写真 17　高谷貝塚 1 トレンチ土層堆積状況（東から）

写真 18　高谷貝塚 1 トレンチ全景（西から）

写真 19　高谷貝塚 2 トレンチ全景（西から）

写真 20　高谷貝塚 3 トレンチ全景（南から）

写真 21　高谷貝塚 4 トレンチ全景（南から）

写真 22　高谷貝塚 5 トレンチ全景（南から）

てトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

本遺跡周辺は比較的開発が多く、平成 24 年度に３件、26 年度に１件の確認調査を実施した。しかし、いずれの地点においても遺構・遺物は検出されなかった。高谷貝塚の貝層は、南斜面に分布するとされている（註 1）が、現在のところ、詳細は不明である。今後の調査成果に期待したい。

（註１）東北歴史資料館　（1989）『東北歴史資料館資料集 25　宮城県の貝塚』

第６節　忍館城跡

１．調査に至る経緯

平成26年８月11日、有限会社やまじゅう（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、浪板地内ほかにおける「土砂採取計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。

忍館城跡は、平成 13 年および平成 19 年に土砂採取計画について協議を行った。その際、事業区域が過去の掘削で削平されており、遺跡に対する影響はないと判断し、慎重工事とした。さらに、

残存している南側法面は保安区域として残し、東側丘陵の主郭部分は保存することとした。今回の計画は、これまで土砂採取を行ってきた当該地が、三陸沿岸道路事業および大島架橋にかかる県道大島線改良工事に伴い、土砂採取が困難になることによって実施する土砂採取計画で、保安区域および主郭部もほとんど掘削する計画である。そのため、市教委は、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年９月 12 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1550 号）。

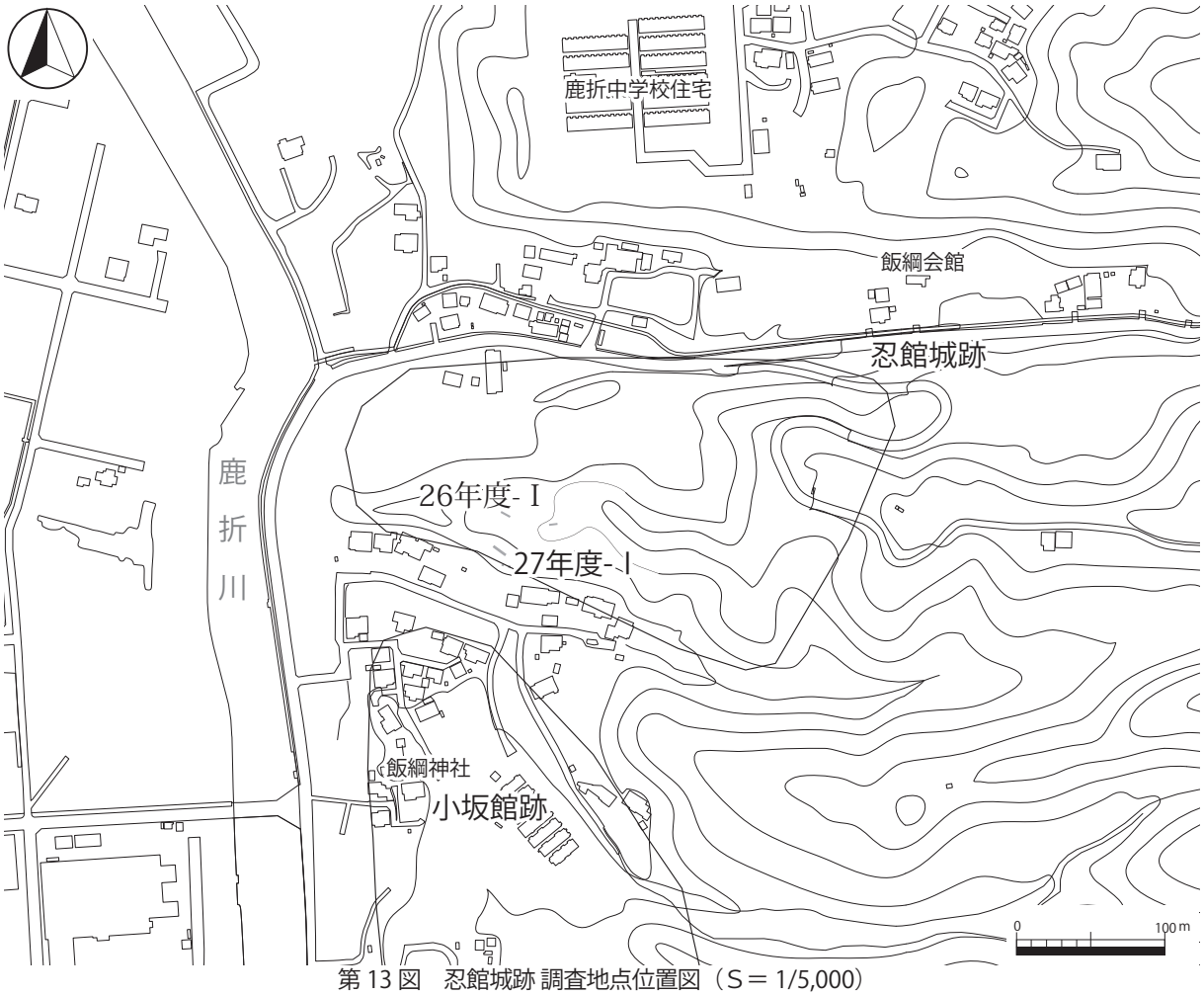
つづいて、９月 29 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、10 月８日付けで県教委から通知が出された（文第 1769 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年１月 19 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

忍館城跡は、市内浪板地内に所在する。鹿折川河口近くの左岸、気仙沼湾の基部の丘陵上に立地する中世の城館跡である。

本遺跡周辺には、おおよそ 200 m南に小坂館跡、鹿折川を挟んだ対岸に刈米館跡、陣山館跡などの城館跡が知られている。



第 13 図　忍館城跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

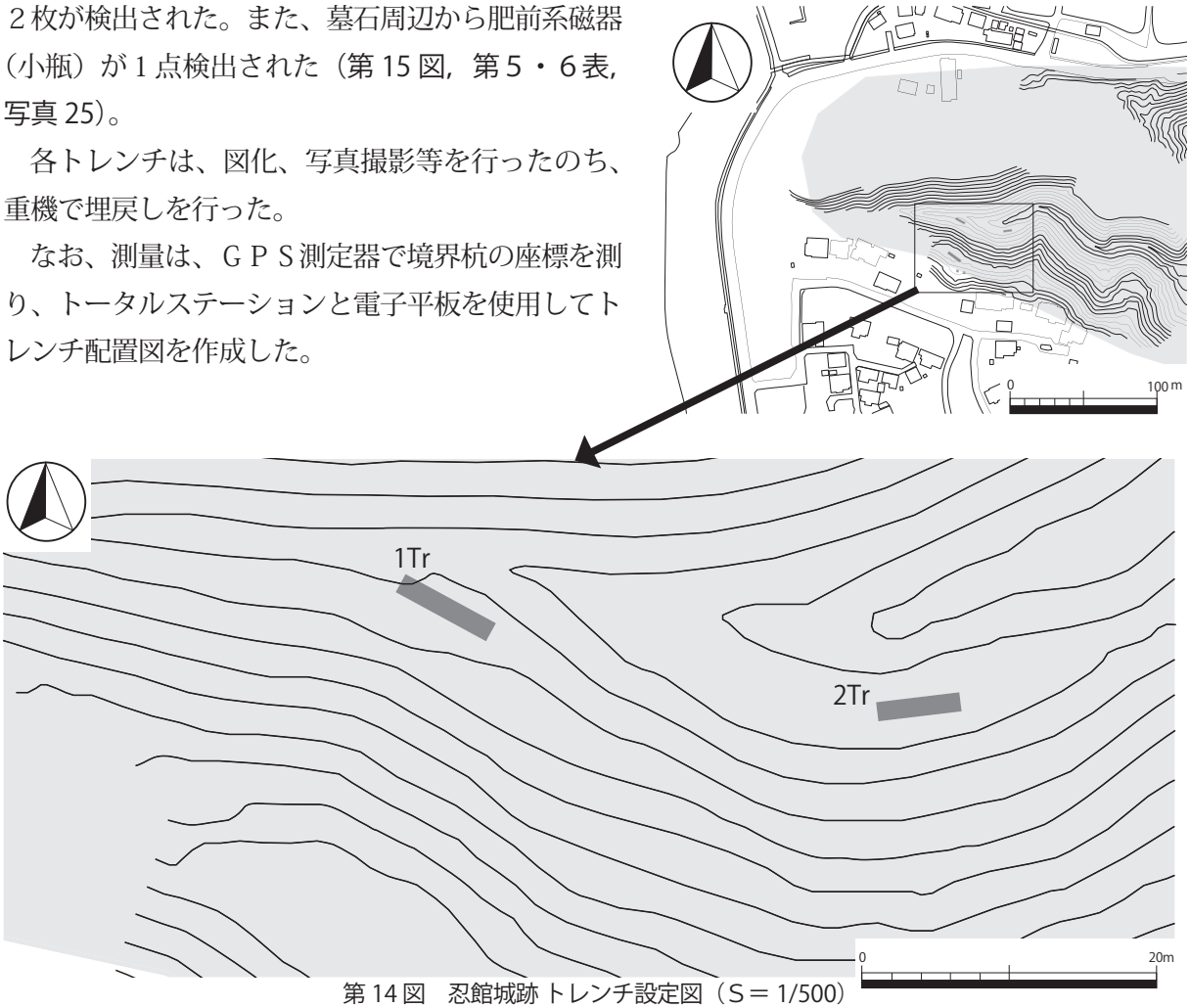
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、忍館城跡の南斜面である。周辺には近世の墓石が数基確認できる。墓石には安永、天明、天保などの年号がみられる。南斜面には２か所の平場が認められ、調査は、その上段の平場にトレンチを２本設定し（第 14 図）、重機で掘削したのち、人力による精査を行った。対象面積 9,954.0㎡のうち、調査面積は約 17.0㎡を測る。

調査の結果、忍館城跡に伴う遺構・遺物は検出されなかったものの、２トレンチで、新寛永通寶２枚が検出された。また、墓石周辺から肥前系磁器（小瓶）が１点検出された（第 15 図，第５・６表，写真 25）。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。



第 14 図　忍館城跡 トレンチ設定図（Ｓ＝ 1/500）

写真 23　忍館城跡 １トレンチ全景（東から）

写真 24　忍館城跡 ２トレンチ全景（東から）

第 15 図　忍館城跡 出土遺物（銭貨）

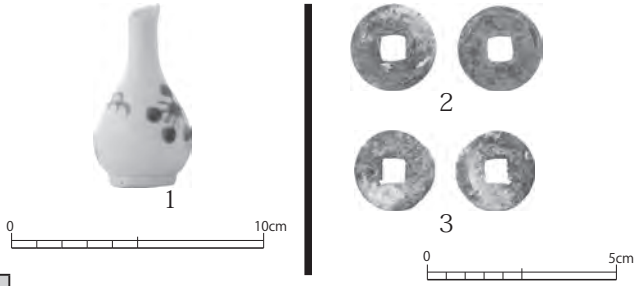


写真 25　忍館城跡 出土遺物

第５表　忍館城跡 出土遺物観察表１（銭貨）

No.	検出地点	名　称	材質	法量（mm）			重量	備考
				外径	穿径	厚さ	(g)	
15 － 2	2 トレンチ	寛永通寶	銅	22.9	6.8	1.1	3	新寛永
15 － 3	2 トレンチ	寛永通寶？	銅	21.3	5.2	0.9	2	

第６表　忍館城跡 出土遺物観察表２（陶磁器類）

No.	材質	器種	器形・形状特徴	法　量（mm）				重量	成形・調整	絵付／釉薬	文　様	装飾特徴	胎土色・特徴等	製　作		備　考
				口径	最大径	底径	器高	(g)						製作地	年　代	
写真 25 － 1	磁器	小瓶	端反竦韮形・輪高台	欠損	38.7	25.4	71.1	39	轆轤	染付／透明釉	梅花文	筆書	灰色	肥前系	1780 ～ 1860 年代	

４．まとめ

忍館城は、現在土砂採取場となっており、城跡の痕跡はほとんどみられない。「仙台領古城書上」には、「山　忍館城　東西三十間　南北十間　右城主　熊谷伯耆ト申者ニ御座候」と記載されている。また、「風土記」には、「高二十五丈　東西七十三間　南北五間　御城主　千葉信濃ト申ト伝エ年代相不知申」と記載がみられる。築城年代など、不詳なところも多いが、これらの文献より、東西 350 m、南北 100 m、高さ 50 mほどの山城であったと推定できる。今回の調査において、忍館城に伴う遺構・遺物は検出されなかったが、今後の調査に期待したい。

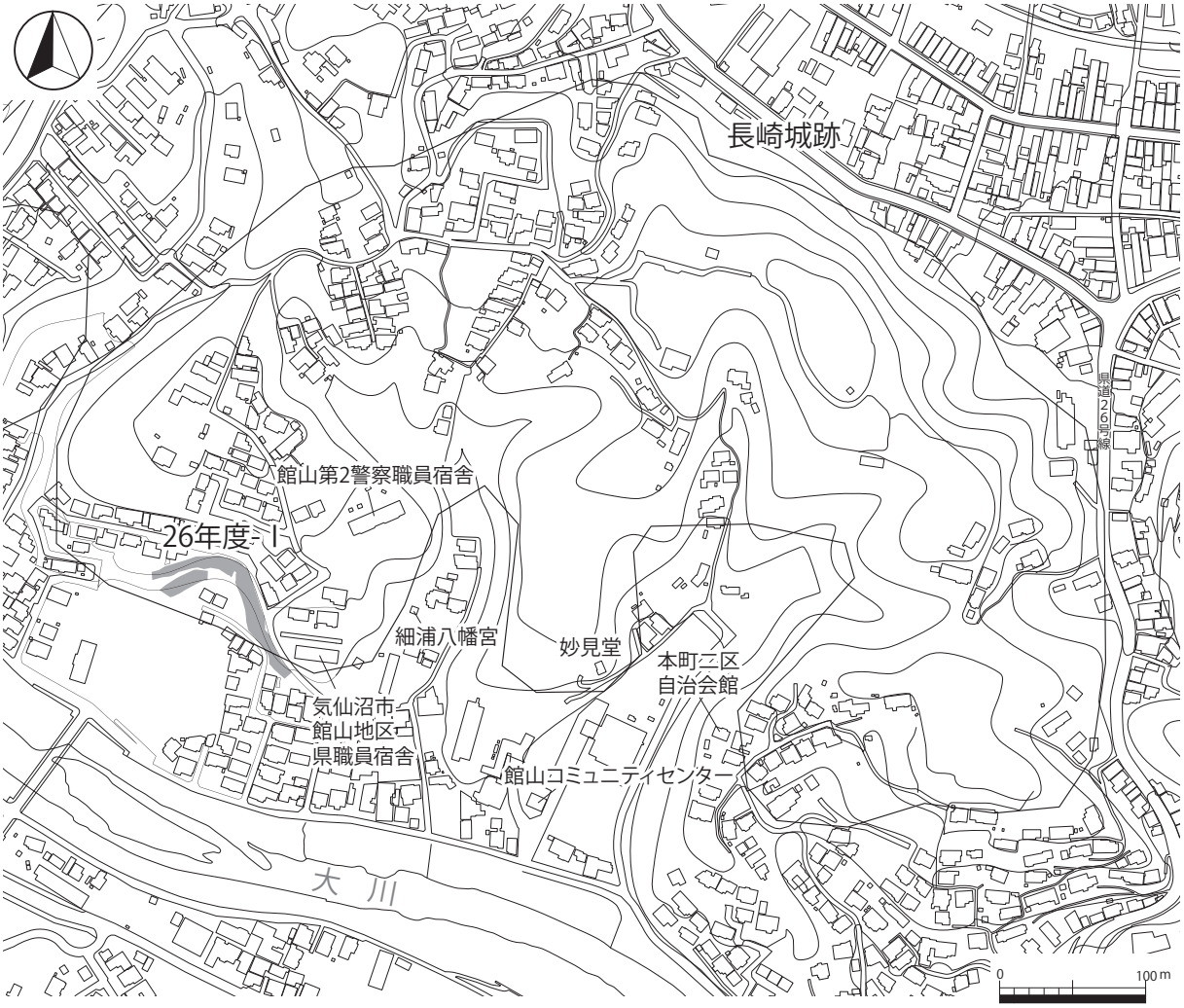
第７節　長崎城跡

１．調査に至る経緯

平成 26 年７月 24 日、宮城県気仙沼土木事務所（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、舘山一丁目地内における「舘山一丁目急傾斜地崩落防止施設設置事業計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。当該事業計画は、平成 24 年度の豪雨により斜面の一部が崩落したため、今後の降雨などにより法面崩壊が進行し、人家等への被害が生じる危険性が高いことから、被害を防止し、人家の安全を図るために、急傾斜施設の整備を実施する目的で計画された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である長崎城跡（遺跡番号 59064）に該当している（第 16 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年８月６日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1227 号）。

つづいて、平成 27 年１月 26 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、２月６日付けで県教委から通知が出された（文第 2806 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年２月３日に確認調査を実施することとなった。



第 16 図　長崎城跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

長崎城跡は、市内舘山および古町地内に所在する。大川の左岸に拡がる半島状の河岸段丘上に立地する中世の城館跡である。

本遺跡周辺には、東側に気仙沼古館跡、北西に新庄館跡が所在しているほか、本遺跡と新庄館跡の間に縄文時代の散布地である旭ヶ丘遺跡が知られている。

長崎城は、東西 600 m、南北 120 mほどの山城で、山頂には３つの台地が東西に連なっている。この３つの台地に、それぞれ館が建てられていたといわれている。

長崎城跡では、平成 24 年度に個人住宅１件、平成 26 年度に災害公営住宅１件で確認調査を実施している。しかしながら、遺構・遺物が検出された地点はない。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、長崎城跡の西端の崖線に立地しており、現状は、斜面並びに２段の平場が確認できる。対象面積は約 1,620.0㎡を測る。調査は斜面の平場にトレンチを５本設定し（第 17 図）、

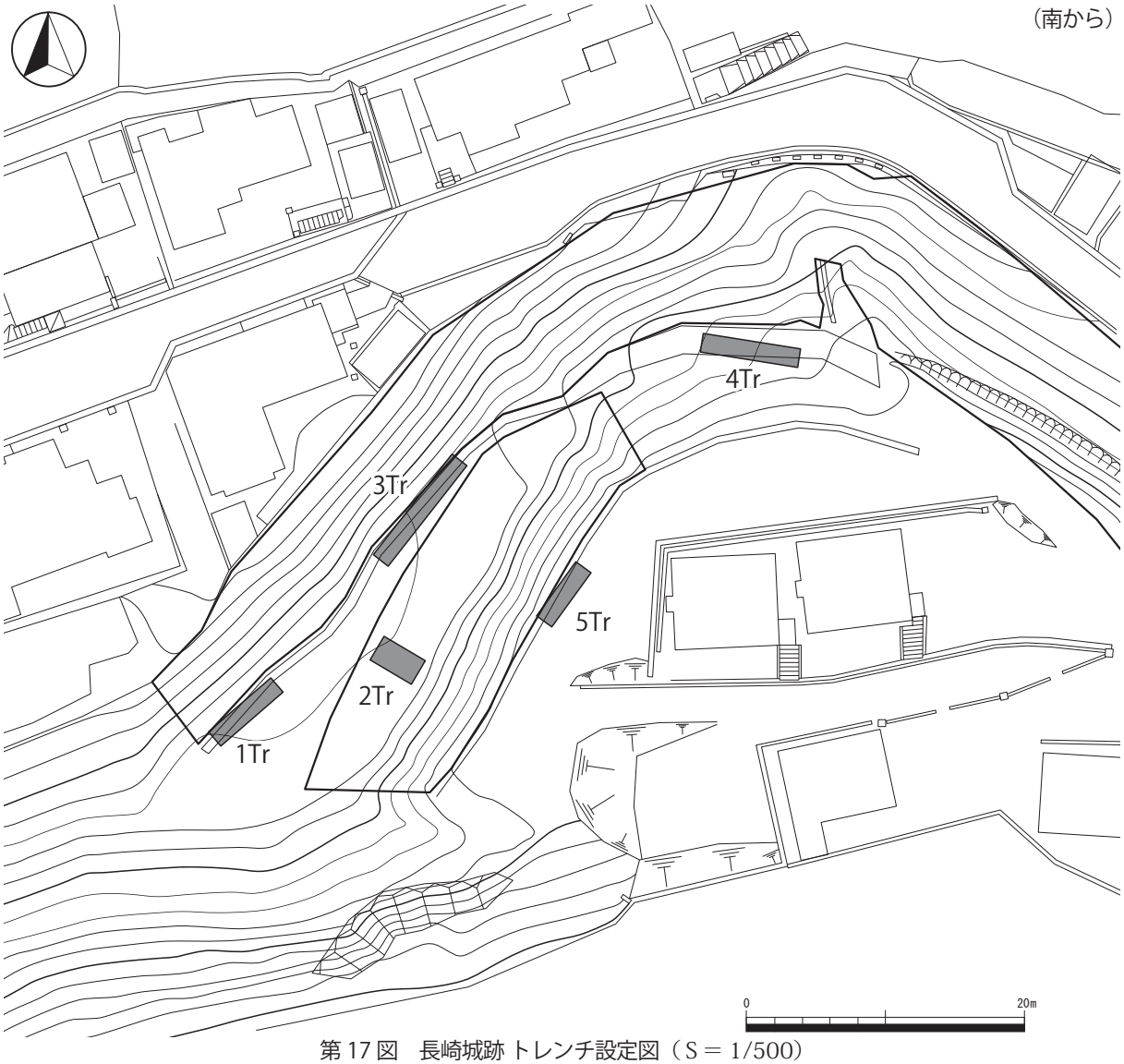
重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 32.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても、おおよそ 20 ～ 30cm の表土直下が地山であり、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

写真 26　長崎城跡 １トレンチ全景（南から）



第 17 図　長崎城跡 トレンチ設定図（S = 1/500）

写真 27　長崎城跡 ２トレンチ全景（東から）

写真 28　長崎城跡 ３トレンチ全景（南から）

写真 29　長崎城跡 ４トレンチ全景（東から）

写真 30　長崎城跡 ５トレンチ全景（南から）

４．まとめ

今回の調査対象地の現況は、２段の平場を確認することができるが、今回の調査で、この平場は、長崎城に伴うものではなく、後世のものであると確認できた。

長崎城は、「仙台領古城書上」によると、「長崎城　山　城主熊谷備中　東西二十一間　南北三十三間」とある。城跡は、標高 65 mほどの丘陵頂部を中心に平場や曲輪、空堀などの遺構を確認することができるが、現状では住宅が密集しているため、詳細は不明である。今後の調査成果に期待したい。

第８節　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群

１．調査に至る経緯

平成 26 年 12 月 25 日、宅地造成工事実施予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、本吉町卯名沢地内における「一般住宅敷地造成計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である卯名沢貝塚（遺跡番号 62015）および卯名沢古墳群（遺跡番号 62041）に該当して

いる（第 18 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、平成 27 年１月９日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2539 号）。

つづいて、同年１月 20 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 28 日付けで県教委から通知が出された（文第 2732 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年２月９日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

卯名沢貝塚・卯名沢古墳群は、市内本吉町卯名沢地内に所在する。卯名沢貝塚は、国道 45 号の西側に拡がる縄文時代および弥生時代の貝塚である。卯名沢古墳群は、南北に並ぶ２基の古墳からなる。古墳の規模は、北側が径 6.3 ～ 7.5 m、南側が 6.7 mを測る。

本遺跡周辺には、おおよそ 250 m西に、10 基の塚からなる宇南田塚群が知られているが、時期は不明である。

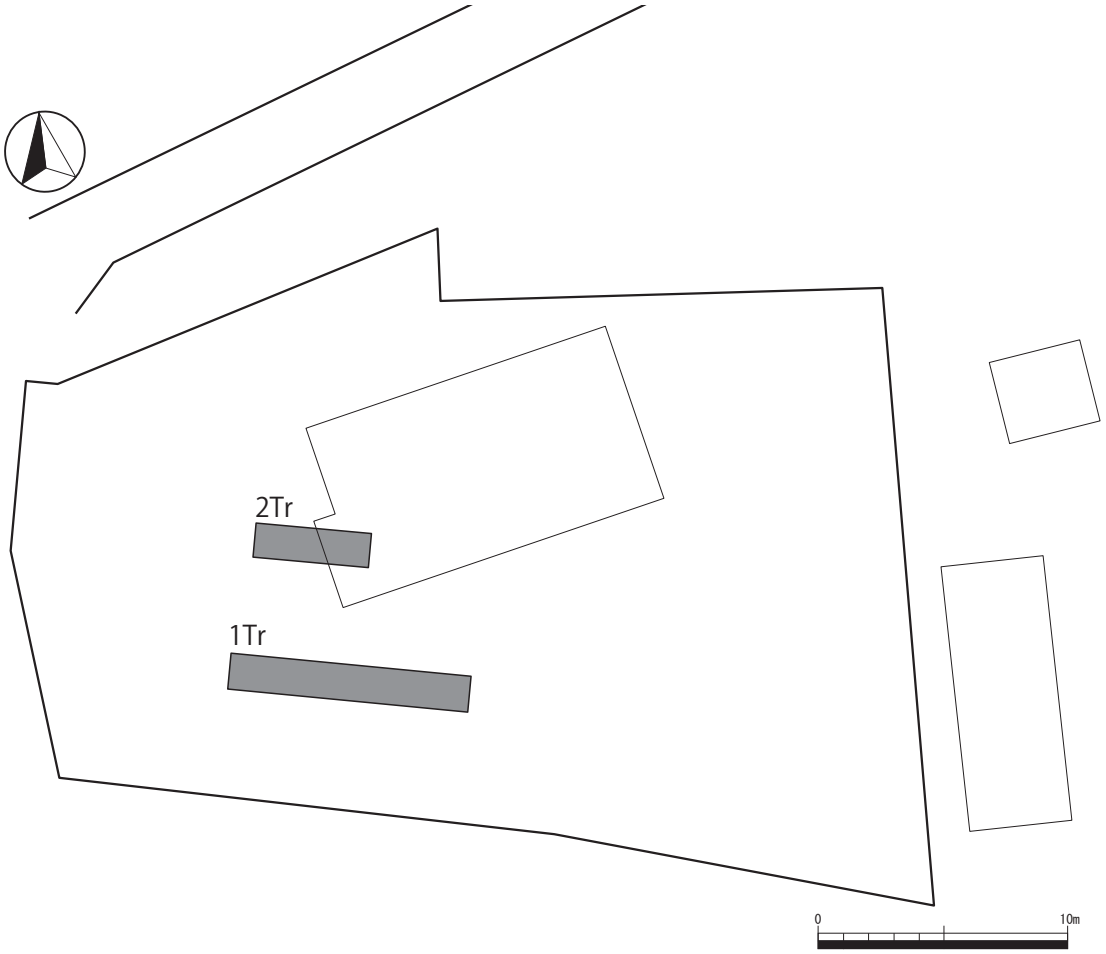
当該地のすぐ北側で三陸道建設に伴う発掘調査を宮城県教育委員会が実施しているが、遺構・遺物は検出されていない。

第 18 図　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、卯名沢貝塚の北端で、卯名沢古墳群北側古墳の東側にあたり、対象面積は約751.0㎡を測る。調査は、東西方向にトレンチを２本設定し（第 19 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 20.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても、厚さ 40cm ほどの表土直下で暗黄褐色粘質土を呈



第 19 図　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群 トレンチ設定図（S = 1/300）

写真 31　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
１トレンチ全景（東から）

写真 32　卯名沢貝塚・卯名沢古墳群
２トレンチ全景（東から）

する地山を確認した。旧表土も遺存しておらず、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

調査地点は、卯名沢古墳群の北側古墳からおおよそ１ｍ東側にあたる。古墳周辺は近世墓群であるが、今回の計画範囲外であるため、調査は行わなかった。古墳から近いため、周溝の検出も想定されたが、古墳にかかわる遺構・遺物は検出されなかった。また、当該地は、卯名沢貝塚の北端に位置しているが、遺構・遺物が検出されなかったため、貝塚は丘陵の南側に拡がる可能性も考えられる。今後の調査成果に期待したい。

第９節　月立台遺跡

１．調査に至る経緯

平成 26 年 12 月８日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、新台地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である月立台遺跡（遺跡番号 59008）に該当している（第 20 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 19 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2452 号）。

つづいて、平成 27 年１月６日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 16 日付けで県教委から通知が出された（文第 2626 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年２月 24 日および 25 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

月立台遺跡は、市内台地内に所在する。大川支流の八瀬川の西側河岸段丘上に立地する縄文時代晩期および古代の散布地である。

本遺跡周辺は、遺跡が希薄な地域で、八瀬川の 1km 上流域に近世の製鉄生産遺跡とされる関根東遺跡、北西 1.5km に縄文時代の散布地とされる関根遺跡が知られている程度である。

月立台遺跡における調査は、近年では、平成 24 年度に店舗建設、平成 25 年度に個人住宅建設に伴う確認調査を実施しているが、遺構・遺物は検出されていない。しかしながら、平成４年度に道路改良工事および個人住宅建築工事に伴う発掘調査を行っており、縄文時代晩期の遺物包含層から多量の縄文土器のほか、石器が検出されている。

第 20 図　月立台遺跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、月立台遺跡の中央やや北東に位置しており、対象面積は約 418.8㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを３本設定し（第 21 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 27.1㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても、表土の下は１m以上の盛土で造成されており、地山は一部で確認できたのみであった。旧表土も遺存しておらず、遺構・遺物は検出されなかった。

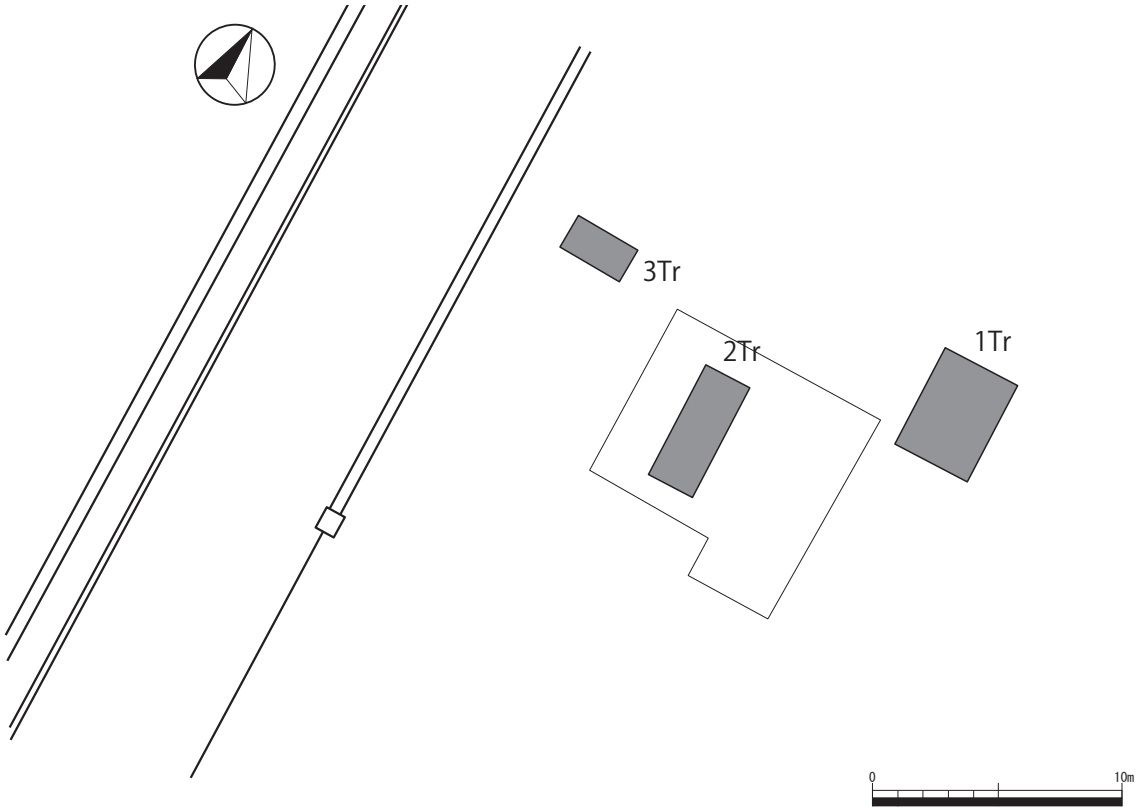
各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の調査地においては、厚く堆積した盛土により、地山まで確認できたトレンチは、１トレンチと３トレンチの一部のみであった。その堆積状況から判断して、すでに地山まで切土したのちに盛土で造成したものと推測できた。

月立台遺跡は、調査実績が少なく、また、周辺は遺跡が希薄な地域に立地している。しかし、先述したとおり、平成４年度には多量の縄文土器が検出されている。今後、調査事例の増加を待って、遺跡の範囲など、再検討することとしたい。



第 21 図　月立台遺跡 トレンチ設定図（S = 1/300）

写真 33　月立台遺跡 1 トレンチ土層堆積状況（南から）

写真 34　月立台遺跡 1 トレンチ全景（南から）

写真 35　月立台遺跡 2 トレンチ全景（南から）

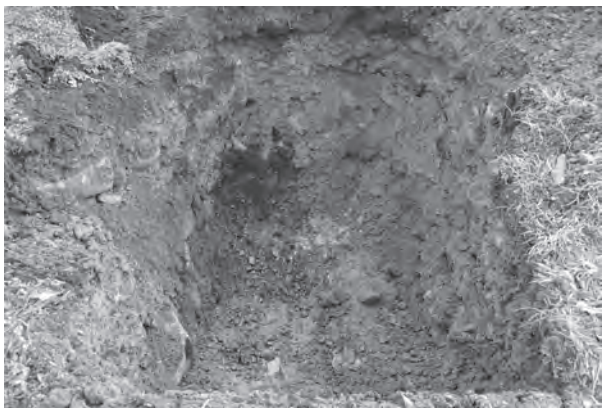


写真 36　月立台遺跡 3 トレンチ全景（西から）

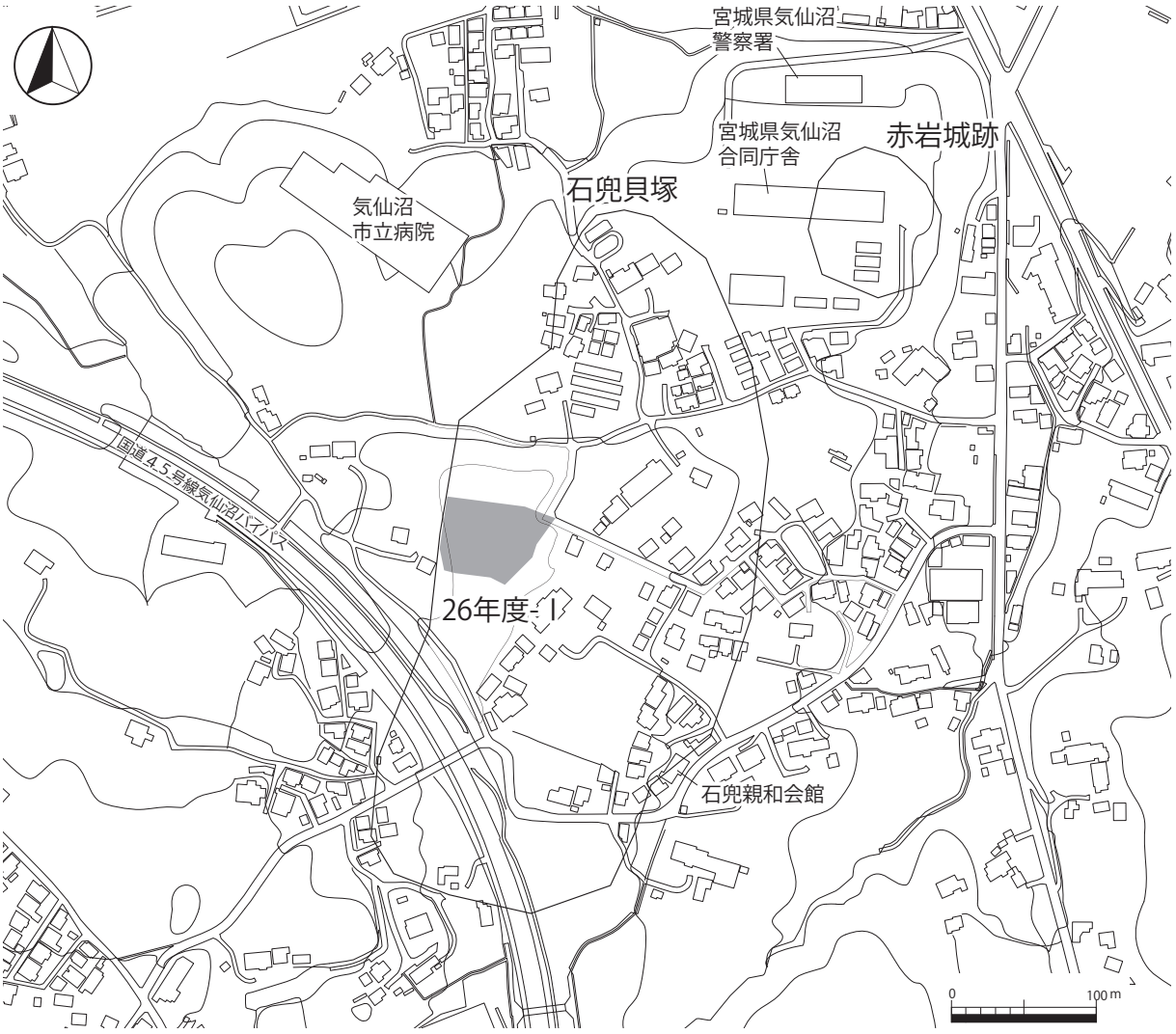
第 10 節　石兜貝塚

1．調査に至る経緯

平成 26 年 9 月 17 日、アパート新築工事実施予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩石兜地内における「宅地造成及びアパート新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 22 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 10 月 8 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1745 号）。

つづいて、10 月 20 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、11 月 7 日付けで県教委から通知が出された（文第 2073 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年 3 月 2 日および 3 日に確認調査を実施することとなった。



第 22 図　石兜貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

石兜貝塚は、市内赤岩石兜地内に所在する。国道 45 号気仙沼バイパス東側の丘陵に立地する古代・中世の貝塚である。

本遺跡周辺には、おおよそ 100 ｍ東に、縄文時代の散布地である赤岩遺跡が知られている。

石兜貝塚における調査は、気仙沼バイパス工事に伴う調査で江戸時代の遺構・遺物が検出されている（註1）。

（註１）宮城県教育委員会（1985）『宮城県文化財調査報告書第 106 集　石兜遺跡』宮城県教育委員会ほか

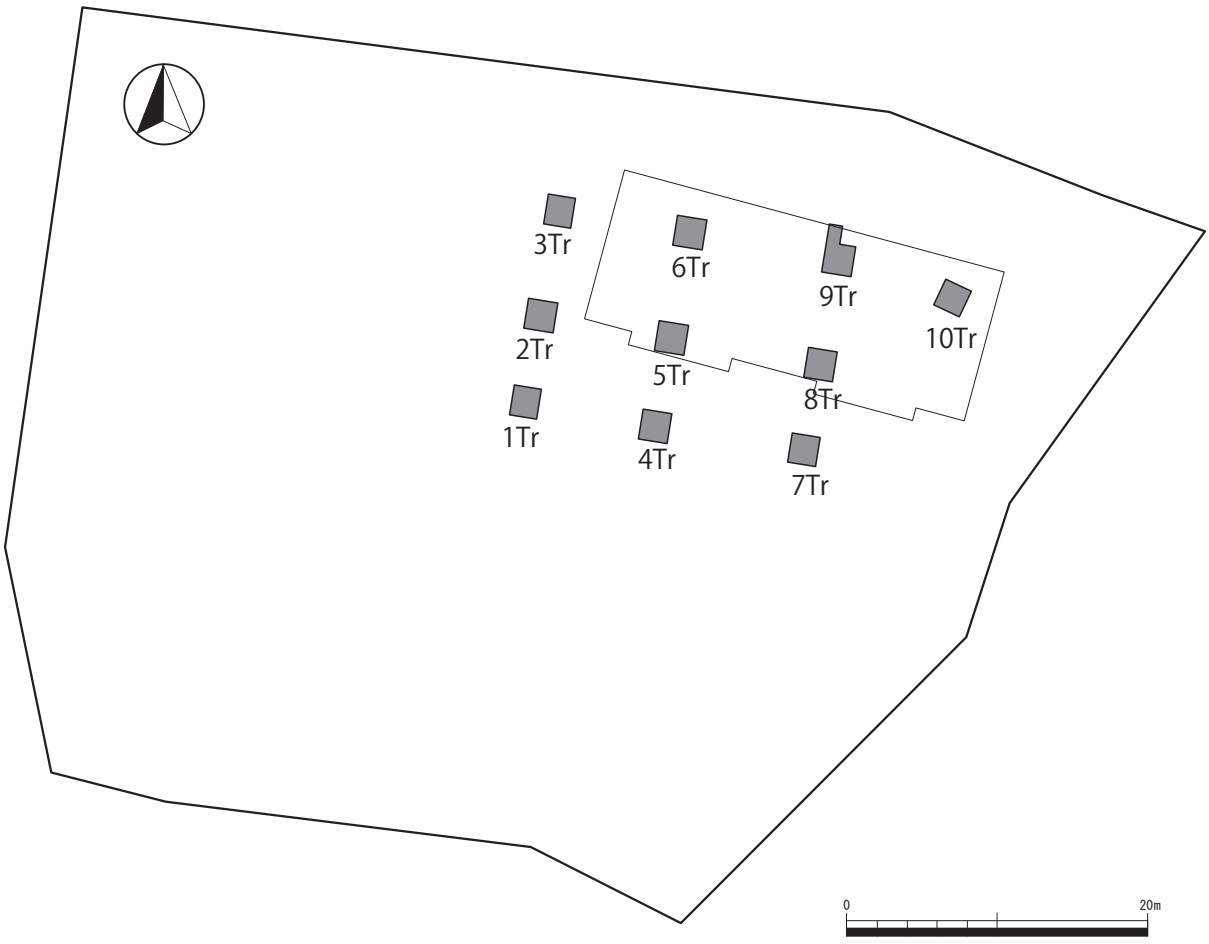
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、石兜貝塚の中央やや北側に位置し、対象面積は約 2,781.0㎡を測る。調査は、２ｍ四方の試掘坑を 10 か所設定し（第 23 図）、重機が進入し得ないという制約があったため、人力により掘削および精査を行った。調査面積は約 41.0㎡を測る。

調査の結果、いずれの試掘坑においても 20 ～ 30cm の表土直下で明黄褐色粘質シルトの地山を確認した。旧表土も遺存しておらず、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、人力で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用し



第 23 図　石兜貝塚 トレンチ設定図（Ｓ＝ 1/500）

てトレンチ配置図を作成した。

4．まとめ

石兜貝塚は、古代から中世にかけての貝塚とされている。先述したとおり、気仙沼パイパス工事に伴う発掘調査で江戸時代の遺構・遺物が検出されているが、貝塚の実態は不明である。今後の調査成果に期待したい。

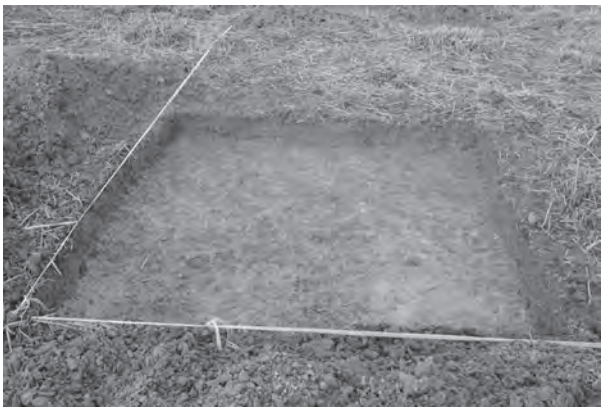


写真 37　石兜貝塚 1 トレンチ全景（南から）

写真 38　石兜貝塚 2 トレンチ全景（南から）

写真 39　石兜貝塚 3 トレンチ全景（南から）

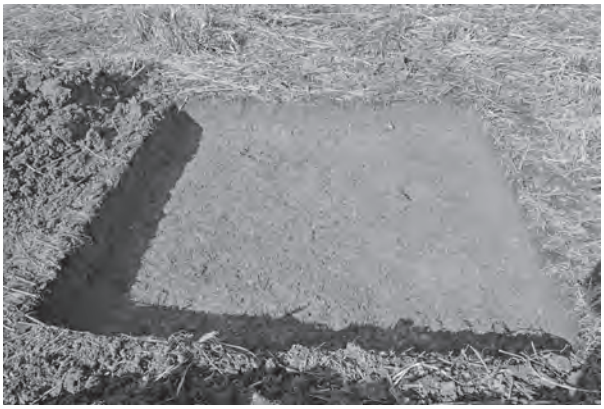


写真 40　石兜貝塚 4 トレンチ全景（南から）

写真 41　石兜貝塚 5 トレンチ全景（南から）

写真 42　石兜貝塚 6 トレンチ全景（南から）

写真 43　石兜貝塚 7 トレンチ全景（南から）

写真 44　石兜貝塚 8 トレンチ全景（南から）

写真 45　石兜貝塚 9 トレンチ全景（南から）

写真 46　石兜貝塚 10 トレンチ全景（南から）

第３章　平成 27 年度の調査

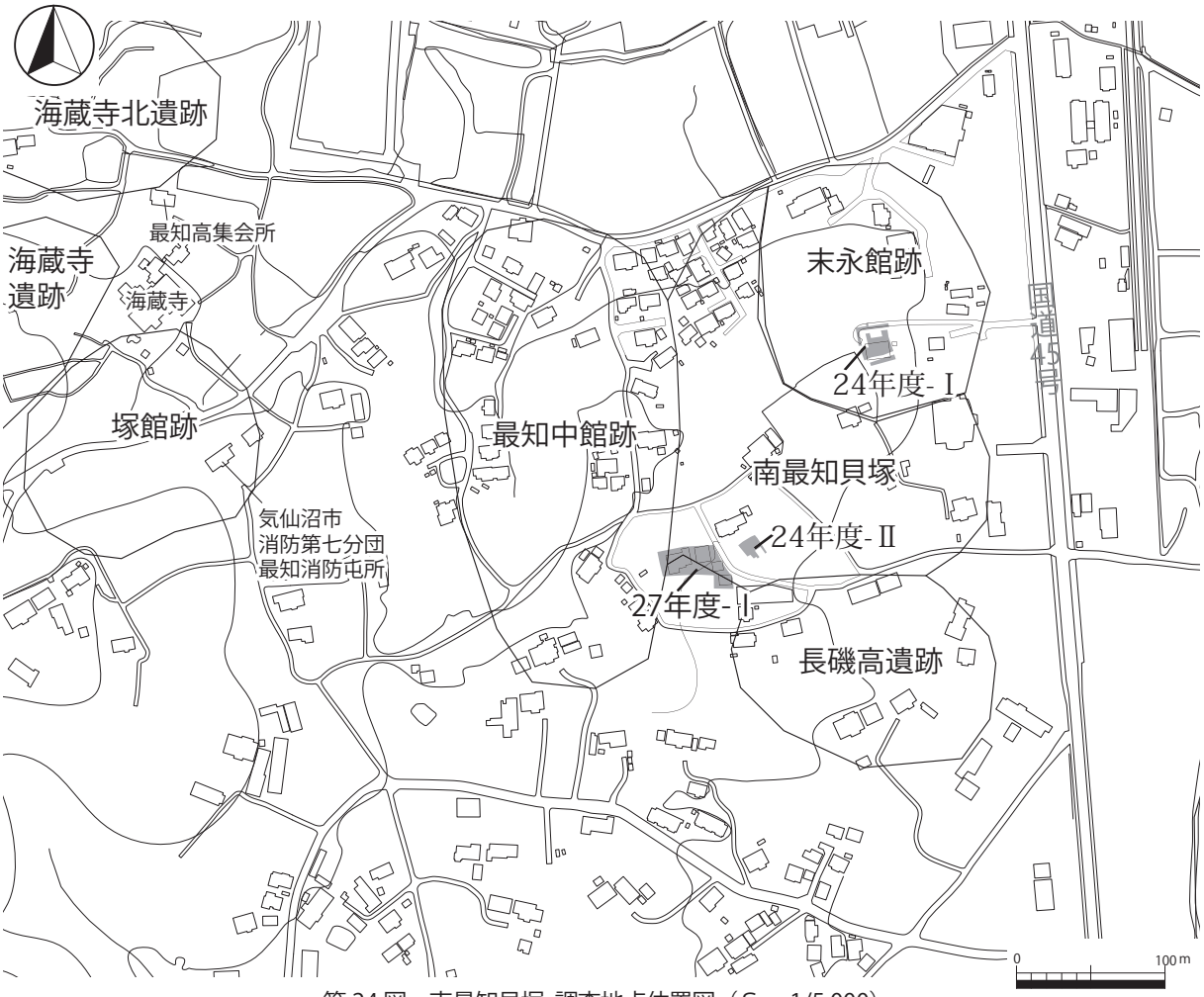
第１節　南最知貝塚

１．調査に至る経緯

平成 27 年６月 22 日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、最知南最知地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である南最知貝塚（遺跡番号 59035）に該当している（第 24 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、７月８日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 979 号）。

つづいて、同年７月 13 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、８月５日付けで県教委から通知が出された（文第 1239 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年８月６日に確認調査を実施することとなった。



第 24 図　南最知貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

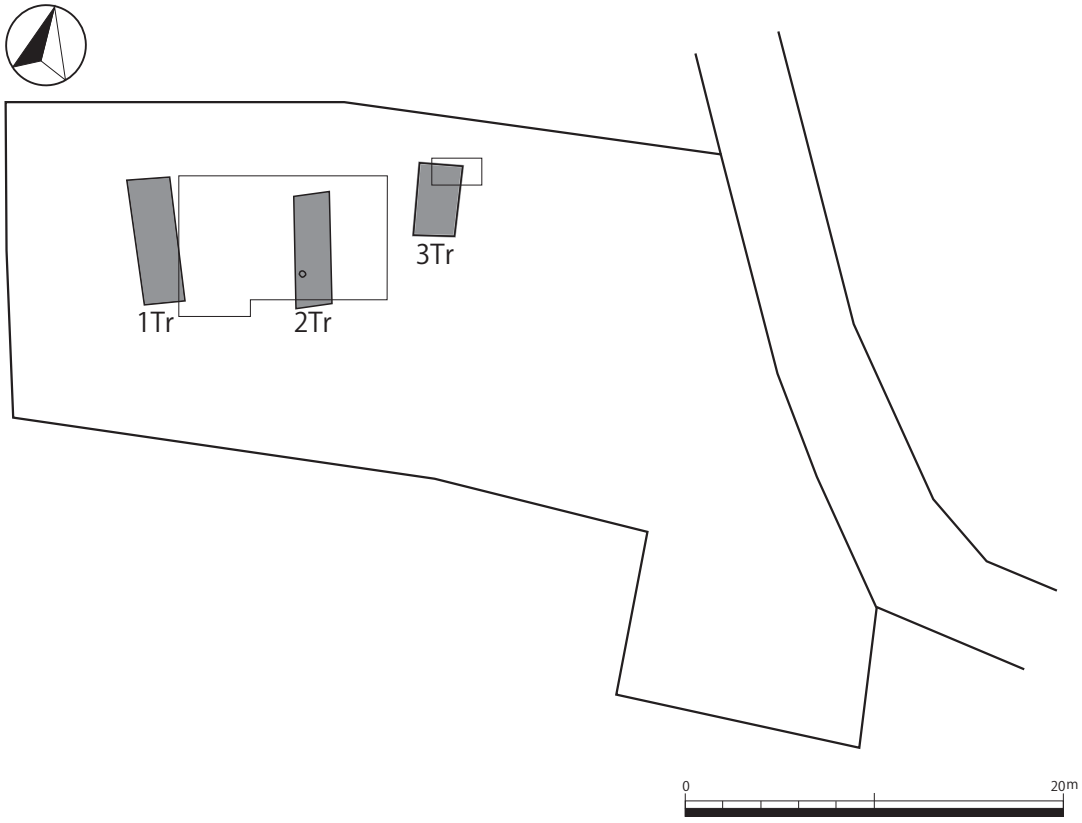
南最知貝塚は、市内最知南最知地内に所在する。気仙沼湾に向かって延びる標高 15 mほどの台地の先端部付近に立地する、縄文時代前・中・後期の貝塚および古墳時代後期の集落跡である。

本遺跡周辺には、末永館跡、最知中館跡、塚館跡、森館跡などの中世城館跡や古代の遺跡とされている海蔵寺北遺跡、海蔵寺遺跡、長磯高遺跡など、遺跡が密集している。本遺跡の北西 500 m の辺りは縄文時代中期の散布地とされる緑館遺跡が所在するが、近年の調査により古代の集落跡が確認され、周囲に本遺跡との関連を想定できる遺跡はみられない。

南最知貝塚は、北斜面に小規模な貝層２か所、南斜面に大規模な貝層が知られており、昭和 43 年に市史跡として指定されている。

本遺跡における調査は、昭和 45 年度に鼎ヶ浦高等学校が南斜面の貝層部分について行っており、自然遺物や縄文時代前期末から中期中葉の遺物が多量検出されている。また、近年では、平成 24 年度に個人住宅新築工事に伴う確認調査を２地点で実施している。その結果、いずれの調査地点においても竪穴建物跡や土坑などが検出されており、この２地点においては本調査を実施している（註１）。

（註１）気仙沼市教育委員会（2017）『気仙沼市文化財調査報告書 10　気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書１』気仙沼市教育委員会



第 25 図　南最知貝塚 トレンチ設定図（S = 1/400）

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、南最知貝塚の南西端近くに位置しており（第 24 図）、対象面積は約 123.0㎡を測る。調査は、南北方向に３本のトレンチを設定し（第 25 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 32.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても約 20cm 掘削したところで礫混じりの地山が確認された。また、２トレンチにおいて直径約 35cm の円形を呈する小穴が 1 基検出された。半截して確認したところ、確認面からの深さは 40cm ほどであったが、遺物は検出されず、時期など詳細は明らかにし得なかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の調査地点は、平成 24 年度に調査を実施した２次調査地点と通りを挟んで隣接する。平成 24 年度の調査においては、１次調査で奈良時代の竪穴建物跡が２軒、２次調査で奈良時代から平安時代の竪穴建物跡が 1 軒検出されている。先述したとおり、本遺跡の周辺に古代の集落としては海蔵寺遺跡、海蔵寺北遺跡、緑館遺跡が知られている。周辺の古代遺跡との関連性について、今後の課題としたい。また、今回の調査において検出された遺構は小穴 1 基のみで、遺物は検出されなかったが、今後資料の増加を待って遺跡の範囲についても再検討する必要があろう。

写真 47　南最知貝塚 １トレンチ全景（南から）

写真 48　南最知貝塚 ２トレンチ全景（南から）

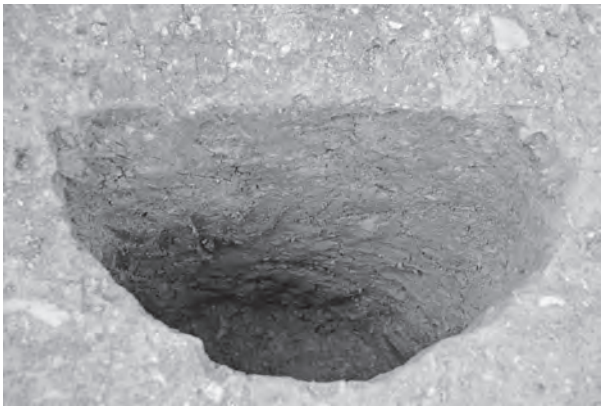


写真 49　南最知貝塚 ２トレンチ 小穴断面（南から）

写真 50　南最知貝塚 ３トレンチ全景（南から）

第２節　古館貝塚

１．調査に至る経緯

平成 27 年６月 22 日、整地造成工事実施予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、唐桑町鮪立地内における「整地造成計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である古館貝塚（遺跡番号 63017）に該当している（第 26 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、７月３日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 954 号）。

つづいて、同年７月８日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 17 日付けで県教委から通知が出された（文第 1096 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年８月７日～ 12 日に確認調査を実施することとなった。

第 26 図　古館貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

古館貝塚は、市内唐桑町鮪立地内に所在する。唐桑半島の付け根付近、内湾に突き出た半島状の鞍部に立地する、縄文時代前期～後期の貝塚である。

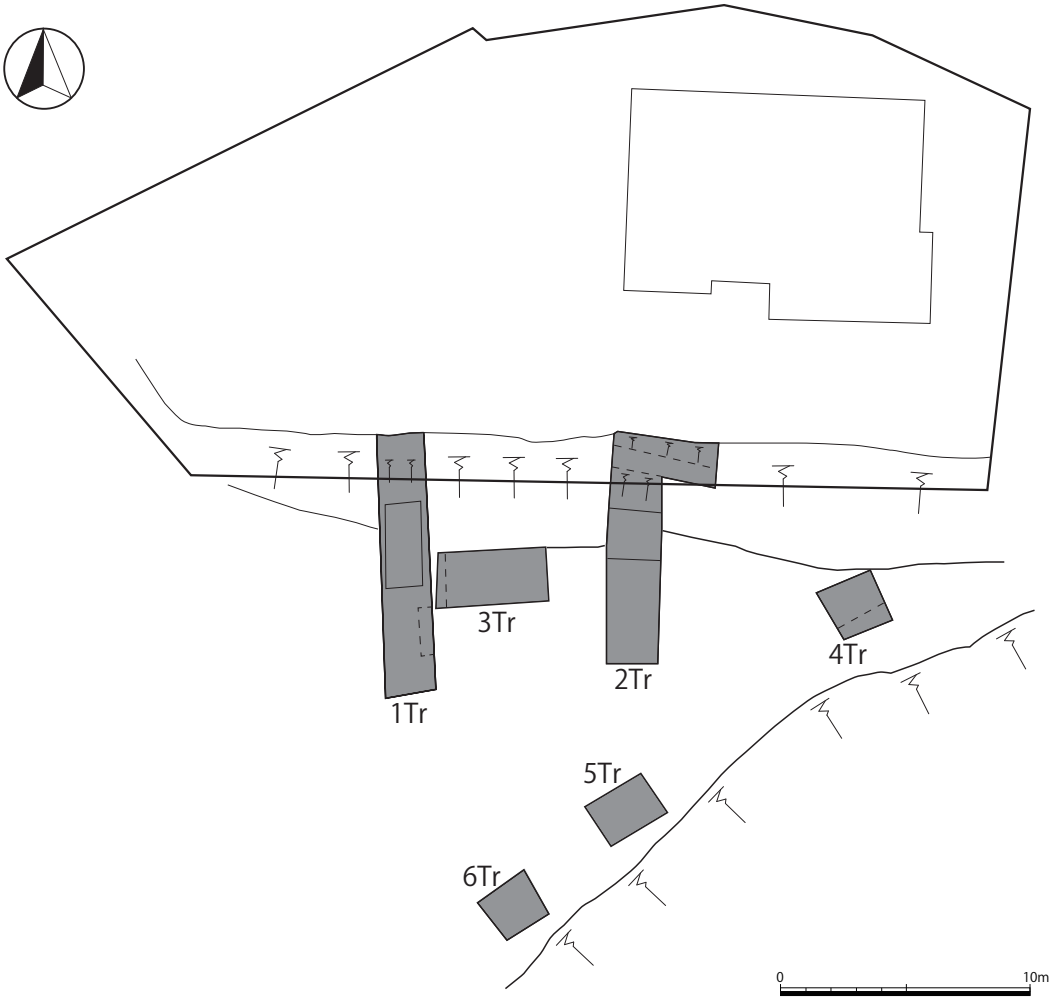
本遺跡周辺には、北西 500 m付近に藤ヶ浜貝塚、南東 250 m付近に長浜貝塚といった、縄文時代の貝塚が知られている。

本遺跡における調査は、平成 23 年度～ 27 年度にかけて、５地点で確認調査を実施している。そのうち、当該地の南西おおよそ 70 mの地点で、平成 24 年度に実施した個人住宅新築工事に伴う確認調査において、土坑が検出されたため、一部箇所について本調査を実施した。その結果、縄文土器や石器等を伴う土坑が４基検出されている。

３．調査の概要と成果

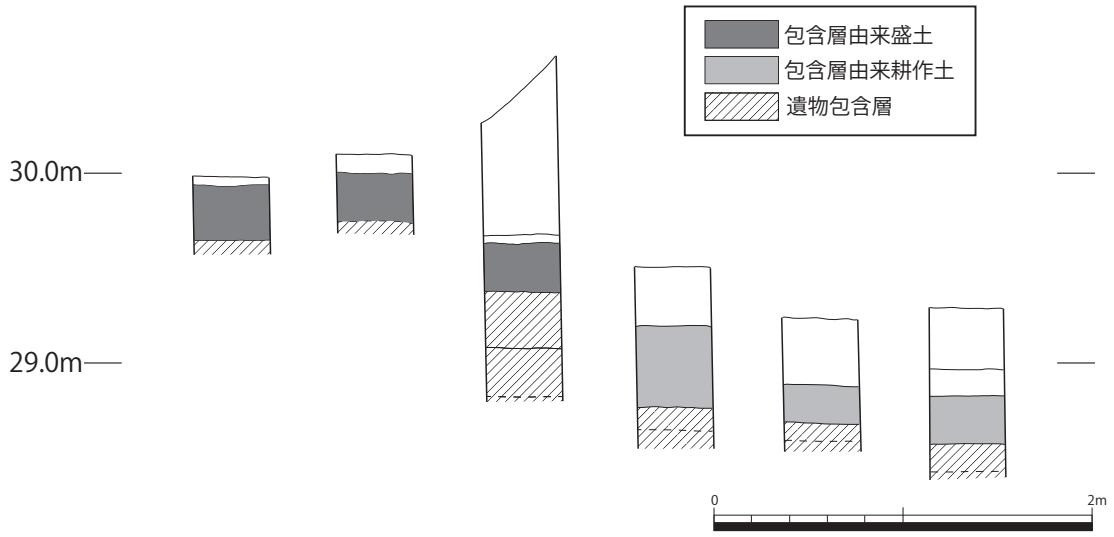
今回の調査地点は、古館貝塚の東方に位置しており（第 26 図）、対象面積は約 1,141.0㎡を測る。調査は、６本のトレンチを設定し（第 27 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 58.0㎡を測る。

調査の結果、北側に設定した１～３トレンチは、表土が５～ 10cm と薄く、その直下 15 ～



第 27 図　古館貝塚 トレンチ設定図（S＝ 1/300）

30cm 程の暗褐色粘質シルトを基調とし、遺物を多量含む堆積層、黒褐色粘質シルトを基調とし、遺物を含む層が確認された。南側の 4 ～ 6 トレンチでは、表土が 30 ～ 45cm と厚く、その下層が 20 ～ 45cm ほどの暗褐色粘質シルトを基調とする耕作土、さらにその下層が黒褐色粘質シルトを基調とする堆積層が確認された。



第 28 図　古館貝塚 土層堆積柱状図（S = 1/40）

写真 51　古館貝塚 1 トレンチ全景（東から）

写真 52　古館貝塚 2 トレンチ土層堆積状況（北から）

写真 53　古館貝塚 2 トレンチ全景（東から）

写真 54　古館貝塚 3 トレンチ全景（北から）

土層の観察を行った結果、１～３トレンチでみられた暗褐色粘質シルトを基調とする堆積層は、地山粒の混入も多く、遺物を多量含んでいるものの、純粋な遺物包含層ではなく、遺物包含層に由来する二次堆積によるものであると推察できた。

今回の調査において、遺構は検出されなかったものの、ほぼ全面に遺物包含層が拡がり、その堆積状況は、北側で 30cm 以上と厚く、南側は 15cm ほどと薄いことが確認された。遺物は、縄文土器類が 2,059 点、石器類が 138 点検出された。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

調査終了後、事業者と市教委で取り扱いについて協議を行った。その結果、今回の事業で遺物包含層の確認面まで掘削を行わないため、本調査は行わないこととした。しかし、擁壁箇所については、工事の際に立会いを行い、遺物の出土状況の確認および採取を行うこととした。

擁壁箇所の立会いは平成 27 年 12 月 28 日および平成 28 年 1 月 4 日に実施し、１トレンチ設定箇所周辺を中心として縄文土器類 459 点及び石器類 63 点が検出された。

遺物は、すべてのトレンチで検出されたが、４トレンチは剥片が４点検出されたのみであった。特に北西部の１トレンチ及び３トレンチ付近で集中しており、工事立会いで採取した遺物（すべて、１トレンチ付近）を含めると、９割以上がこの２本のトレンチ（含周辺）で検出されている。また、時期は、おおよそ中期から後期に帰属するものであった。層的にまとまりがみられず、このこ

写真 55　古館貝塚 ４トレンチ土層堆積状況（東から）

写真 56　古館貝塚 ４トレンチ全景（南から）

写真 57　古館貝塚 ５トレンチ全景（南から）

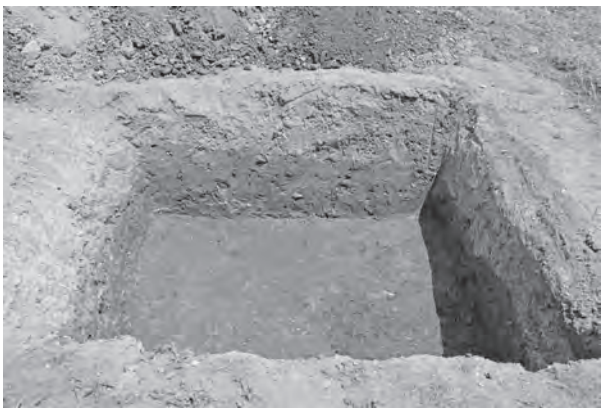
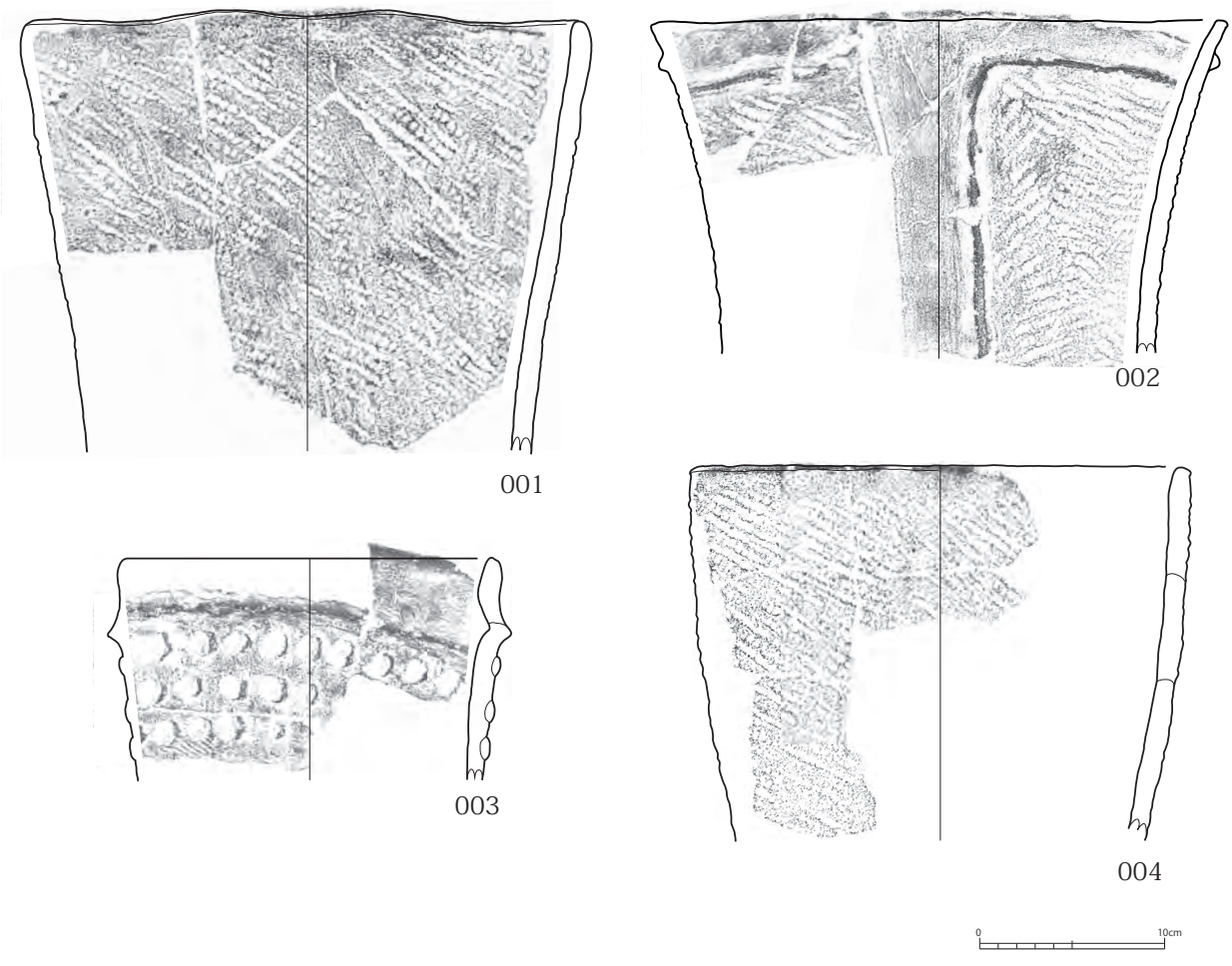


写真 58　古館貝塚 ６トレンチ全景（南から）

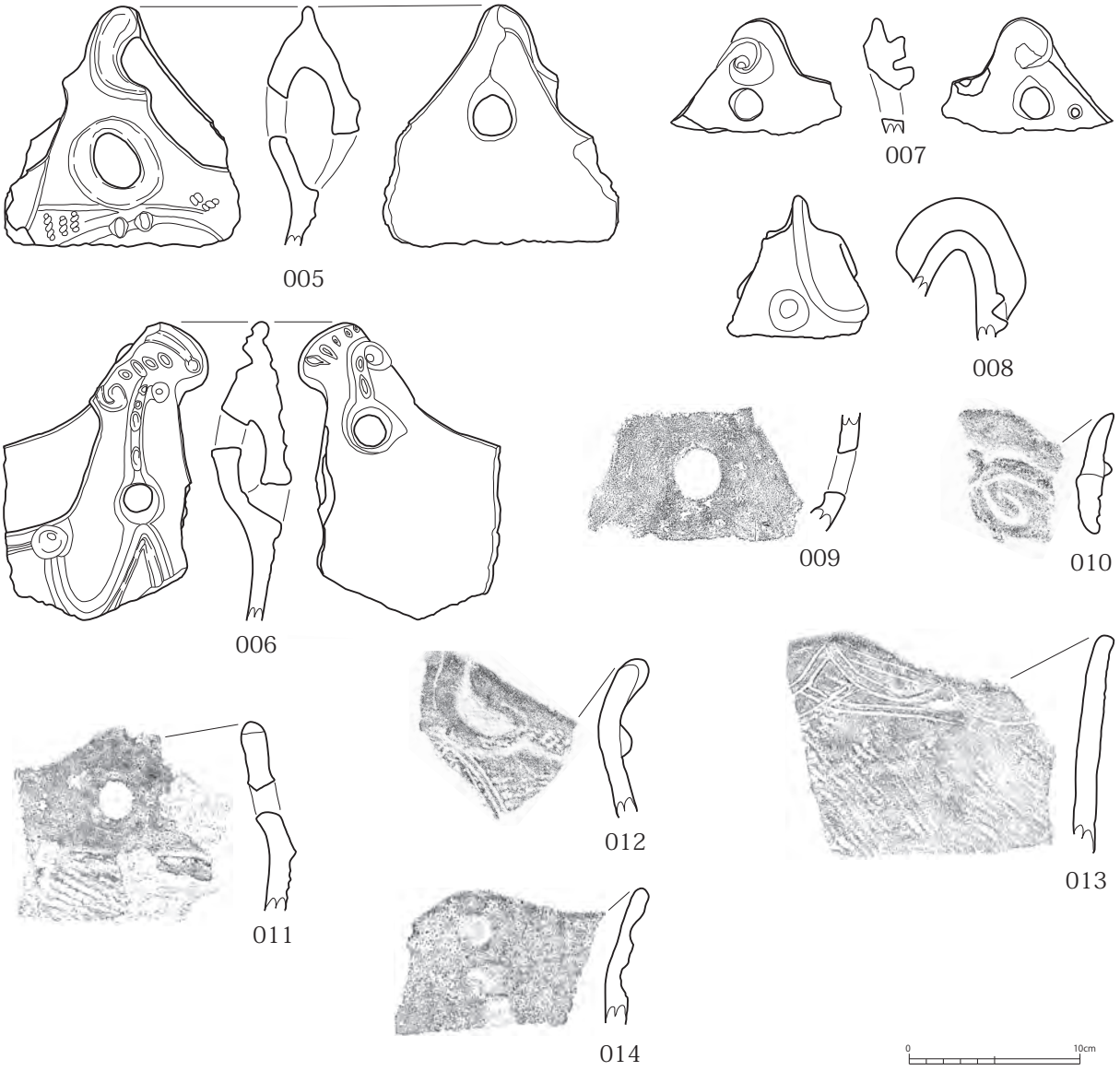
とからも、遺物包含層の二次堆積であることが推察できる。石器類は、製品は少なく、図示した石鏃（103）、石匙（104）、磨製石斧（105）、砥石（106）、石刀（107）くらいであり、ほかは磨石、敲石、剝片などであった。

確認調査及び立会い調査で検出された縄文土器類 2,518 点及び石器類 201 点のうち、縄文土器類 102 点、石器類 11 点を図示した。

001 ～ 095 は縄文土器で、054 ～ 056 が浅鉢であるほかは、いずれも深鉢と思われる。096 ～ 102 は土製品で、096 は土版、097 ～ 102 は土製円板である。また、103 ～ 113 は石器類である。



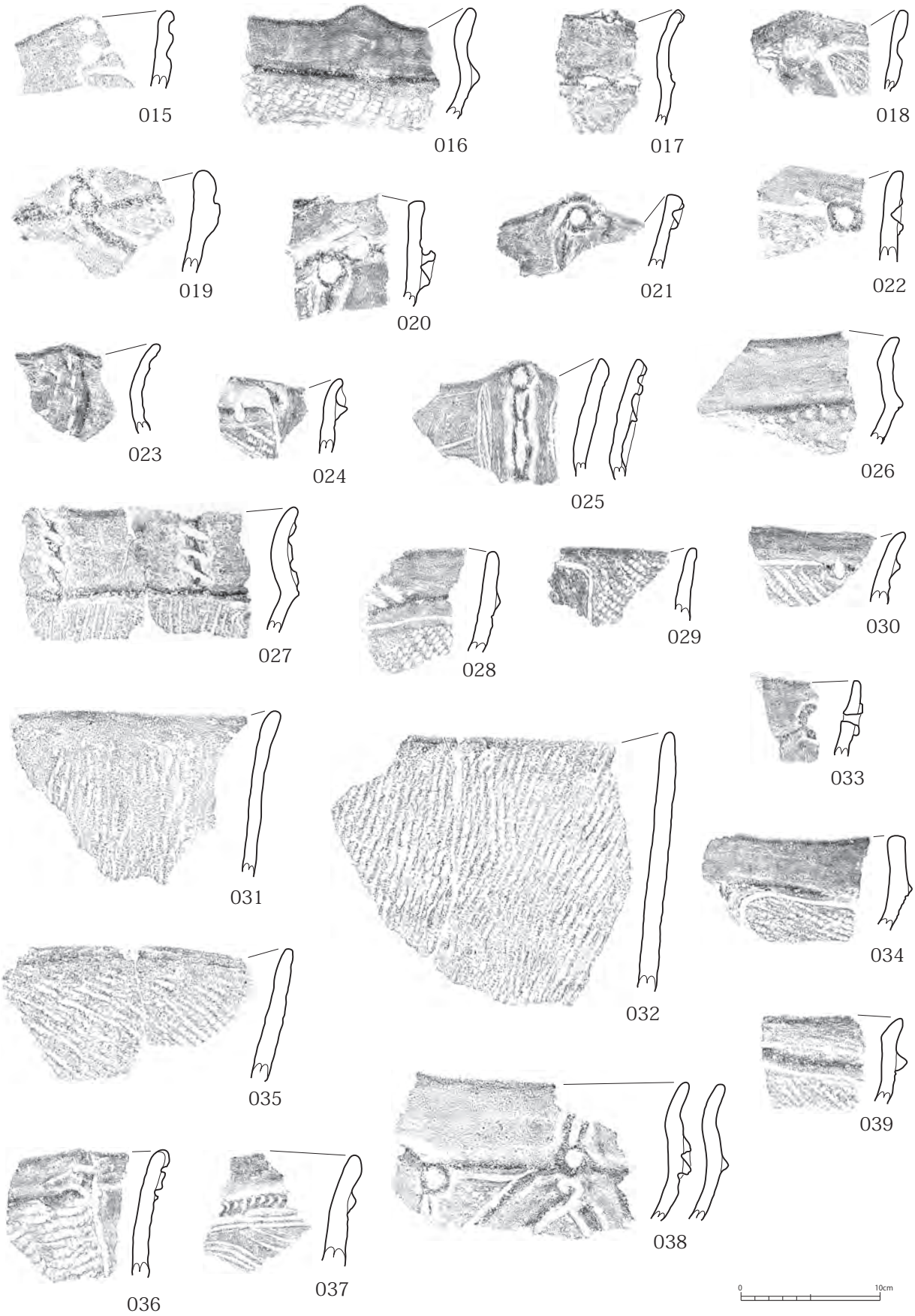
第 29 図　古館貝塚 出土遺物 1(土器 1)



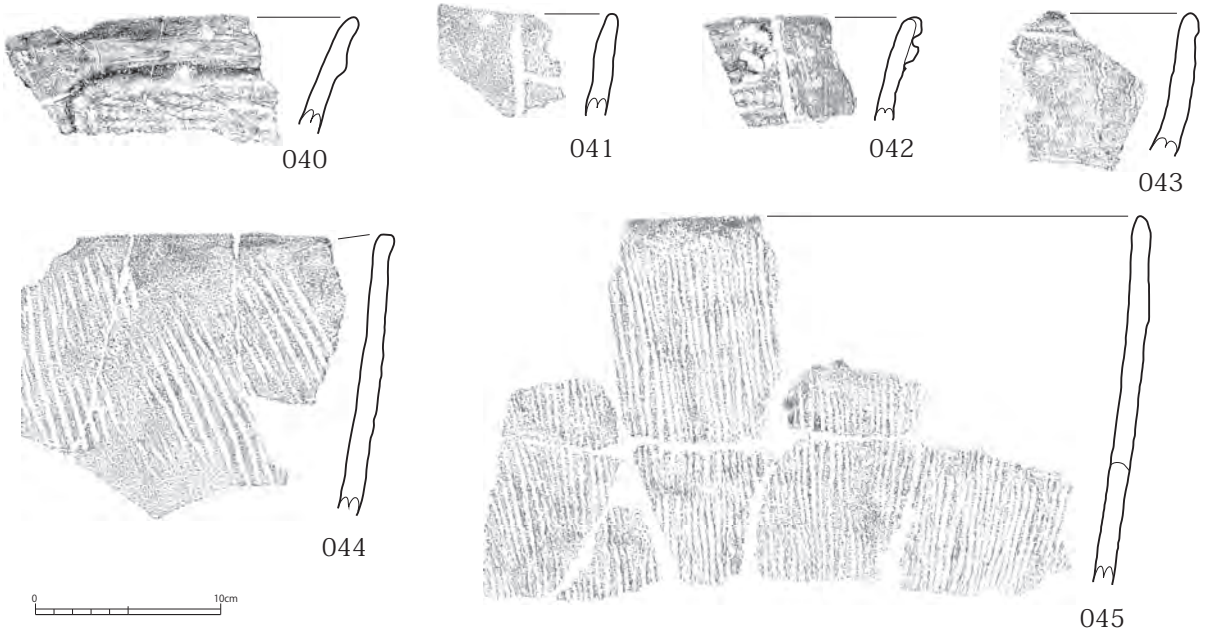
第 30 図　古館貝塚 出土遺物 2(土器 2)

第 7 表　古館貝塚 出土遺物観察表 1(土器 1)

No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
001	1 トレンチ	深鉢	口縁～胴部	口径（推定）22.6	波状口縁，撚糸文（LR）	にぶい黄橙色	石英		29	59
002	1 トレンチ	深鉢	口縁～胴部	口径（推定）23.0	平口縁，縄文（ＬＲ）→隆帯・沈線区画＋刺突文→磨消	黒褐色	石英	大木 10 式	29	59
003	1 トレンチ	深鉢	口縁～胴部	口径（推定）16.2	平口縁，胴部上位連続爪形刺突文，胴部下位縄文（LR）	暗赤褐色	石英		29	59
004	1 トレンチ	深鉢	口縁～胴部	口径（推定）21.0	平口縁，縄文（LR）	黒褐色	石英		29	59
005	1 トレンチ	深鉢	把手		山形中空把手，頂部弧状隆帯，下部輪形隆帯＋穿孔，頸部貼付隆帯＋刺突文，縄文（RL）	にぶい黄橙色	石英	門前式	30	59
006	1 トレンチ付近	深鉢	把手		橋状突起，穿孔，内外面に刺突文・盲孔	黄橙色	石英，雲母	門前式	30	59
007	1 トレンチ	深鉢	把手		山形突起，渦巻状隆帯＋盲孔，穿孔	浅い黄橙色	石英，雲母		30	59
008	1 トレンチ	深鉢	把手		台形中空把手，縦位隆帯，ボタン状貼付文	にぶい黄橙色	石英，白色粒	門前式	30	59
009	1 トレンチ	深鉢	把手		山形突起？穿孔	にぶい黄橙色	石英，小石	門前式	30	59
010	3 トレンチ	深鉢	把手		把手の一部，穿孔	にぶい黄橙色	石英，雲母		30	59
011	1 トレンチ	深鉢	口縁		山形突起，頂部に盲孔，穿孔，縄文（LR）→隆帯区画	にぶい黄橙色	雲母	大木 10 式	30	59
012	1 トレンチ	深鉢	口縁		山形突起，口唇部貼付隆帯＋縄文（RL），胴部縄文（RL）→沈線	にぶい黄橙色	石英，小石		30	59
013	2 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，口縁部沈線文，胴部縄文（LR）	橙色	石英，小石		30	59
014	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，波頂部から垂下する円形連続刺突文	にぶい黄橙色	石英，小石	門前式	30	59



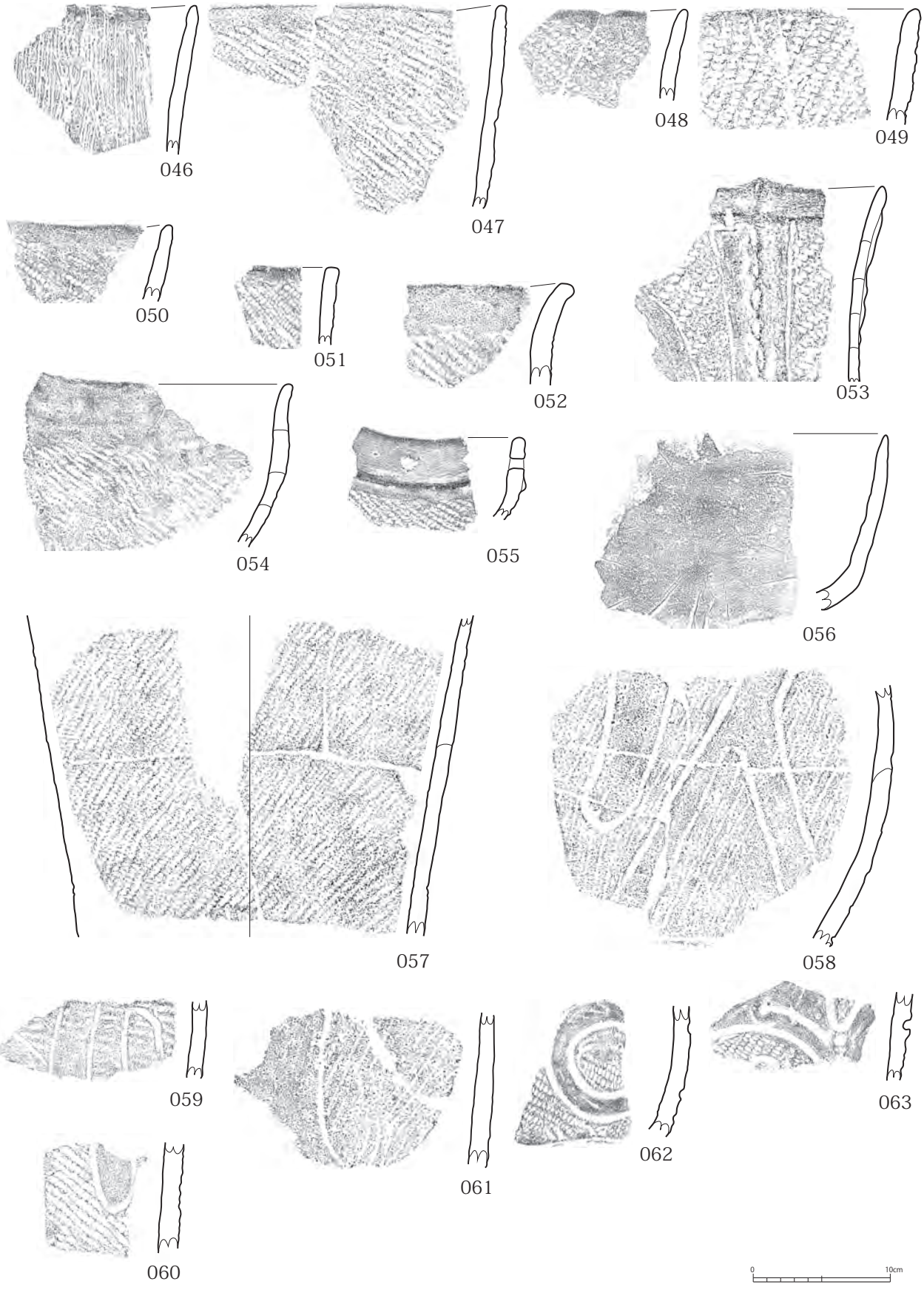
第 31 図　古館貝塚 出土遺物 3(土器 3)



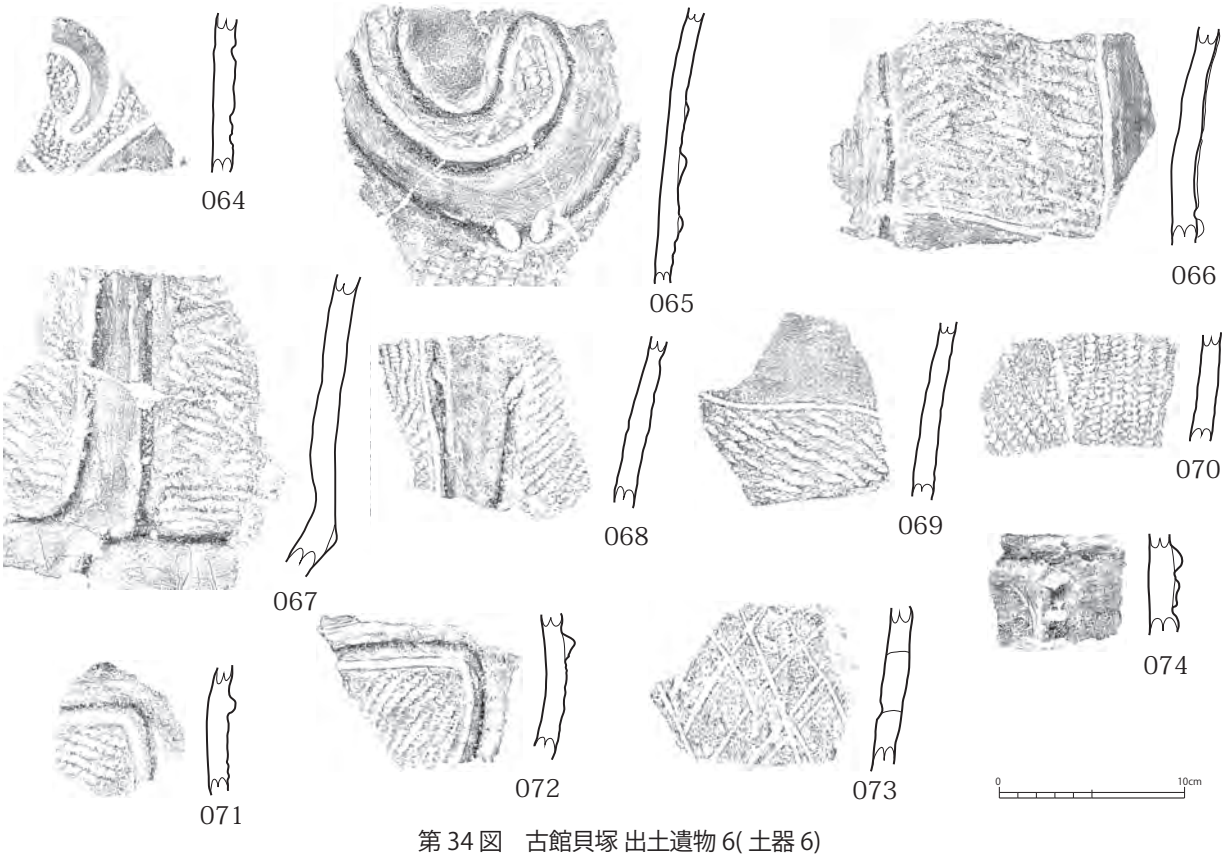
第 32 図　古館貝塚 出土遺物 4(土器 4)

第 8 表　古館貝塚 出土遺物観察表 2(土器 2)

No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
015	3 トレンチ	深鉢	口縁		沈線文，盲孔	橙色	石英，小石	門前式	31	59
016	1 トレンチ	深鉢	口縁		平口縁＋山形突起，縄文（LR）→頸部貼付隆帯	にぶい橙色	石英，小石		31	59
017	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，口唇部貼付隆帯，波頂部に半円形の抉り，頸部鎖状隆帯	赤灰色	石英，雲母	門前式	31	59
018	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，縄文（LR）→沈線区画→磨消→波頂部に円形の刺突文	明赤褐色	雲母，小石	門前式	31	59
019	3 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）→隆帯区画・ボタン状貼付文→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	雲母，小石	門前式	31	60
020	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）→貼付隆帯→沈線文→ボタン状貼付文	にぶい黄橙色	雲母，小石	門前式	31	60
021	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，口唇部肥厚，波頂部から垂下する貼付隆帯→波頂部にボタン状貼付文＋盲孔	橙色	雲母，小石	門前式	31	60
022	3 トレンチ	深鉢	口縁		頸部沈線文→ボタン状貼付文＋盲孔，胴部縄文（LR）	にぶい黄橙色	雲母，小石	門前式	31	60
023	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，口唇部肥厚，波頂部から垂下する貼付隆帯→連続刺突文	黒褐色	雲母，小石		31	60
024	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，縄文（LR）→隆帯区画＋刺突文	にぶい黄褐色	石英，小石	大木 10 式	31	60
025	3 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，波頂部に盲孔，波頂部から垂下する鎖状隆帯，沈線文	橙色	雲母，小石	門前式	31	60
026	1 トレンチ	深鉢	口縁		頸部隆帯，胴部鱗状連続刺突文	にぶい黄橙色	石英，小石		31	60
027	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，波頂部から垂下する鎖状隆帯＋刺突文，頸部隆帯，胴部撚糸文（R?）	橙色	長石，小石	大木 10 式？	31	60
028	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）→貼付隆帯＋刺突文→沈線文	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	31	60
029	1 トレンチ	深鉢	口縁		沈線区画内磨消縄文（LR）	暗褐色	雲母，小石	大木 10 式	31	60
030	1 トレンチ	深鉢	口縁		頸部貼付隆帯＋刺突文，沈線文，縄文（LR）	暗褐色	雲母，小石	大木 10 式	31	60
031	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		縄文（LR）	にぶい黄橙色	雲母，小石		31	60
032	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		平口縁，撚糸文（R）	褐色	石英		31	60
033	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，貼付隆帯，ボタン状貼付文＋穿孔	淡橙色	雲母，白色粒	門前式	31	60
034	1 トレンチ	深鉢	口縁		波状口縁，縄文（LR）→隆帯区画→沈線文	にぶい黄橙色	雲母，小石		31	60
035	1 トレンチ	深鉢	口縁		口唇部肥厚，縄文（LR）	褐色	雲母，小石		31	60
036	1 トレンチ	深鉢	口縁		貼付隆帯＋刺突文，口唇部から垂下する沈線文，縄文（LR?）	にぶい黄橙色	雲母，小石		31	60
037	1 トレンチ	深鉢	口縁		貼付隆帯＋爪形連続刺突文→沈線文	淡橙色	雲母，小石		31	60
038	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		縄文（LR）→隆帯区画，ボタン状貼付文＋盲孔→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	雲母，小石	門前式	31	60
039	3 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）→隆帯→沈線文	にぶい黄橙色	石英，小石		31	60
040	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）→隆帯区画→磨消	にぶい褐色	雲母，白色粒	大木 10 式	32	60
041	3 トレンチ	深鉢	口縁		沈線文	にぶい黄橙色	雲母，小石		32	60
042	1 トレンチ	深鉢	口縁		貼付隆帯＋刺突文，口唇部から垂下する沈線文，縄文（LR）	にぶい黄橙色	雲母，小石	大木 10 式	32	60
043	3 トレンチ	深鉢	口縁		口唇部直下に沈線文，縄文（R）→垂下する爪形連続刺突文→磨消	褐灰色	雲母，白色粒		32	60
044	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		縄文（LR）	黄橙色	石英，小石		32	60
045	1 トレンチ	深鉢	口縁		平口縁，撚糸文（R）	褐色	石英		32	60



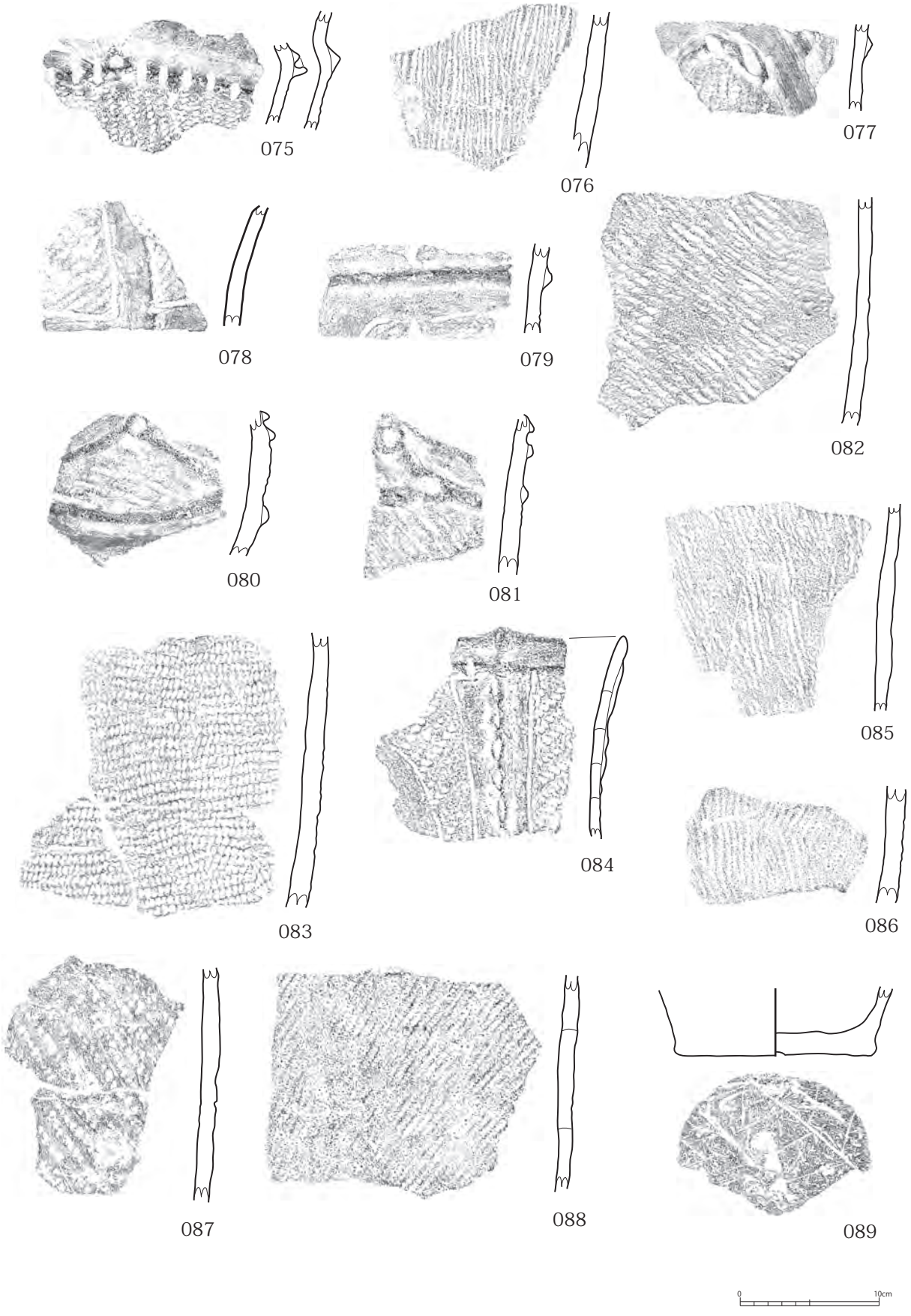
第 33 図　古館貝塚 出土遺物 5(土器 5)



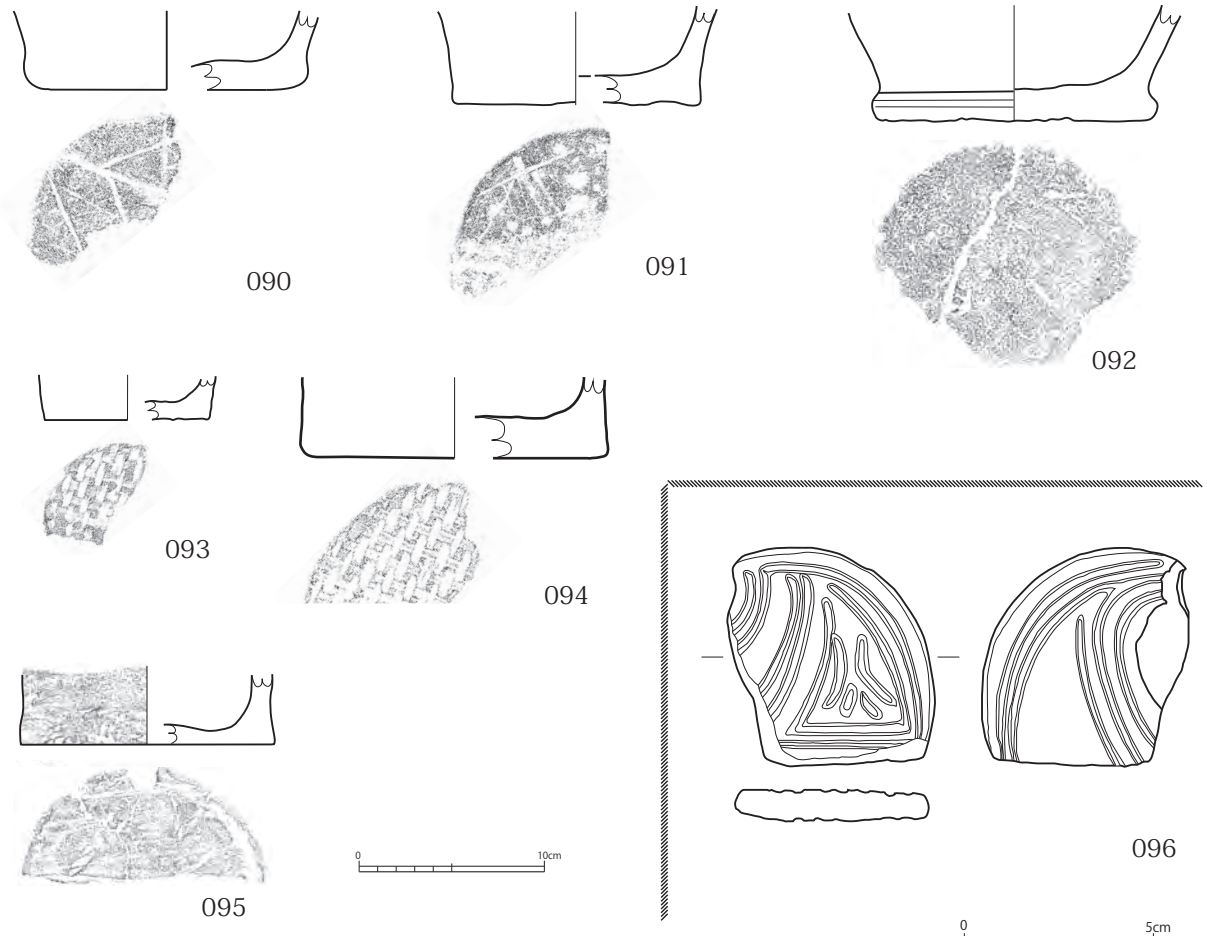
第 34 図　古館貝塚 出土遺物 6(土器 6)

第 9 表　古館貝塚 出土遺物観察表 3(土器 3)

No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
046	3 トレンチ	深鉢	口縁		撚糸文（R?）	褐灰色	石英，小石		33	60
047	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR?）	褐色	雲母，小石		33	60
048	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）	黒褐色	石英，小石		33	60
049	3 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）	橙色	石英，小石		33	60
050	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）	にぶい黄橙色	石英，白色粒		33	60
051	1 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（LR）	にぶい黄橙色	石英，小石		33	60
052	3 トレンチ	深鉢	口縁		縄文（RL）	橙色	石英，小石 (多)		33	60
053	1 トレンチ付近	深鉢	口縁		平口縁＋山形突起，縄文（RL）→頸部貼付隆帯＋刺突文，垂下する鎖状隆帯→沈線文→磨消	にぶい橙褐色	石英，小石	門前式	33	61
054	3 トレンチ	浅鉢	口縁		波状口縁，縄文（LR?）	にぶい黄橙色	石英 (少)，小石		33	61
055	1 トレンチ	浅鉢	口縁		口縁帯に穿孔，縄文（LR）→頸部貼付隆帯	褐色	雲母，小石		33	61
056	1 トレンチ付近	浅鉢	口縁		無文	灰白色	石英，小石		33	61
057	3 トレンチ	深鉢	胴部		横位縄文（LR）	にぶい黄橙色	石英		33	61
058	3 トレンチ	深鉢	胴部		撚糸文（R），沈線区画→磨消	橙色	石英，小石	大木 10 式	33	61
059	3 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（LR），刺突文	橙色	雲母，小石	大木 10 式	33	61
060	3 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL）	にぶい黄橙色	石英 (多)，小石	大木 9 ～ 10 式	33	61
061	3 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL）	橙色	石英，小石 (多)	大木 9 ～ 10 式	33	61
062	1 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL）	にぶい黄橙色	雲母，小石	大木 10 式	33	61
063	1 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL），盲孔	にぶい黄橙色	石英，小石	門前式	33	61
064	1 トレンチ	深鉢	胴部		沈線区画内磨消縄文（RL），盲孔	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
065	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）→隆帯区画＋刺突文→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
066	1 トレンチ	深鉢	胴部		羽状縄文（RL LR）→隆帯区画→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式？	34	61
067	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（LR）→隆帯区画→磨消	橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
068	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）→隆帯区画→沈線文→磨消	橙色	雲母，小石	大木 10 式	34	61
069	1 トレンチ	深鉢			沈線区画，縄文（LR）	橙色	雲母，小石	大木 10 式	34	61
070	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）	暗褐色	石英，小石		34	61
071	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（LR）隆帯区画→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
072	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）→隆帯区画→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	大木 10 式	34	61
073	3 トレンチ	深鉢	胴部		不整格子状沈線文	にぶい黄橙色	石英，小石		34	61
074	1 トレンチ	深鉢	胴部		横位隆帯，縦位隆帯＋刺突文	にぶい橙色	雲母，小石		34	61



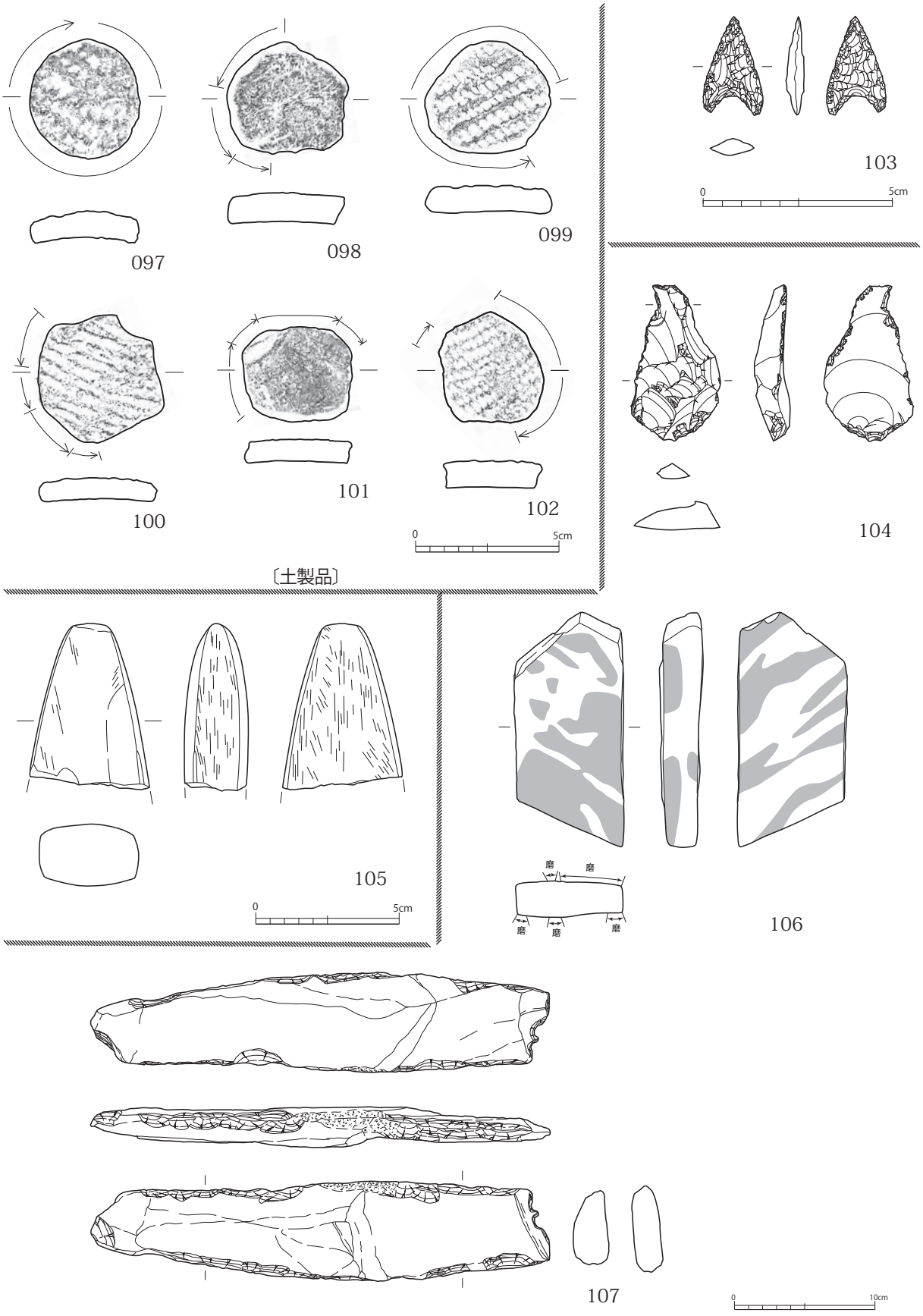
第 35 図　古館貝塚 出土遺物 7(土器 7)



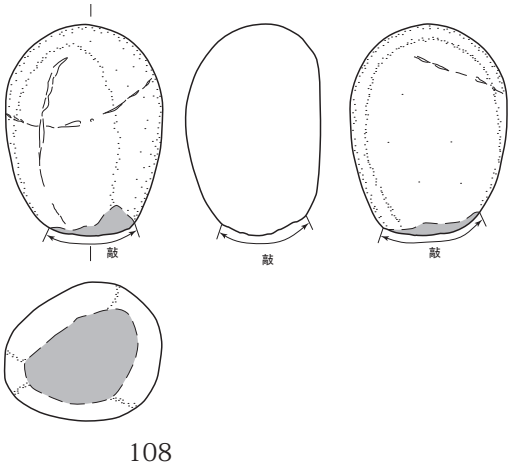
第 36 図　古館貝塚 出土遺物 8(土器８・土製品 1)

第 10 表　古館貝塚 出土遺物観察表 4(土器 4・土製品 1)

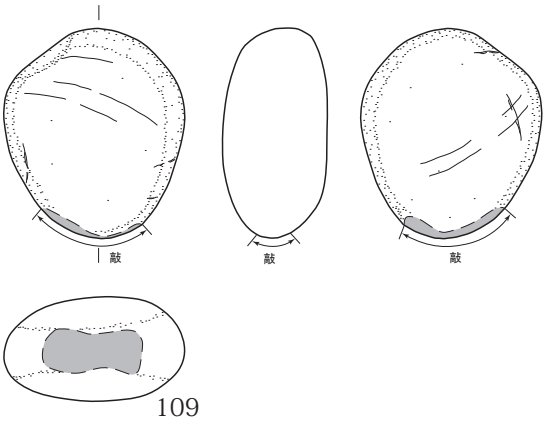
No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
075	1 トレンチ	深鉢	胴部		頸部貼付隆帯＋刺突文→ボタン状貼付文	橙色	雲母，小石	門前式	35	61
076	1 トレンチ	深鉢	胴部		撚糸文（R）	にぶい黄橙色	石英，小石		35	61
077	1 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）→隆帯区画＋刺突文→磨消	淡橙色	石英，小石	大木 10 式	35	61
078	1 トレンチ	深鉢	胴部		隆帯，沈線区画内磨消縄文（RL）	にぶい黄橙色	雲母，小石	大木 10 式	35	61
079	1 トレンチ	深鉢	胴部		貼付隆帯，沈線区画内磨消縄文（RL）	にぶい黄橙色	石英，小石		35	62
080	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（LR）→隆帯区画→沈線文→磨消	にぶい黄橙色	石英・小石 (多)	門前式	35	62
081	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（LR）→隆帯区画→ボタン状貼付文＋盲孔→磨消	にぶい黄橙色	石英，小石	門前式	35	62
082	1 トレンチ付近	深鉢	胴部		縄文（LR）	橙色	石英，小石		35	62
083	1 トレンチ付近	深鉢	胴部		縄文（LR）	にぶい黄橙色	雲母，小石		35	62
084	1 トレンチ付近	深鉢	胴部		撚糸文 r	にぶい黄橙色	雲母，小石		35	62
085	1 トレンチ付近	深鉢	胴部		縄文（LR）	にぶい黄橙色	石英，小石		35	62
086	3 トレンチ	深鉢	胴部		櫛歯条痕文，磨耗顕著	橙色	石英，小石		35	62
087	2 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）	褐色	石英，小石		35	62
088	3 トレンチ	深鉢	胴部		縄文（RL）	にぶい黄橙色	雲母，小石 (多)		35	62
089	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）9.9	底面葉脈痕	暗褐色，(内) 橙色	雲母，小石		35	62
090	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）10.4	底面葉脈痕	にぶい黄橙色	石英，小石		36	62
091	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）9.1	（胴部）ミガキ，底面葉脈痕	にぶい黄橙色	石英，小石		36	62
092	3 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）10.5	底面葉脈痕	にぶい黄橙色	石英，小石		36	62
093	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）6.9	底面網代痕	灰黄褐色	石英，小石		36	62
094	3 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）10.7	（胴部）ミガキ，底面網代痕	にぶい橙色	石英，小石		36	62
095	1 トレンチ	深鉢	底部	底径（推定）9.9	（胴部）縄文	灰黄褐色	石英，小石		36	62
096	1 トレンチ付近	土版	—	長径（残存）5.8，短径（残存）5.5，厚さ 0.8	両面に沈線文	灰白色	石英		36	62



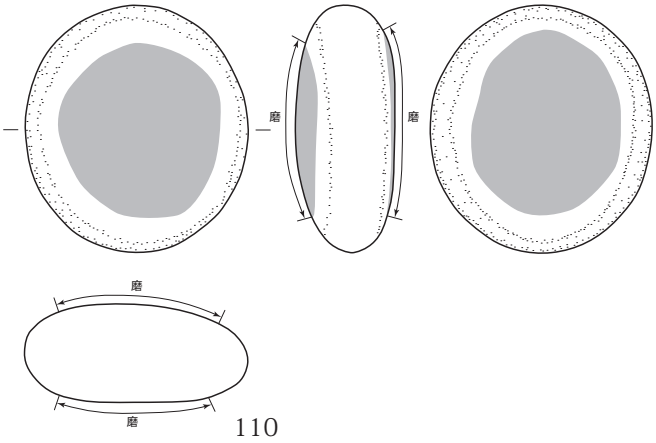
第 37 図　古館貝塚 出土遺物 9(土製品２・石器１)



108



109



110

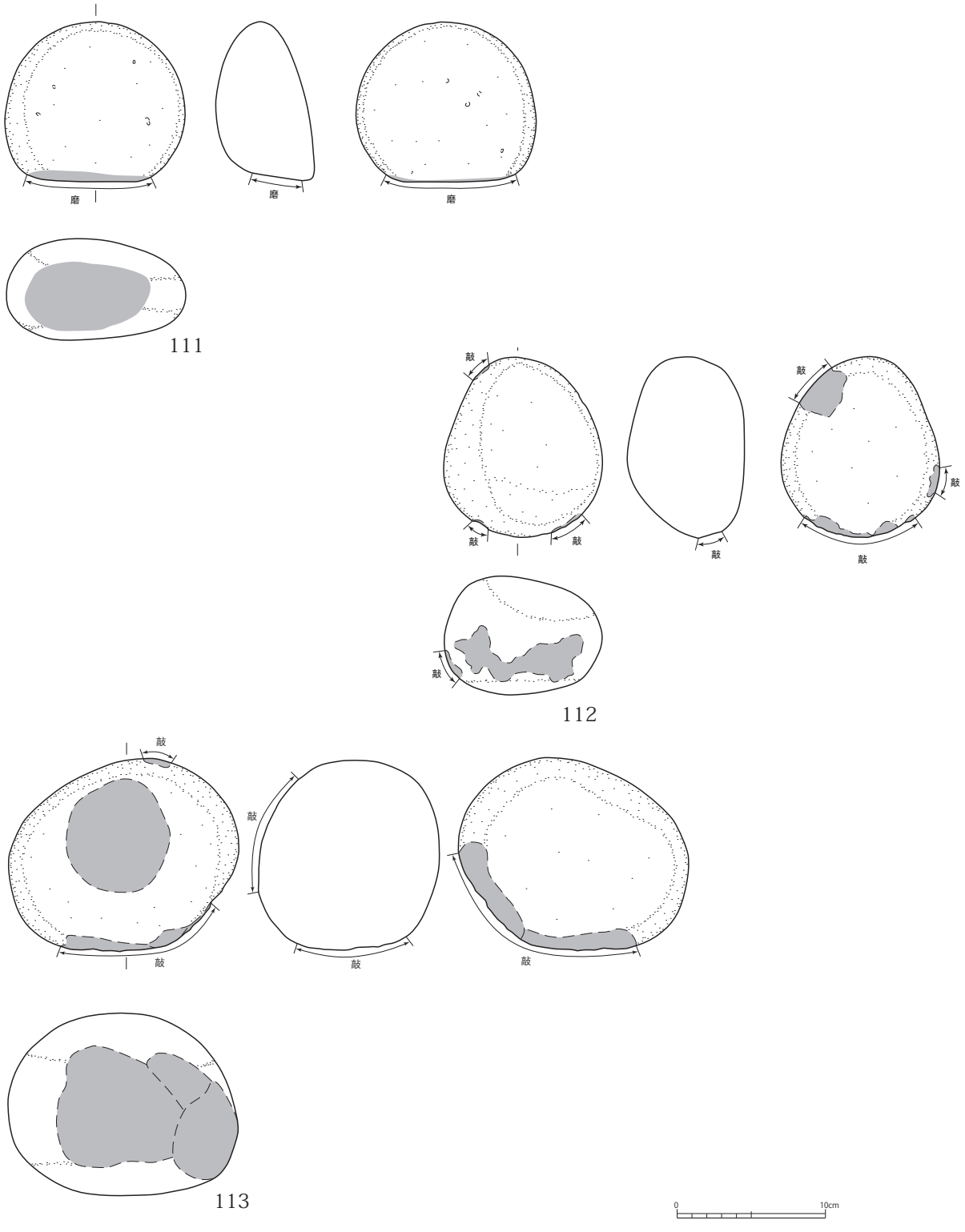
第 38 図　古館貝塚 出土遺物 10(石器 2)

第 11 表　古館貝塚 出土遺物観察表 5(土製品 2)

No.	検出地点	器種	部位	法量等（cm）	特徴	色調	胎土	備考	図番号	写真番号
097	1 トレンチ	土製円板		長径 4.2，短径 3.9，厚さ 1.1	縄文（LR）	にぶい橙色	石英，小石		37	62
098	1 トレンチ	土製円板			縄文，磨耗顕著	にぶい黄橙色	雲母，小石		37	62
099	1 トレンチ付近	土製円板		長径 4.4，短径 3.9，厚さ 1.0	縄文	にぶい黄橙色	石英，小石		37	62
100	1 トレンチ付近	土製円板		長径 4.5，短径 4.4，厚さ 0.9	縄文	灰白色	石英，小石		37	63
101	3 トレンチ付近	土製円板		長径 3.9，短径 3.3，厚さ 0.9	縄文	にぶい黄橙色	石英，小石		37	63
102	3 トレンチ付近	土製円板		長径 (残存)3.9, 短径 (残存 3.7，厚さ 1.0	縄文（RL）	にぶい黄橙色	石英，小石		37	63

第 12 表　古館貝塚 出土遺物観察表 6 (石器 1)

No.	検出地点	器種	法量（mm）			重量 (g)	石質	備考	図番号	写真番号
			長さ	幅	厚さ					
103	1 トレンチ付近	石鏃	26	16	5	1.3	珪質頁岩	凹基鏃	37	63
104	3 トレンチ	石匙	82	46	19	49.4	珪質頁岩		37	63
105	3 トレンチ	磨製石斧	58	42	23	80.4	砂岩	下部欠損	37	63
106	6 トレンチ	砥石	123	58	24	231.7	凝灰岩		37	63
107	6 トレンチ	石刀	246	53	22	320.4	千枚岩		37	63
108	1 トレンチ	磨石	85	63	56	452.2	安山岩		38	63
109	3 トレンチ	磨石	84	72	42	389.6	泥岩		38	63
110	1 トレンチ	磨石	100	80	40	576.7	デイサイト		38	63



第39図　古館貝塚 出土遺物11(石器3)

第13表　古館貝塚 出土遺物観察表7(石器2)

No.	検出地点	器種	法量（mm）			重量(g)	石質	備考	図番号	写真番号
			長さ	幅	厚さ					
111	3トレンチ	磨石	81	90	51	503.9	砂岩		39	63
112	1トレンチ	敲石	91	79	60	589.6	安山岩		39	63
113	1トレンチ付近	敲石	92	115	91	1,463.3	安山岩		39	63

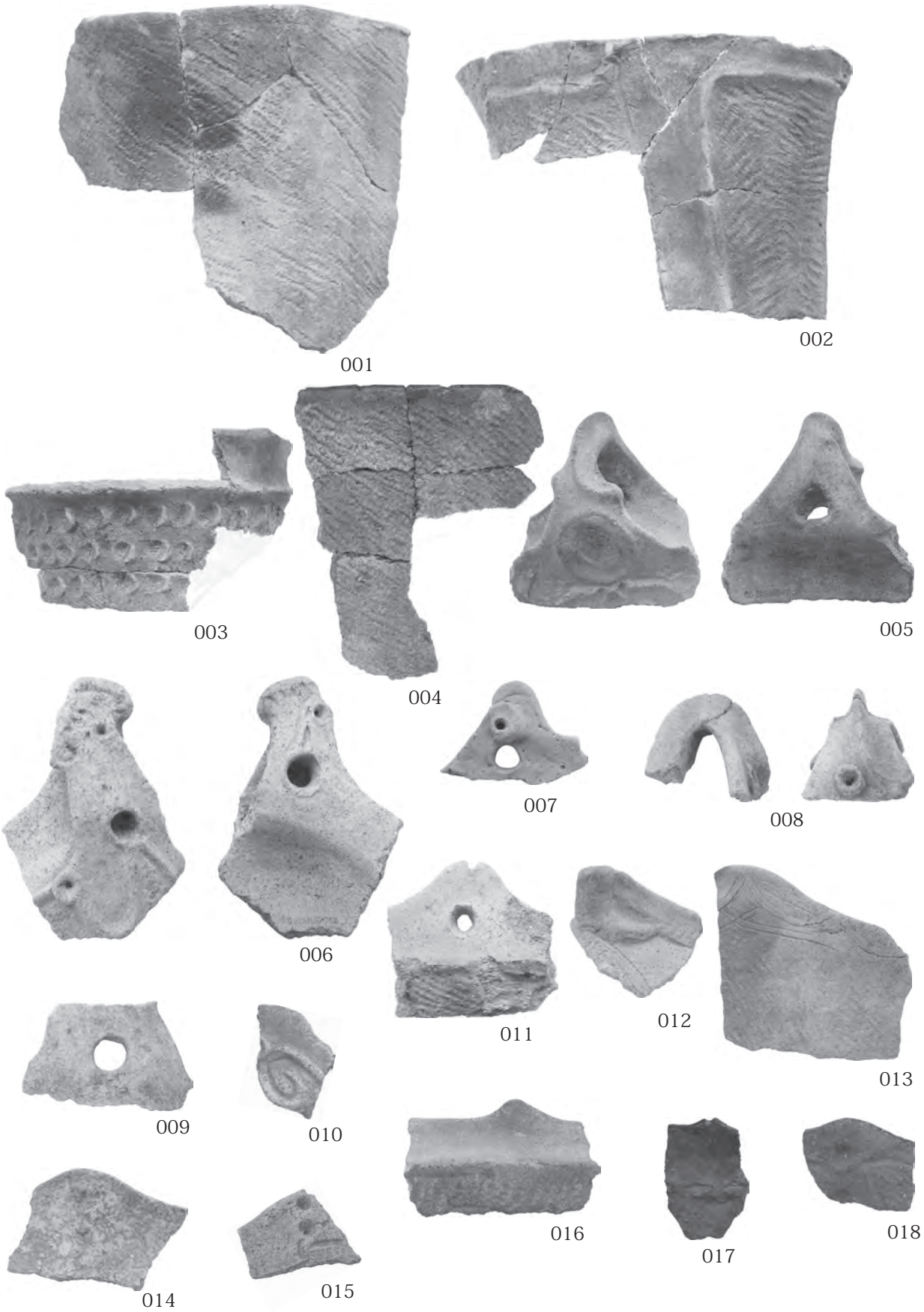


写真 59　古館貝塚 出土遺物 1（土器 1）

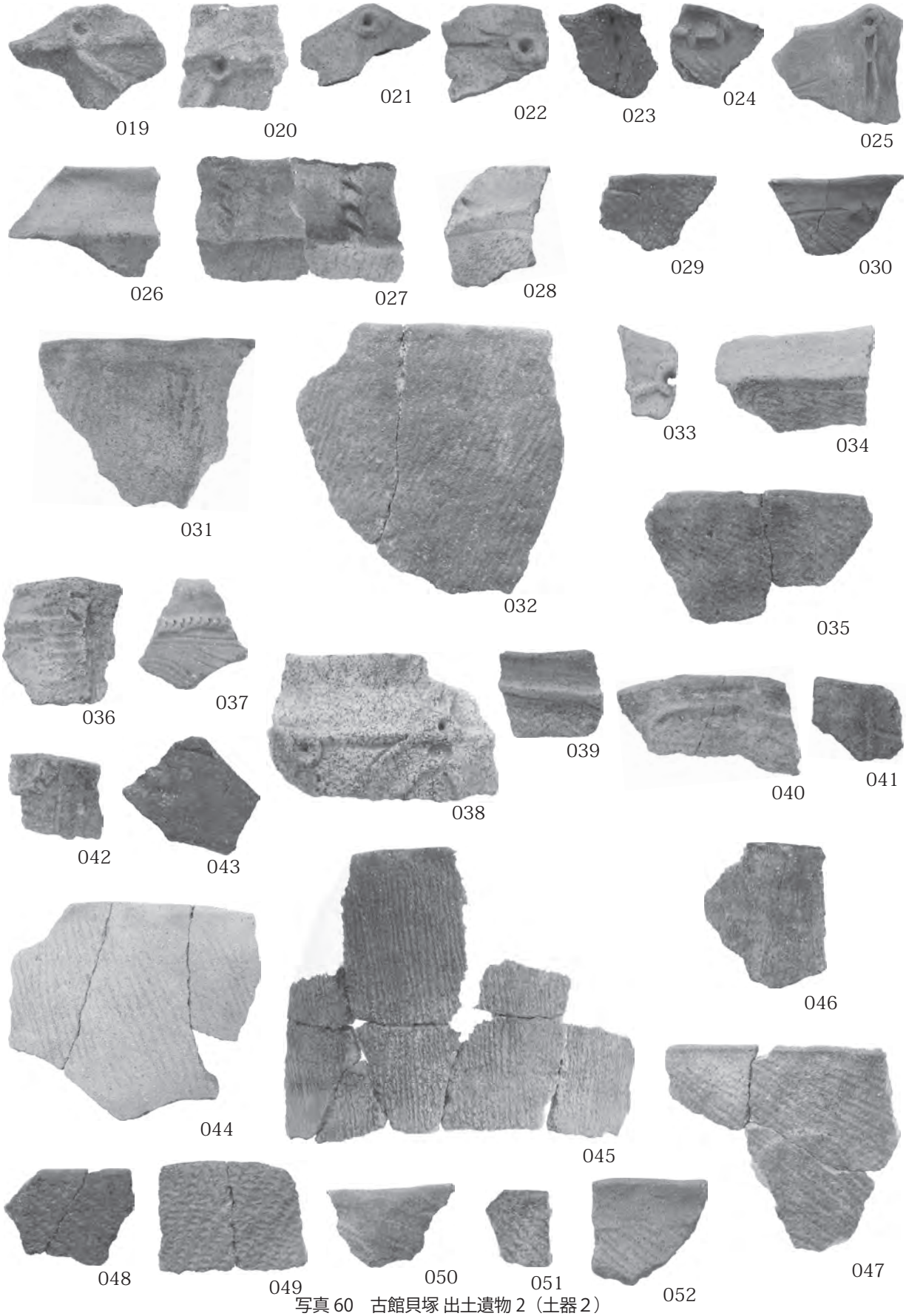


写真 60　古館貝塚 出土遺物 2（土器 2）

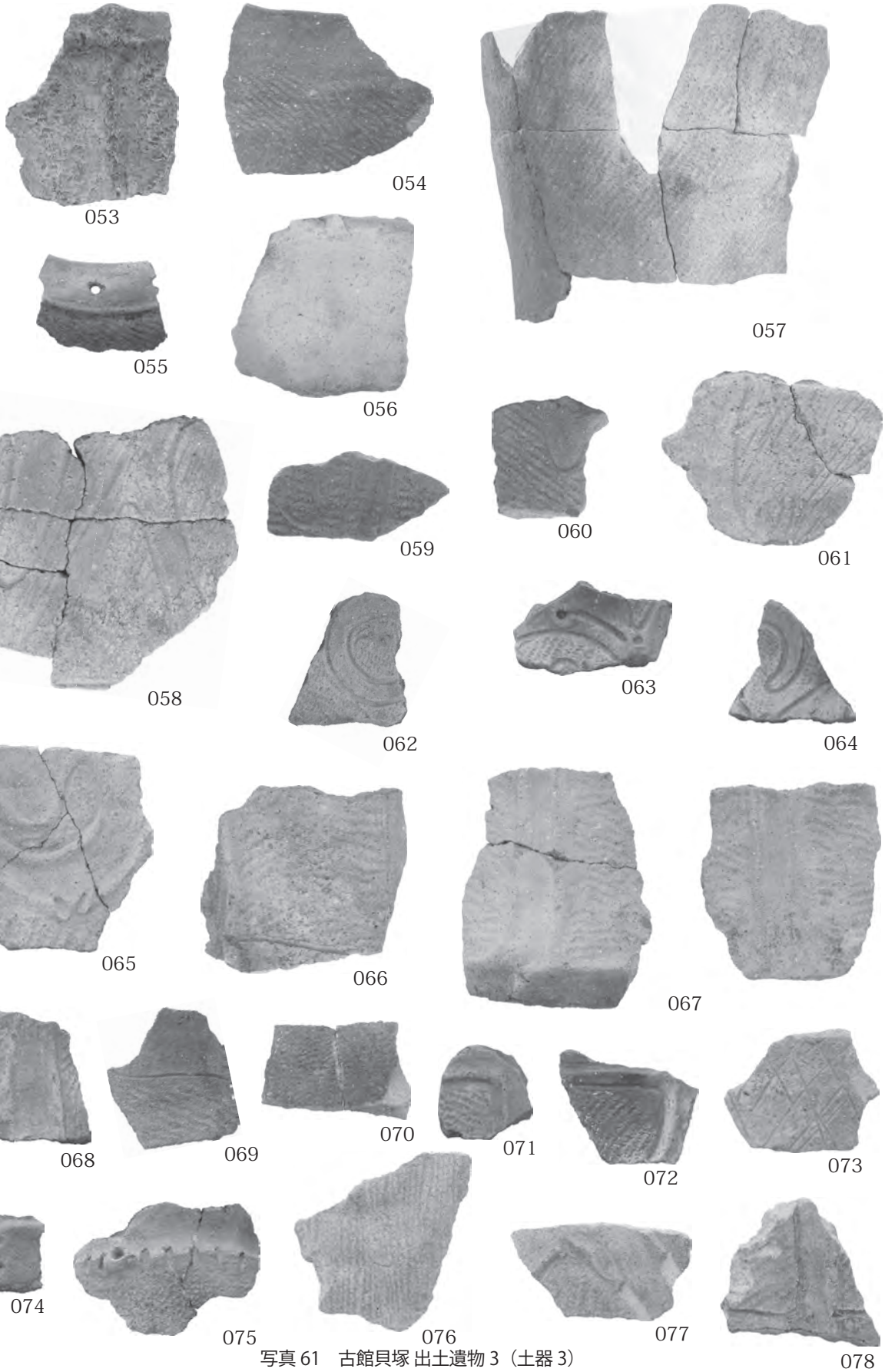
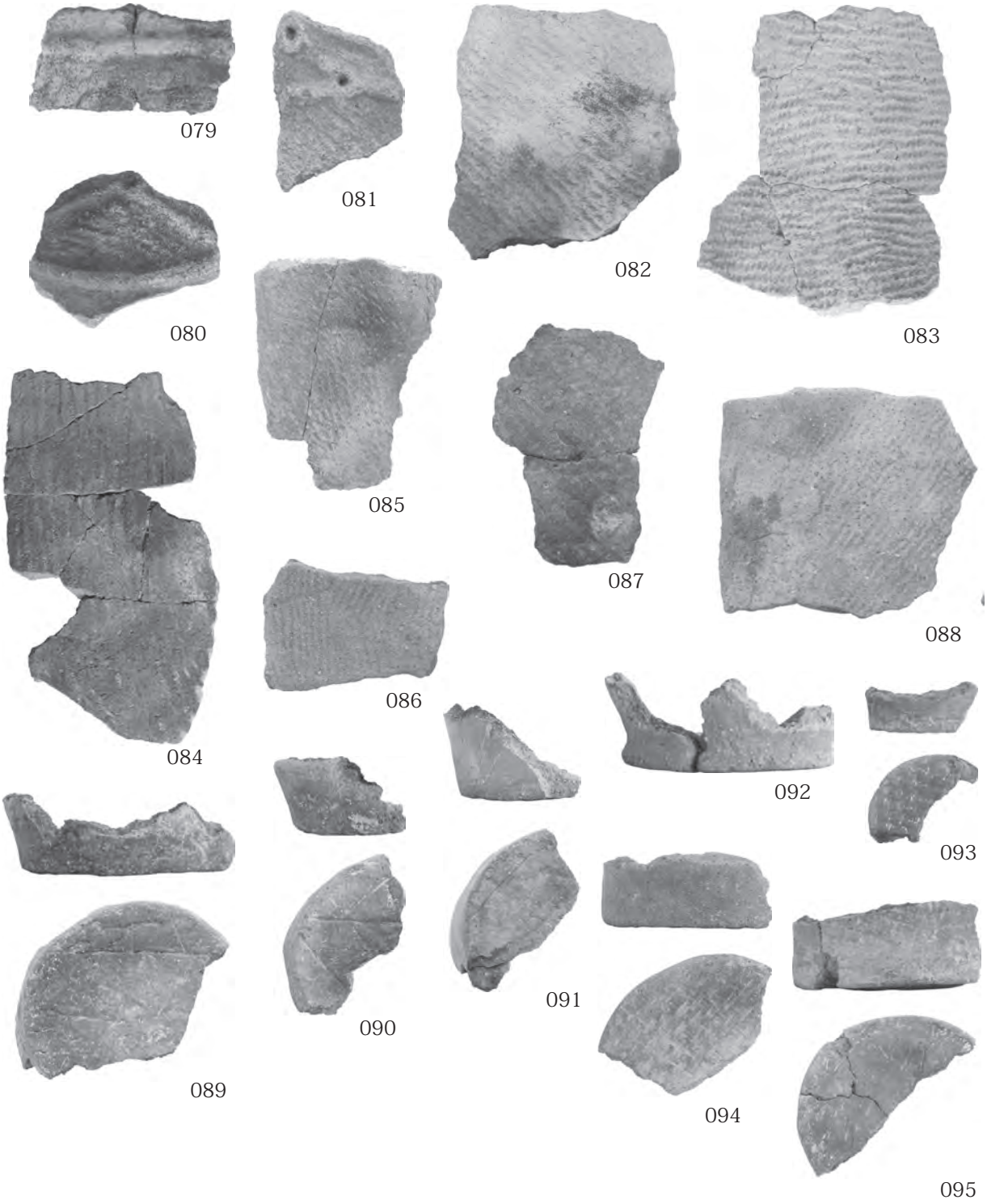


写真 61　古館貝塚 出土遺物 3（土器 3）



〔土製品〕

写真 62　古館貝塚 出土遺物 4（土器 4・土製品 1）

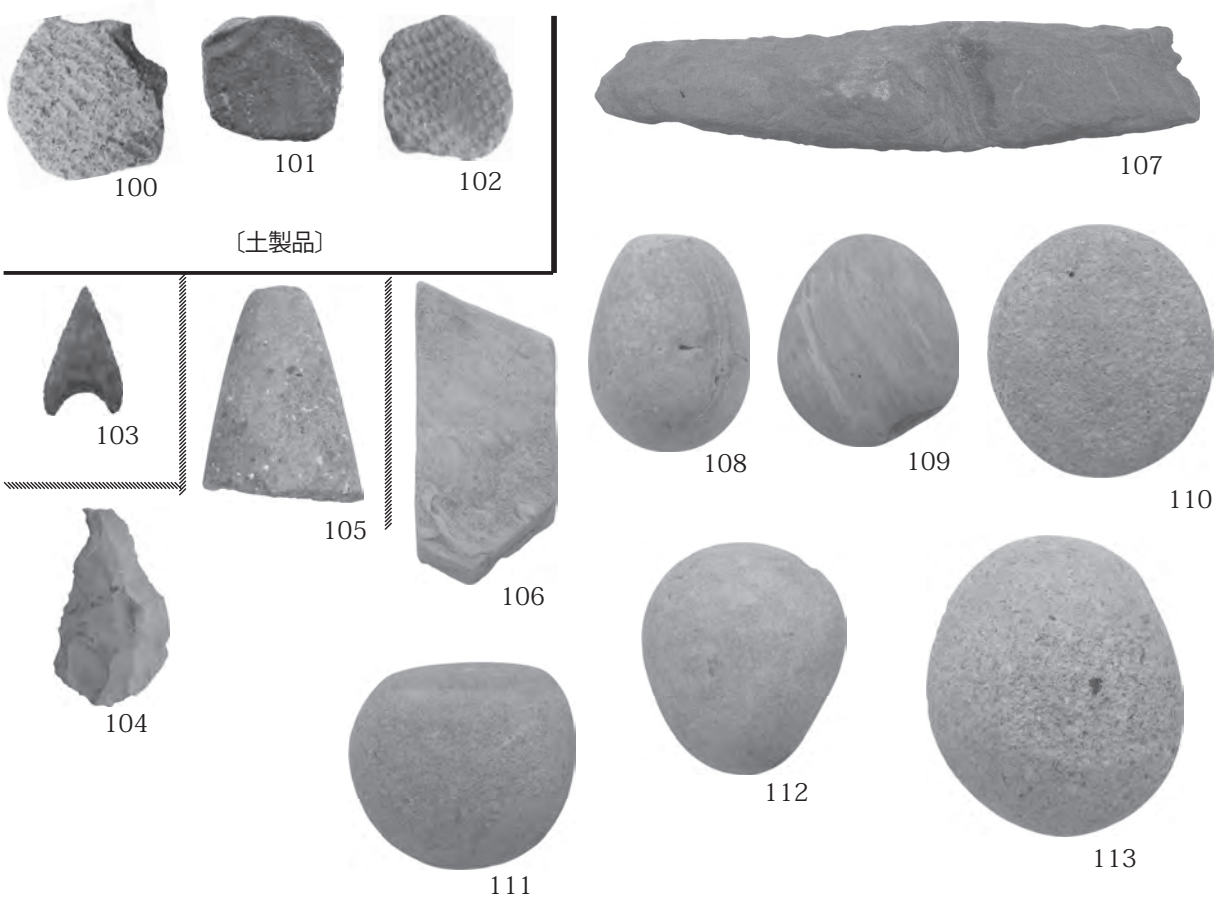


写真 63　古館貝塚 出土遺物 5（土製品２・石器）

４．まとめ

当該地は、平成 24 年度に調査を実施した地点とおおよそ 70 mほどの距離にあたる。平成 24 年度の調査においては、土坑４基が検出されている。遺物包含層は検出されていないが、土坑の堆積土から中期中葉～後期前葉（大木 8b 式～南境式）の土器が出土したことが報告されている（註 1）。今回の調査においては、遺構は検出されなかったが、ほぼ全面に遺物を多量含む堆積層が確認された。しかし、層ごとに時期のまとまりがみられず、包含層由来の二次堆積層であると判断した。また、遺物の帰属時期は、平成 24 年度調査とほぼ同様で、中期中葉～後期初頭（大木９式～門前式）の土器が中心であった。

（註１）気仙沼市教育委員会（2017）『気仙沼市文化財調査報告書 10　気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書１』気仙沼市教育委員会

第３節　高谷遺跡

１．調査に至る経緯

平成 27 年３月９日、農地整備事業予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、松崎高谷地内における「農地整備計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である高谷遺跡（遺跡番号 59109）に該当しており（第 40 図）、また、平成 25 年に隣接地で縄文時代の遺物包含層が検出されていることから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 13 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 3185 号）。

つづいて、同年３月 19 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 27 日付けで県教委から通知が出された（文第 3302 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年９月３日および４日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

高谷遺跡は、市内松崎高谷地内に所在する。国道 45 号気仙沼バイパス西側の丘陵先端部南斜面に立地する縄文時代中期から後期にかけての遺跡である。

第 40 図　高谷遺跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

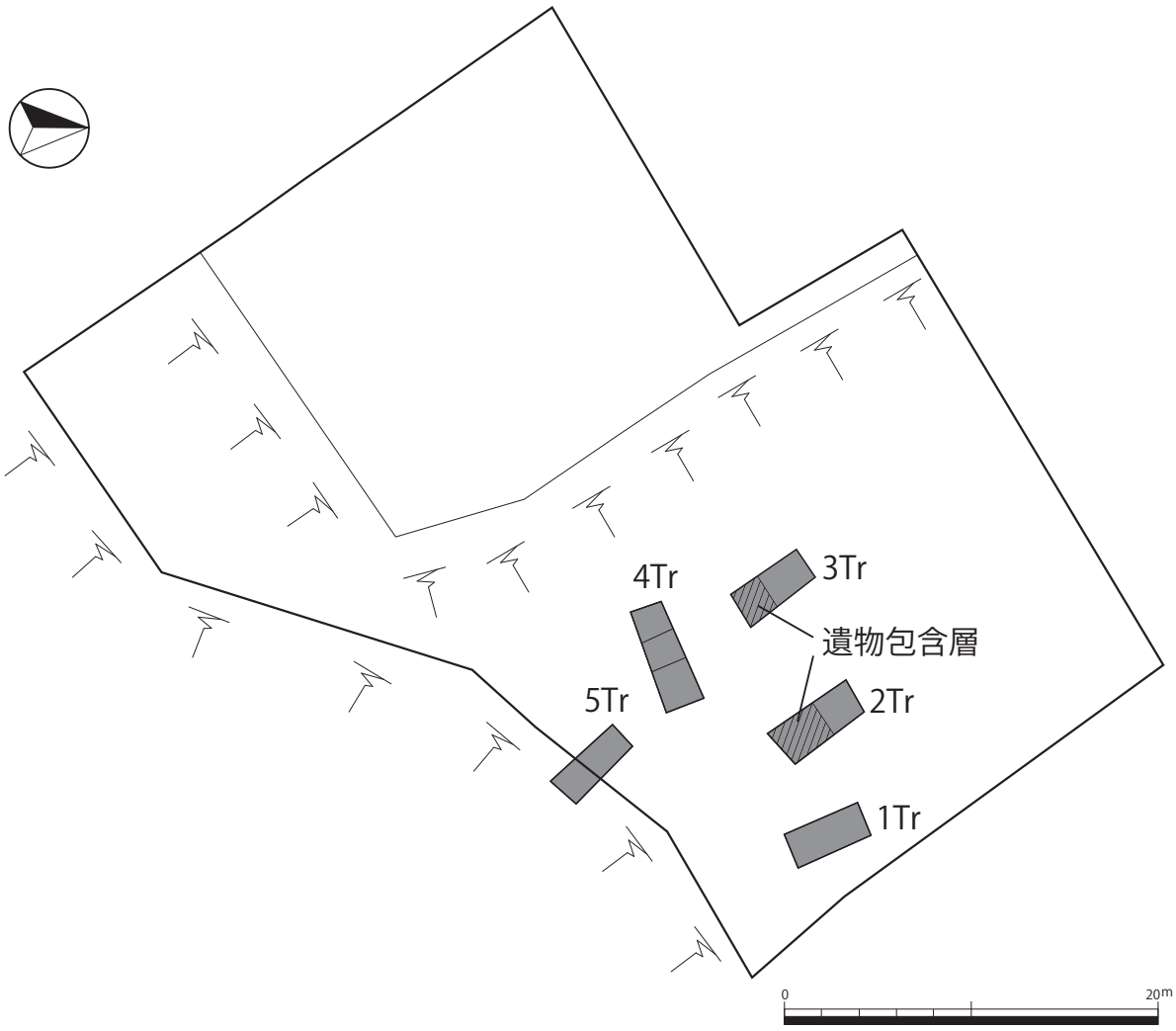
本遺跡周辺には、250 m北西の辺りに縄文時代の貝塚とされる高谷貝塚が知られているが、ほかは北東 600 mの辺りに中世の城館跡である小屋館城跡が知られている程度で、遺跡がやや希薄な地域である。

本遺跡における調査は、平成 20 年度、24 年度、25 年度に実施した個人住宅建築、宅地造成、取付道路工事などに伴い、10 地点で行った。その結果、フラスコ状土坑群や遺物が多量検出されている。今回の調査地点は、平成 25 年度に個人住宅の建設に伴って発掘調査を実施した地点の東側隣接地にあたり、東側の沢地に向かって傾斜がみられる。平成 25 年度調査地点においては、沢より西側の傾斜地などから、縄文土器を含む遺物包含層が確認された。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、高谷遺跡の南端近くに位置しており（第 40 図）、対象面積は約 1,495.0㎡を測る。調査は、対象地内に５本のトレンチを設定し（第 41 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 46.0㎡を測る。

調査の結果、最も東側に設定した 1 トレンチは約 20cm の表土直下が礫混じりの地山であった



第 41 図　高谷遺跡 トレンチ設定図（S＝ 1/400）

ほかは、いずれのトレンチにおいても厚い盛土が確認された。盛土は、５トレンチでは 120cm にもおよぶものであった。３トレンチ・５トレンチでは 30 ～ 40cm の旧表土が確認され、その直下で遺物包含層が検出された。工事による影響が検出面まで及ばないため、遺物包含層の掘削は行わなかった。遺物は、遺物包含層検出面において縄文土器片が数点検出されたが、細片であったため、図示し得なかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

写真 64　高谷遺跡 １トレンチ全景（北から）

写真 65　高谷遺跡 ２トレンチ全景（南から）

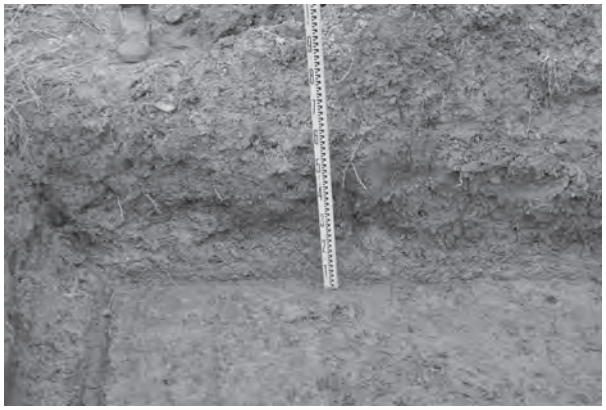


写真 66　高谷遺跡 ３トレンチ土層堆積状況（西から）

写真 67　高谷遺跡 ３トレンチ全景（南から）

写真 68　高谷遺跡 ４トレンチ全景（南から）

写真 69　高谷遺跡 ５トレンチ全景（東から）

４．まとめ

今回の調査地点は、平成 25 年度に調査を実施した地点の東側隣接地にあたる。平成 25 年度調査では、沢の西側斜面および沢底近くで遺物包含層が検出されている。当該調査では、２トレンチおよび３トレンチで隣接地から連続すると思われる遺物包含層が確認された。工事の掘削深度が遺跡に影響を及ぼさないため、遺物包含層の掘削は行わなかったが、遺物包含層上面でわずかに縄文土器が検出された。しかしながら、細片であったため、時期等詳細は不明である。

今後、周辺の調査成果を踏まえて、本遺跡の位置づけを検討する必要があろう。

第４節　前浜貝塚

１．調査に至る経緯

平成 22 年 10 月、気仙沼市（以下、「事業者」という。）から市道前浜中央線道路改良事業計画に伴う埋蔵文化財のかかわりについて、気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に照会があった。市教委は、計画予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である前浜貝塚（遺跡番号 62040）に該当している旨回答した。その回答を受け、10 月 28 日より事業者と市教委で協議を開始したが、平成 23 年３月 11 日に発生した東日本大震災により事業は中断された。

平成 26 年９月、計画変更に伴って再協議を開始し、９月５日、事業者から「市道前浜中央線道路改良事業計画に伴う埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予

第 42 図　前浜貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である前浜貝塚に該当している（第 42 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 10 月 17 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1876 号）。

つづいて、平成 27 年６月 17 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、７月３日付けで県教委から通知が出された（文第 968 号）。

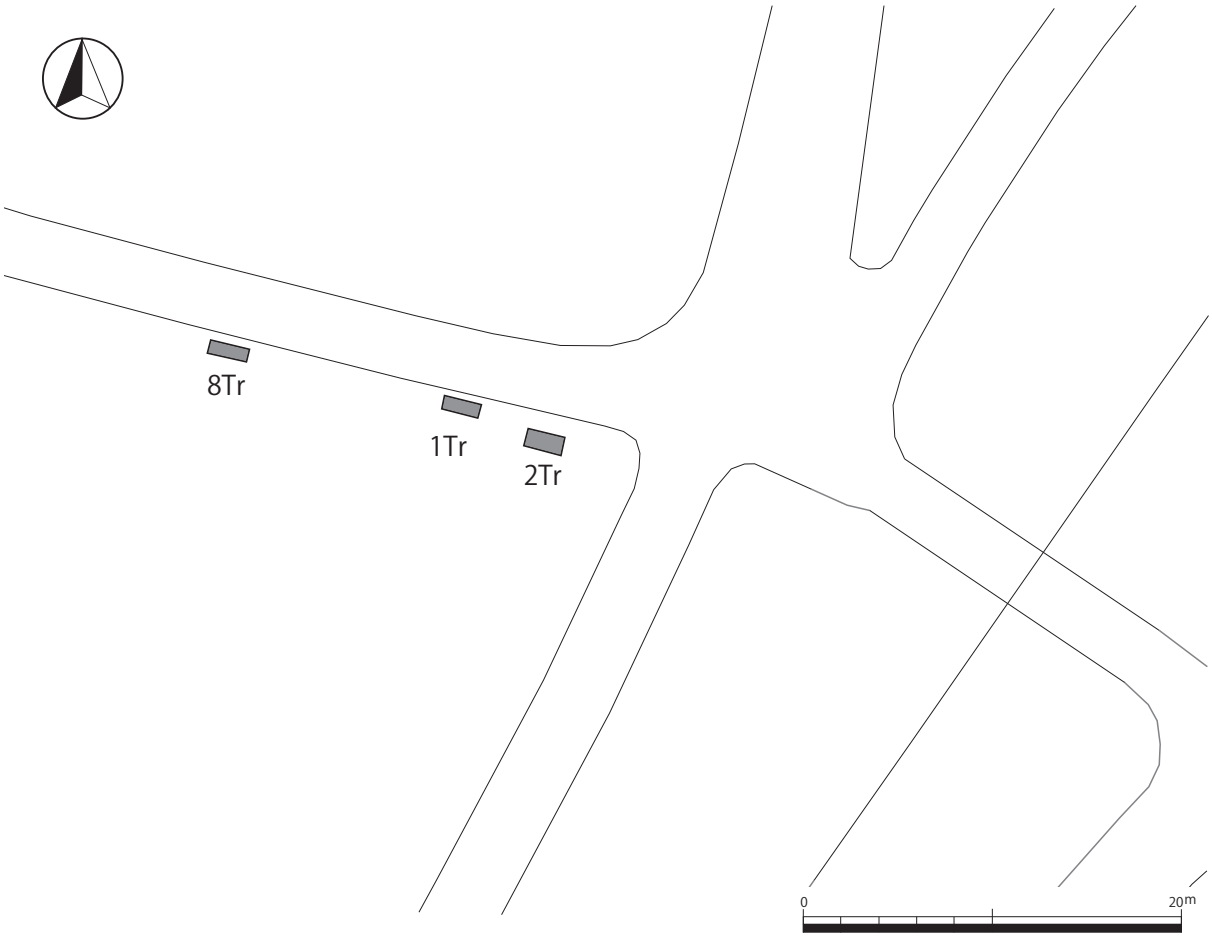
以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 27 年 10 月 13 日および 14 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

前浜貝塚は、市内本吉町前浜地内に所在する。前浜漁港から北西 300 mほど、標高 22 ～ 26 m を測る低い台地の南側緩斜面に立地する縄文時代後・晩期の貝塚である。

本遺跡周辺には、400 mほど南に平磯古館跡、300 mほど西に府中館跡といった、中世城館跡が知られているほかは遺跡が希薄である。

前浜貝塚は、昭和 53 年 10 月に本吉町教育委員会で分布調査を行った際に貝層や人骨などが発見された。このことにより、試掘調査を行った結果、貝層、土壙墓、甕棺墓などの遺構や縄文土器



第 43 図　前浜貝塚 トレンチ設定図（１）〔西側〕（S ＝ 1/400）

片、獣骨片、魚骨片が検出された（註１）。

なお、前浜貝塚は、昭和 55 年５月に町史跡（現、市史跡）として指定されている。

近年では、平成 23 年度、24 年度、26 年度にそれぞれ個人住宅や公共施設等建設に伴う確認調査を実施したが、いずれも遺構・遺物は検出されていない。

（註１）宮城県本吉町教育委員会（1979）『宮城県本吉郡本吉町文化財調査報告書第２集　前浜貝塚』宮城県本吉町教育委員会

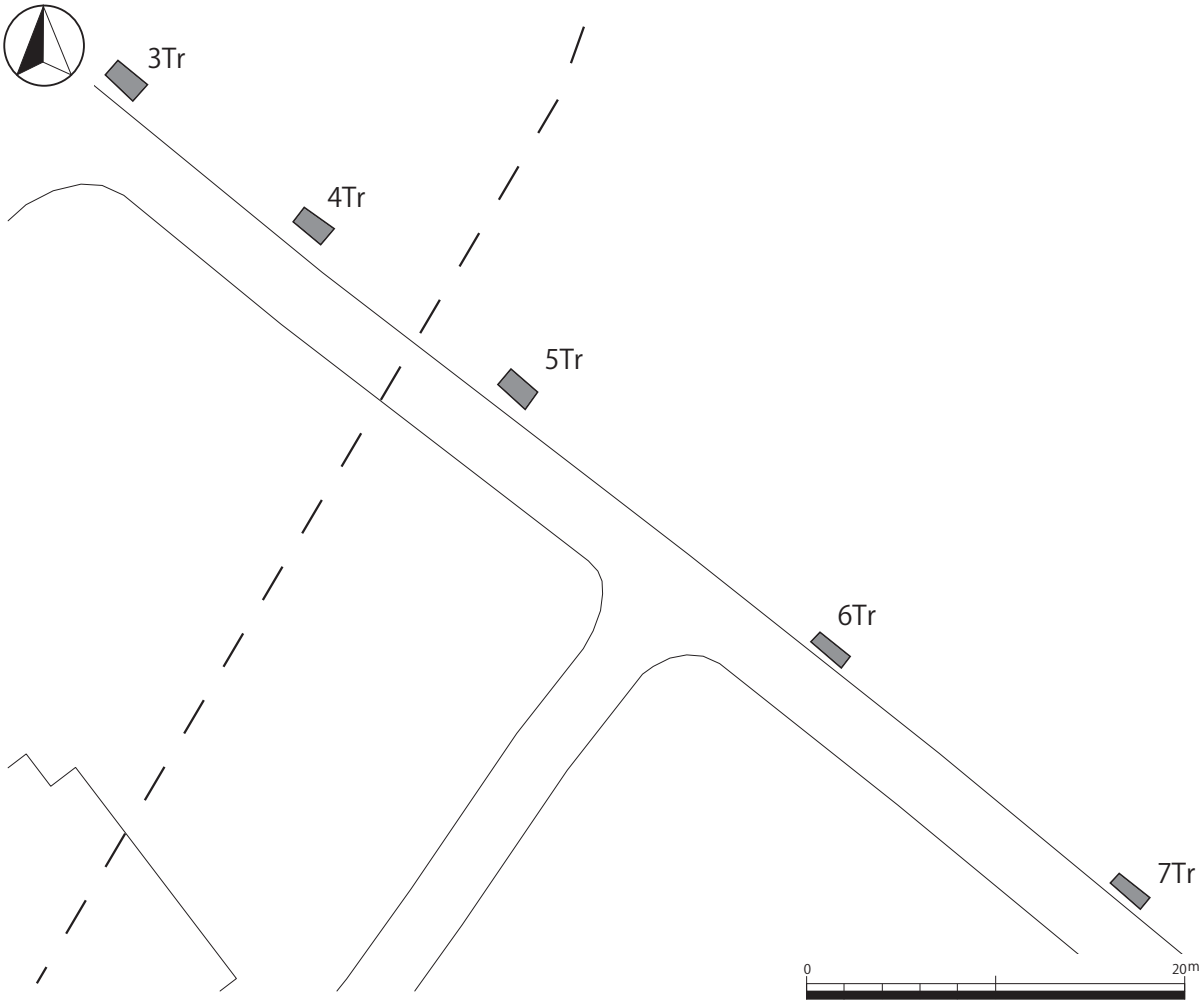
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、前浜貝塚のほぼ中央を東西に延びる市道で、対象面積は約 6,051.8㎡を測る。調査は、市道の南側に３本、北側に５本、計８本のトレンチを設定した（第 43・44 図）。市道を現道として使用しているため、掘削・精査はすべて人力で行った。調査面積は約 12.2㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても 10 ～ 40cm の表土および耕作土を掘削したところで地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。



第 44 図　前浜貝塚 トレンチ設定図（２）〔東側〕（S ＝ 1/400）

写真 70　前浜貝塚 1 トレンチ全景（東から）

写真 71　前浜貝塚 2 トレンチ全景（北から）

写真 72　前浜貝塚 3 トレンチ全景（南から）

写真 73　前浜貝塚 4 トレンチ全景（南から）

写真 74　前浜貝塚 5 トレンチ全景（西から）

写真 75　前浜貝塚 6 トレンチ全景（西から）

写真 76　前浜貝塚 7 トレンチ全景（西から）

写真 77　前浜貝塚 8 トレンチ全景（北東から）

4．まとめ

今回の調査地点は、前浜貝塚の中心近くの位置にあたるが、遺構・遺物は検出されなかった。今後、資料の増加を待って、前浜貝塚の範囲など、再検討が必要であろう。

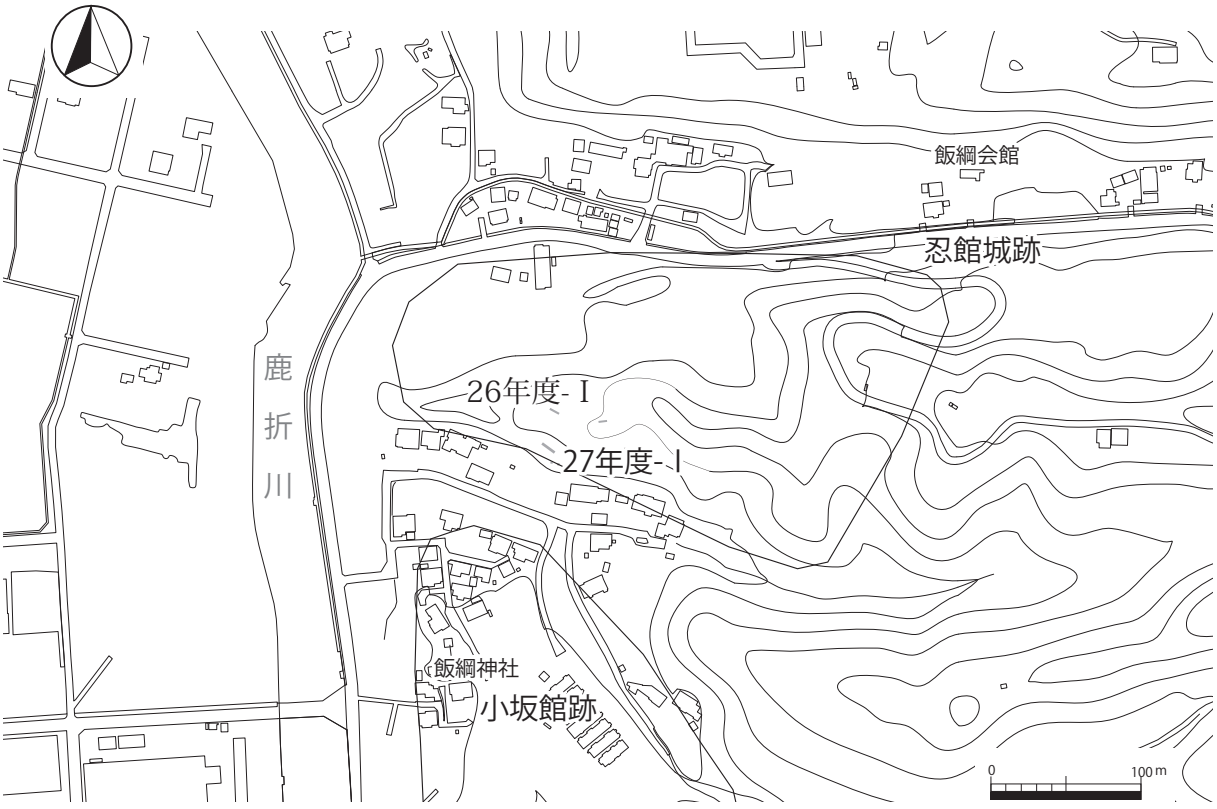
第 5 節　忍館城跡

1．調査に至る経緯

平成 27 年 10 月 23 日、株式会社ゆまじゅう（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、浪板地内ほかにおける「土砂採取計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。当該事業は、平成 26 年度からの継続事業であり、範囲拡張に伴うものである。今回拡張した事業範囲においても、周知の埋蔵文化財包蔵地である忍館城跡に該当していることから、市教委は、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 12 月 16 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2517 号）。

つづいて、同年 12 月 24 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、平成 28 年 1 月 8 日付けで県教委から通知が出された（文第 2704 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 1 月 27 日および 28 日に確認調査を実施することとなった。



第 45 図　忍館城跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

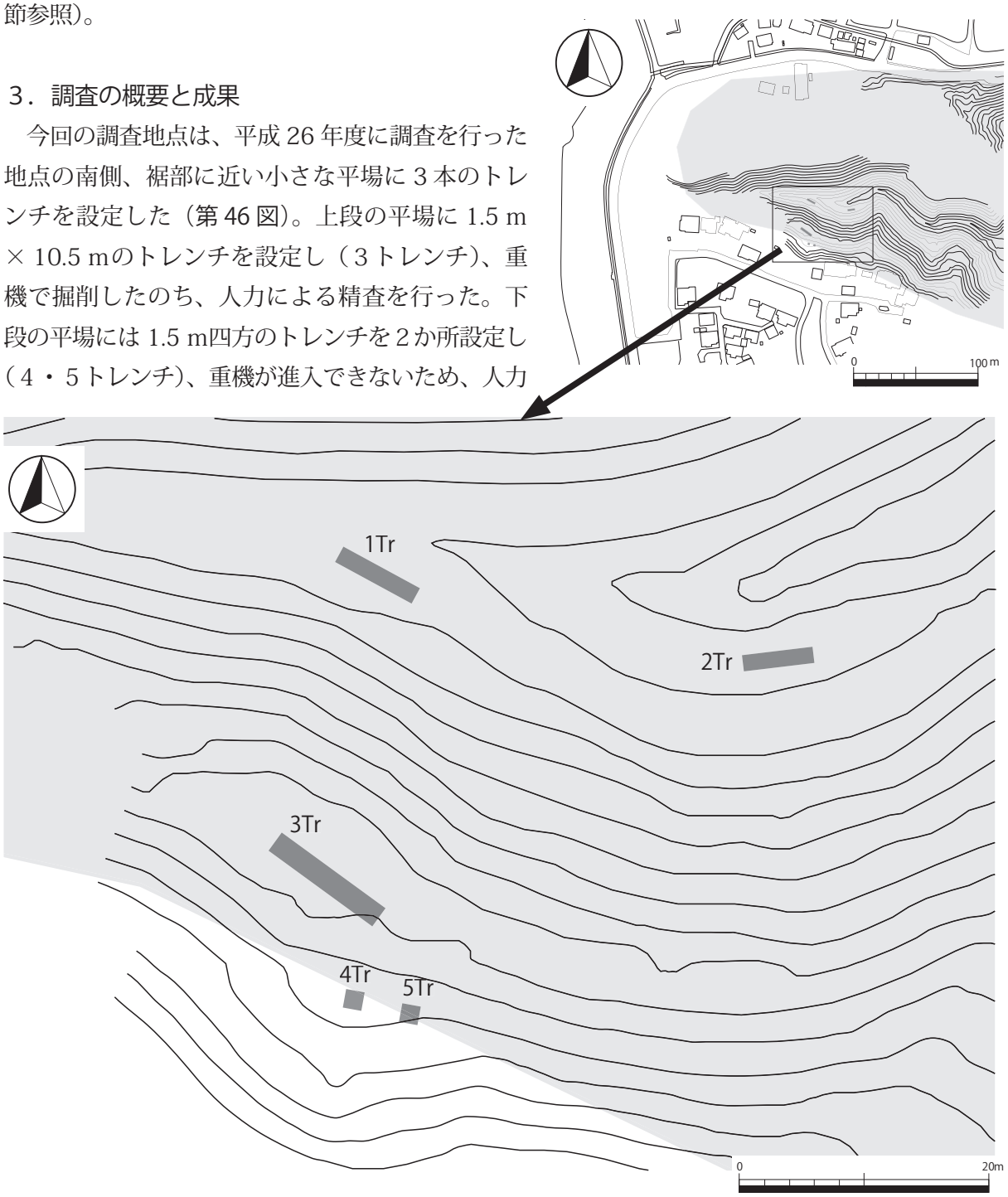
２．遺跡の概要

忍館城跡は、市内浪板地内に所在する。鹿折川河口近くの左岸、気仙沼湾の基部の丘陵上に立地する中世の城館跡である。

本遺跡周辺には、おおよそ 200 m南に小坂館跡、鹿折川を挟んだ対岸に刈米館跡、陣山館跡などの城館跡が知られている。平成 26 年度に確認調査を実施した結果、忍館城跡に伴う遺構・遺物は確認されなかったものの、江戸時代の遺物 (（磁器および銭貨）が検出されている（第２章第６節参照)。

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、平成 26 年度に調査を行った地点の南側、裾部に近い小さな平場に３本のトレンチを設定した（第 46 図)。上段の平場に 1.5 m × 10.5 mのトレンチを設定し（３トレンチ)、重機で掘削したのち、人力による精査を行った。下段の平場には 1.5 m四方のトレンチを２か所設定し（４・５トレンチ)、重機が進入できないため、人力



第 46 図　忍館城跡 トレンチ設定図（S = 1/500）

写真 78　忍館城跡 ３トレンチ土層堆積状況（南から）

写真 79　忍館城跡 ３トレンチ全景（東から）

写真 80　忍館城跡 ４トレンチ全景（北から）

写真 81　忍館城跡 ５トレンチ全景（北から）

で掘削および精査を行った。

調査の結果、上段平場に設定した３トレンチは、約 80cm の表土および約 20cm の旧表土を掘削したところで礫混じりの地山を確認した。下段の４・５トレンチは、表土が 20 ～ 30cm、旧表土が 70 ～ 90cm で、礫混じりの地山を確認した。

いずれのトレンチにおいても遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。また、トレンチ番号は、平成 26 年度と同一事業であるため、平成 26 年度に続けて付し、３～５とした。

４．まとめ

忍館城は、現在土砂採取場となっており、城跡の痕跡はほとんどみられない。今回の調査においても、平成 26 年度の調査同様、忍館城跡に伴う遺構・遺物を確認することはできなかった。

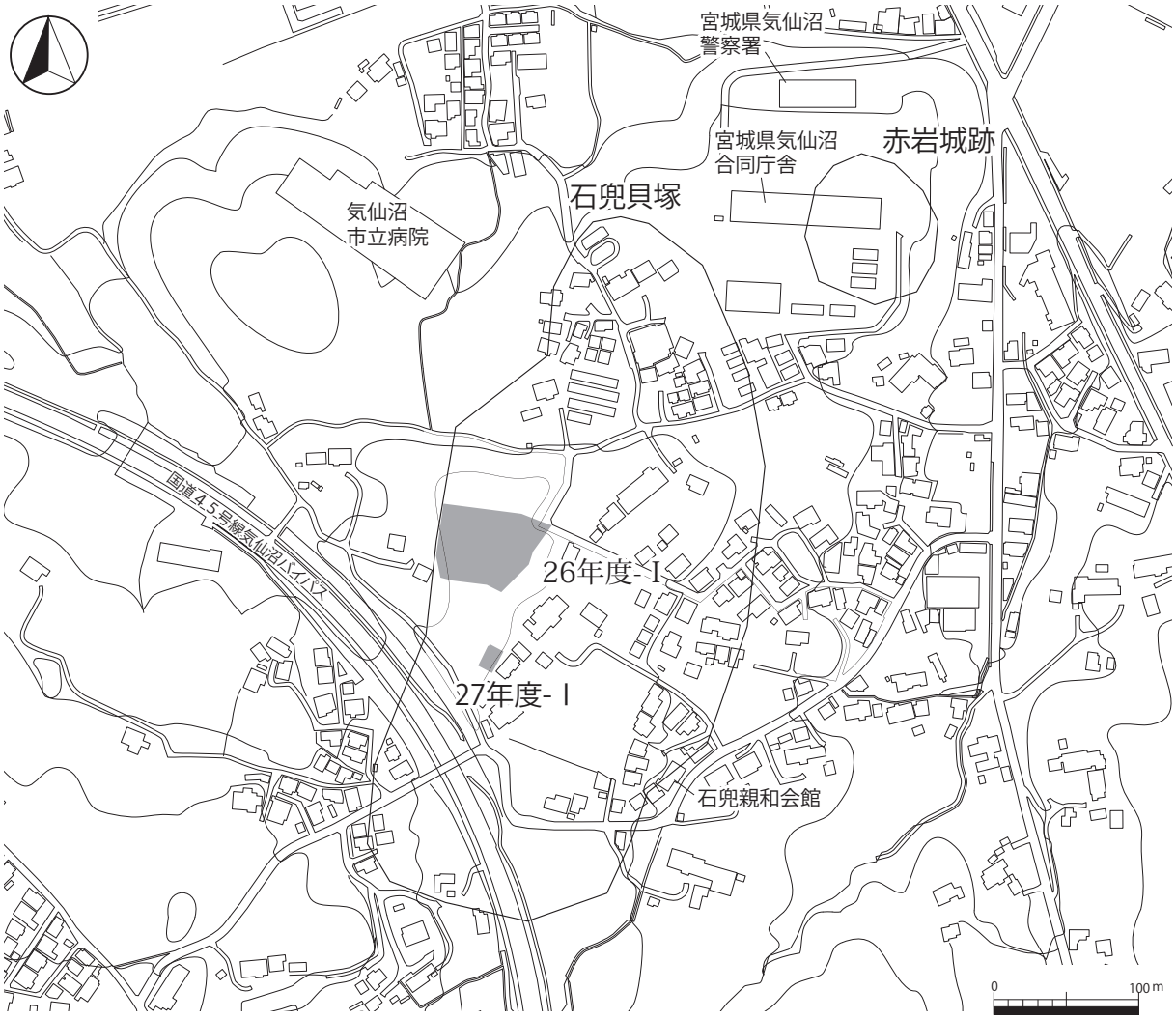
第６節　石兜貝塚

１．調査に至る経緯

平成 27 年 12 月 24 日、株式会社ＮＴＴドコモ（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩石兜地内における「携帯電話無線基地局計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 47 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、平成 28 年 1 月 20 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2749 号）。

つづいて、同年 1 月 22 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 29 日付けで県教委から通知が出された（文第 2894 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 2 月 17 日に確認調査を実施することとなった。



第 47 図　石兜貝塚 調査地点位置図（Ｓ＝ 1/5,000）

２．遺跡の概要

石兜貝塚は、市内赤岩石兜地内に所在する。国道 45 号気仙沼パイパス東側の丘陵に立地する古代・中世の貝塚である。

本遺跡周辺には、おおよそ 100 ｍ東に、縄文時代の散布地である赤岩遺跡が知られている。

石兜貝塚における調査は、気仙沼バイパス工事に伴う調査で江戸時代の遺構・遺物が検出されている（第２章第 10 節参照）。

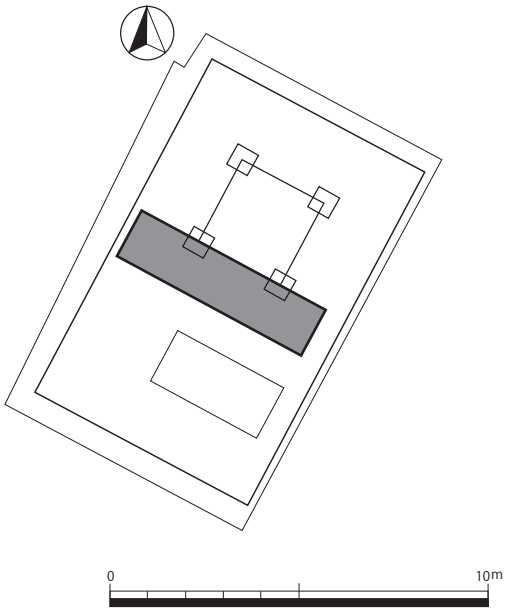
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、石兜貝塚の中央やや南西に位置し、対象面積は約 322.4㎡を測る。調査は、鉄塔基礎掘削部付近に幅２ｍ、長さ９ｍのトレンチを設定し（第 48 図）、重機で掘削したのち、人力で精査を行った。調査面積は約 18.0㎡を測る。

調査の結果、約 20cm の表土および約 10cm の旧表土直下は礫混じりの地山であり、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。



第 48 図　石兜貝塚 トレンチ設定図（Ｓ＝ 1/200）

４．まとめ

石兜貝塚は、古代から中世にかけての貝塚とされている。昭和 59 年に実施した気仙沼パイパス工事に伴う発掘調査で江戸時代の遺構・遺物のほか、須恵器が検出されているが、貝塚の実態は不明である。また、平成 24 年度に３地点、平成 26 年度に１地点の確認調査を実施しているが、これまでに明らかに該期のものといえる遺構・遺物は検出されていない。

第４章　平成 28 年度の調査

第１節　石兜貝塚

１．調査に至る経緯

（１）第１次調査

平成 27 年７月 16 日、共同住宅新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩杉ノ沢地内における「共同住宅新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、８月 14 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1327 号）。

つづいて，同年８月 14 日、事業者から埋蔵文化財発掘の通知が提出され、同 26 日付けで県教委から通知が出された（文第 1440 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年４月 20 日から 22 日に確認調査を実施することとなった。

（２）第２次調査

平成 28 年１月 21 日、共同住宅新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩杉ノ沢地内における「共同住宅新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 29 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2892 号）。

つづいて、同年２月３日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 10 日付けで県教委から通知が出された（文第 3000 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年４月 20 日から 22 日に確認調査を実施することとなった。

（３）第４次調査

平成 28 年６月８日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩杉ノ沢地内における「個人住宅建築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同 24 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 864 号）。

つづいて、同年７月 19 日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 29 日付けで県教委から通知が出された（文第 1218 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 11 月 15 日に確認調査を

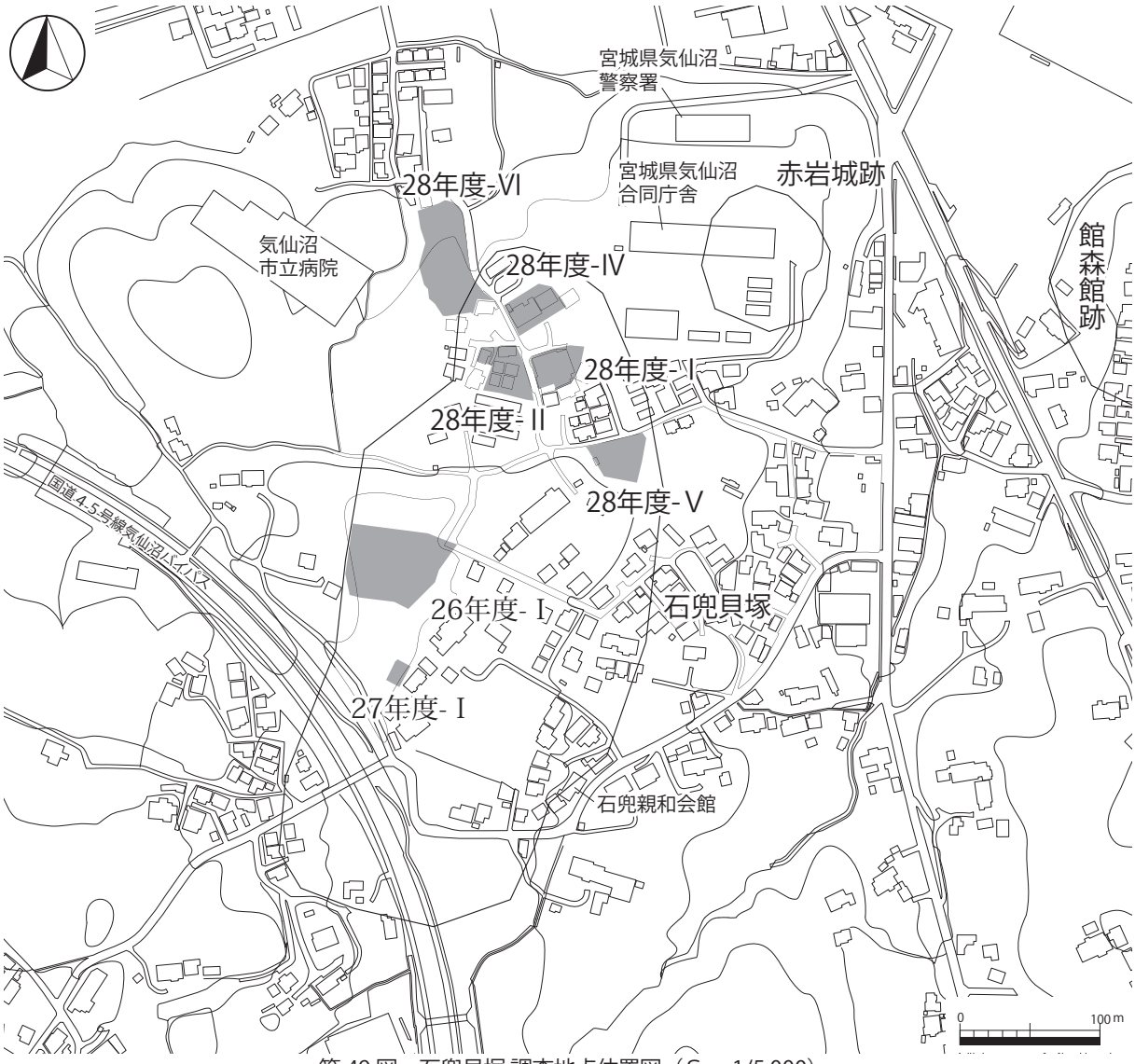
実施することとなった。

（4）第 5 次調査

平成 28 年 9 月 27 日、長屋新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩石兜地内における「長屋新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、同年 10 月 5 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1823 号）。

つづいて、同年 10 月 18 日、事業者から、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、11 月 9 日付けで県教委から通知が出された（文第 2052 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 11 月 16 日に確認調査を実施することとなった。



第 49 図　石兜貝塚 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

（５）第６次調査

平成 28 年 12 月 27 日､駐車場建設予定者（以下､「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩杉ノ沢地内における「駐車場建設工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である石兜貝塚（遺跡番号 59091）に該当している（第 49 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、平成 29 年１月６日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2563 号）。

つづいて，平成 29 年１月 10 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 13 日付けで県教委から通知が出された（文第 2583 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 29 年１月 16 日および 17 日に確認調査を実施することとなった。

２．遺跡の概要

石兜貝塚は、市内赤岩杉ノ沢および赤岩石兜地内に所在する。国道 45 号バイパス東側の丘陵に立地する古代・中世の貝塚である。

昭和 59 年４月から９月にかけて、宮城県教育委員会により気仙沼バイパス工事に伴う発掘調査が行われた。その結果、２か所の貝層が確認されたが､いずれも範囲が狭く､層も薄いものであった。これらの貝層は、江戸時代末から明治時代の所産であると報告されている（第２章第 10 節参照）。

なお、時代が新しいと推察できる貝層は、平成 24 年に実施した、市立病院建設に伴う確認調査においても検出されている。

石兜貝塚が所在する赤岩杉ノ沢、赤岩石兜は、近年、宅地化が進んでいる地域である。それに伴って、調査件数も増加しており、平成 24 年度３地点、平成 26 年度１地点、平成 27 年度１地点、平成 28 年度６地点で確認調査を実施している。しかし、いずれの地点においても遺構・遺物は検出されていない。

３．調査の概要と成果

（１）第１・２次調査

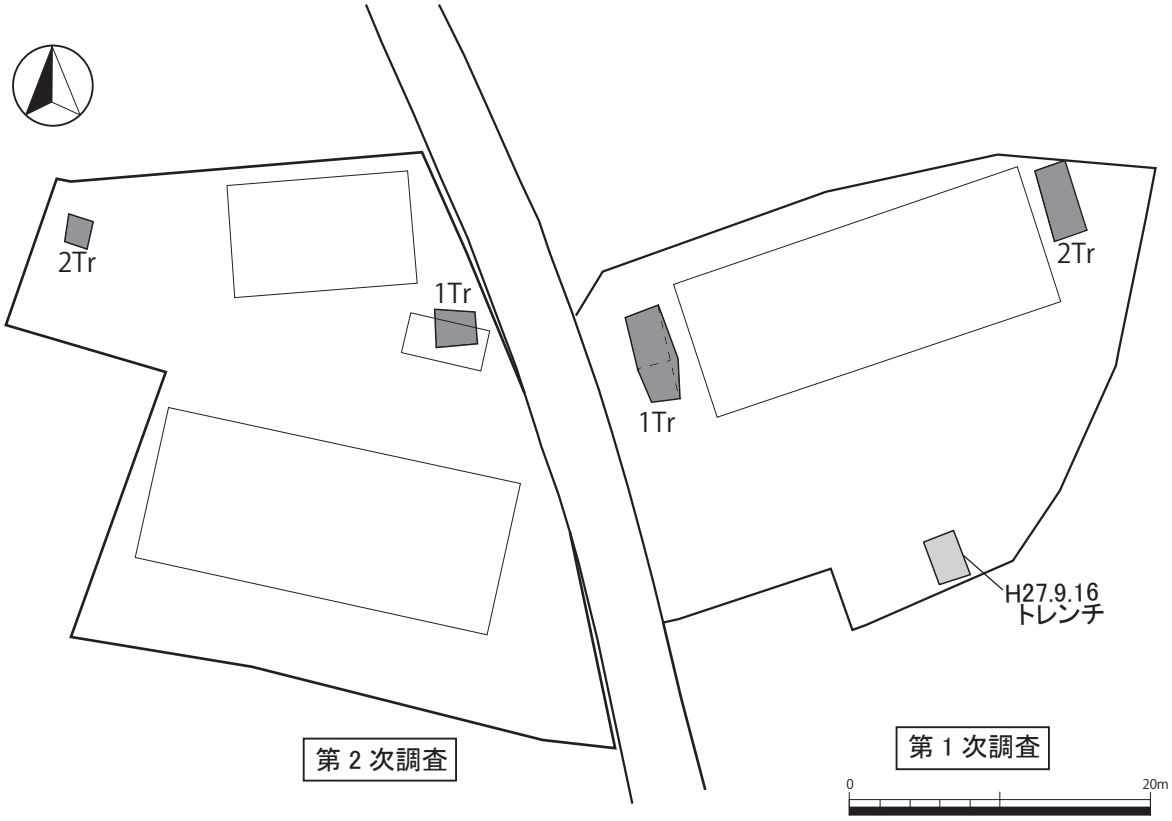
第１次および第２次調査地点は、遺跡の北側に位置する。両地点が市道を挟んで隣接していることから、同時期に調査を実施した。

第１次調査は、対象地内（面積約 985.0㎡）に２本のトレンチを設定し（第 50 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 41.0㎡を測る。

調査の結果、１トレンチで約 1.60 m、２トレンチで約 0.75 mの盛土の堆積がみられ、盛土直下で礫混じりの地山を確認した。遺構・遺物は検出されなかった。

第２次調査は、対象地内（面積約 1,008.0㎡）に２本のトレンチを設定し（第 50 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 11.0㎡を測る。

調査の結果、１トレンチで約 1.65 m、２トレンチで約 0.95 m掘削したが、全面盛土で、地山



第 50 図　石兜貝塚（28 年度第 1 ・ 2 次調査）トレンチ設定図（S = 1/500）

写真 82　石兜貝塚 28 － I　1 トレンチ全景（南から）

写真 83　石兜貝塚 28 － I　2 トレンチ全景（南から）

写真 84　石兜貝塚 28 － II　1 トレンチ全景（南から）

写真 85　石兜貝塚 28 － II　2 トレンチ全景（南から）

を確認できなかったが、涌水が著しく、建築設計深度を超えたため、掘削は終了とした。遺構・遺物は検出されなかった。

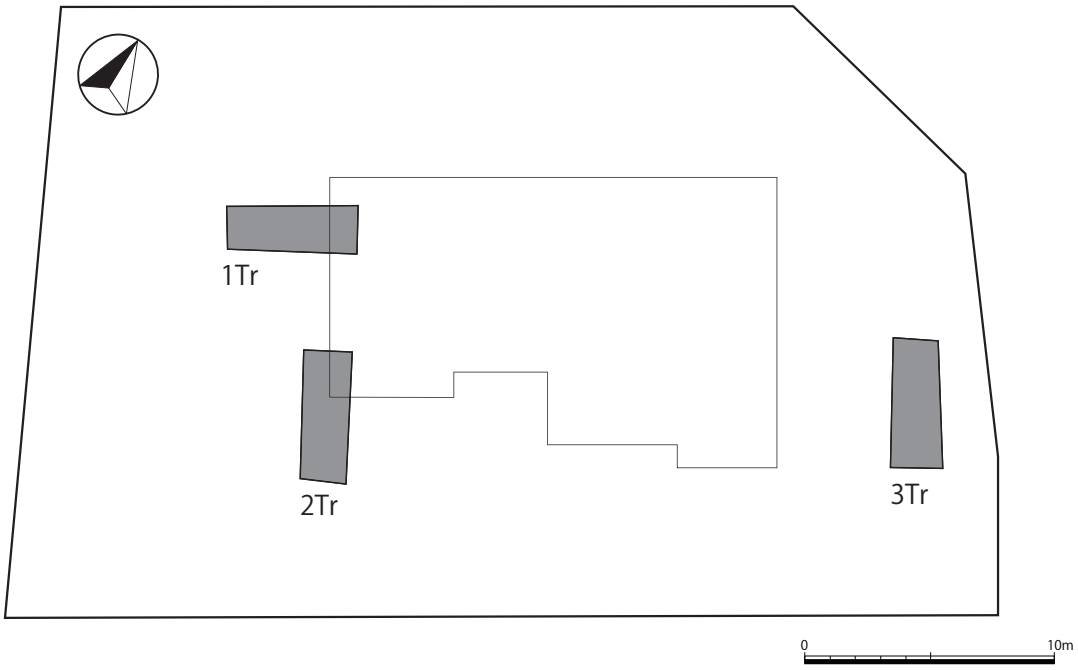
両調査地点とも、各トレンチの図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

（2）第４次調査

第４次調査地点は、遺跡の北端近くに位置し、対象面積は約 810.3㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを３本設定し（第 51 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 29.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても厚い盛土が堆積しており、１トレンチで約 1.8 m、２トレンチで約 0.9 m、３トレンチで約 0.7 mを測る。盛土直下で地山を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。



第 51 図　石兜貝塚（28 年度第４次調査）トレンチ設定図（S = 1/300）

写真 86　石兜貝塚 28 －Ⅳ 1 トレンチ全景（南から）

写真 87　石兜貝塚 28 －Ⅳ 2 トレンチ全景（北西から）

トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

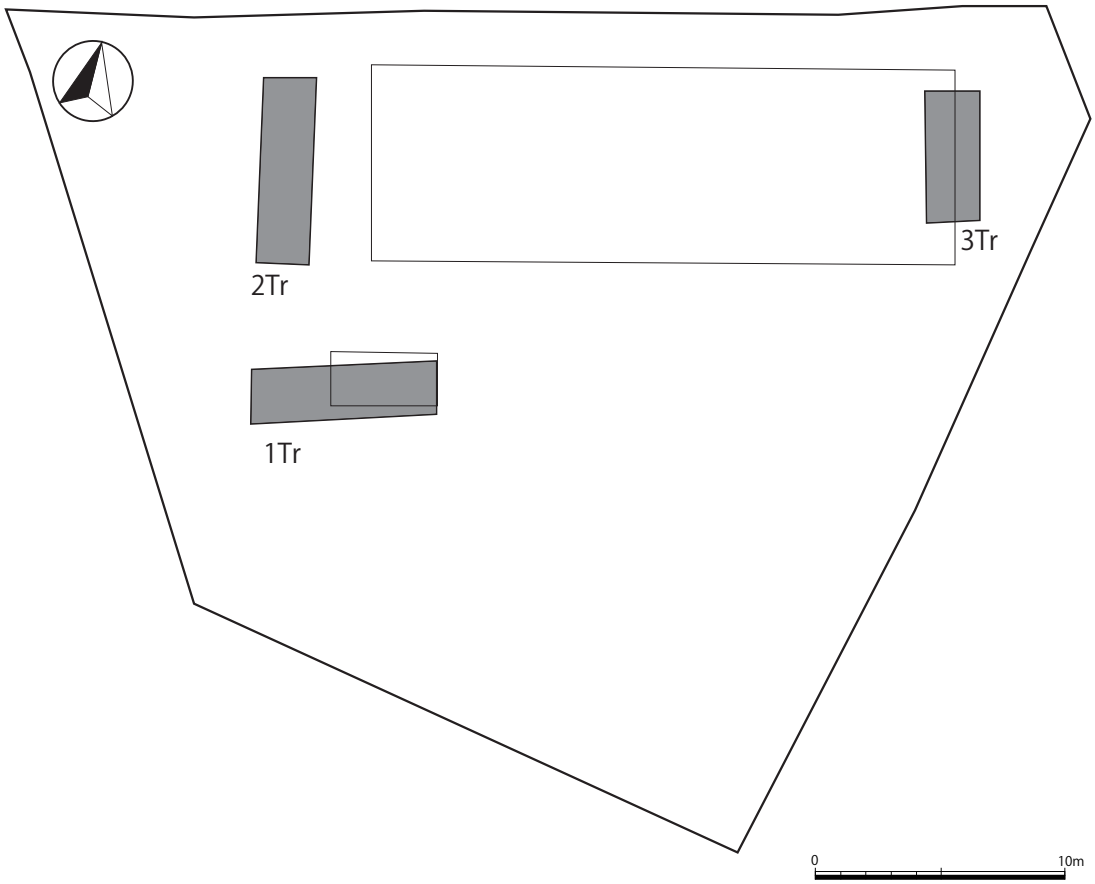
なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

（3）第 5 次調査

第 5 次調査地点は、遺跡の北東端近くに位置し、対象面積は約 846.0㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを 3 本設定し（第 52 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面

写真 88　石兜貝塚 28 －Ⅳ 3 トレンチ土層堆積状況（南から）

写真 89　石兜貝塚 28 －Ⅳ 3 トレンチ全景（南東から）



第 52 図　石兜貝塚（28 年度第 5 次調査）トレンチ設定図（S ＝ 1/300）

積は約 38.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても約 0.6 mほどの盛土が堆積しており、遺構・遺物は検出されなかった。なお、３トレンチにおいては涌水のため、地山を確認することができなかった。

トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

（４）第６次調査

第６次調査地点は、遺跡の北西端に位置し、対象面積は約 2,567.0㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを６本設定し（第 53 図）、重機で掘削したのち、人力により精査を行った。調査面積は約 62.9㎡を測る。

調査の結果、各トレンチは、0.10 ～ 0.25 m掘削したところで地山が確認できた。１～５トレンチは表土直下が漸移層、６トレンチは表土直下で旧表土が確認されたが、遺構・遺物は検出されなかった。

各トレンチは、図化、写真撮影を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

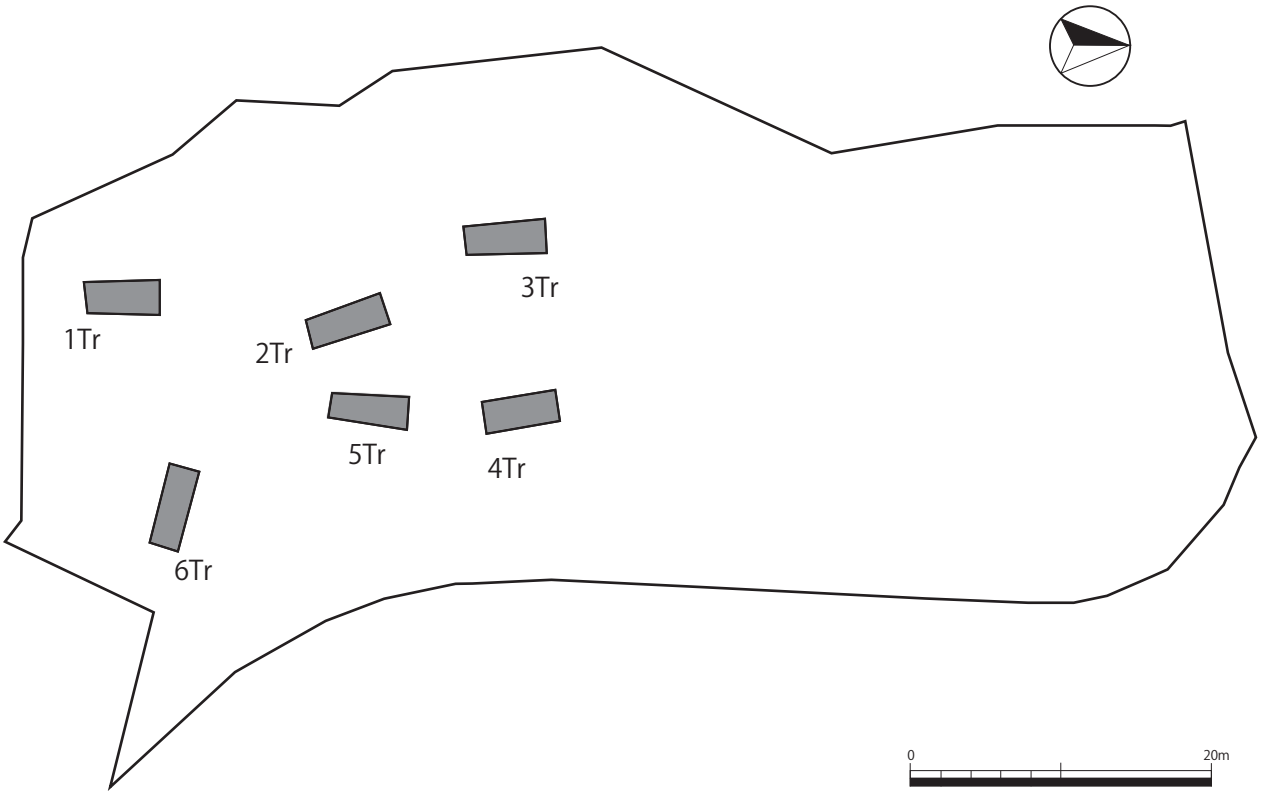
なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

写真 90　石兜貝塚 28 －Ⅴ １トレンチ全景（東から）

写真 91　石兜貝塚 28 －Ⅴ ２トレンチ全景（南から）

写真 92　石兜貝塚 28 －Ⅴ ３トレンチ土層堆積状況（西から）

写真 93　石兜貝塚 28 －Ⅴ ３トレンチ全景（南から）



第 53 図　石兜貝塚（28 年度第６次調査）トレンチ設定図（S ＝ 1/500）

写真 94　石兜貝塚 28 －Ⅵ 1 トレンチ全景（北から）

写真 95　石兜貝塚 28 －Ⅵ 2 トレンチ全景（南から）

写真 96　石兜貝塚 28 －Ⅵ 3 トレンチ全景（南から）

写真 97　石兜貝塚 28 －Ⅵ 4 トレンチ全景（南から）

写真 98　石兜貝塚 28 －Ⅵ 5 トレンチ全景（南から）

写真 99　石兜貝塚 28 －Ⅵ 6 トレンチ全景（西から）

４．まとめ

平成 28 年度は、6 地点で調査を実施した。そのうち、5 地点が国庫補助対象事業であったために、ここに報告する。

今年度調査を実施した地点は、すべて遺跡の北半に位置している。調査の結果、第 6 次調査地点を除いては、厚い盛土の堆積がみられたことから、包蔵地の北側は既に大規模な土地造成が行われていることがうかがわれる。また、いずれの地点においても遺構・遺物が検出されなかった。近年の調査においても遺構・遺物が検出された地点はなく、包蔵地の北側は既に遺跡が遺存していないか、あるいは遺存していた場合であっても、極めて狭い範囲であると推察できる。今後、これまでの調査地点の調査結果を考慮して、遺跡の範囲を含めた再検討が必要であろう。

第２節　松岩貝塚

１．調査に至る経緯

平成 28 年 6 月 24 日、アパート新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、赤岩老松地内における「アパート新築工事計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である松岩貝塚（遺跡番号 59002）に該当している（第 54 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、7 月 20 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1166 号）。

つづいて、同年 7 月 21 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、同 29 日付けで県教委から通知が出された（文第 1231 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 8 月 8 日に確認調査を実施することとなった。

2．遺跡の概要

松岩貝塚は、市内赤岩老の松地内に所在する。大川右岸の丘陵上に立地する縄文時代後・晩期の貝塚とされている。

本遺跡周辺には、おおよそ 300 m南に縄文時代後期の老の松遺跡、東 200 mに館森館跡が知られている。これまで、松岩貝塚の調査を行っていないため、貝塚の詳細も不明である。

3．調査の概要と成果

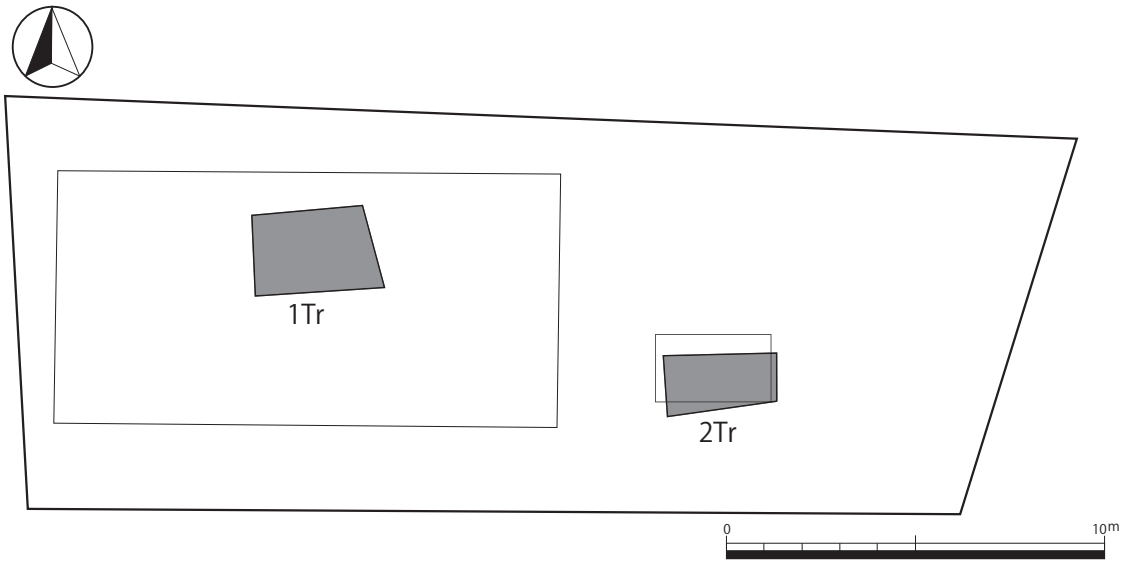
今回の調査地点は、松岩貝塚の北東端近くに位置し、対象面積は約 316.0㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを２本設定し（第 55 図）、重機で掘削したのち、人力で精査を行った。調査面積は約 10.0㎡を測る。

調査の結果、１トレンチでは 0.98 m、２トレンチでは 0.66 mの盛土の堆積が確認されたが、涌水が著しく、地山を確認することはできなかった。遺構・遺物は検出されなかった。

それぞれのトレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

第 54 図　松岩貝塚 調査地点位置図（Ｓ＝ 1/5,000）



第 55 図　松岩貝塚 トレンチ設定図（S = 1/200）

写真 100　松岩貝塚 1 トレンチ全景（東から）

写真 101　松岩貝塚 2 トレンチ全景（東から）

４．まとめ

松岩貝塚は、石器や縄文晩期の土器が発見されたと云われている（註1）が、これまで調査実績がなく、遺跡の詳細は不明である。周辺には、同じ縄文時代後期の遺跡とされている老の松遺跡も知られているが、老の松遺跡も調査実績がなく、不明である。今後、調査事例を待って、両者の関連も含めて検討することとしたい。

（註 1）鼎が浦高等学校社会班（1940）『気仙沼周辺遺跡の概要と大島磯草貝塚・大浦浦島貝塚調査報告』宮城県鼎が浦高等学校社会班

第３節　塚館跡

１．調査に至る経緯

平成 28 年 8 月 25 日、個人住宅新築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以

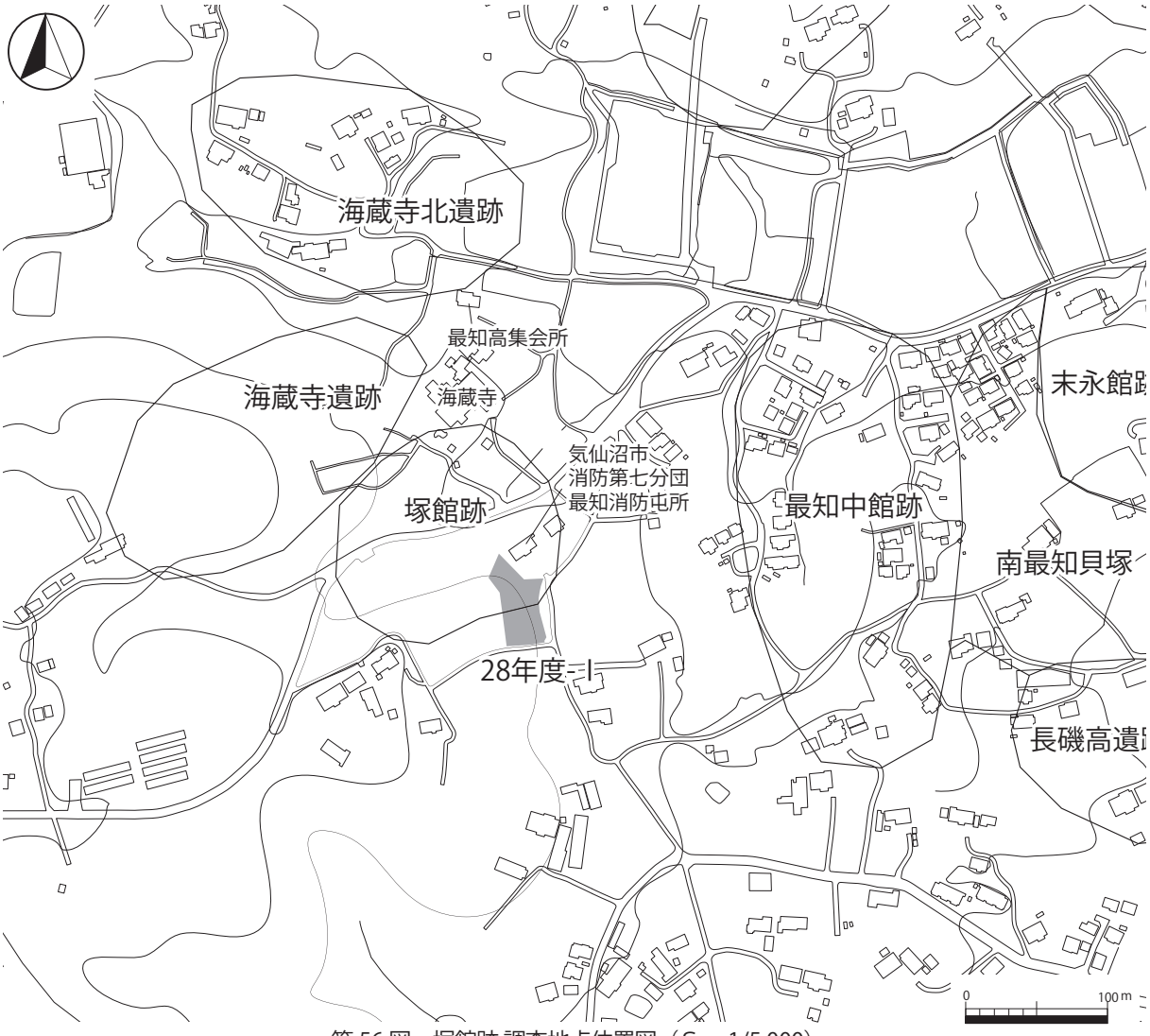
下、「市教委」という。）に、最知南最知地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である塚館跡（遺跡番号 59042）に該当している（第 56 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、9 月 7 日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 1564 号）。

つづいて、同年 9 月 20 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、10 月 12 日付けで県教委から通知が出された（文第 1862 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 10 月 18 日～ 20 日に確認調査を実施することとなった。

2．遺跡の概要

塚館跡は、市内最知南最知地内に所在する。国道 45 号から約 600 m西側の丘陵上に立地し、海蔵寺の南側に隣接する。



第 56 図　塚館跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

本遺跡の 300 m東には最知中館跡、さらに 300 m東には末永館跡と、城館跡がならぶ。また、北には猿喰東館跡、南東には森館跡が位置しており、最知南最知周辺は、城館跡が多くみられる地域である。さらに、周辺には、縄文時代の貝塚として市史跡に指定されている南最知貝塚をはじめ、長磯高遺跡、海蔵寺遺跡、海蔵寺北遺跡などの古代の遺跡が知られており、市内でも遺跡が集中する地域のひとつである。

塚館跡においては、平成 24 年度の防災集団移転や平成 27 年度の消防屯所建築に伴う確認調査を実施しているが、遺構・遺物は検出されていない。

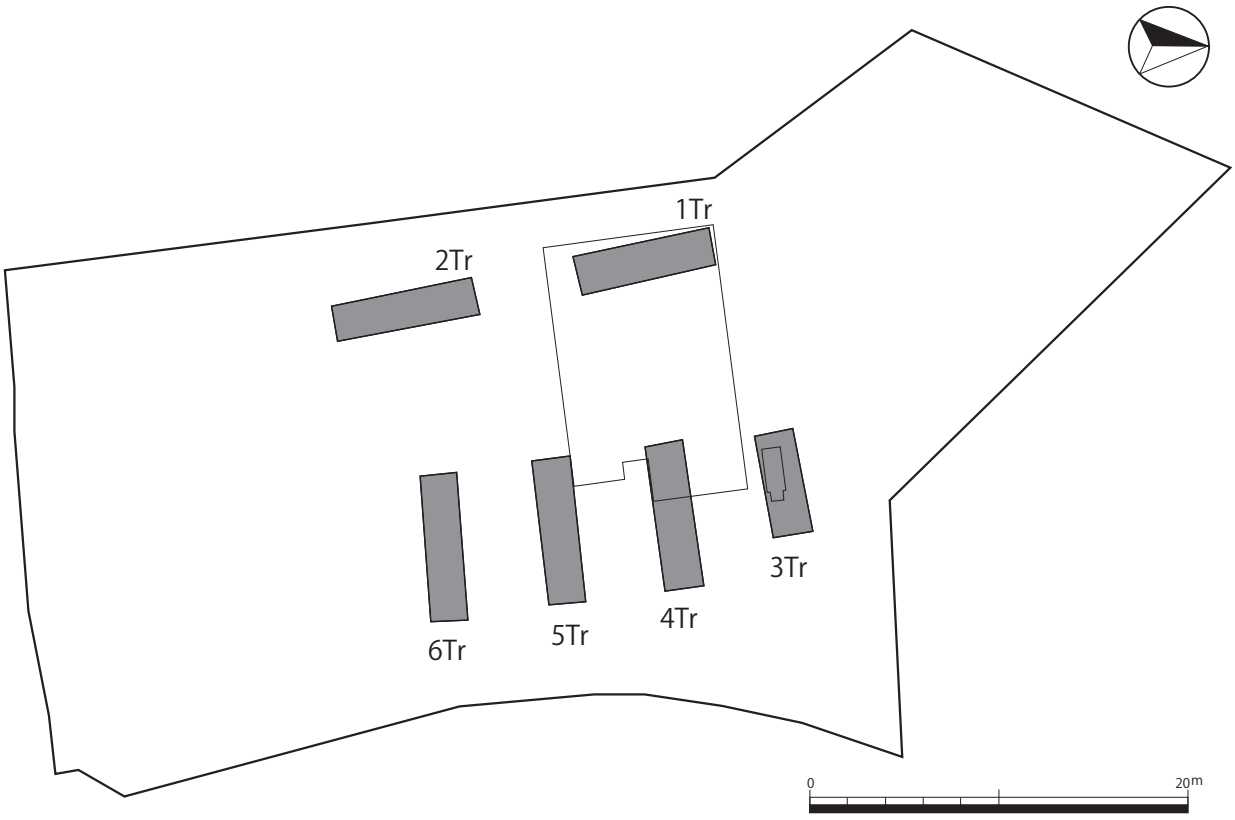
３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、塚館跡の南東端に位置し、対象面積は約 549.6㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを６本設定し（第 57 図）、重機で掘削したのち、人力で精査を行った。調査面積は約 87.0㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても 0.6 ～ 0.8 mを測る盛土がみられ、その直下で地山を確認した。盛土は、北西から南東に向って厚く堆積が認められた。遺構･遺物は検出されなかった。

それぞれのトレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。



第 57 図　塚館跡 トレンチ設定図（S = 1/400）

4．まとめ

塚館跡の調査においては、先述したとおり、これまでの調査で館跡の痕跡は確認されていない。今回の調査地点は、包蔵地とされている範囲の南東端部、館が所在していた小山の裾部にあたり、既に造成が行われていると推察することができる。

写真 102　塚館跡 1 トレンチ全景（南から）

写真 103　塚館跡 2 トレンチ全景（南から）

写真 104　塚館跡 3 トレンチ全景（西から）

写真 105　塚館跡 4 トレンチ全景（西から）

写真 106　塚館跡 5 トレンチ全景（西から）

写真 107　塚館跡 6 トレンチ全景（西から）

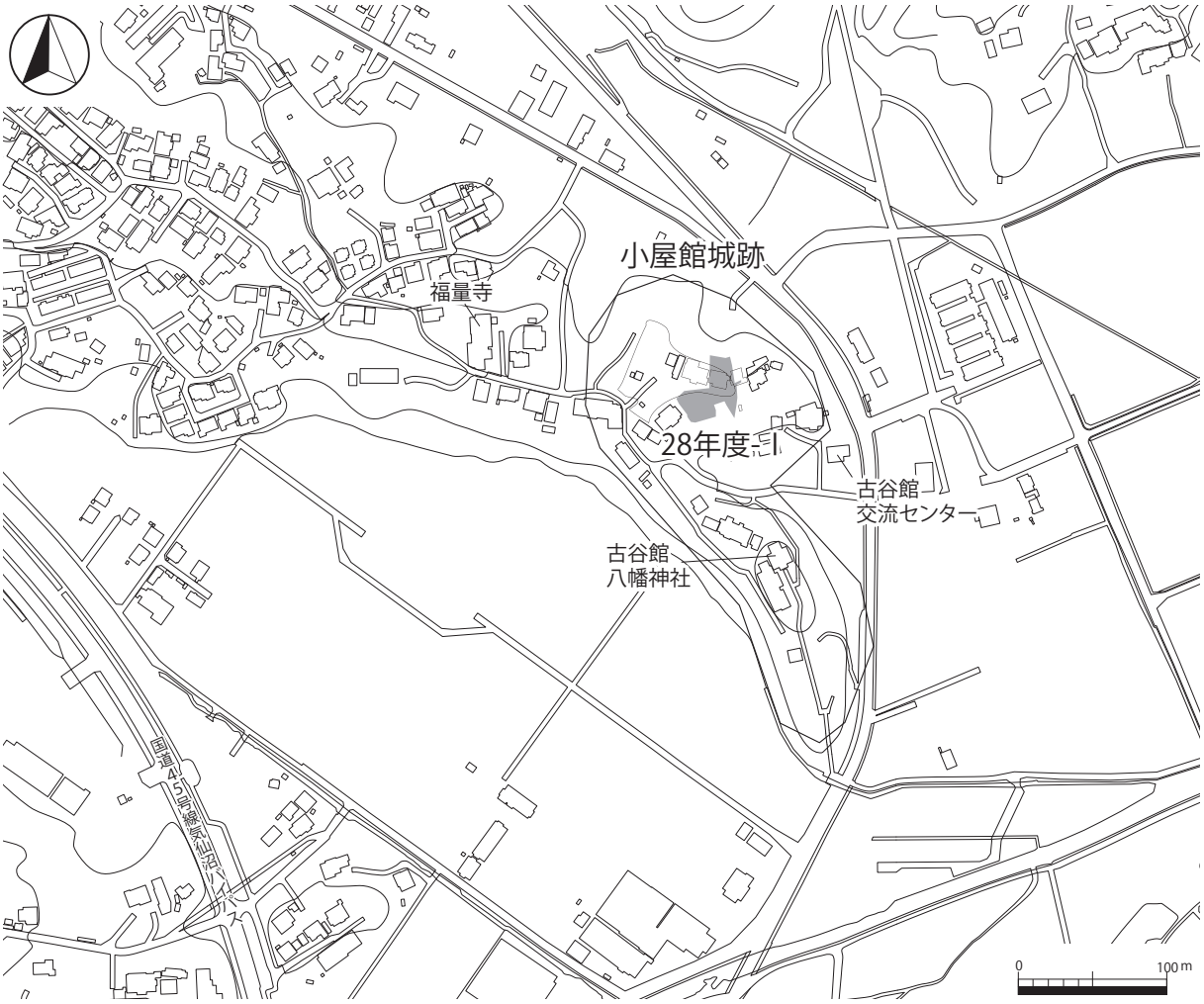
第４節　小屋館城跡

１．調査に至る経緯

平成 27 年 12 月７日、個人住宅建築予定者（以下、「事業者」という。）から気仙沼市教育委員会（以下、「市教委」という。）に、松崎中瀬地内における「個人住宅建築計画と埋蔵文化財のかかわりについて」の協議書が提出された。市教委は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である小屋館城跡（遺跡番号 59049）に該当している（第 58 図）ことから、確認調査が必要である旨意見を添えて、宮城県教育委員会（以下、「県教委」という。）に進達した。このことにより、平成 28 年１月６日付けで県教委から事業者に、確認調査を実施する必要がある旨回答があった（文第 2629 号）。

つづいて、平成 28 年１月 20 日、事業者から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、３月９日付けで県教委から通知が出された（文第 3253 号）。

以上の経緯を踏まえ、事業者と市教委で日程調整を行い、平成 28 年 12 月 19 日に確認調査を実施することとなった。



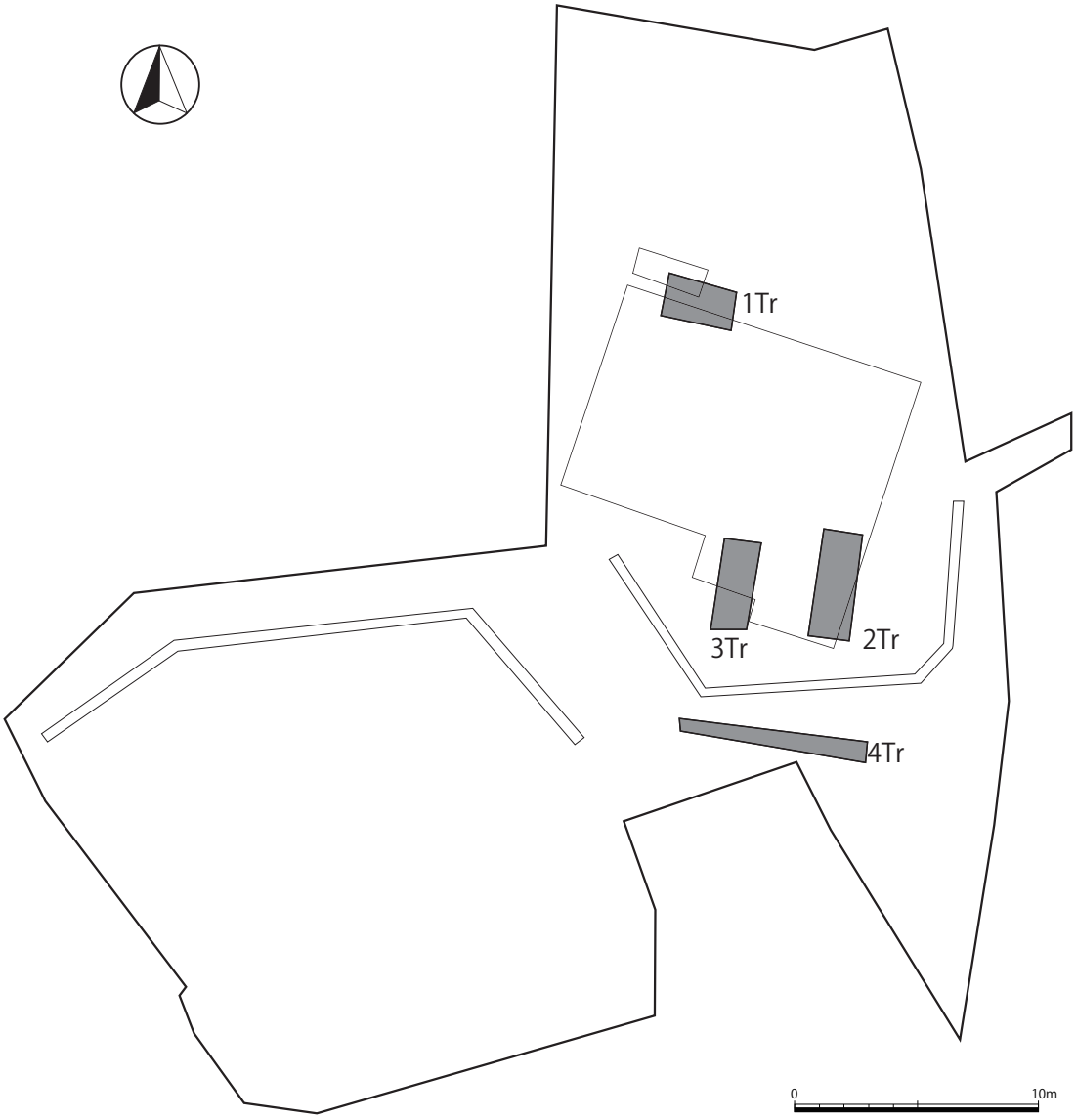
第 58 図　小屋館城跡 調査地点位置図（S＝ 1/5,000）

2．遺跡の概要

小屋館城跡は、市内松崎中瀬に所在する。気仙沼湾奥に面した小丘陵の突端部に立地する中世の城館跡である。『仙台領古城書上』によると、城主が「熊谷左京進」で、規模は「東西十七間　南北七十八間」であったと記されている。

本城跡周辺には、北東約 500 mに大館跡、南南東約 900 mに八幡館跡、南約 1500 mに相馬館跡が知られている。また、南南西から北西にかけても 1500 mから 1900 m圏内に猿喰東館跡、古館跡、館森館跡などの中世館跡が知られている。小屋館城跡は旧街道沿いの要所に位置しており、周囲の館跡が支城としての機能を果たしていた可能性も考えられるが、詳細は明らかでない。

小屋館城跡の調査は、平成８年に八幡神社移転に伴う確認調査を実施し、堀跡が確認されている。また、平成 28 年７月から 11 月にかけて、宮城県教育委員会が実施した三陸沿岸道路建設に伴う発掘調査（本調査）において、堀が３条検出されている。最大の堀は、幅５m、深さ 1.5 m前後を測るもので、調査により延長 54 mほど確認している。



第 59 図　小屋館城跡 トレンチ設定図（S = 1/300）

３．調査の概要と成果

今回の調査地点は、小屋館城跡の北部に位置し、対象面積は約 502.1㎡を測る。調査は、対象地内にトレンチを４本設定し（第 59 図）、重機で掘削したのち、人力で精査を行った。調査面積は約 31.6㎡を測る。

調査の結果、いずれのトレンチにおいても 0.35 ～ 0.45 ｍで地山を確認した。堆積土は盛土で、遺構・遺物は検出されなかった。

それぞれのトレンチは、図化、写真撮影等を行ったのち、重機で埋戻しを行った。

なお、測量は、ＧＰＳ測定器で境界杭の座標を測り、トータルステーションと電子平板を使用してトレンチ配置図を作成した。

４．まとめ

今回の小屋館城跡の調査においては、城跡の痕跡は確認することができなかった。しかし、これまでの調査で貴重な成果を得ている。

小屋館城跡の中心にあたるといわれている箇所は、古谷館八幡神社周辺とされている。平成８年調査で、堀跡が検出されている。また、平成 28 年県教委実施の調査では、幅５ｍ及び３ｍを測る二重の堀跡が検出された。さらに、堀には改修の痕跡が認められ、ある程度長期間居城としての機能を果たしていたものと考えることができる。

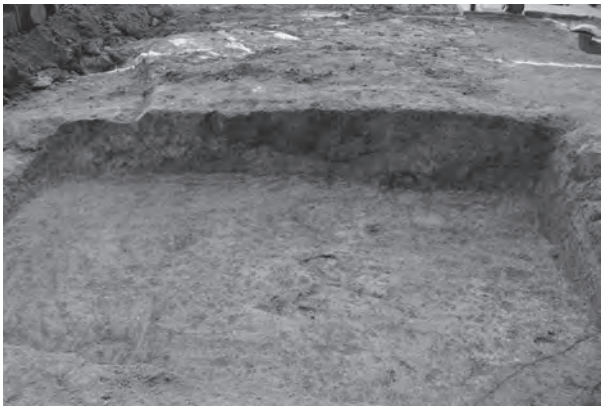


写真 108　小屋館城跡 １トレンチ全景（北から）

写真 109　小屋館城跡 ２トレンチ全景（北から）

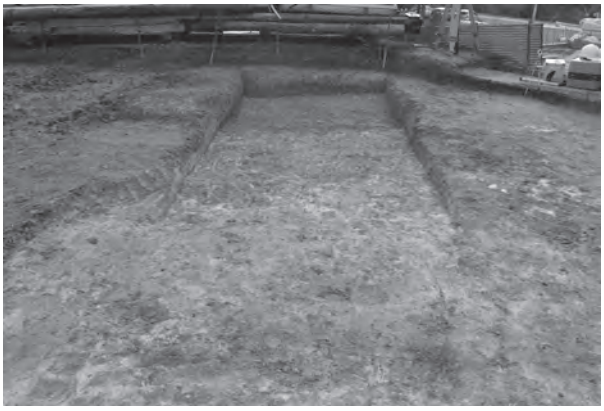


写真 110　小屋館城跡 ３トレンチ全景（北から）

写真 111　小屋館城跡 ４トレンチ全景（西から）

第５章　総括

本報告書は、平成 26・27・28 年度に調査を実施した国庫補助対象事業に伴う発掘調査の報告書である。平成 26 ～ 28 年度は、３年間で 74 件の発掘調査を実施している。そのうち、30 件が国庫補助対象事業である。

気仙沼市では、例年 20 ～ 30 件の確認調査を実施しているが、国庫補助事業の割合は、平成 26 年度が 40.0%、平成 27 年度が 33.3%、平成 28 年度が 50.0%と、増えつつある。

以下に、各年度の様相を総括する。

平成 26 年度

平成 26 年度は、国庫補助対象事業 12 件のうち、11 件で国庫補助を受けて確認調査を実施した。忍館城跡で近世遺物がわずかに検出されたほかは、いずれの調査においても遺構・遺物は検出されなかった。

平成 27 年度

平成 27 年度は、国庫補助対象事業８件のうち、６件で国庫補助を受けて確認調査を実施した。そのうち、古館貝塚および高谷遺跡で遺物包含層が検出された。古館貝塚は、縄文時代中期から後期初頭を主体とする遺物包含層が検出された。調査の結果、遺物包含層は、二次堆積であることが推測された。当該地は、平成 24 年度に土坑４基が検出された地点と 70 mほどの距離にあり、両調査地点とも検出された遺物の時期が類似している。高谷遺跡で検出された遺物包含層は、工事による影響が遺跡に及ばないため、掘削は行わなかったが、縄文土器片が数点検出された。細片であり、磨耗が著しいために時期等は不明であるが、周辺では平成 24 年度の個人住宅等建築に伴って実施した調査においても遺構・遺物が検出されており、これまでの調査結果を含めて遺跡の位置づけ等を検討する必要がある。

なお、南最知貝塚は、平成 24 年度第２次調査地点と通りを挟んで隣接しているが、今回の調査においては、時期不明の小穴が１基検出されたのみであった。

平成 28 年度

平成 28 年度は、国庫補助対象事業 10 件のうち、８件で国庫補助を受けて確認調査を実施した。そのうち、５件が石兜貝塚であった。平成 28 年度に調査を実施した案件で遺構・遺物は検出されなかった。

平成 26 年度から平成 28 年度に実施した国庫補助対象事業で本調査に至った案件はなかった。

【主要参考文献】

気仙沼市教育委員会（2017）『気仙沼市文化財調査報告書第９集　気仙沼市内発掘調査報告書１』気仙沼市教育委員会

気仙沼市教育委員会（2017）『気仙沼市文化財調査報告書第 10 集　気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書１』気仙沼市教育委員会

紫桃正隆（1973）『史料　仙台領内古城館・第二巻』宝文堂

戸沢充則 編（1994）『縄文時代研究事典』東京堂出版

宮城県教育委員会ほか（1986）『田柄貝塚Ⅰ（遺構・土器編）』宮城県教育委員会

報告書抄録

ふりがな	けせんぬましないはっくつちょうさほうこくしょ
書名	気仙沼市内発掘調査報告書
副書名	国庫補助対象事業に伴う発掘調査（平成 26 ～ 28 年度）
巻次	2
シリーズ名	気仙沼市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 13 集
編著者名	石川　郁
編集機関	気仙沼市教育委員会
所在地	〒 988-8502　宮城県気仙沼市魚市場前 1 番 1 号　TEL　0226-22-3442
発行年月日	2018 年 3 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	(調査次数)	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
うちまつかわいせき 内松川遺跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 うちまつかわ 内松川	042056	59011	38° 92′ 44″	141° 54′ 35″	20140530	8.0㎡	試掘・確認調査
たいらだていせき・たいらだてあと 平館遺跡・平館跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 きりどおし 切通	042056	59027	38° 91′ 10″	141° 54′ 42″	20141028～20141029	18.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 26 年度第 2 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 まつかわまえ 松川前		59055	38° 91′ 10″	141° 54′ 69″	20141208	57.0㎡	試掘・確認調査
ほらだてあと 洞館跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 もとよしちょうほらさわ 本吉町洞沢	042056	62035	38° 82′ 58″	141° 56′ 47″	20141110	111.0㎡	試掘・確認調査
だいにちいせき 大日遺跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 かくくわちょうまつばたけ 唐桑町松圃	042056	63020	38° 87′ 25″	141° 66′ 03″	20141209	21.0㎡	試掘・確認調査
たかやかいづか 高谷貝塚	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 まつざきたかや 松崎高谷	042056	59094	38° 87′ 14″	141° 57′ 43″	20141217	74.0㎡	試掘・確認調査
しのぶだてじょうあと 忍館城跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 なみいた 浪板ほか	042056	59082	38° 91′ 51″	141° 58′ 77″	20150119	17.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 27 年度第 1 次)				38° 91′ 47″	141° 58′ 82″	20160127～20160128	20.3㎡	試掘・確認調査
ながさきじょうあと 長崎城跡	(平成 26 年度第 2 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 たてやま 舘山	042056	59064	38° 90′ 41″	141° 55′ 75″	20150203	32.0㎡	試掘・確認調査
うなざわかいづか・うなざわこふんぐん 卯名沢貝塚・卯名沢古墳群	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 もとよしちょううなざわ 本吉町卯名沢	042056	62015 62041	38° 77′ 88″	141° 50′ 86″	20150209	20.0㎡	試掘・確認調査
つきだてだいいせき 月立台遺跡	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 しんだい 新台	042056	59008	38° 93′ 56″	141° 51′ 99″	20150224～20150225	27.1㎡	試掘・確認調査
いしかぶとかいづか 石兜貝塚	(平成 26 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 あかいわいしかぶと 赤岩石兜	042056	59091	38° 88′ 57″	141° 56′ 72″	20150302～20150303	41.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 27 年度第 1 次)				38° 88′ 51″	141° 56′ 71″	20160217	18.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 すぎのさわ 杉ノ沢			38° 88′ 69″	141° 56′ 84″	20160420～20160422	41.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 2 次)				38° 88′ 69″	141° 56′ 81″	20160420～20160422	11.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 4 次)				38° 88′ 63″	141° 56′ 82″	20161115	29.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 5 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 あかいわいしかぶと 赤岩石兜			38° 88′ 63	141° 56′ 90″	20161116	38.0㎡	試掘・確認調査
	(平成 28 年度第 6 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 あかいわすぎのさわ 赤岩杉ノ沢			38° 88′ 77″	141° 56′ 77″	20170116～20170117	62.9㎡	試掘・確認調査
みなみさいちかいづか 南最知貝塚	(平成 27 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 さいちみなみさいち 最知南最知	042056	59035	38° 84′ 90″	141° 57′ 89″	20150806	32.0㎡	試掘・確認調査
こだてかいづか 古館貝塚	(平成 27 年度第 2 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 かくくわちょうしびたち 唐桑町鮪立	042056	63017	38° 89′ 26	141° 63′ 97″	20150807～20150812	58.0㎡	試掘・確認調査
たかやいせき 高谷遺跡	(平成 27 年度第 2 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 まつざきたかや 松崎高谷	042056	59109	38° 86′ 96″	141° 57′ 70″	20150903～20150904	46.0㎡	試掘・確認調査
まえはまかいづか 前浜貝塚	(平成 27 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 もとよしちょうまえはま 本吉町前浜	042056	62040	38° 80′ 42″	141° 54′ 96″	20151013～20151014	12.2㎡	試掘・確認調査
まついわかいづか 松岩貝塚	(平成 28 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 あかいわおいのまつ 赤岩老松	042056	59002	38° 88′ 65″	141° 57′ 84″	20160808	10.0㎡	試掘・確認調査
つかだてあと 塚館跡	(平成 28 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 さいちみなみさいち 最知南最知	042056	59042	38° 84′ 90″	141° 57′ 46″	20161018～20161020	87.0㎡	試掘・確認調査
こやだてじょうあと 小屋館城跡	(平成 28 年度第 1 次)	みやぎけんけせんぬまし 宮城県気仙沼市 まつざきなかせ 松崎中瀬	042056	59049	38° 87′ 38″	141° 58′ 19″	20161219	31.6㎡	試掘・確認調査

所収遺跡名	（調査次数）	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内松川遺跡	（平成 26 年度第 1 次）	散布地	縄文	なし	なし	
平館遺跡・平館跡	（平成 26 年度第 1 次）	散布地・城館跡	縄文（前～晩期），古代・中世	なし	なし	
	（平成 26 年度第 2 次）			なし	なし	
洞館跡	（平成 26 年度第 1 次）	屋敷	中世	なし	なし	
大日遺跡	（平成 26 年度第 1 次）	散布地	縄文	なし	なし	
高谷貝塚	（平成 26 年度第 1 次）	貝塚	縄文	なし	なし	
忍館城跡	（平成 26 年度第 1 次）	城館跡	中世	なし	磁器・銭貨（近世）	
	（平成 27 年度第 1 次）			なし	なし	
長崎城跡	（平成 26 年度第 2 次）	城館跡，集落	中世，古代	なし	なし	
卯名沢貝塚・卯名沢古墳群	（平成 26 年度第 1 次）	貝塚・古墳	縄文（前～後期），弥生・古墳	なし	なし	
月立台遺跡	（平成 26 年度第 1 次）	散布地	縄文（晩期），古代	なし	なし	
石兜貝塚	（平成 26 年度第 1 次）	貝塚	古代，中世	なし	なし	
	（平成 27 年度第 1 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 1 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 2 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 4 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 5 次）			なし	なし	
	（平成 28 年度第 6 次）			なし	なし	
南最知貝塚	（平成 27 年度第 1 次）	貝塚，集落	縄文（前・中期），古墳（後期）	小穴（時期不明）	なし	
古館貝塚	（平成 27 年度第 2 次）	貝塚	縄文（前～後期）	遺物包含層（縄文中～後期）	縄文土器，石器	遺物包含層は二次堆積
高谷遺跡	（平成 27 年度第 2 次）	散布地	縄文	遺物包含層（縄文）	縄文土器	遺物包含層は工事による影響なし
前浜貝塚	（平成 27 年度第 1 次）	貝塚	縄文（後・晩期）	なし	なし	
松岩貝塚	（平成 28 年度第 1 次）	貝塚	縄文（後・晩期）	なし	なし	
塚館跡	（平成 28 年度第 1 次）	城館跡	中世	なし	なし	
小屋館城跡	（平成 28 年度第 1 次）	城館跡	中世	なし	なし	

要　　約

平成 26 ～ 28 年度の国庫補助金対象事業のうち、国庫補助金を受けて行った発掘調査（19 遺跡 25 地点）について所収した。そのうち、遺構が検出された地点は、平成 27 年度に実施した南最知貝塚で小穴 1 基及び古館貝塚と高谷遺跡で遺物包含層が検出されたのみであった。遺物は、古館貝塚で縄文時代中期から後期初頭の遺物を中心として、多量検出された。そのうち、縄文土器（土製品含む）102 点及び石器 11 点を掲載した。高谷遺跡で検出された縄文土器は細片で掲載し得るものはなかった。なお、遺物は、平成 26 年度調査の忍館城跡においても検出されているが、江戸時代に帰属するものであり、忍館城跡に伴うものではなかった。平成 28 年度調査地点においては、遺構・遺物が検出された地点はなかった。

－気仙沼市文化財調査報告書一覧－

【本吉町】

『本吉町の文化財』（1978 年５月） 宮城県本吉町教育委員会

宮城県本吉郡本吉町文化財調査報告書第２集

『前浜貝塚』（1979 年７月） 宮城県本吉町教育委員会

本吉町文化財調査報告書第３集

『宮城県本吉町 平貝遺跡　平貝窯跡』（1999 年３月） 本吉町教育委員会

【気仙沼市】

宮城県気仙沼市文化財調査報告書

『塚沢横穴古墳群』（昭和 51 年３月） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第２集

『南最知遺跡発掘調査概報』 （昭和 55 年３月） 宮城県気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第３集

『塚沢横穴古墳群　Ｂ地区発掘調査報告書』（昭和 56 年） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第４集

『内の脇２号貝塚発掘調査概報』（昭和 57 年） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第５集

『一般県道大島線改良工事に伴う駒形遺跡発掘調査報告』（昭和 61 年） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第６集

『上八瀬地区化石調査報告書』（昭和 62 年９月） 気仙沼市教育委員会

宮城県気仙沼市文化財調査報告書第７集

『気仙沼市の洞穴　気仙沼市洞穴地域調査報告書』（1995 年３月） 気仙沼市教育委員会ほか

気仙沼市文化財調査報告書第８集

『嚮館跡　防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備事業（大谷地区）に伴う発掘調査報告書』（2016 年）
気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第９集

『気仙沼市内発掘調査報告書１　－国庫補助対象事業に伴う発掘調査－（平成 24・25 年度)』（2017 年）
気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 10 集

『気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書１　－平成 24 年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財
発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査－』（2017 年） 気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 11 集

『台の下遺跡－防災集団移転促進事業災害公営住宅整備事業（大沢Ａ地区）に伴う発掘調査報告書１－』
（2018）気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 12 集

『漁業集落防災機能強化事業集会所施設用地整備（気仙沼市唐桑町大沢地区）台の下遺跡９区』（2018 年）
気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 13 集

『気仙沼市内発掘調査報告書２　－国庫補助対象事業に伴う発掘調査－（平成 26 ～ 28 年度)』（2018 年）
気仙沼市教育委員会

気仙沼市文化財調査報告書第 13 集

気仙沼市内発掘調査報告書 2

ー国庫補助対象事業に伴う発掘調査報告書ー

（平成 26 ～ 28 年度）

発　行　日　2018 年 3 月 30 日

編集・発行　宮城県気仙沼市魚市場前 1 － 1
気仙沼市教育委員会

印　　刷　宮城県気仙沼市内松川 41 － 1
双葉印刷株式会社